

高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊

鹿伏・中所遺跡Ⅲ

2010. 11

香 川 県 教 育 委 員 会

高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊

鹿伏・中所遺跡Ⅲ

2010.11

香川県教育委員会



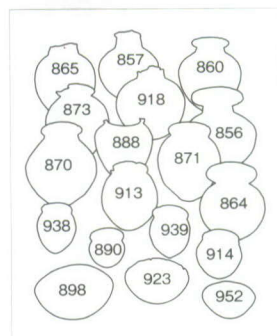
II・IV区第3検出面 斜め空中写真（東から）



V区第3検出面 斜め空中写真（南から）



SRa02 出土土器集合





SRa02 出土土器 918 (1)



SRa02 出土土器 918 (2)



SRa02 出土土器 918 (3)



SRa02 出土土器 860



焼成破裂土器集合（中期）



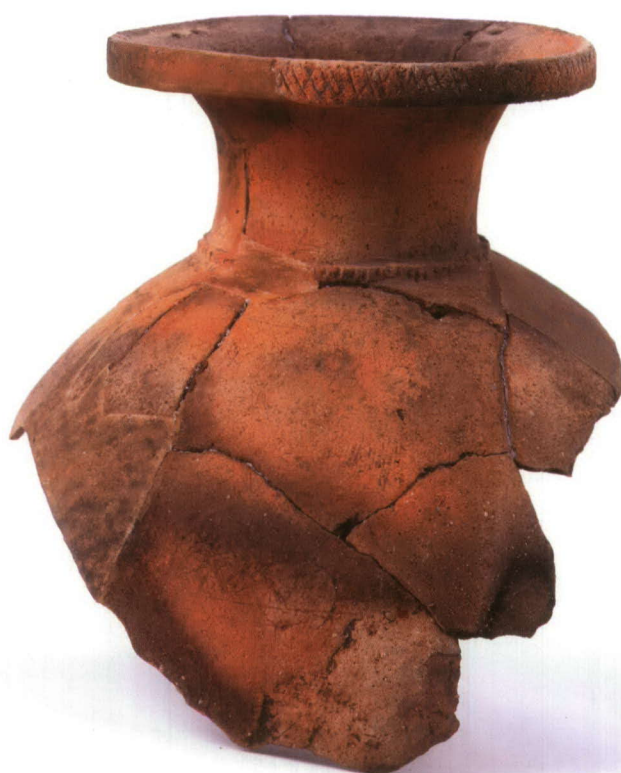
焼成破裂土器集合（後期）



焼成破裂土器 665 (1)



焼成破裂土器 665 (2)



焼成破裂土器 645



焼成破裂土器 692



119



120

吉備系高杯



記号文土器 321



記号文土器 397



記号文土器 996



記号文土器 926



記号文土器 1014



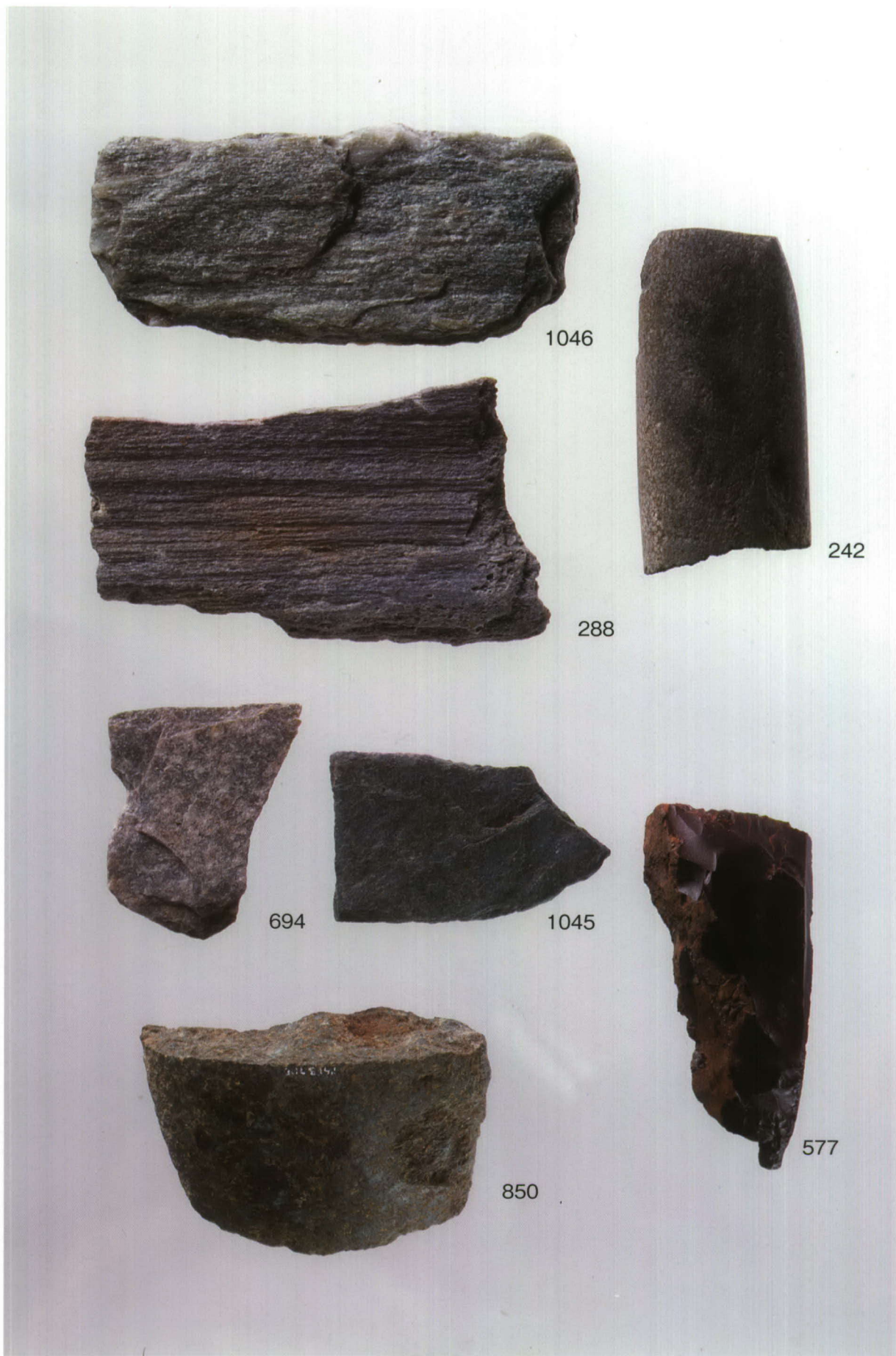
刀子 631



土坑出土土器集合



製塩土器集合



石器集合 (1)



石器集合 (2)

序 文

鹿伏・中所遺跡は木田郡三木町平木・同鹿伏に所在する、三木町を代表する弥生時代中期から古墳時代初め頃の集落跡です。発掘調査は県立三木高等学校の新設に伴って、香川県教育委員会からの委託により、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成6年6月から開始し、平成7年9月まで実施しました。

注目される調査成果としては、弥生時代を中心とした百棟を越す住居跡群と、当時の墓域と考えられる区域で発見された土器棺墓群や、集落のそばの川の跡からみつかった多量の土器や、木製品などがあげられます。

整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが平成18年度から開始し、その成果をこれまでに2冊の埋蔵文化財発掘調査報告として刊行を終え、今回3冊目を刊行することになりました。

本報告書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまで、香川県教育委員会事務局 高校教育課及び関係諸機関、地元関係者方々に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月30日

香川県埋蔵文化財センター
所長 大山 真充

例 言

1. 本報告書は、高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告第4冊で、木田郡三木町平木・同鹿伏に所在する鹿伏・中所遺跡（ししぶせ・なかしよいせき）のⅣ・Ⅴ区とⅨ区の一部を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会事務局高校教育課から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成6・7年度に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが担当した。整理作業は平成18・19年度と21年度に香川県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査の期間及び体制は、「第Ⅰ章 第2節 調査の経過」にまとめた。
4. 調査に当っては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）
香川県教育委員会事務局高校教育課、香川県土木部建築課、香川県長尾土木事務所、三木町、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
遺構の整理は森下英治、遺物の整理は信里芳紀が担当し、執筆・編集は西村尋文が担当した。
6. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標系第Ⅳ系（日本測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
7. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。
SH：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SA：柵列跡 SP：柱穴跡 SK：土坑
SD：溝状遺構 ST：墓 SX：不整形遺構 SR：自然河川跡
8. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。
発掘調査時の遺構名は「調査区」単位で、遺構の種別ごとに「01」からはじまる通し番号を付していたが、調査区単位で通し番号を付けた場合、同一番号が多数生じ、遺構の所在地が分かり難くなるため、調査区とは別に「整理区画」を設定し、この区画単位で「01」から始まる通し番号を付けることにした。また、その区画が分かるように、報告遺構名中に「整理区画名」を記入した。
平成21年度の整理区域にあたるⅣ・Ⅴ区は「整理区画c」に当たるため、遺構記号と遺構番号の間に区画を表す「c」を記入し、01から始まる通し番号を付けた。Ⅸ区は、既に平成19年度に報告しているⅠ・Ⅱ・Ⅲ区同様の「整理区画a」に当たるため、遺構記号と遺構番号の間に区画を表す「a」を記入し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区に付した遺構番号から連続する通し番号を付けた。
（記載例：SB a01 →遺構記号SB、整理区画a、遺構番号01）
9. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1／25,000地形図を使用した。
10. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖1997年度版』による。
11. 本遺跡の報告に当っては、下記のとおり業務を委託した。
樹種同定……………（株）古環境研究所
木製品の保存処理・樹種同定……………（株）吉田生物研究所
遺物写真撮影……………（株）イビソク

本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 整理作業の経過	3
第4節 調査の体制	4

第Ⅱ章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法	6
第2節 整理作業の方法	6

第Ⅲ章 調査成果

第1節 鹿伏・中所遺跡の概要	8
第2節 IV・V区の基本層位と概要	8
第3節 IV・V区の遺構・遺物	12
第4節 IX区の遺構・遺物	136
第5節 その他の地区の遺物	156

第Ⅳ章 自然科学分析

鹿伏・中所遺跡における樹種同定	160
-----------------	-----

第Ⅴ章 まとめ	163
---------	-----

插图目次

第 1 图	遗迹位置图	1	第 58 图	SHc29 平·断面图、出土遗物	75
第 2 图	调查区割图	2	第 59 图	SHc30·SDc20 平·断面图、出土遗物	76
第 3 图	遗構名区画割图	7	第 60 图	SHc31·SDc22 平·断面图、出土遗物	77
第 4 图	鹿伏·中所遗迹周边地形分類图	9	第 61 图	SHa24 平·断面图、出土遗物	77
第 5 图	IV·V 区調査区東壁土層断面图	10	第 62 图	SAc01·02 平·断面图	79
第 6 图	V 区調査区南·西壁土層断面图	11	第 63 图	SEc01 平·断面图	80
第 7 图	SHc01 平·断面图、出土遗物	13	第 64 图	SEc01 出土遗物 (1)	81
第 8 图	SHc02·SDc09 平·断面图	15	第 65 图	SEc01 出土遗物 (2)	82
第 9 图	SHc02 出土遗物	17	第 66 图	SKc02·03·04·05·07 平·断面图	83
第 10 图	SHc03 平·断面图	18	第 67 图	SKc02·03·04·07 出土遗物	84
第 11 图	SHc03 出土遗物 (1)	19	第 68 图	SKc08 平·断面图	86
第 12 图	SHc03 出土遗物 (2)	20	第 69 图	SKc14·15·17~20 平·断面图	87
第 13 图	SHc03 出土遗物 (3)	21	第 70 图	SKc08·15·17·19·20 出土遗物	88
第 14 图	SHc04 平·断面图	22	第 71 图	SKc22·23·25 平·断面图	91
第 15 图	SHc04 出土遗物	23	第 72 图	SKc28·32·35 平·断面图	92
第 16 图	SHc05 平·断面图	24	第 73 图	SKc23·28·32·35 出土遗物	93
第 17 图	SHc05 出土遗物 (1)	25	第 74 图	SKc37 平·断面图	94
第 18 图	SHc05 出土遗物 (2)	26	第 75 图	SKc37 出土遗物 (1)	95
第 19 图	SHc06 平·断面图	28	第 76 图	SKc37 出土遗物 (2)	96
第 20 图	SHc06、SDc10·11 平·断面图	29	第 77 图	SKc38·39·40·41·43 平·断面图	97
第 21 图	SDc10 平·断面图	30	第 78 图	SKc38·40·42 出土遗物	98
第 22 图	SHc06 出土遗物 (1)	31	第 79 图	SKc43 出土遗物 (1)	99
第 23 图	SHc06 出土遗物 (2)	32	第 80 图	SKc43 出土遗物 (2)	100
第 24 图	SHc07 平·断面图	33	第 81 图	SKc44~48·50 平·断面图	103
第 25 图	SHc07 出土遗物 (1)	34	第 82 图	SKc44~47·50 出土遗物	104
第 26 图	SHc07 出土遗物 (2)	35	第 83 图	SDc08·13·14 断面图、出土遗物	106
第 27 图	SHc08 平·断面图	37	第 84 图	SDc15 平·断面图	107
第 28 图	SHc08 出土遗物	38	第 85 图	SDc15 出土遗物 (1)	108
第 29 图	SHc09 平·断面图、出土遗物	39	第 86 图	SDc15 出土遗物 (2)	109
第 30 图	SHc10 平·断面图	41	第 87 图	SDc23~25 平·断面图、出土遗物	111
第 31 图	SHc10 出土遗物	42	第 88 图	SXc01 平·断面图	112
第 32 图	SHc11 平·断面图、出土遗物	43	第 89 图	SXc02 平·断面图	113
第 33 图	SHc12 平·断面图、出土遗物	45	第 90 图	SXc01·02 出土遗物 (1)	114
第 34 图	SHc13 平·断面图、出土遗物	46	第 91 图	SXc01·02 出土遗物 (2)	115
第 35 图	SHc14 平·断面图	48	第 92 图	SXc01·02 出土遗物 (3)	116
第 36 图	SHc14 出土遗物 (1)	49	第 93 图	SXc01·02 出土遗物 (4)	117
第 37 图	SHc14 出土遗物 (2)	50	第 94 图	SXc01·02 出土遗物 (5)	118
第 38 图	SHc15 平·断面图、出土遗物	51	第 95 图	SXc03·07·08 平·断面图	119
第 39 图	SHc16 平·断面图	52	第 96 图	SXc03·07 出土遗物、SXA12 出土遗物 (1)	121
第 40 图	SHc16 出土遗物	53	第 97 图	SXA12 出土遗物 (2)	122
第 41 图	SHc17 平·断面图、出土遗物	54	第 98 图	SXc14 平·断面图、SXC15 出土遗物	123
第 42 图	SHc18 平·断面图	55	第 99 图	IV 区柱穴跡出土遗物	125
第 43 图	SHc18 出土遗物	56	第 100 图	V 区柱穴跡出土遗物	126
第 44 图	SHc19 平·断面图、出土遗物	58	第 101 图	SKc01 平·断面图、SDc02 断面图、SKc01、SDc02·03 出土遗物	127
第 45 图	SHc20 平·断面图、出土遗物	59	第 102 图	包含層出土遗物 (1)	129
第 46 图	SHc21 平·断面图	60	第 103 图	包含層出土遗物 (2)	130
第 47 图	SHc21 出土遗物	61	第 104 图	包含層出土遗物 (3)	131
第 48 图	SHc22 平·断面图、出土遗物	63	第 105 图	包含層出土遗物 (4)	132
第 49 图	SHc23 平·断面图	64	第 106 图	IV·V 区遺構配置	133
第 50 图	SHc23 出土遗物	65	第 107 图	IX 区第 3 検出面遺構配置	135
第 51 图	SHc24 平·断面图	66	第 108 图	SDa34·SRa02 土層断面图	136
第 52 图	SHc24 出土遗物	67	第 109 图	SRa02 遺物分布平面图	137
第 53 图	SHc25 平·断面图、出土遗物	69	第 110 图	SRa02 中層 D 群出土遗物 (1)	141
第 54 图	SHc26 平·断面图、出土遗物	70	第 111 图	SRa02 中層 D 群出土遗物 (2)	142
第 55 图	SHc27 平·断面图、出土遗物	71	第 112 图	SRa02 中層 D 群出土遗物 (3)	143
第 56 图	SHc28·SDc19 平·断面图	72	第 113 图	SRa02 中層 D 群出土遗物 (4)	144
第 57 图	SHc28·SDc19 出土遗物	73			

第 114 図	SRa02 中層 D 群出土遺物 (5)	145
第 115 図	SRa02 中層 K 群・L 群出土遺物	146
第 116 図	SRa02 中層出土遺物	147
第 117 図	SRa02 中層上位出土遺物 (1)	148
第 118 図	SRa02 中層上位出土遺物 (2)	149
第 119 図	SRa02 中層上位出土遺物 (3)	150
第 120 図	SRa02 中層下位出土遺物	152
第 121 図	SRa02 下層出土遺物 (1)	153
第 122 図	SRa02 下層出土遺物 (2)	154

第 123 図	SRa02 最下層出土遺物 (1)	155
第 124 図	SRa02 最下層出土遺物 (2)	156
第 125 図	その他の地区の出土遺物 (1)	158
第 126 図	その他の地区の出土遺物 (2)	159
第 127 図	鹿伏・中所遺跡の木材	162
第 128 図	鹿伏・中所遺跡Ⅳ・Ⅴ区遺構変遷図 (1)	164
第 129 図	鹿伏・中所遺跡Ⅳ・Ⅴ区遺構変遷図 (2)	165
第 130 図	鹿伏・中所遺跡Ⅳ・Ⅴ区遺構変遷図 (3)	166

表目次

第 1 表	鹿伏・中所遺跡調査工程表	3
第 2 表	平成 6 年度調査体制	4
第 3 表	平成 7 年度調査体制	4
第 4 表	平成 21 年度整理体制	5

第 5 表	鹿伏・中所遺跡における樹種同定結果	161
第 6 表	鹿伏・中所遺跡出土土器観察表	171
第 7 表	鹿伏・中所遺跡出土石器観察表	210
第 8 表	鹿伏・中所遺跡出土木製品観察表	214

図版目次

巻頭図版 1

Ⅱ・Ⅳ区第 3 検出面 斜め空中写真 (東から)

Ⅴ区第 3 検出面 斜め空中写真 (南から)

巻頭図版 2

SRa02 出土土器集合

巻頭図版 3

SRa02 出土土器 918 (1)

巻頭図版 4

SRa02 出土土器 918 (2)

SRa02 出土土器 918 (3)

巻頭図版 5

SRa02 出土土器 860

巻頭図版 6

焼成破裂土器集合 (中期)

巻頭図版 7

焼成破裂土器集合 (後期)

巻頭図版 8

焼成破裂土器 665 (1)

焼成破裂土器 665 (2)

巻頭図版 9

焼成破裂土器 645

焼成破裂土器 692

巻頭図版 10

吉備系高杯

記号文土器 321

巻頭図版 11

記号文土器 397

記号文土器 926

刀子 631

記号文土器 996

記号文土器 1014

巻頭図版 12

土坑出土土器集合

製塩土器集合

巻頭図版 13

石器集合 (1)

巻頭図版 14

石器集合 (2)

図版 1

Ⅳ区第 3 検出面 空中写真

図版 2

Ⅴ区第 3 検出面 空中写真

図版 3

Ⅳ区 SHc01・02 周辺 空中写真

Ⅳ区 SHc03・04・06・07 周辺 空中写真

図版 4

Ⅳ区 SHc07・08 周辺 空中写真

Ⅳ区 SHc10・11・12・14・15 周辺 空中写真

図版 5

Ⅳ区 SDc14・15 周辺 空中写真

Ⅴ区 SHc21 周辺 空中写真

図版 6

Ⅴ区 SHc22・25 周辺 空中写真

Ⅴ区 SHc23・24・26・30 周辺 空中写真

図版 7

Ⅴ区 SHc24・30・31, SDc15 周辺 空中写真

Ⅸ区北半部 第 3 検出面 空中写真

図版 8

Ⅳ区調査風景 (東から)

Ⅴ区東半部全景 (西から)

Ⅴ区中央部全景 (東から)

SHc01・02・03 周辺全景 (東から)

SHc03 全景 (東から)

SHc03・05, SKc02 周辺全景 (東から)

SHc04・06, SDc10 周辺全景 (東から)

SHc05 全景 (東から)

図版 9

SHc05 炭化材出土状況 (西から)

SHc09 全景 (西から)

SHc09 中央土坑 SKc12・53 検出状況 (西から)

SHc09 中央土坑 SKc12・53 全景 (西から)
SHc10・11・14 全景 (西から)
SHc10 全景 (西から)
SHc10 遺物出土状況 (南から)
SHc11 全景 (西から)
図版 10
SHc12・16 周辺全景 (南西から)
SHc14・15 周辺全景 (東から)
SHc14 全景 (西から)
SHc14 完掘全景 (南から)
SHc15 全景 (西から)
SHc16 全景 (南西から)
SHc21 上面検出状況 (北から)
SHc21 完掘全景 (西から)
図版 11
SHc22・25, SDc10 周辺全景 (東から)
SHc22 遺物出土状況 (東から)
SHc22 完掘全景 (北から)
SHc23・24・30 周辺全景 (北から)
SHc23 全景 (北から)
SHc23 完掘全景 (北から)
SHc24 全景 (北から)
SHc24 完掘全景 (北から)
図版 12
SHc06 支柱穴跡 SPc302 遺物出土状況 (南から)
SHc06 支柱穴跡 SPc305 遺物出土状況 (西から)
SHc07 支柱穴跡 SPc85 遺物出土状況 (東から)
SHc07 支柱穴跡 SPc90 遺物出土状況 (北から)
SHc14 支柱穴跡 SPc467 遺物出土状況 (南から)
SHc14 支柱穴跡 SPc463 遺物出土状況 (北から)
SHc17 支柱穴跡 SPc482 遺物出土状況 (西から)
SHc17 支柱穴跡 SPc495 遺物出土状況 (東から)
図版 13
SHc17 支柱穴跡 SPc498 遺物出土状況 (東から)
SHc26 支柱穴跡 SPc306 遺物出土状況 (南から)
SHc21 支柱穴跡 SPc401 柱材 (315) (東から)
SHc21 支柱穴跡 SPc403 柱材 (314) (東から)
SHc21 支柱穴跡 SPc404 柱材 (313) (東から)
Ⅳ区 SPc95 遺物出土状況 (東から)
Ⅳ区 SPc410 遺物出土状況 (西から)
Ⅴ区 SPc154 遺物出土状況 (南から)
図版 14
Ⅴ区 SPc323 遺物出土状況 (南東から)
SEc01 遺物出土状況 (北西から)
SEc01 遺物出土状況 (東から)
SEc01 遺物出土状況 (北から)
SEc01 遺物出土状況 (北から)
SHc04 中央土坑 SKc16 遺物出土状況 (南から)
SHc05 中央土坑 SKc10 断面 (西から)
SHc09 中央土坑 SKc12 出土状況, 断面 (北東から)
図版 15
SHc06 中央土坑 SKc21 断面 (北東から)
SHc06 中央土坑 SKc21 断面 (南西から)
SHc14 中央土坑 SKc26 遺物出土状況 (南から)
SKc07 遺物出土状況 (北から)
SKc07 遺物出土状況 (北から)
SKc08 遺物出土状況 (南西から)
SKc23 遺物出土状況 (西から)
SKc37 遺物出土状況 (西から)

図版 16
SKc37 遺物出土状況 (東から)
SKc43 遺物出土状況 (南から)
SKc43 遺物出土状況 (東から)
SHc03 遺物出土状況 (南から)
Ⅳ区 SDc15 遺物出土状況 (東から)
Ⅳ区 SDc15 断面 (南から)
Ⅴ区 SDc10 断面 (南から)
Ⅴ区 SDc19 断面 (東から)
図版 17
SXC02 遺物出土状況 (西から)
SXC02 遺物出土状況 (西から)
Ⅴ区東壁土層 (北から)
Ⅴ区東壁土層 (北から)
Ⅸ区第3検出面北部全景 (西から)
SRa02 D 群 遺物出土状況 (西から)
SRa02 D 群 遺物出土状況 (北西から)
SRa02 遺物出土状況 (918) (東から)
図版 18
出土遺物 (1)
図版 19
出土遺物 (2)
図版 20
出土遺物 (3)
図版 21
出土遺物 (4)
図版 22
出土遺物 (5)
図版 23
出土遺物 (6)
図版 24
出土遺物 (7)
図版 25
出土遺物 (8)
図版 26
出土遺物 (9)
図版 27
出土遺物 (10)
図版 28
出土遺物 (11)
図版 29
出土遺物 (12)
図版 30
出土遺物 (13)
図版 31
出土遺物 (14)
図版 32
出土遺物 (15)
図版 33
出土遺物 (16)
図版 34
出土遺物 (17)
図版 35
出土遺物 (18)
図版 36
出土遺物 (19)
図版 37
出土遺物 (20)

第 I 章 調査の経緯と経過

第 1 節 発掘調査に至る経緯

香川県教育委員会事務局高校教育課高校新設準備室（以下「準備室」と略称）は、木田郡三木町平木・同鹿伏において、平成 8 年度の開校を目標に県立高校（現在の香川県立三木高校）を建設する計画を立てた。この計画に基づいて埋蔵文化財の有無等の照会を受けた香川県教育委員会事務局文化行政課（現在の生涯学習・文化財課）は、予定地内に未周知の埋蔵文化財包蔵地が所在する可能性が高いものと判断し、試掘調査を平成 6 年の初頭に実施した。その結果、予定地の約 4 割、面積にして 15,391㎡を測る範囲で、埋蔵文化財の保護措置が必要であることが判明した。

開校まで 2 ヶ年程度の期間しかなかったため、文化行政課と準備室は、関係諸機関と協議を重ね、最も工事を急ぐ北校舎・管理棟・外周水路部分より調査を開始することになった。発掘調査は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが担当し、平成 6 年 6 月から平成 7 年度の上半期に調査を実施することになった。

第 2 節 発掘調査の経過

平成 6 年度の発掘調査は平成 6 年 6 月から開始し、平成 7 年 3 月末まで実施した。調査はその規模と期間を考慮して 2 班体制で実施した。調査体制として第 1 班は、発掘調査の掘削作業と労務管理を土木業者に請負させた工事請負調査班、第 2 班は機動性をもたせた直営調査班という 2 つの異なる調査体制で発掘調査を実施した。平成 6 年度の対象となった調査面積は 13,041㎡を測り、各班の担当と分担地区は以下のとおりである。



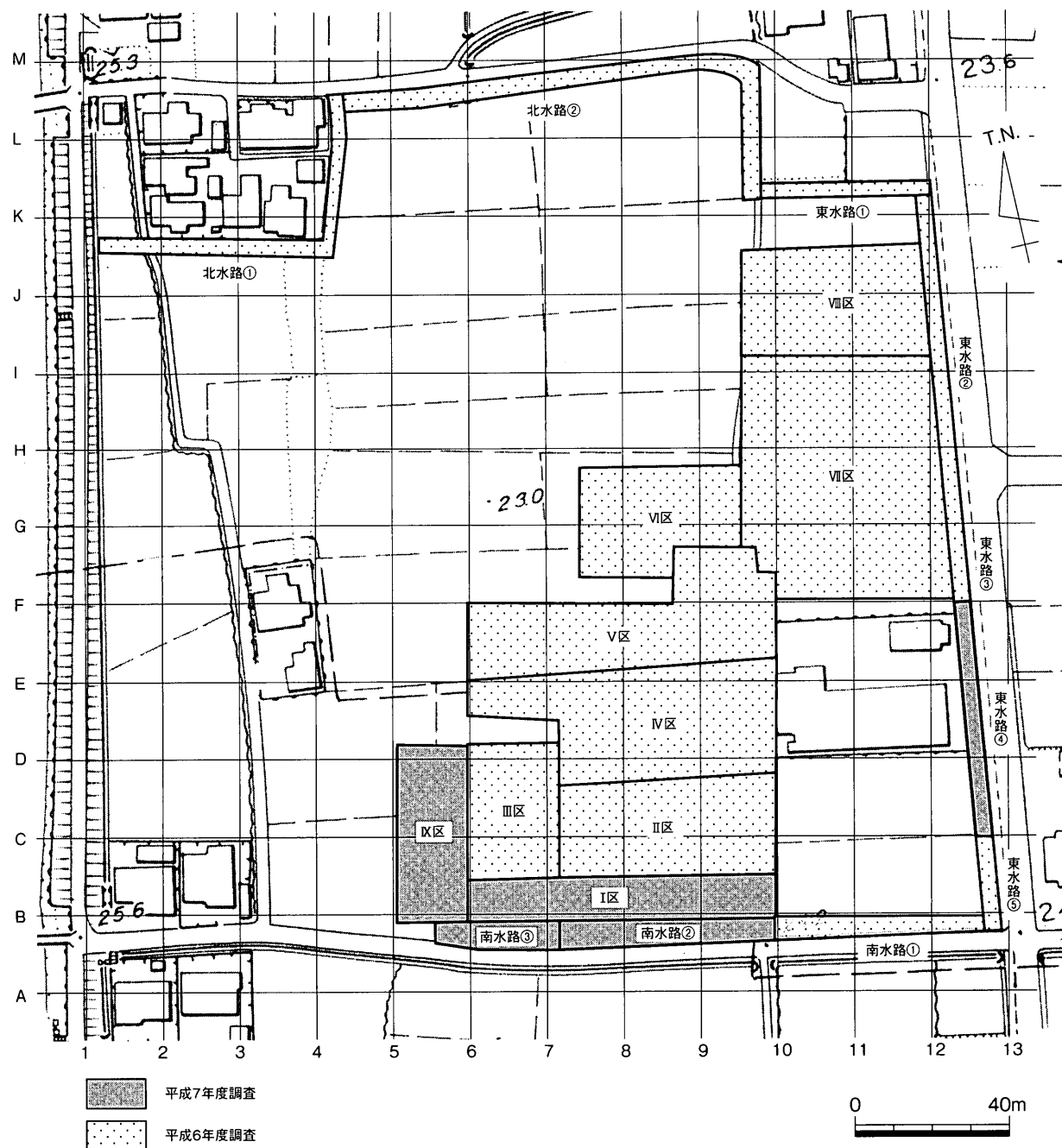
第 1 図 遺跡位置図

第1班（担当：西村、中西、森澤）－Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ区、東水路③

第2班（担当：古野、高月、松尾）－Ⅳ～Ⅵ・Ⅷ区、北水路①②、東水路①②⑤、南水路①

先述したように、発掘調査は最も工事を急ぐ北校舎、管理棟、東水路区域に当る、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区、東水路①～③⑤を7月から開始した。この区域は集落跡のほぼ中央部分から南半部に位置し、最も住居跡が集中する区域であった。その後、11月以降から機械棟・浄化槽・体育館・プールの区域に当る、Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ区の調査に随時着手した。以下、詳細な工程は第1表にまとめた。

平成7年度の発掘調査は、4月当初より開始し、同年9月末日に終了した。発掘調査は直営調査班の1班をあて、西村、中村、松尾が担当した。平成7年度の調査区はⅠ・Ⅸ区と、南水路②③、東水路④である。平成7年度の対象となった調査対象面積は2,350㎡を測る。

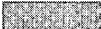




第2図 調査区割図

発掘調査は南校舎部分に当るⅠ区、南水路②③から開始し、次に自転車置場部分に当るⅨ区へと広げ、最後に用地の問題で昨年度着手できなかった東水路④の調査を実施した。

第1表 鹿伏・中所遺跡調査工程表

地区	面積 (㎡)	施設名	平成6年度									平成7年度												
			7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9							
Ⅰ区、南水路②③	1,320	南校舎																						
Ⅱ区	1,430	管理棟																						
Ⅲ区	890	管理棟																						
Ⅳ区	1,600	管理棟																						
Ⅴ区	1,700	北校舎																						
Ⅵ区	997	機械棟、浄化槽																						
Ⅶ区	3,434	体育館																						
Ⅷ区	1,290	プール																						
Ⅸ区	850	自転車置場																						
北水路	960	外周水路																						
東水路①～③⑤	560	外周水路																						
東水路④	180	外周水路																						
南水路①	180	外周水路																						
合計	15,391																							

調査担当
 : 平成6年度 1班 西村・中西・森澤
 : 平成6年度 2班 古野・高月・松尾
 : 平成7年度 西村・中村・松尾

第3節 整理作業の経過

鹿伏・中所遺跡の整理作業は、調査終了時より11年を経過した後の、平成18年度から実施した。本遺跡は遺構密度も高く、出土遺物の量も多い。そのため、平成18年度より4ヵ年計画で整理作業を進めることになった。

1年目の平成18年度は、調査対象地区の南端部に位置するⅠ・Ⅱ・Ⅲ区、南水路②③を対象地区とし、その成果を平成19年度に「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 鹿伏・中所遺跡Ⅰ」として刊行した。2年目の平成19年度は、調査対象地の北東部に位置するⅦ区、東水路③及び、調査対象地の南西端部のⅨ区を対象地区とし、その成果を平成20年度に「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 鹿伏・中所遺跡Ⅱ」として刊行した。3年目の平成21年度は、調査対象地の中央部に位置するⅣ・Ⅴ区と、Ⅸ区の一部を対象地区とした。

Ⅳ・Ⅴ区は微高地上に広がる集落の中心部分に当り、竪穴住居跡を始めとした遺構密度が高い区域である。Ⅸ区は、Ⅰ・Ⅲ区の西に位置する面積850㎡を測る小さな調査区である。この地域は微高地の西辺を画する低湿地部に当る区域で、主にⅠ・Ⅲ区から続く自然河川跡及び複数の溝状遺構を検出した。注目できるのは集落からの廃棄物である大量の遺物である。その数量は単年度で処理できる数量ではなく課題となった。そのため、整理作業を開始した平成18年度に作業工程の再検討を行い、Ⅸ区の整理作業を2ヵ年に分けて行うことになった。すなわちⅨ区の主要な遺構を平成19年度に整理作業を行い、自然河川跡(SRa02)の遺物整理に限り、平成21年度に繰り越すことになった。

第4節 調査の体制

平成6・7年度の発掘調査及び平成21年度の整理作業に係わる調査体制は以下のとおりである。

第2表 平成6年度調査体制

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
区分	役職	氏名	区分	役職	氏名	
総務	課長	高木 尚	総務	所長	松本 豊胤	
	主幹	小原 克己		次長	真鍋 隆幸	
	係長	源田 和幸		係長	土井 茂樹 (～5. 31)	
	主任主事	櫻木 新士 (～5. 31)		係長	前田 和也 (6. 1～)	
	主任主事	星加 宏明 (6. 1～)		係長	今田 修	
	主事	藤原 和子 (～5. 31)		主査	大西 健司	
	主事	高倉 秀子 (6. 1～)		参事	糸目 末夫	
	埋蔵文化財	係長		藤好 史郎	主任文化財専門員	渡部 明夫
		主任技師		國木 健司	文化財専門員	西村 尋文
		主任技師		森下 英治	文化財専門員	高月 計
			文化財専門員	中西 昇		
		調査	主任技師	古野 徳久		
			調査技術員	森澤 千尋		
			調査技術員	松尾 歩		

第3表 平成7年度調査体制

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
区分	役職	氏名	区分	役職	氏名
総括	課長	高木 尚 (～10. 23)	総括	所長	大森 忠彦
	課長	藤原 章夫 (10. 24～)		次長	真鍋 隆幸
総務	主幹	小原 克己	総務	参事	別枝 義昭
	課長補佐	高木 一義		係長	前田 和也
	係長	源田 和幸 (～5. 31)		主査	大西 健司 (～5. 31)
	係長	山崎 隆 (6. 1～)		主任主事	西川 大 (6. 1～)
	主査	星加 宏明		参事	糸目 末夫
埋蔵文化財	主事	高倉 秀子 (6. 1～)	調査	係長	大山 真充
	副主幹	渡部 明夫		文化財専門員	西村 尋文
	主任技師	森下 英治		文化財専門員	中村 昭浩
	技師	塩崎 誠司		調査技術員	松尾 歩

第4表 平成21年度整理体制

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
区分	役職	氏名	区分	役職	氏名
総括 総務・生涯学習 推進グループ	課長	春山 浩康	総括 総務課	所長	大山 真充
	課長補佐	武井 壽紀		次長	深谷 右 (総務課長兼務)
	副主幹	香西としみ		総務課長	深谷 右
	主任	林 照代		主任	宮田久美子
	主任	吉原 貴樹		主任	古市 和子
	主任	橋本 京子		主任	広瀬 健一
	主任	大野 有紀		主任	安藤 正
文化財グループ	主任主事	西本 優子	資料普及課	嘱託庁務員	吉村 高志
	課長補佐	藤好 史郎 (主幹兼務)		資料普及課長	西岡 達哉 (調査課長兼務)
	主任文化財専門員	森 格也		主任文化財専門員	西村 尋文
	文化財専門員	小野 秀幸		嘱託整理作業員	木村 友美 (4～12)
					小林 里美 (4～8)
					今井 真紀
					北浜 敦子 (9～3)
					香川 和子 (6～3)
					徳永 貴美 (4～5)

第Ⅱ章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法

事業地の中で調査対象地は、地下遺構に影響が及ばない運動場部分を除き、校舎・体育館・プール等の構造物が建築される区域と、事業地の外周を巡る外周水路部分に限り、調査を実施することになった。調査の対象となる範囲は広く、面積は15,391㎡を測る。

調査区は、南校舎をⅠ区、管理棟をⅡ～Ⅳ区、北校舎をⅤ区、機械棟・浄化槽棟をⅥ区、体育館をⅦ区、プールをⅧ区、自転車置場をⅨ区に分けて調査区を設定した。外周水路については、事業地が方形に近い形を呈していることもあり、事業地の北辺を画する水路を北水路①②、同様に南辺を南水路①～③、東辺を東水路①～⑤に区分し調査区を設定した。なお、西と南辺部の一部は保護措置の必要な範囲より外れるため、調査対象より除外した。

予定地内を調査するにあたり、まず事業予定地全体に南東隅を基点とする20m四方単位のグリッドを設定した。グリッドの方向は、予定地周辺に条里地割が良く残っていることと、旧地形を把握しながら調査を進めることが効果的と判断したことから、予定地周辺の地割方向に揃えることにした。各グリッドの基点は東西方向に1～13、南北方向にA～Mを付し、グリッドの呼称は南西隅の交点名によっている。なお、調査地内に設置する基準点については、対象地内の数地点に限り測量業者に委託し打設した。

調査区全体の図化は航空測量を委託して実施した。撮影回数は平成6年度－6回、平成7年度－4回を数える。図面は撮影した空中写真を基に1/20・1/50の縮尺で必要箇所を図化し、それを編集し1/100の全体図を作成した。また、遺物の出土状況図、土層断面図等の実測図等については、担当職員が作成した。

第2節 整理作業の方法

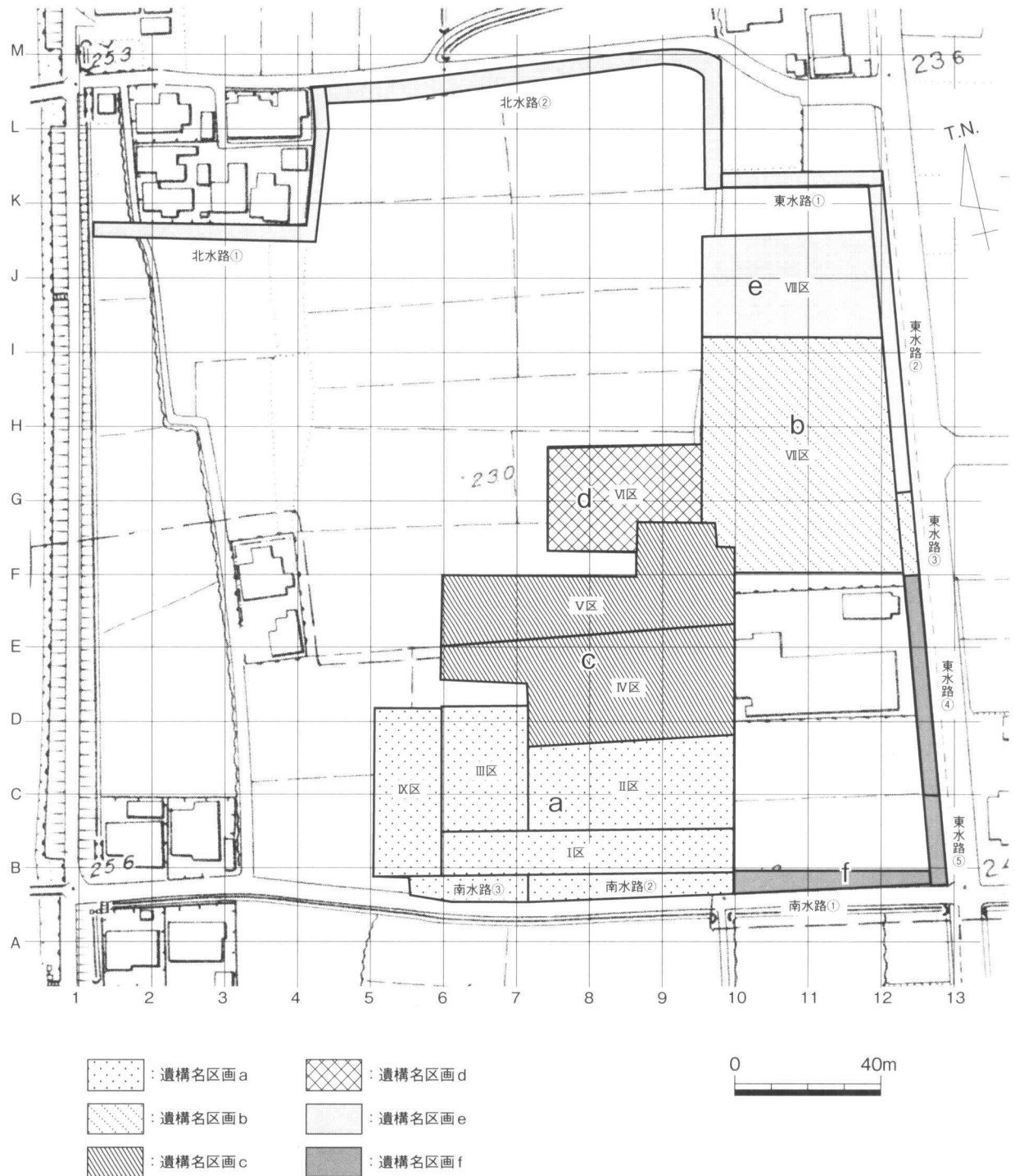
発掘調査は、広い調査対象地を2ヵ年（延べ26ヶ月）にわたり、複数の班で調査を実施した関係上、多数の職員が調査に関与し、全体像を把握し難い状況になっている。また、整理作業に際しては、発掘調査を直接担当した1名の職員が、4年間に別けて整理作業を実施することになった。そこで、計画的に整理作業を実施していく都合上、「整理区画」を6等分し、その区画を基に作業を進めることにした。

出土遺物の中で、木製品や現地で採集した土壌等については、可能な限り科学的分析を行った。本年度はⅣ区の柱穴跡内に残っていた柱材等について樹種同定を実施した。また、出土遺物の中で特に重要で、高度の撮影技術を要するものについては、業者に撮影を委託した。

なお、平成18年度の整理対象地区に当るⅠ区で検出した堰状遺構からは、杭材として用いられた多数の木製品が出土している。この木製品の中には、住居跡の建築部材を転用したものと考えられる木製品が含まれており、当時の住居の構造を検討する上で貴重な資料になっている。これらの木製品の中で、保存処理を行う必要があるものについては、保存処理を委託して行ってはいるが、全ての木製品を単年度で処理するには無理があった。そのため、今年度も5点を業者に委託した。

(参考文献)

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1995 平成6年度「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』



- 第1年度整理区画:Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区、南水路②③(平成18年度整理)
- 第2年度整理区画:Ⅶ・Ⅸ区、東水路③(平成19年度整理)
- 第3年度整理区画:Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ区(平成21年度整理)
- 第4年度整理区画:Ⅵ・Ⅷ区、北水路①②、南水路①、東水路①②④⑤

第3図 遺構名区画割図

第三章 調査成果

第1節 鹿伏・中所遺跡の概要

鹿伏・中所遺跡は木田郡三木町平木・同鹿伏に所在し、高松平野を流れる新川が形成した扇状地と、「白山」から西に延びる低丘陵の先端部が交わる微高地周辺に位置する。遺跡の範囲は町道「学園通り」を東限とし、南北約 225 m、東西約 230 m の範囲で確認した。微高地上には、弥生時代中期～古墳時代前期の集落跡が広がり、住居域の範囲は南北 160 m、東西 140 m の範囲で確認した。なお、遺跡の東辺については調査対象地より外れるため明らかでないが、おそらく、東へ 100 m 程離れた天神山古墳群が所在する丘陵近くまで広がるものと考えられる。

遺跡が広がる微高地上のほぼ全域には、旧耕作土直下に弥生時代中期～後期後半前後の遺物を含む、0.3～0.5 m の黒褐色系の粘質土層が広範囲に広がっている。その層の上面と下面とで、遺構面を 2 面確認した。上面を「第 1 検出面」、下面を「第 3 検出面」と呼ぶ（註 1）。第 1 検出面上では、主に中世以降の遺構を確認した。第 3 検出面上では、主に弥生時代中期～古墳時代前期前半頃の遺構を確認した。この遺跡で検出した遺構の大部分は第 3 検出面で検出している。

微高地上の集落跡では、竪穴住居跡、掘立柱建物跡等を中心とした居住域と、土器棺墓からなる墓域を確認した。竪穴住居跡は 80 棟以上、掘立柱建物跡は 38 棟以上を数える。土器棺墓は集落の南東辺に当る I・II 区、南水路①②に集中して 19 基を、また、集落の北東辺に当る VII 区からも 1 基を検出した。

微高地の北辺及び南西辺は低湿地状を呈している。南西辺に当る I・III・IX 区、南水路②③の低湿地では、3 面の検出面を確認した。この地域からは、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半頃の 3 条の自然河川跡と、ほぼ同時期の数条の溝状遺構を検出した。また、I 区の自然河川跡の河床面からは、川の流れを制御するための古墳時代前期前半頃の堰状遺構を検出した。

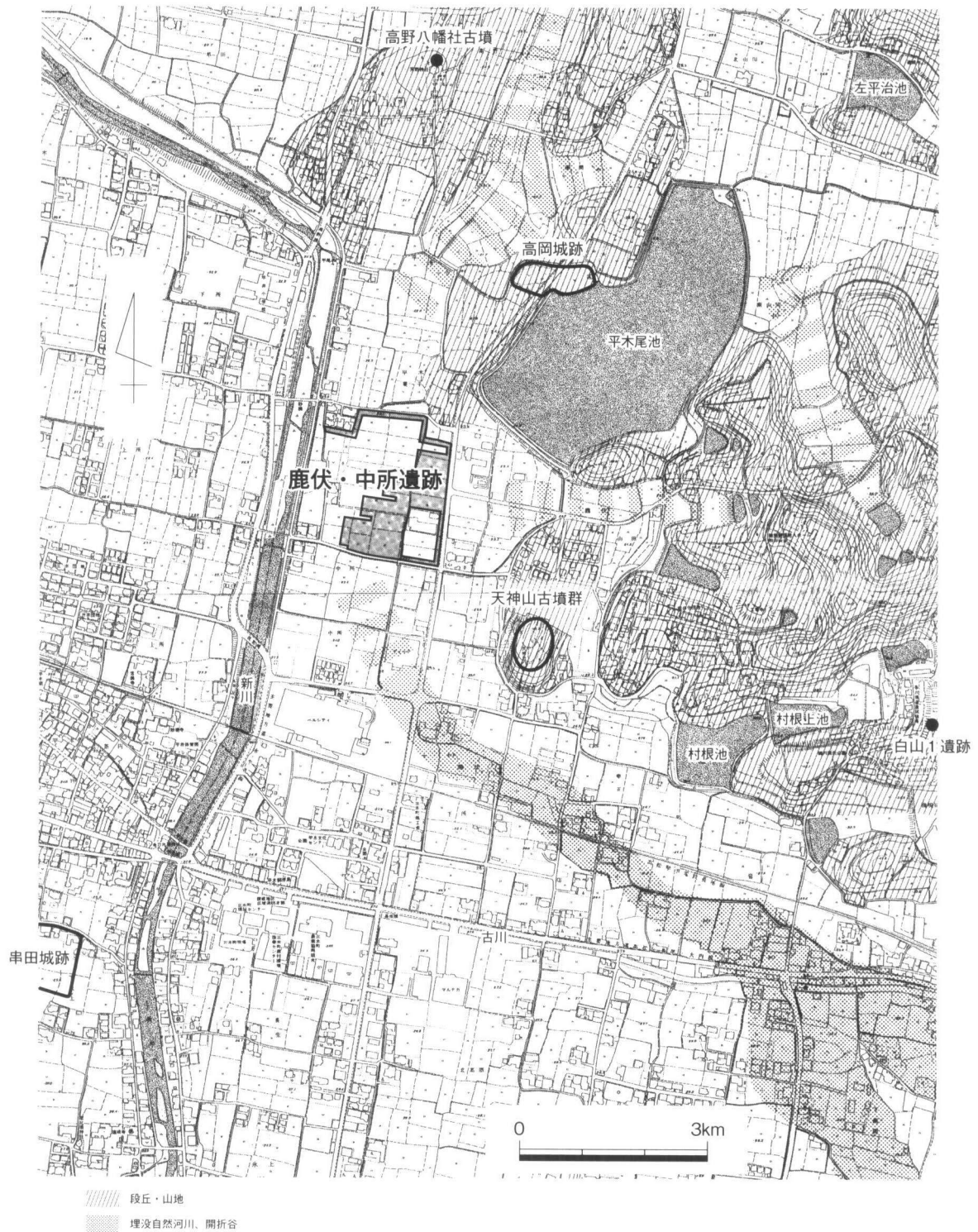
I・III・IX 区、南水路②③からは、集落から廃棄されたと考えられる多量の弥生時代中期～古墳時代前期頃の土器、石器、木製品等が出土している。I・III 区からは 430 箱、IX 区からは 280 箱出土しており、本遺跡全体の約 45% を占めている。注目できる遺物としては、堰状遺構から出土した多量の木製品である。これらの中には、住居の建築部材を転用した木製品が含まれており、当時の住居の構造を検討する上で貴重な資料になった。

微高地北辺に当る VIII 区、北水路①②、東水路①②の低湿地は、遺跡の北東方面にある「平木尾池」周辺から延びる開折谷の延長部分に当る。この地域からも、弥生時代中期～後期頃の複数の自然河川跡と、多量の木製品が出土している。なお、この地域の詳細については、次年度の整理作業によって報告する。

平成 21 年度の整理の対象となるのは、微高地中央の IV・V 区と、微高地南西辺の低湿地に位置する IX 区の自然河川跡である。

第2節 IV・V 区の基本層位と概要

IV・V 区は先述したように、微高地中央部に位置し、旧状は全面農地であった。調査面積 3,300㎡ を測る。旧地盤の高さは T.P. 約 23 m を測るが、地形の全体的な傾向としては、北方向へ極僅かに傾斜している。両調査区のほぼ全域では、前節で述べたように、弥生時代中期～後期後半前後の土器を含む、層厚 0.3～0.4 m を測る黒褐色系の粘質土層（第 5 図 4 層、第 6 図 3 層）の上面と下面において遺構検出面を 2

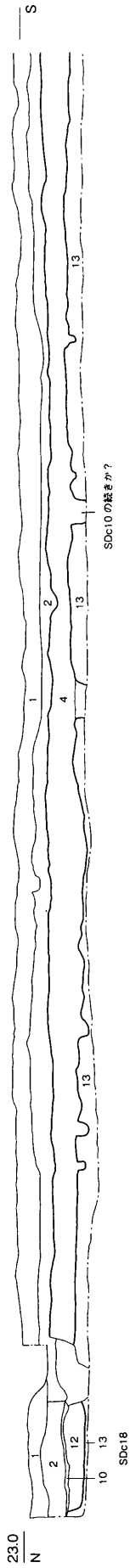


第4図 鹿伏・中所遺跡周辺地形分類図

面確認した。

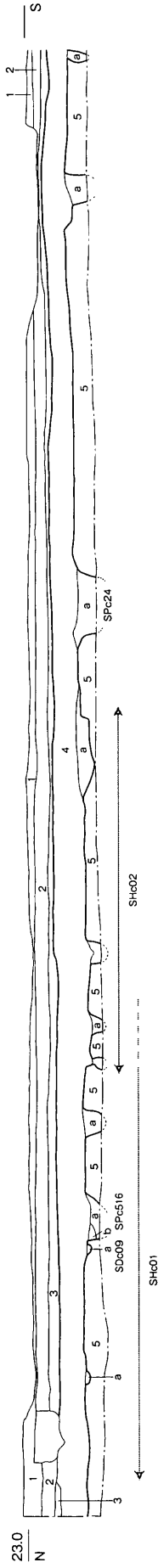
IV・V区の第1検出面上は T.P. 平均 223 mを測り、条里地割の方向に揃えた溝状遺構 6 条、土坑 1 基、北東方向に延びる溝状遺構 1 状を検出した。第3検出面上は、T.P. 平均 220 mを測り、緩やかに西方の低湿地方向へ傾斜している。この検出面上からは、弥生時代中期～古墳時代前期の竪穴住居跡を中心にした集落跡を検出した。注目できる遺構としては、周溝を伴う竪穴住居跡が数基確認できることであ

V区東壁土層

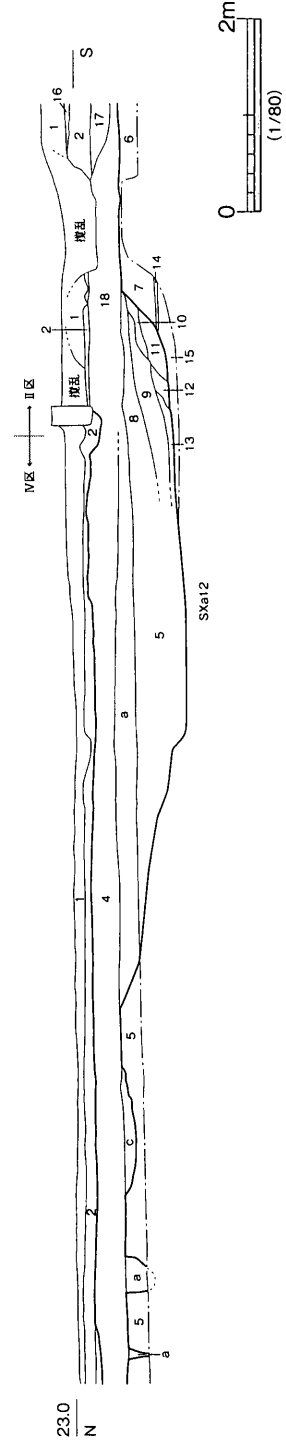


- V区東壁
- 1 耕土 (灰色粘質土)
 - 2 灰褐色粘質土 (粘土)
 - 4 黒褐色粘質土 (包含層, 上面第1検出面)
 - 5 灰褐色粘質土-a
 - 6 黒褐色粘質土 (包含層)
 - 8 灰色中砂
 - 9 カクラン土
 - 10 灰色粘土
 - 12 灰褐色粘質土 (中世滞粉)
 - 13 灰色粘質土 (ベース, 上面第3検出面)
 - 15 暗灰色微細砂 (ベース, 上面第3検出面)

IV区東壁土層

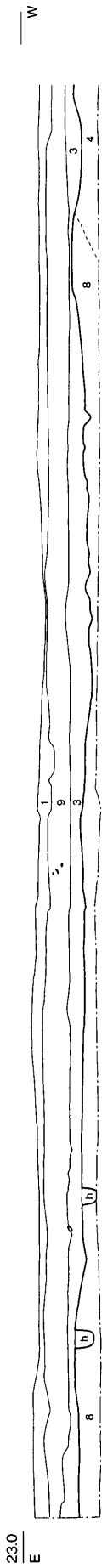


- IV区東壁
- 1 耕作土
 - 2 粘土 (淡褐色粘質土)
 - 3 淡褐色粘質土 (層M/a, 古代包含層?)
 - 4 黒褐色粘質土 (包含層, 上面第1検出面)
 - 5 灰褐色微細砂 (ベース, 上面第3検出面)
 - 6 灰褐色粘質土 (ベース)
 - 7 暗褐色粘質土 (ベース)
 - 8 暗褐色土
 - 9 灰褐色粘質土
 - 10 灰褐色粘質土
 - 11 灰褐色粘質土
 - 12 暗褐色粘質土
 - 13 暗褐色粘質土
 - 14 暗褐色粘質土 (ベース)
 - 15 暗褐色粘質土 (ベース)
 - 16 暗褐色粘質土 (粘質じり, 礫質)
 - 17 暗褐色粘質土 (包含層, 上面第1検出面)
 - 18 暗褐色粘質土 (暗褐色土)
 - a 暗褐色微細砂
 - b 暗褐色粘質土 (暗褐色土)
 - c 暗褐色粘質土



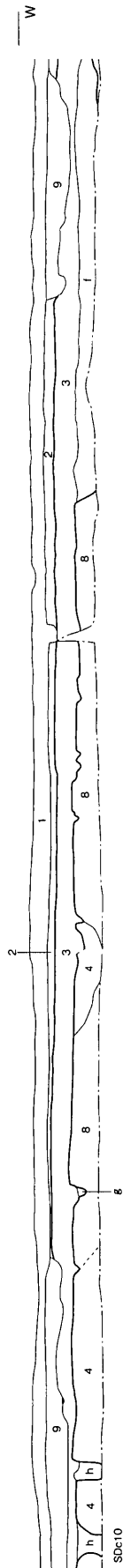
第5図 IV・V区調査区東壁土層断面図

V区南壁土層



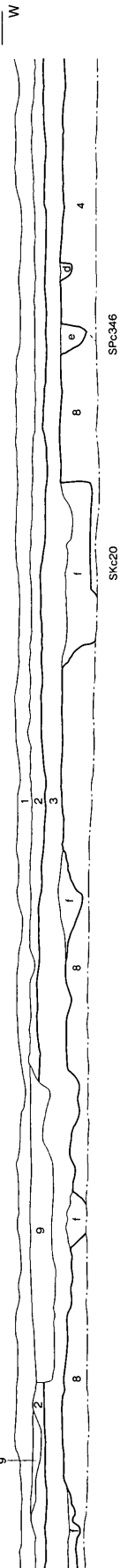
SHc04

23.0 E



SDc10

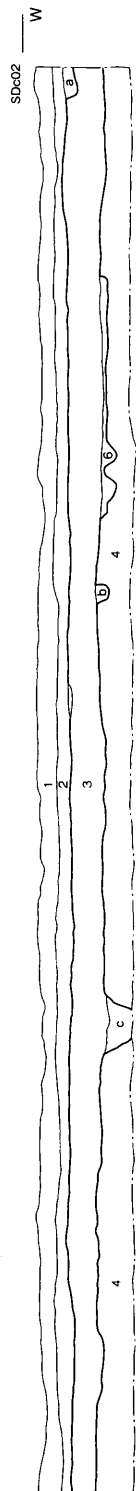
23.0 E



SKc20

SPc346

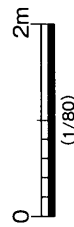
23.0 E



SDc15

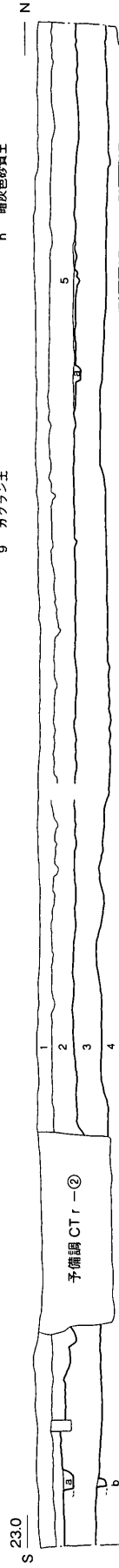
SDc16

SDc02



- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------|
| 1 | 粘土 (灰色粘質土) | a | 灰褐色粘質土 (SDc02) |
| 2 | 灰褐色粘質土 (粘土) | b | 黄褐色粘質土 (SDc15外) |
| 3 | 黄褐色粘質土 (包含礫、上面第1検出面) | c | 暗灰色細砂質土 (SDc15) |
| 4 | 暗灰色粘質土 (上面第3検出面) | d | 暗灰色細砂質土 |
| 5 | 灰褐色粘質土 (包含礫) | e | 黄褐色粘質土 (SPc346) |
| 6 | 灰褐色粘質土 (包含礫) | f | 黄褐色粘質土 (SKc20外) |
| 8 | 灰色砂質土 (上面第3検出面) | g | 暗灰色砂質土 |
| 9 | カクラン土 | h | 暗灰色砂質土 |

V区西壁土層



予備掘 CTr-②

第6図 V区調査区南・西壁土層断面図

る。第3検出面上の主な遺構としては、竪穴住居跡31基、柵列跡2基、井戸跡1基、土坑52基（竪穴住居跡の中央土坑を含む）、溝状遺構19条、不整形遺構15基と多数の柱穴跡等があげられる。

Ⅳ・Ⅴ区のベースとして捉えた土層は暗灰色系の砂層である。このベース土は地点により土質等は微妙に異なり、またⅨ区の低湿地地帯に向けて、緩やかに傾斜している傾向が認められる。

第3節 Ⅳ・Ⅴ区の遺構・遺物

1. 竪穴住居跡

SHc01（第7図）

Ⅳ区北東端部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡は削平を受けて床面だけを残す。住居跡の周辺にはSHc02・03・04が隣接し、南半部をSHc02・03に、北半部をSHc02の周溝状遺構であるSDc09に壊されている。

平面形は円形を呈し、直径は約7.8mを測る。床面上では壁溝1条、主柱穴跡7基と中央土坑1基を検出した。

壁溝はSHc02・03やSDc09に壊されており、全体の約1/2程度を検出した。幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。

主柱穴跡は、直径約4.7mの円内に7角形状に配された、SPc2・3・7・15・171・175・516の7基を検出した。平面形は円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺2.3m、短辺1.7m、柱穴跡の直径は0.2～0.5m、深さ0.2～0.35mを測る。

中央土坑SPc4は床面の中央に位置する。平面は角張った不整形円形状を呈し、西辺に浅い落ち込みが付く。断面は二段掘り方の逆台形状を呈する。埋土は2層に分けられ、上層は暗茶褐色粘質土、下層は黒色粘質土を呈し、炭片が混じる。長径1.4m、短径1.1m、深さ約0.4mを測る。

SHc01からは弥生時代後期後半に当る、1～4の弥生土器と石器が出土した。

1は中央土坑SPc4から出土した、高杯杯部の口縁部の小片である。この土器は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる（註2）。2は壁溝から出土した、器台脚部の端部小片である。端部に凹線文が施されており、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。3は壁溝から出土した、高杯脚部である。2穴の穿孔が確認できる。

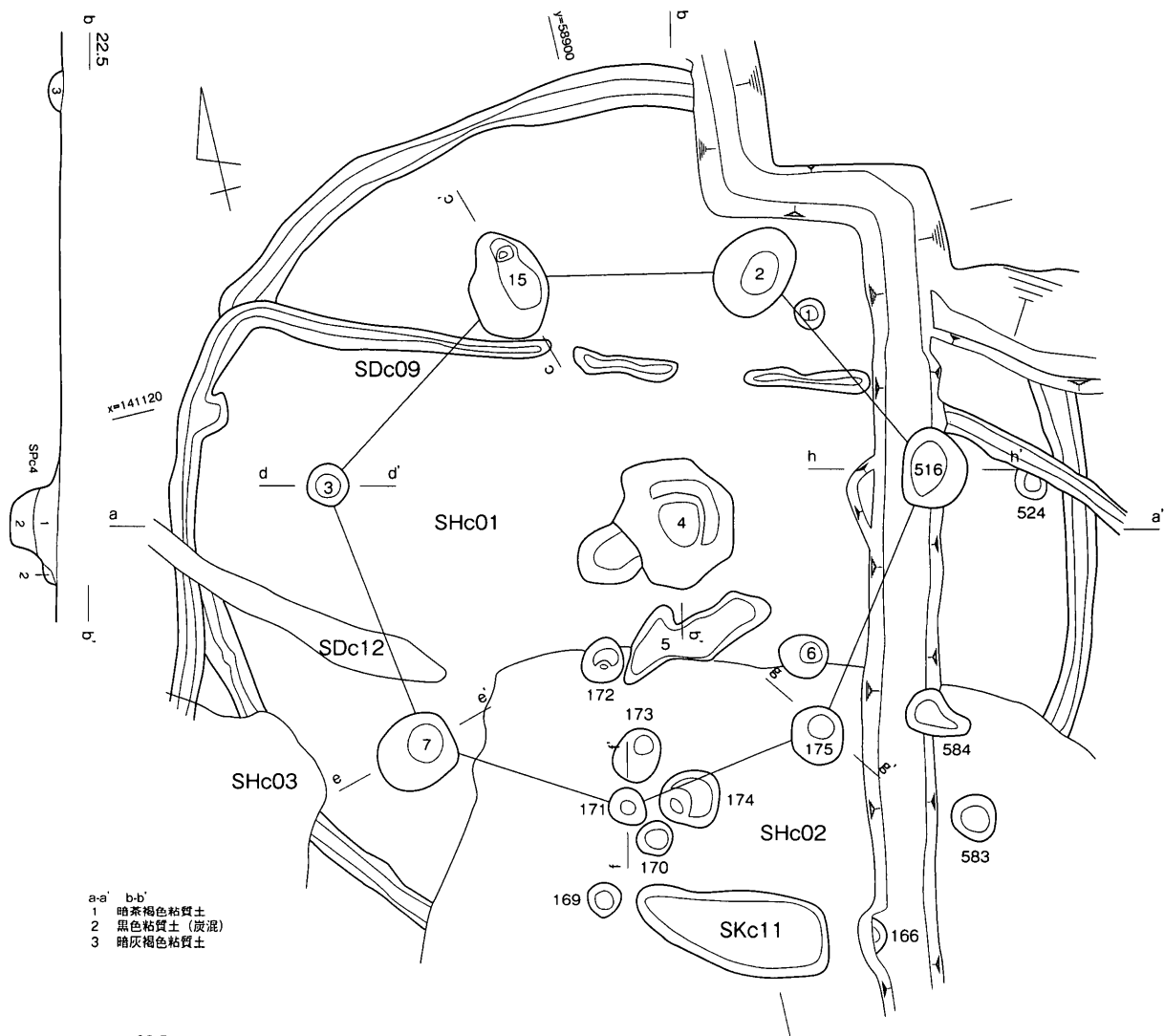
4は中央土坑SPc4から出土した、サヌカイト製の削器である。

SHc02、SDc09（第8・9図）

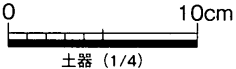
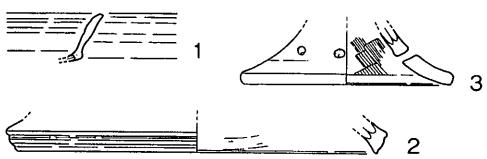
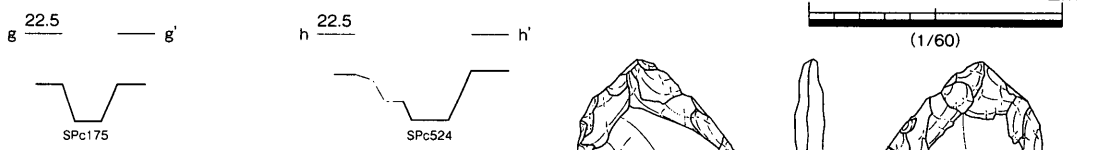
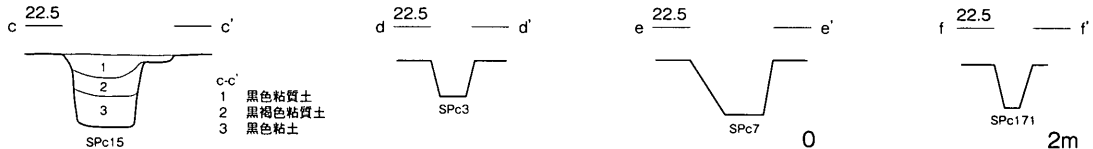
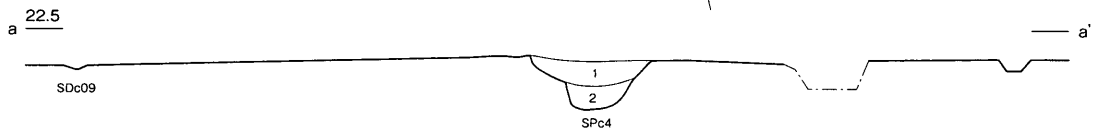
Ⅳ区北東端部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc01・04・06が隣接し、この住居跡はSHc01を掘り込んでいる。なお、SHc02の周囲には、周溝SDc09が配されており、この住居跡に伴う遺構として報告する。

住居跡の平面形は隅丸の長形状を呈し、長径5.7m、短径4.2m、深さ約0.1mを測る。床面上では壁溝、主柱穴跡3基と中央土坑1基を検出した。

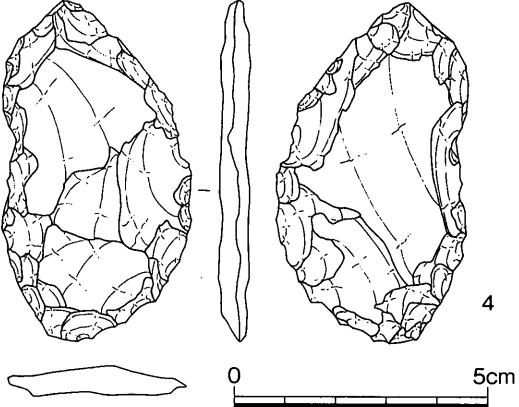
壁溝は南辺部と東辺部の一部で検出した。幅0.2m、深さ約0.1mを測る。主柱穴跡は4基の柱穴跡が想定できるが、南東辺隅の柱穴跡を除くSPc168・173・583の3基を確認した。平面形は円形ないし不整形円形を呈する。柱間は長辺2.9m、短辺2.7mを測り、柱穴跡の直径は0.3～0.5m、深さ0.4～0.5



a-a' b-b'
 1 暗茶褐色粘質土
 2 黒色粘質土 (炭泥)
 3 暗灰褐色粘質土



中央土坑 (SPc4) 1・4
 壁溝 2・3



第7図 SHc01 平・断面図、出土遺物

mを測る。

中央土坑 SKc11 は床面の中央の西寄りに位置する。平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黒色の炭化物層を検出した。長径 1.6 m、短径 0.7 m、深さ約 0.05 mを測る。

SHc02 の周溝 SDc09 は、住居跡から約 2.0 m隔てて、住居跡の外周を周るように配している。溝状遺構の南辺は中間部で屈曲するが、外湾気味に周る。西辺は西へ膨らみを持ちながらも、直線状に南北方向へ延びて北辺に続く。北辺は西辺から直角気味に屈曲して東西方向に延びる。なお、東辺は調査区より外れるため、詳細は不明である。断面は浅い U 字状を呈し、埋土は暗灰褐色粘質土である。検出した長さ 28.0 m、幅 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.1 mを測る。

SHc02 及び周溝 SDc09 からは弥生時代後期後半に当る、5 ～ 16 の弥生土器と石器が出土した。

5 ～ 7 は SHc02 から出土した高杯の杯部である。8 ～ 10 は周溝 SDc09 から出土した、甕の口縁部である。11 は周溝 SDc09 から出土した高杯の脚部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。12 は中央土坑 SKc11 から出土した高杯杯部で、口縁部外面には 3 条の凹線文を施している。13 は主柱穴跡 SPc583 から出土した、台付鉢である。外面には粗雑なヘラケズリ、脚部の造りも比較的荒い。

14 は SHc02 から出土した、サヌカイト製の打製石庖丁である。刃部は上下 2 辺で認められ、分割面の状況から約 1/2 が欠けているものとみられる。15 は中央土坑 SKc11 から出土した砂岩製の砥石である。長楕円形の川原石を素材としたもので、表裏 2 面を砥面にしており、その砥面の一部に線状痕が認められる。16 は SHc02 から出土した、花崗岩製の大型の台石である。板状の川原石を素材としたもので、被熱によるものか表裏面ともに剥離が著しい。

SHc03 (第 10 ～ 13 図)

IV 区北東端部の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺には SHc01・02・04・06 が隣接し、SHc01 の壁溝と SHc04 の排水溝状遺構及び SDc10 を掘り込み、SHc02 の周溝状遺構 SDc09 と SHc06 の周溝状遺構 SDc10 によって壊されている。なお、この住居跡は焼失家屋であり、上面から多量の炭化材と良好な土器群を検出した。

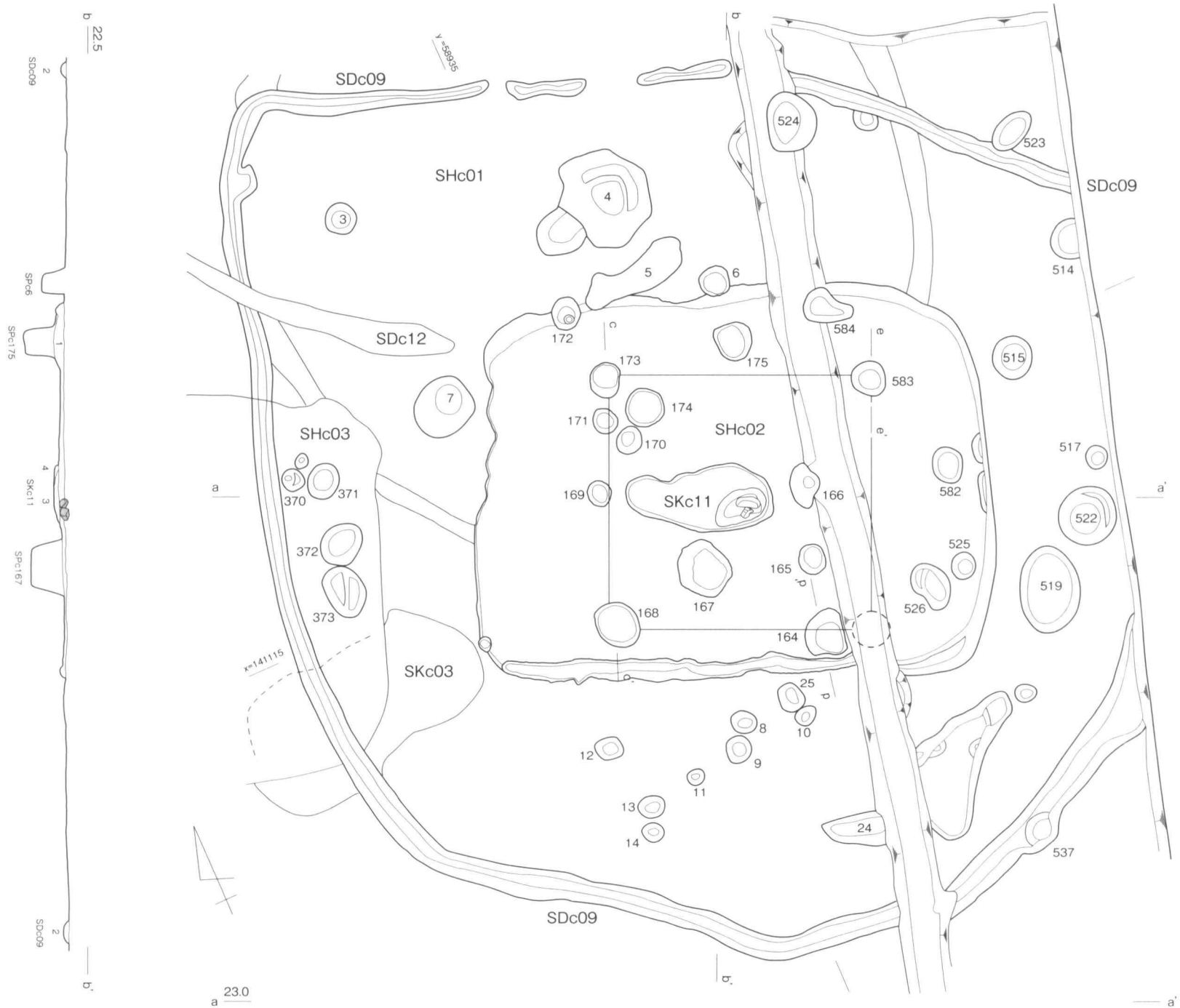
平面形は小型の方形を呈し、長径 4.3 m、短径 4.2 m、深さ 0.05 ～ 0.15 mを測る。床面上では壁溝と中央土坑 1 基を検出した。柱穴跡は数基床面上で確認できるが、主柱穴跡は不明瞭であり、無柱の住居跡の可能性が高い。

壁溝は南辺部と北辺の一部を除く三辺で検出した。幅 0.2 m、深さ約 0.1 mを測る。中央土坑 SKc54 は床面の中央の南寄りに位置する。平面は不整形な楕円形状を呈する。断面は浅い皿状を呈する。長径 1.2 m、短径 0.8 m、深さ約 0.1 mを測る。

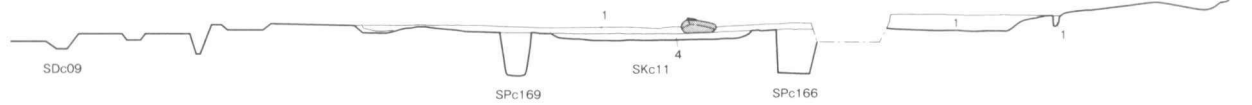
SHc03 からは弥生時代後期中頃に当る、17 ～ 42 の弥生土器と石器が出土した。

17 は口縁部を欠く長頸壺である。底部は丸味のある平底で、体部中央に最大径がある。頸部外面にはハケ状工具により、刺突文を施し、内面の上半部には指オサエ、下半部はヘラケズリを顕著に残す。18・19 は甕の口縁部及び上半部である。19 の口縁部は逆ハの字状に開き、口縁端部は凹んでいる。体部外面にはタタキを施し、内面下半部にはヘラケズリを顕著に施している。20 は小型の鉢、21 は甕の下半部である。

22 ～ 26 は床面直上から出土した土器である。22 は底部を欠く広口壺である。口縁部は逆ハの字状



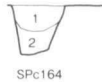
- a-a' b-b'
- 1 茶褐色粘質土
 - 2 暗灰褐色粘質土
 - 3 黒色炭化物
 - 4 淡褐色微細砂 (炭化物少し混)



c 22.5

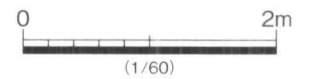


d 22.5

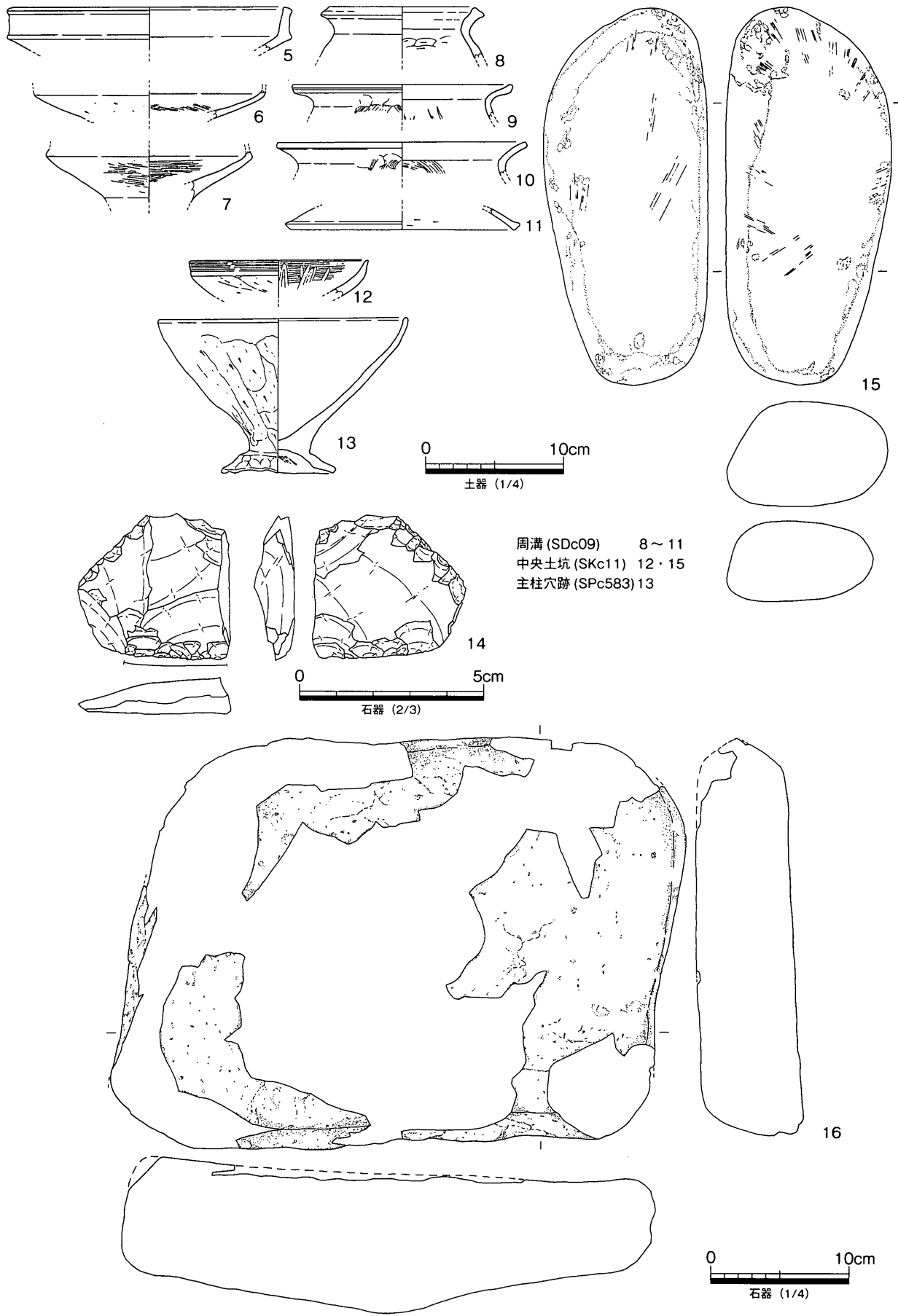


- c-c' d-d'
- 1 淡褐色粘質土
 - 2 暗灰色粘質土
 - 3 暗灰色シルト

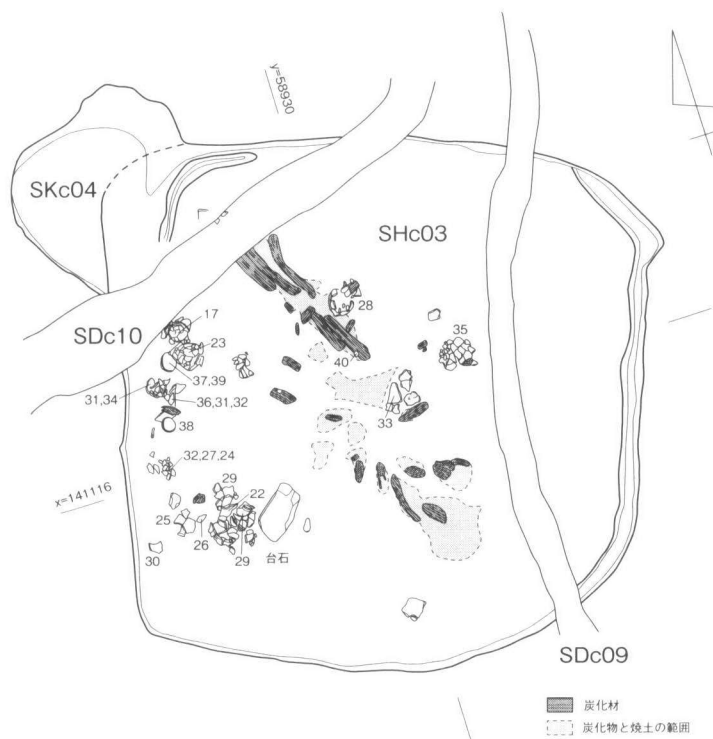
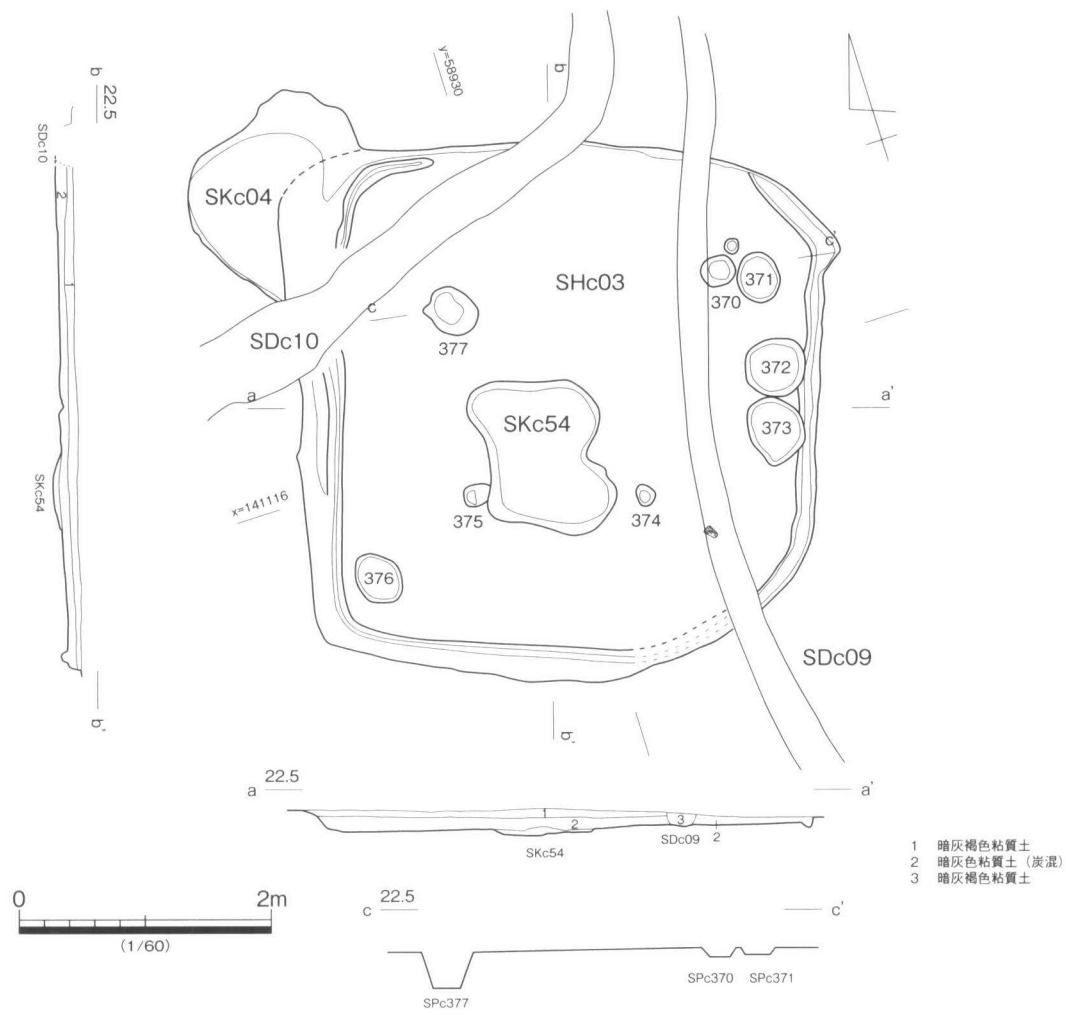
e 22.5



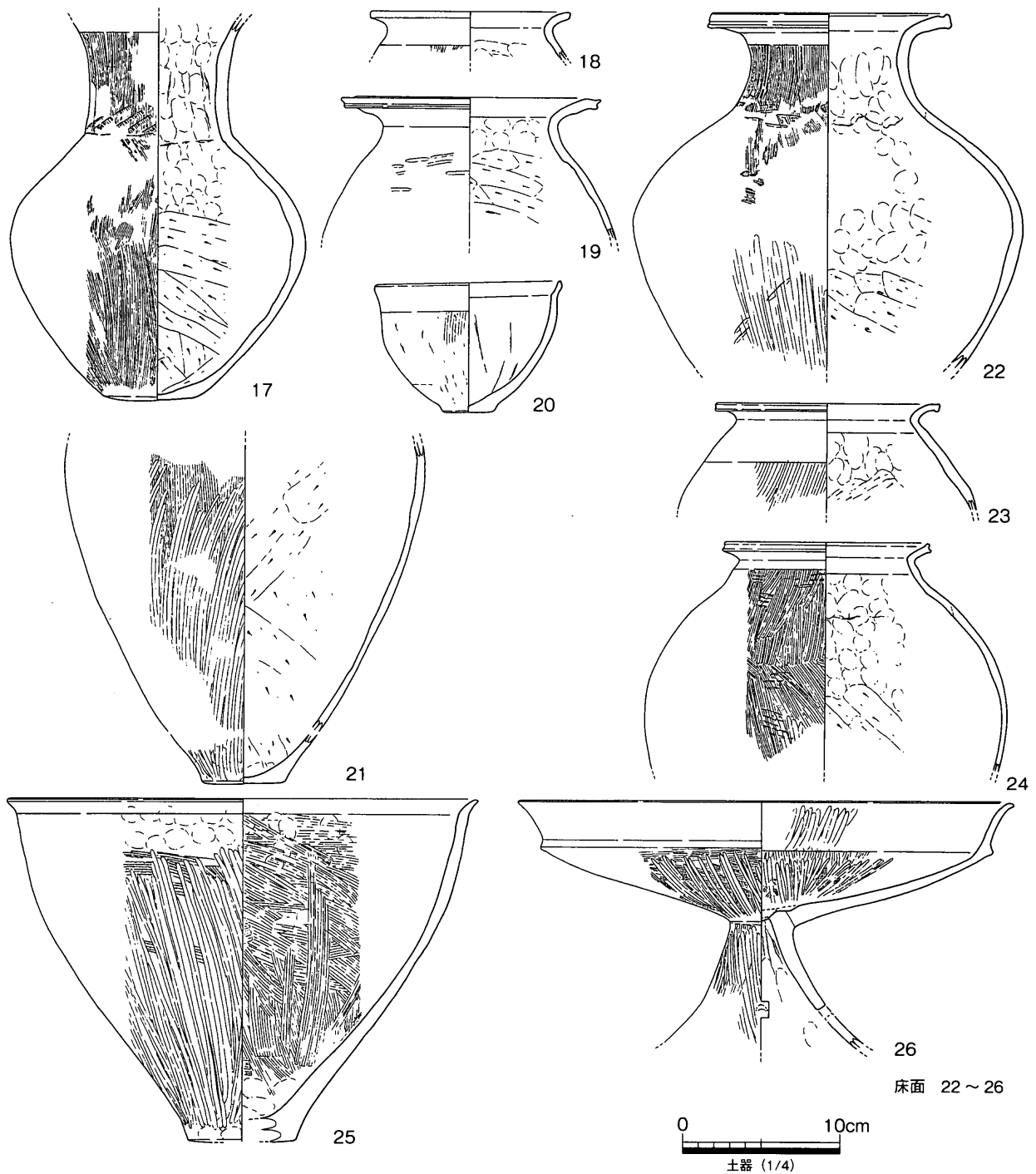
第8図 SHc02・SDc09平・断面図



第9図 SHc02 出土遺物

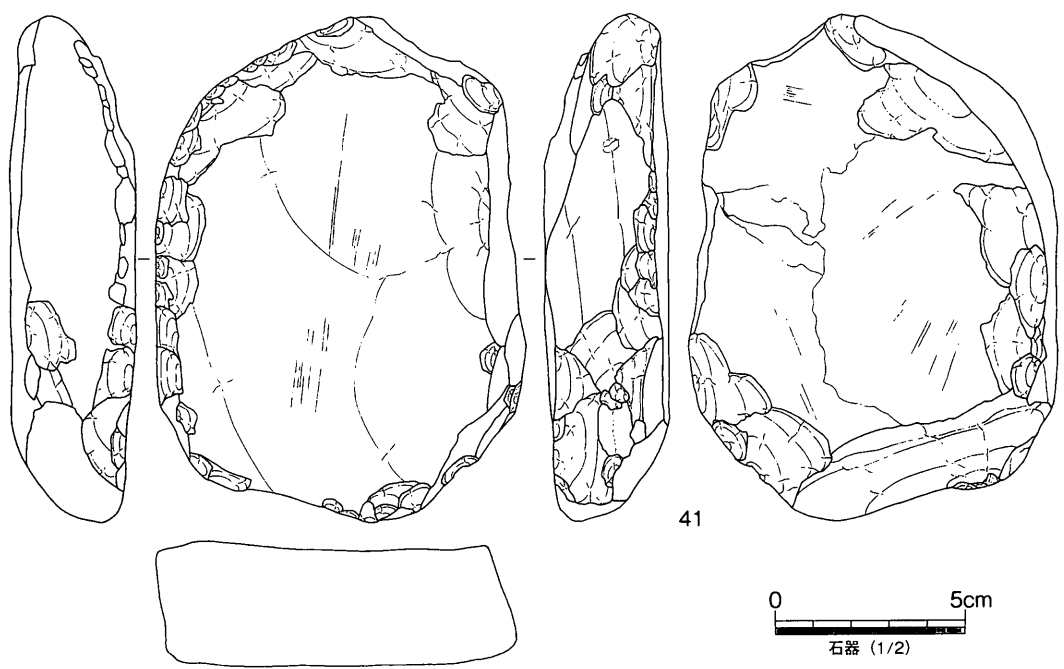
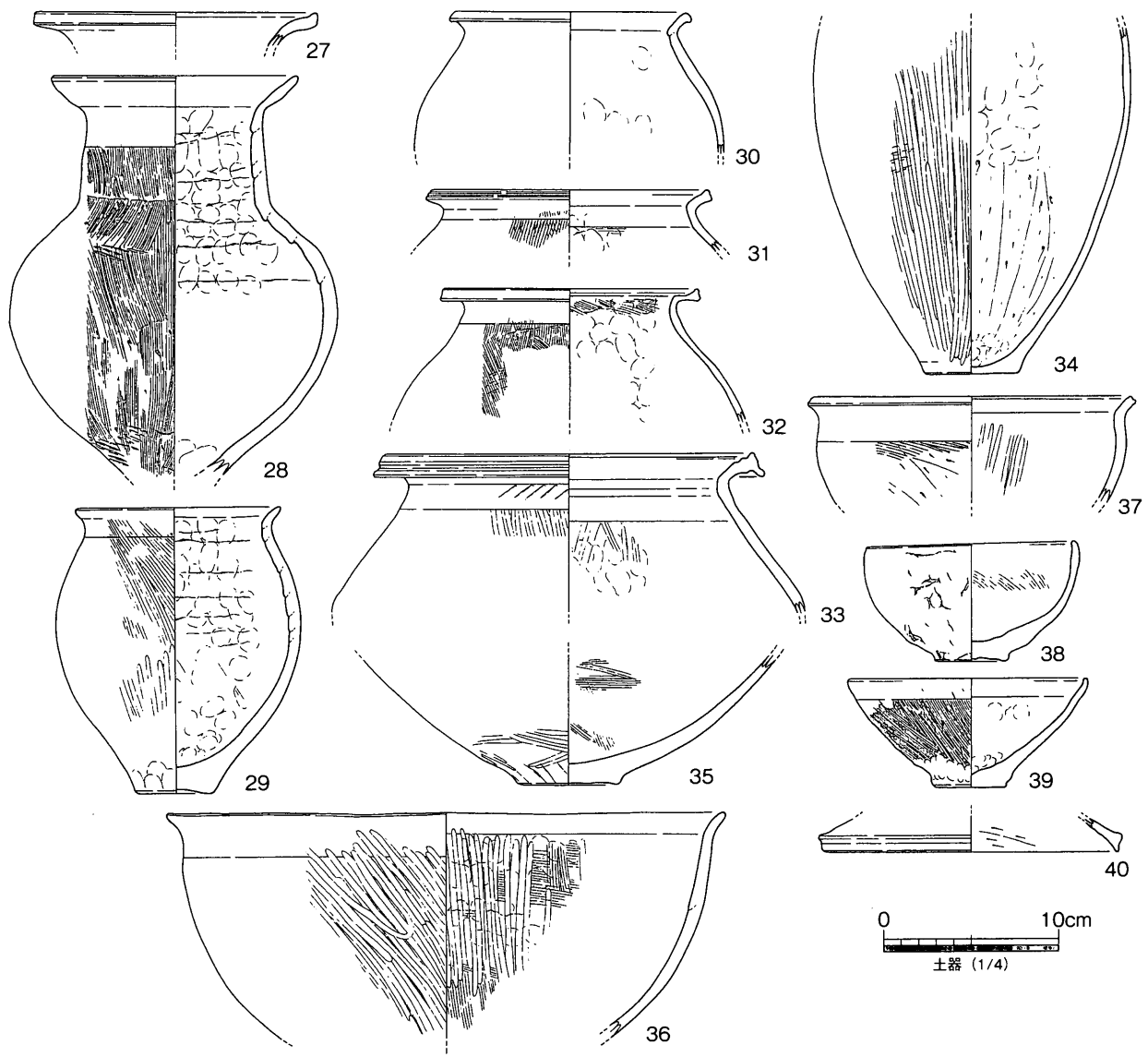


第 10 図 SHc03 平・断面図

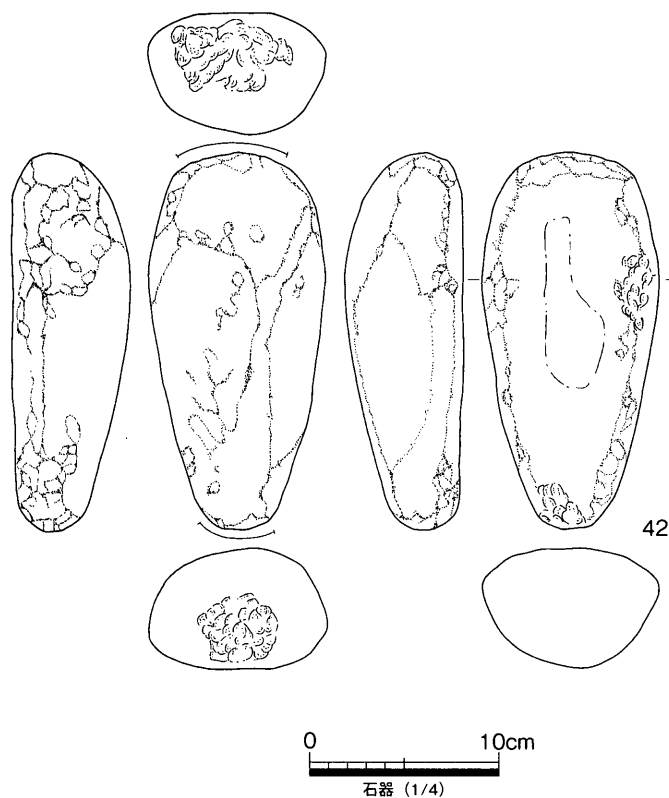


第11図 SHc03 出土遺物(1)

に開き、端部に一条の凹線文を施す。体部中央に最大径を有し、外面下半部には顕著なヘラミガキを施している。23・24は甕の上半部である。口縁部は逆ハの字状に開き、24の端部には1条の凹線文が認められる。体部は丸味をもって下半部へ続く。25は大型の鉢である。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味に収めている。体部は器高があり、深鉢の様相を呈する。体部外面にはヘラミガキ、内面にはハケを顕著に施している。底部は突出気味の平底である。26は脚端部を欠く高杯である。杯部口縁部はハの字状に開き、端部は丸く収めている。脚部には穿孔を施している。杯部、脚部外面にはヘラミガキを顕著に施している。



第 12 図 SHc03 出土遺物 (2)



第 13 図 SHc03 出土遺物 (3)

部は僅かに外反し、端部は尖り気味に収めている。体部は丸味をもち、平底を呈するものと考えられる。体部外面にはヘラミガキ、内面にはハケを施した後にミガキを顕著に施している。38・39は小型の部類に含まれる鉢である。40は高杯脚部の端部である。

41は安山岩製の砥石である。分割礫の周縁部に調整を加え、板状の形状に整えた後、表裏面を砥面として使用している。42は花崗岩製の敲石である。長楕円形の川原石を素材としたもので、上下両端部に敲打痕が認められる。また、平坦部の一部を砥面としており、砥石としての機能も付加されたものと考えられる。

SHc04 (第 14・15 図)

Ⅳ・Ⅴ区東端部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc01・02・03・06が隣接しており、西辺をSHc06、東辺をSHc06の周溝SDc10によって壊されている。

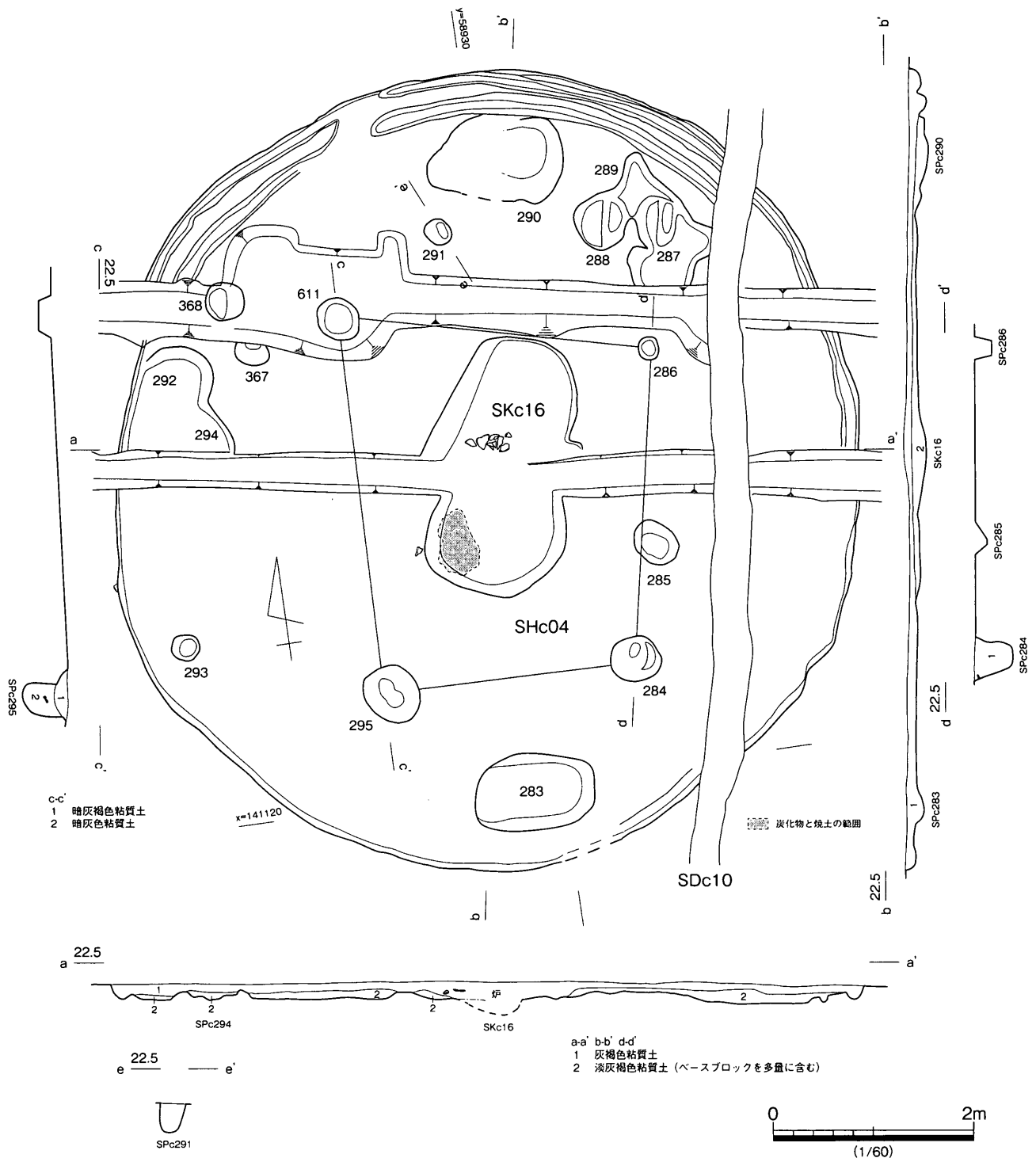
平面形は円形を呈し、直径は7.5～7.9 m、深さ0.1 mを測る。床面上では壁溝2条、支柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。埋土は上下層に分けられる。下層はベースブロックを多量に含む淡灰褐色粘質土で、おそらく貼床層と考えられる。

壁溝は2条確認できることから、この住居跡は建て替えが行われたものと考えられる。住居跡内の埋土や壁溝の残りが悪いこと等から、明確な前後関係を掴み難いが、おそらく、内側が先行する壁溝で外側が後出する壁溝と推定される。2条の壁溝はいずれも北半部で検出した。外側の壁溝は、幅0.1～0.2 m、深さ0.15 mを測る。内側の壁溝は、幅0.1～0.2 m、深さ0.1 mを測る。

支柱穴跡は4～5基の柱穴跡が想定できる。SPc284・286・295・611の柱穴跡4基を確認した。平面形は円形ないし不整円形を呈し、柱間は長辺3.7 m、短辺2.5 m、柱穴跡の直径は0.2～0.6 m、深さ0.2

27・28・35は壺で、27は広口壺の口縁部である。28は底部を欠く壺で、口縁部は外上方に開き、端部は丸い。頸部は比較的長く、体部は球体気味であるが、底部は尖り気味の平底を呈するものと考えられる。外面はハケが主であるが、僅かにタタキが認められる。また、内面上半部には指頭痕が顕著である。35は壺底部である。尖り気味の平底を呈し、形状から比較的大型の壺と考えられる。

29～34は甕である。33は甕の上半部で、口縁端部は肥厚し、1条の凹線文を施している。34は上半部を欠く甕である。体部は長胴気味で、底部は平底を呈する。外面はタタキの後にミガキを顕著に施している。また、内面の下半部には、ヘラケズリを顕著に施している。36～39は鉢である。36は底部を欠く大型の鉢で、口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味に収めている。体部は丸味をもち、平底を呈するものと考えられる。体部外面にはヘラミガキ、内面にはハケを施した後にミガキを顕著に施している。38・39は小型の部類に含まれる鉢である。40は高杯脚部の端部である。

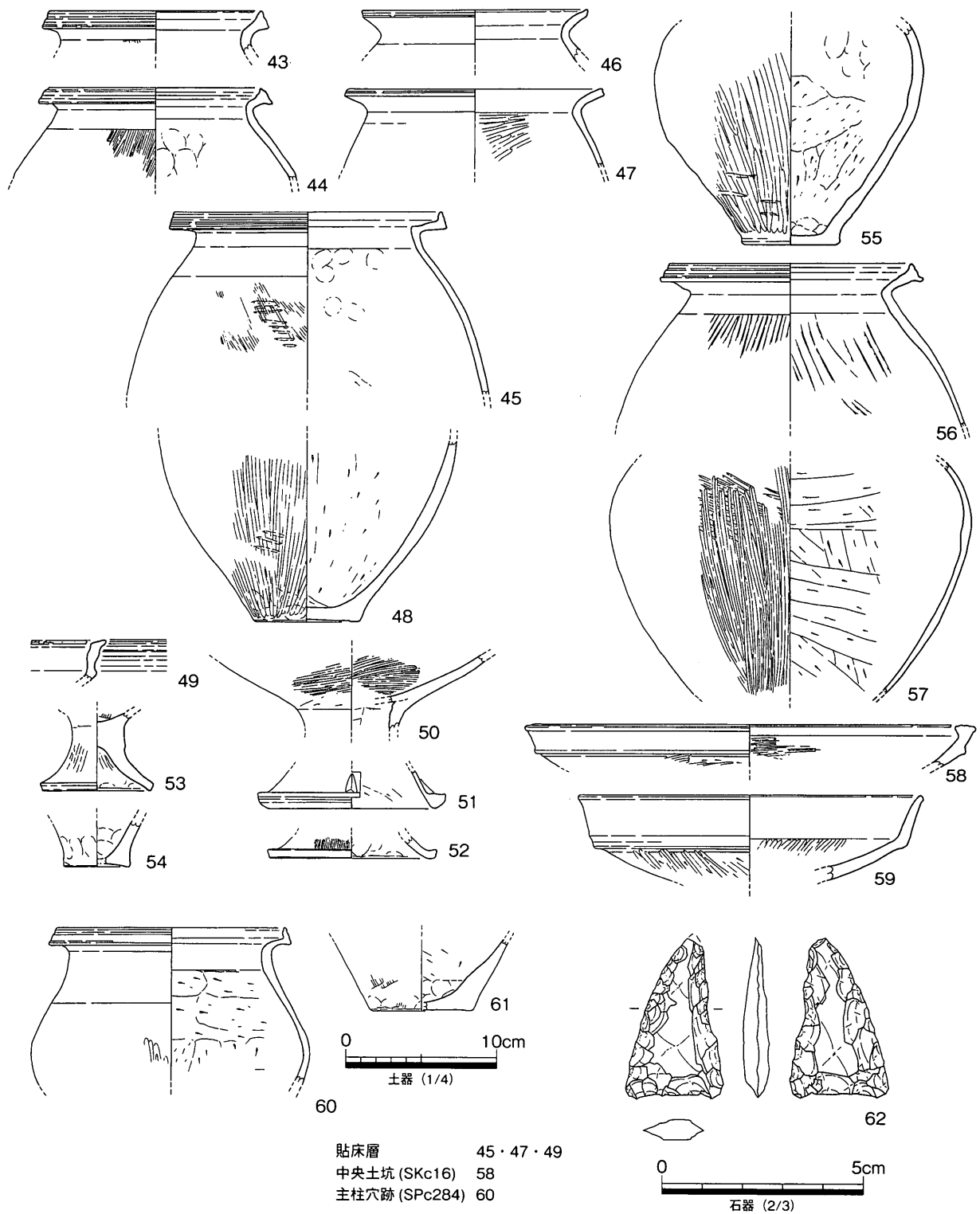


第 14 図 SHc04 平・断面図

～0.45 mを測り、かなりバラツキがある。

中央土坑 SKc16 は床面の中央に位置する。平面は南北方向の中心軸をもつ不整楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。埋土は上層からの落ち込みで、南辺で炭ないし焼土が混じる。長径 2.6 m、短径 1.2 m、深さ約 0.15 mを測る。

SHc04 からは弥生時代後期前半頃に当る、43～62 の弥生土器と石器が出土した。詳細な出土状況の内訳は、下層から 45・47・49・51・56・59、床面直上から 44、上層から 43・46・48・50・52

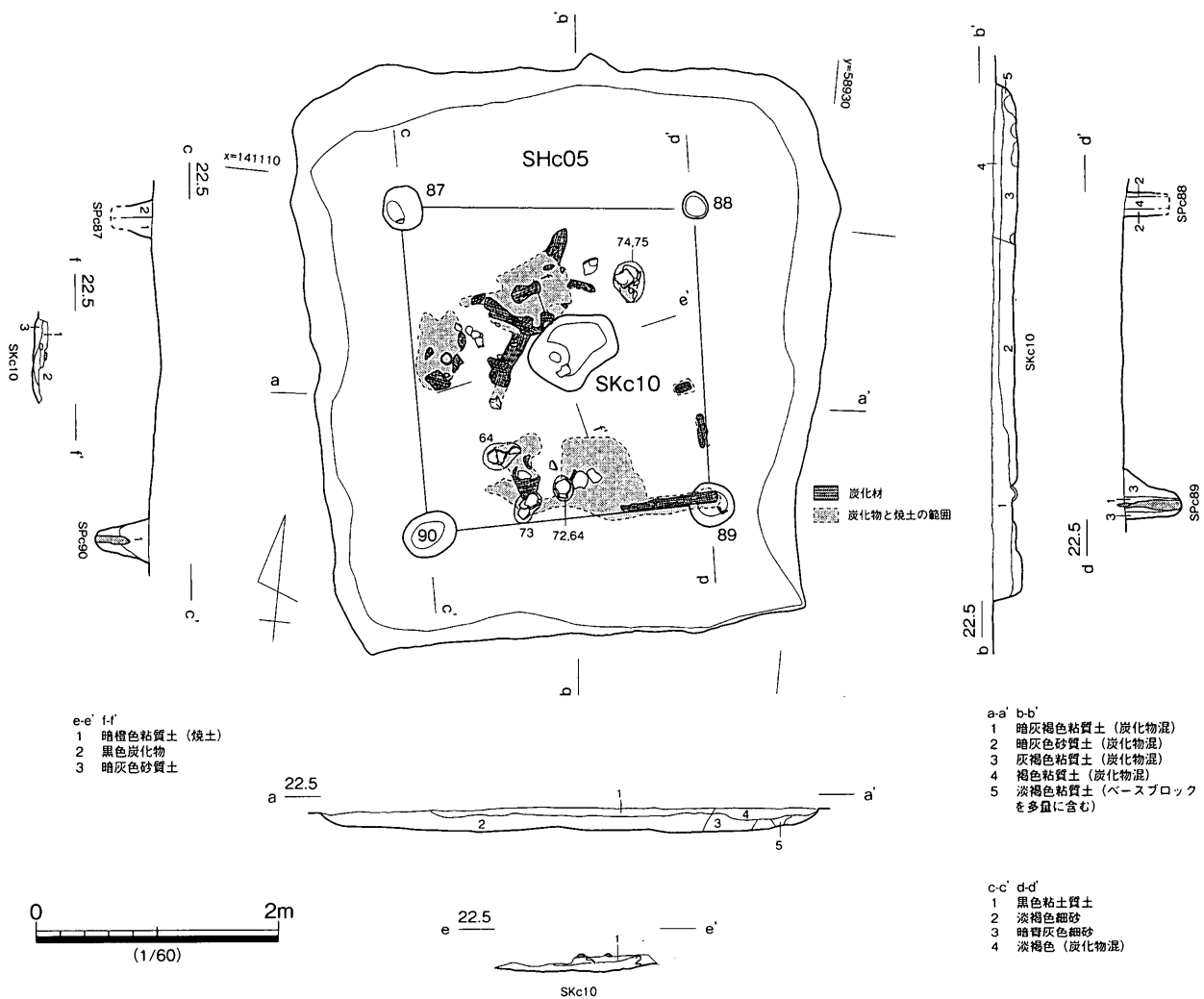


第 15 図 SHc04 出土遺物

～ 55・57・61・62、中央土坑 SKc16 から 58、主柱穴跡 SPc284 から 60 が出土している。

48 は壺の下半部である。体部は丸味をもち、底部は平底を呈する。外面はタタキの後にヘラミガキを顕著に施し、内面はヘラケズリを施している。

44～47・54～57・60・61 は甕である。43・45・47・56・60 は甕の上半部である。43 は甕の口縁部で、端部は上下に肥厚し、凹線文を施している。45 の口縁部は上方に肥厚した後に 3 条の凹線

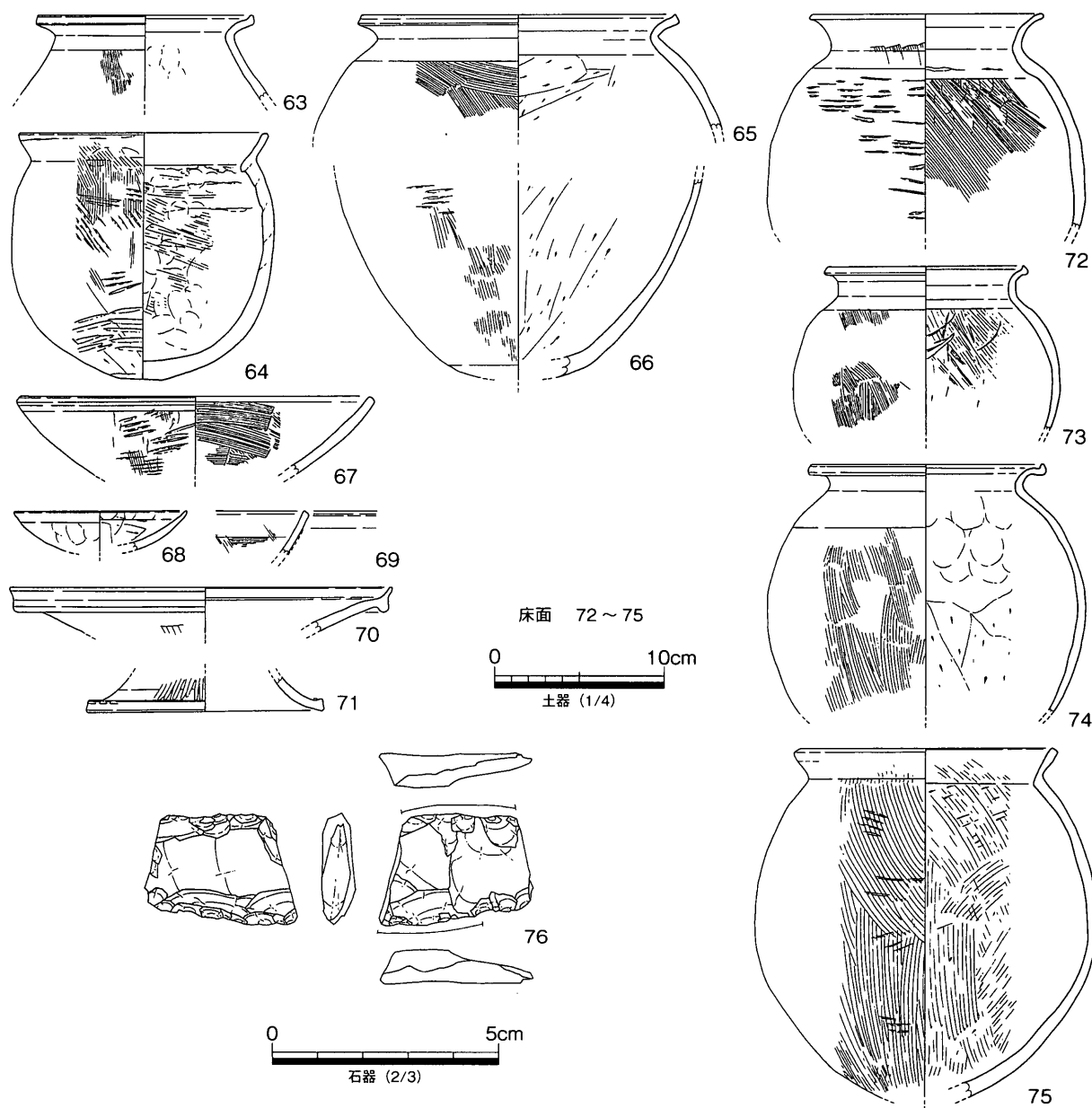


第16図 SHc05 平・断面図

文を施し、体部は長胴気味である。56の口縁部は上下に肥厚した後に2条の凹線文を施し、体部は長胴気味である。55は甕の下半部である。体部は丸味を帯びるが、底部は突出気味の平底を呈する。外面はタタキの後、ヘラミガキを顕著に施し、内面はヘラケズリを施している。60は小型の甕の上半部である。口縁部は体部から屈曲して内側上方に肥厚し、肩部へ続く。内面にはヘラケズリを顕著に施している。

49・52・58・59は高杯である。49・58は杯部の口縁部で、49は体部から屈曲して外側上方に伸び、端部は平坦に仕上げている。外面には2条の凹線文を施している。58は49同様に体部から屈曲して短く外側上方に伸び、端部は肥厚して平坦に仕上げ、3条の凹線文を施している。59は脚部を欠く杯部である。体部から屈曲して外上方に直線状に伸び、口縁端部は尖り気味に仕上げている。体部の内外面ともにヘラミガキを施している。51・52は高杯の脚部である。

62はサヌカイト製の石鏃である。長軸が中心軸から離れた不整形な形状を呈しており、未製品の可能性がある。



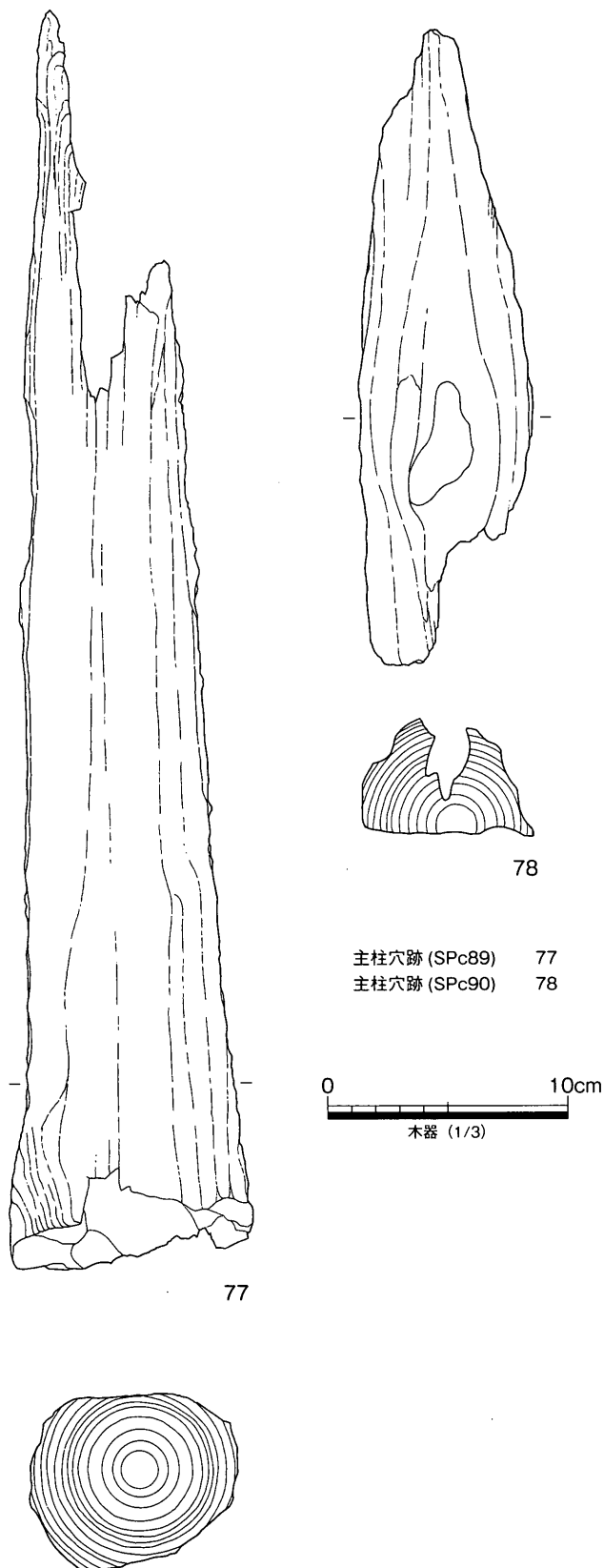
第17図 SHc05 出土遺物(1)

SHc05 (第16~18図)

IV区東端部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の北方にはSHc01・02・03、SKc01、SDc08等が隣接する。なお、この住居跡は焼失家屋であり、上層からは炭化材と良好な土器群を検出した。

平面形は不整形な方形を呈し、長径4.7m、短径3.7m、深さ0.2mを測る。埋土は数層に分かれ、炭化物を含んでいる層が多い。なお、平面では確認できないが、土層断面図を見る限り、北辺と西辺にベッド状の遺構が配されていた可能性がある。

床面上では支柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。支柱穴跡はSPc87・88・89・90の4基を確認した。平面形は円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺2.6m、短辺2.3mを測り、柱穴跡の直径は0.2~0.45m、



第 18 図 SHc05 出土遺物 (2)

深さ約 0.5 m を測る。なお、SPc89・90 では柱材を検出した。

中央土坑 SKc10 は床面の中央に位置する。平面は不整形な円形状を呈する。断面は極浅い皿状を呈する。長径 0.8 m、短径 0.6 m、深さ約 0.15 m を測る。埋土は上下 2 層に分けられ、焼土を含む。

SHc05 からは弥生時代終末期～古墳時代初頭に当る、63～78 の弥生土器、古式土師器、石器、木製品が出土した。

66 は底部の一部を欠く壺の下半部である。体部は丸味を呈し、底部も丸底気味であるが、僅かに平底を残すものと考えられる。外面はタタキの後にハケ、内面はヘラケズリを顕著に施している。

63～65・72～75 は甕である。63 は甕の上半部である。口縁部はくの字状に外反し、端部は僅かに上方に肥厚させ、平坦に仕上げている。64 の口縁部はくの字状に外反し、体部は球体化しているが、底部には僅かに平底を残す。65・72～74 は下半部を欠く甕である。65 の口縁部はくの字状に外反し、端部は平坦に仕上げる。体部は球体気味である。外面はハケ、内面はヘラケズリを施している。72～74 の口縁部は逆ハの字状に開く。72 の端部は尖り気味におさめ、73・74 の端部は上方に僅かに肥厚している。72～74 の体部は球体気味で、底部を欠く甕である。口縁部は逆ハの字状に外反し、体部は球体化しており、底部は丸底の可能性はある。外面はタタキ後にハケ、内面はヘラケズリ後にハケを顕著に施している。75 は形状から古式土師器の甕と考えられる。口縁部はくの字状に短く外反し、端部は平坦に仕上げている。体部は球体気味で、底部は丸底を呈するものと考えられる。外面はタタキ後にハケ、内面もハケを施している。

67～69 は鉢の上半部である。

70は器台の上半部と考えられる。口縁部は上下に拡張させている。

71は高杯の脚部である。

76はサヌカイト製の楔形石器である。小口に裁断面を有し、上下二つの稜線上には潰し痕が認められる。

77・78は主柱穴跡から出土した柱材である。77は主柱穴跡 SPc89 から出土した柱材の下端部で、直径約 10cmの丸太材を加工した柱材と考えられる。残りが悪く、詳細な加工痕は見出し難いが、縦方向の加工痕が部分的に観察できる。78は主柱穴跡の SPc90 から出土した柱材の下端部で、直径約 8cmの丸太材を加工した柱材と考えられる。残りが悪く詳細な加工痕は見出せない。77・78は樹種同定の結果、コナラ属コナラ節の樹種と同定された。詳細は、第IV章 自然科学分析に掲載している。

SHc06、SDc10・11（第19～23図）

IV区北東端部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺には SHc03・04・07 が隣接し、この住居跡は SHc04 を掘り込んでいる。なお、SHc06 の周囲には若干時期差があるが、この住居跡に伴う周溝の可能性が高い SDc10 が配され、南端部では、この住居跡の排水溝と考えられる SDc11 を検出した。

残りが悪く、平面形は不明瞭であるが、主柱穴跡の配置状況から、おそらく五角形状を呈するものと考えられる。直径は約 6.8 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は暗灰色系の粘質土ないし細砂等である。床面上では壁溝、主柱穴跡 5 基と中央土坑 1 基を検出した。

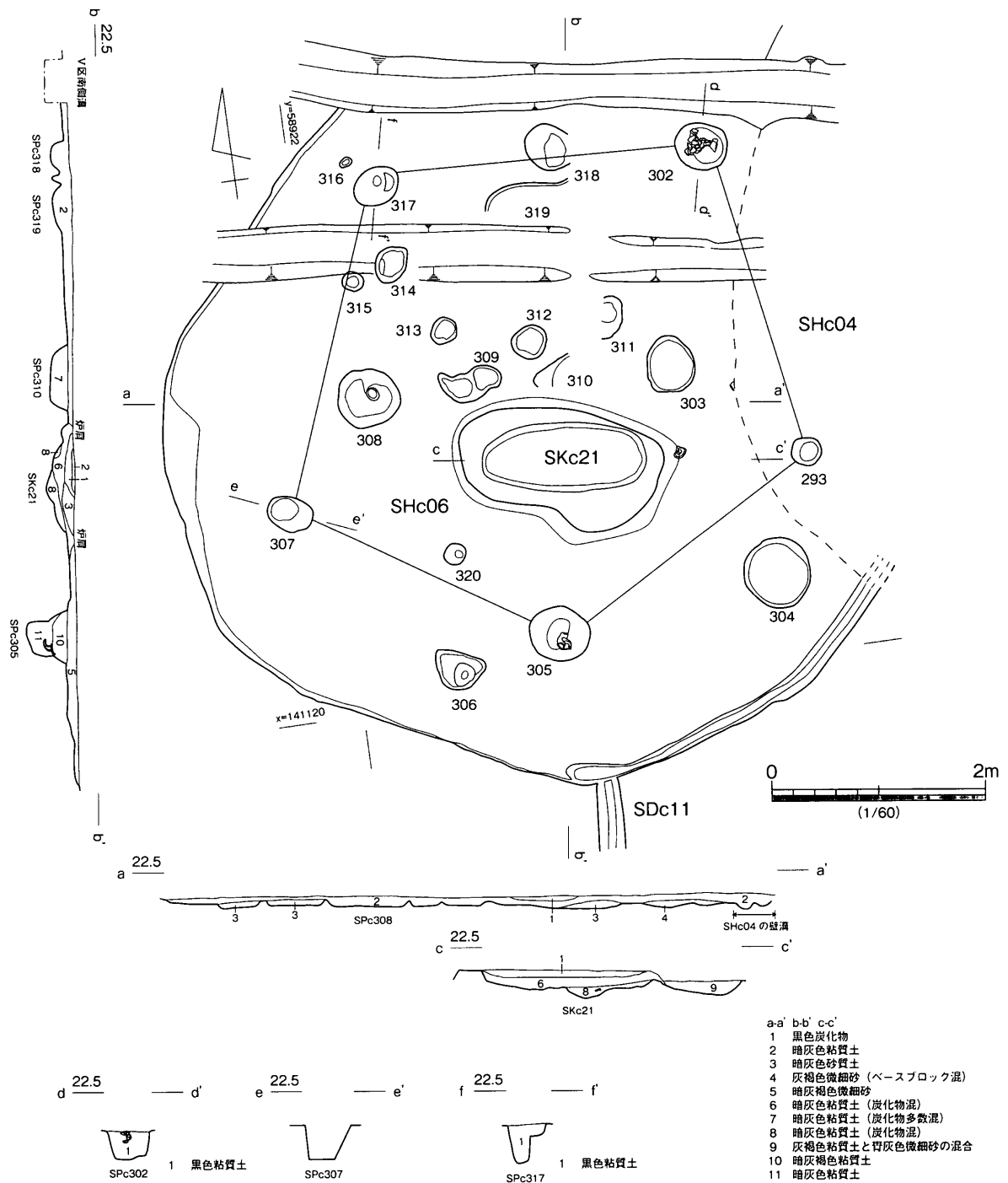
壁溝は南東辺の一部で検出した。幅 0.2 m、深さ約 0.1 m を測る。主柱穴跡は五角形状の配置を呈し、SPc293・302・305・307・317 の 5 基を確認した。平面形は不整形な五角形を呈し、柱間は長辺 3.2 m、短辺 2.8 m を測り、柱穴跡の直径は 0.25 ～ 0.5 m、深さ 0.25 ～ 0.35 m を測る。

中央土坑 SKc21 は床面の中央の南寄りに位置する。平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈し、周囲には中央土坑に伴う高さ 0.05 ～ 0.1 m 程の不整形な土堤状の高まりを検出した。断面は浅い皿状を呈するが、中央がやや窪む。埋土の上層は黒色の炭化物層、下層は暗灰色粘質土で炭化物を含む。長径 1.55 m、短径 0.65 m、深さ約 0.25 m を測る。中央土坑の土堤状の高まりは、幅 0.1 ～ 0.5 m、高さ 0.1 m を測る。

SHc06 の周溝 SDc10 は、住居跡から 1.5 ～ 2.0 m ほど隔てて、住居跡の外周を周る。西辺は外湾気味に突出し、東辺では SHc04 を南北方向に掘り込んで北上し、VI区の方に東方向へ湾曲気味に延びる。なお、この溝状遺構の北辺は SEc01 と接し、その西辺は他の部分と異なり不整形な落ち込み状の形状を呈し、多量の遺物が出土している。断面は U 字状を呈し、埋土は上下 2 層に分かれ、上層は暗灰褐色微細砂、下層は青灰色の微細砂を含むシルト質の土層である。検出した長さ約 53.0 m、幅 0.1 ～ 0.4 m、深さ 0.1 ～ 0.3 m を測る。北辺部の落ち込み状の遺構は不整形な形状を呈し、長径約 7.0 m、短径 1.0 ～ 2.1 m、深さ 0.1 ～ 0.15 m を測り、東辺に SEc01 が位置する。

SHc06 の排水溝 SDc11 は、住居跡の南端部の壁溝から南北に延びて、SHc06 の周溝 SDc10 を貫くが、SDc10 との前後関係は掴めていない。断面は U 字状を呈し、検出した長さ約 2.9 m、幅 0.2 m、深さ約 0.3 m を測る。

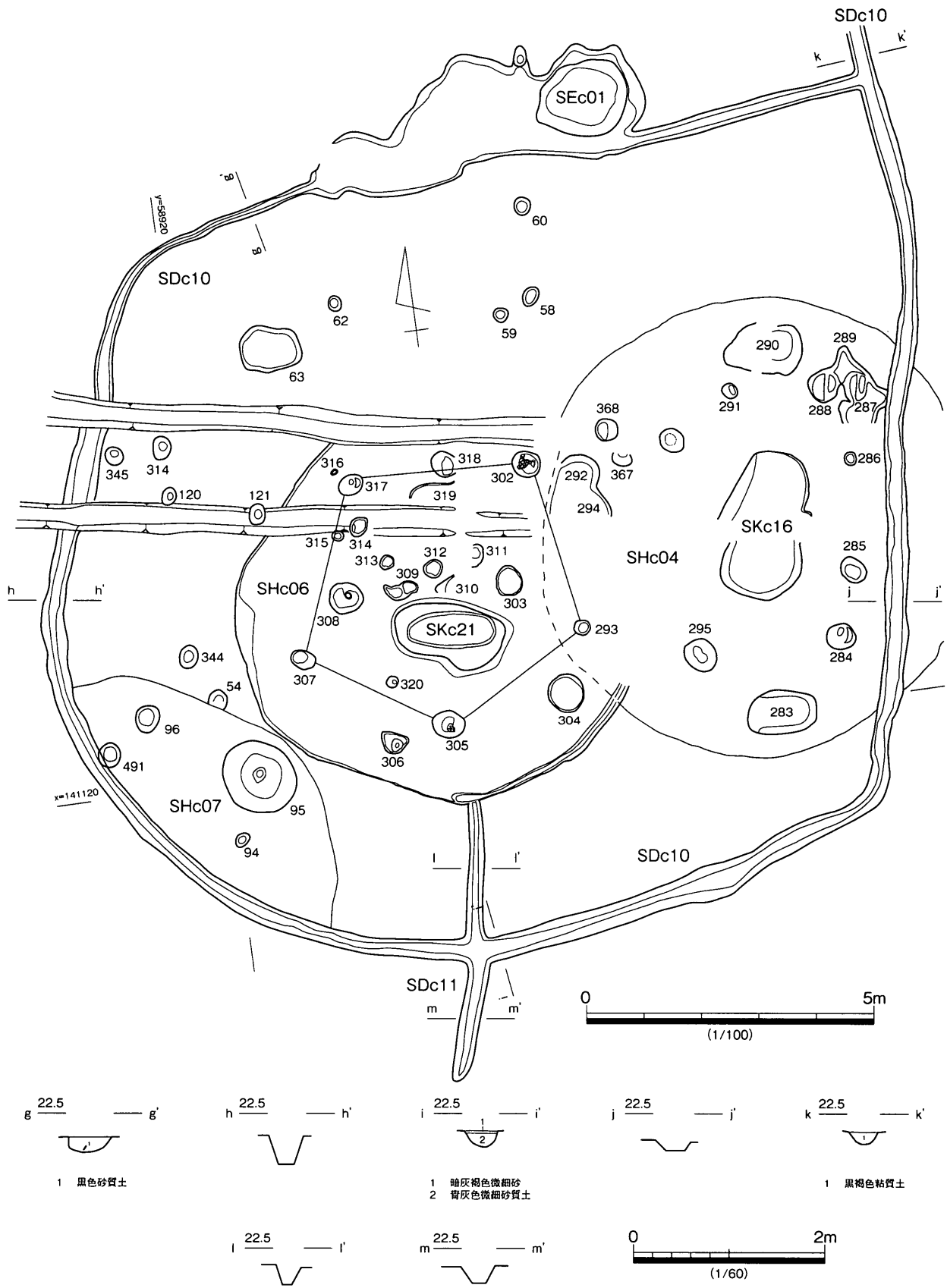
SHc06、SDc10・11 からは、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭に当る、79～118 の弥生土器、古式土師器と石器が出土した。



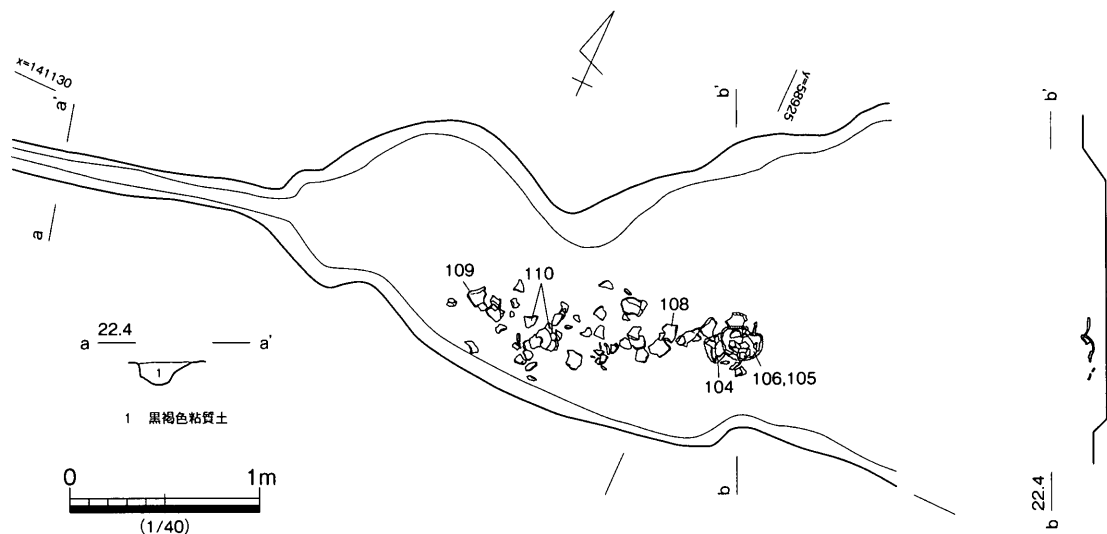
第 19 図 SHc06 平・断面図

SHc06 から出土したのは、79～91・113 の土器である。79～81・85 は SHc06 の埋土から出土した土器である。79・85 は壺である。85 は広口壺の口頸部で、口縁部は頸部から水平気味に屈曲し、端部は僅かに窪む。頸部は直立気味に立ち上がる。80 は平底の甕の底部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。81 は高杯の脚部である。中央に透穴 4 穴、端部には 2 条の凹線文を施している。

82～84 は中央土坑 SKc21 から出土した土器である。82・84 は甕である。82 は古式土師器の甕の上半部で、口縁部は逆ハの字状を呈し、端部丸く収めている。体部は丸味をもち、外面はタタキ後ハケ、内面はヘラケズリを施している。83 は鉢である。口縁部は尖り気味に丸く仕上げ、体部は丸味をもち、



第20图 SHc06、SDc10·11平·断面图



第 21 図 SDc10 平・断面図

底部は僅かに平底を呈している。外面にはタタキを僅かに残し、内面はヘラミガキを顕著に施している。

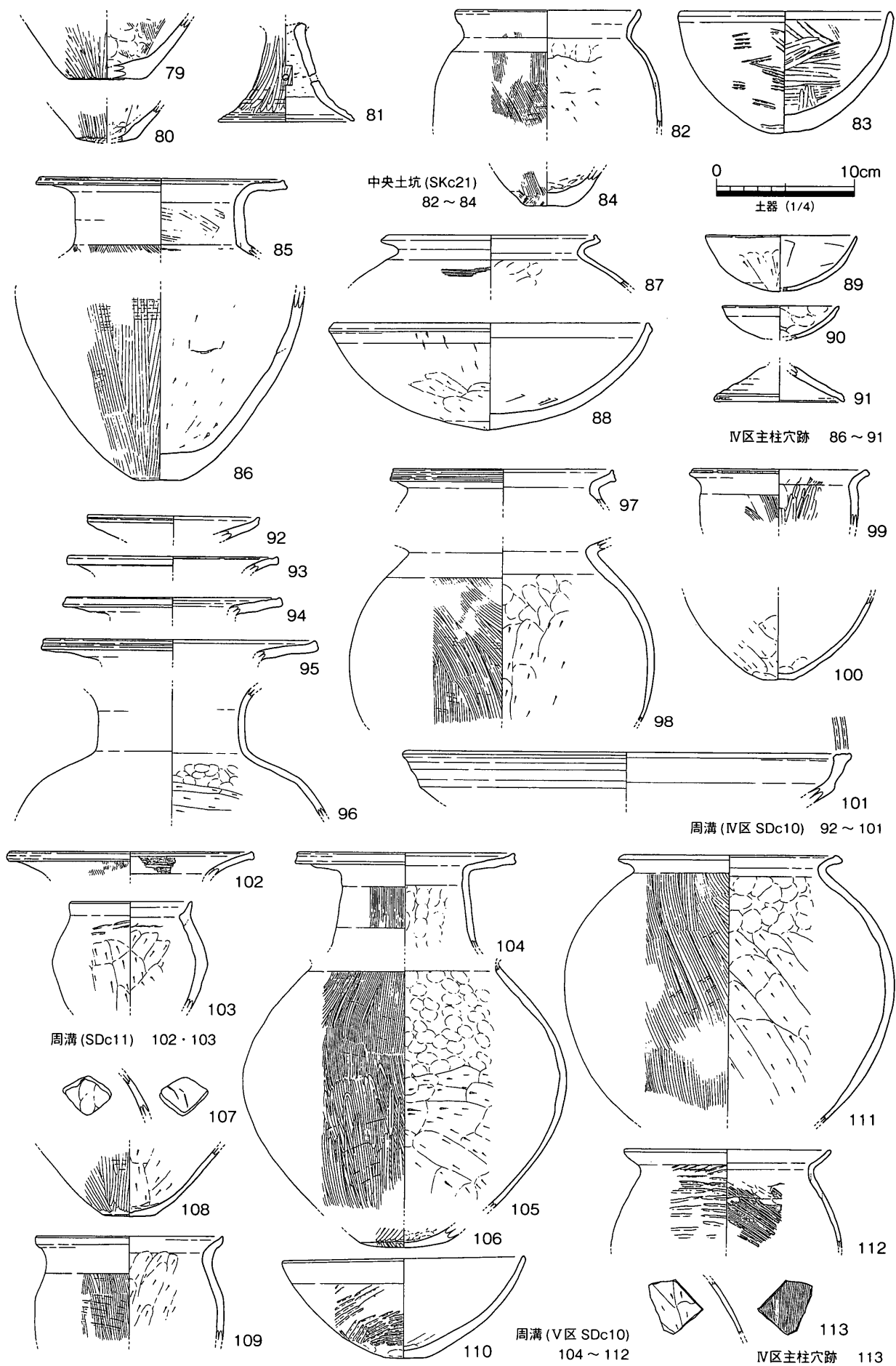
86～91・113は支柱穴跡から出土した土器である。86・90・113はSPc305の出土土器で、86は甕の下半部である。体部は長胴気味で丸味をもち、底部は丸底気味の平底を呈する。外面はタタキ後ハケ、内面はヘラケズリを施している。89はSPc317出土の鉢である。91はSPc307出土の台付鉢の脚部である。

SDc10からは、92～101・104～112・114～118の土器と石器が出土した。

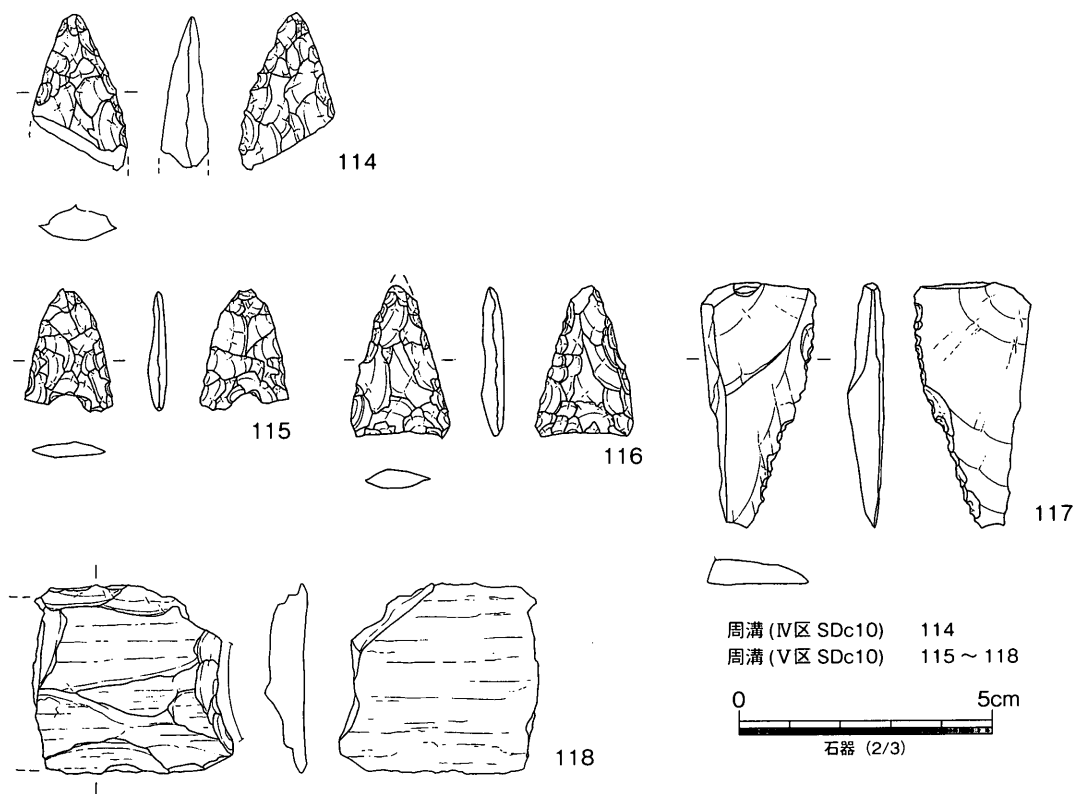
92～95は広口壺の口縁部である。94・95は端部を平坦に仕上げ、水平気味に頸部に続き、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。96は口縁部と下半部を欠く広口壺である。この土器は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。97～99・105・106・108・111・112は甕である。105は甕の体部である。最大径は中央に位置し、おそらく底部は、丸底気味の平底であると考えられる。外面上半部はハケ、下半部はハケ後ミガキを顕著に施している。内面上半部は指オサエ、下半部はヘラケズリを施している。なお、この土器は形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。111は底部を欠く甕である。口縁部はS字状に短く外反し、端部は平坦に仕上げている。体部は球体気味に丸味をもち、おそらく底部は、丸底気味で平底を僅かに残す形状であると考えられる。外面はハケ、内面上半部は指オサエ、下半部はヘラケズリを施している。112は下半部を欠く甕である。口縁部はくの字状に外反し、短部は丸く仕上げている。体部外面は平行タタキ、内面はハケを施している。100・101・109・110は鉢である。101は大型の鉢で、口縁部は体部から屈曲し、外上方に短く伸びて端部は水平気味に肥厚し、2条の凹線文を施している。なお、この土器は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。

114～118はSDc10から出土した石器である。114はサヌカイト製の槍先形石器の先端部である。この遺跡では槍先形石器の出土例が少なく、貴重な資料である。115・116はサヌカイト製の石鏃である。117はサヌカイト製の刃部に小刻みな調整を施した削器である。118は結晶片岩製の打製石庖丁である。

SDc11から出土したのは、102・103の土器である。102は広口壺の口縁部である。逆ハの字状に開き、



第22图 SHc06 出土遺物 (1)



第 23 図 SHc06 出土遺物 (2)

端部は平坦に仕上げている。103 は底部を欠く鉢である。口縁部は短く尖り気味に仕上げ、体部外面はタタキ後ヘラケズリ、内面もヘラケズリを施している。

SHc07 (第 24 ~ 26 図)

IV 区の北東部の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺には SHc06・08、SKc07 が隣接し、この住居跡は SKc07 を掘り込み、東辺では SHc06 の周溝 SDc10 に掘り込まれている。

平面形は円形を呈し、直径 7.3 ~ 7.6 m、深さ 0.2 m を測る。床面上では西辺で壁溝の一部と支柱穴跡 6 基、中央土坑 1 基を検出した。埋土は 4 層に細分され、上層は黒色系の粘質土、下層は灰色系の粘質土である貼床層と考えられる。

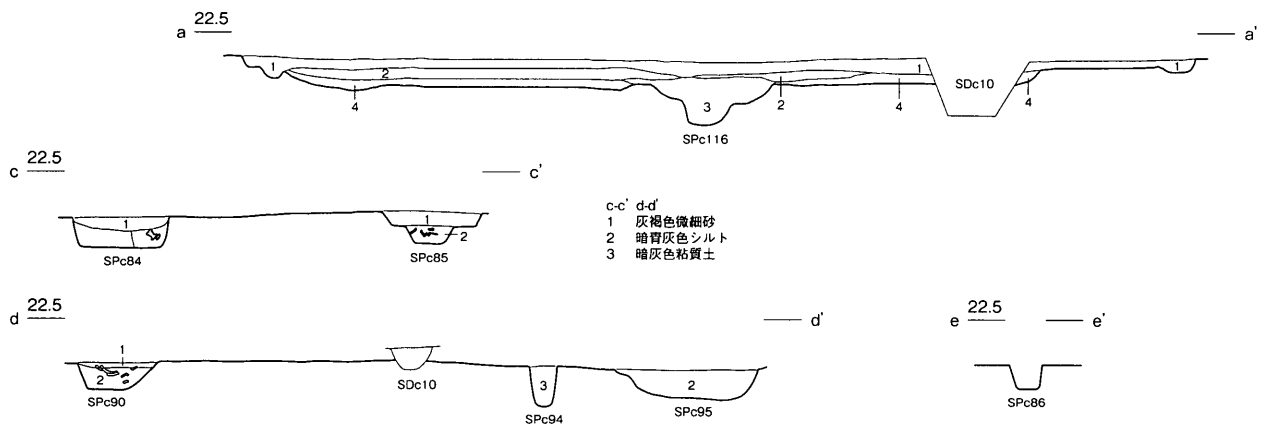
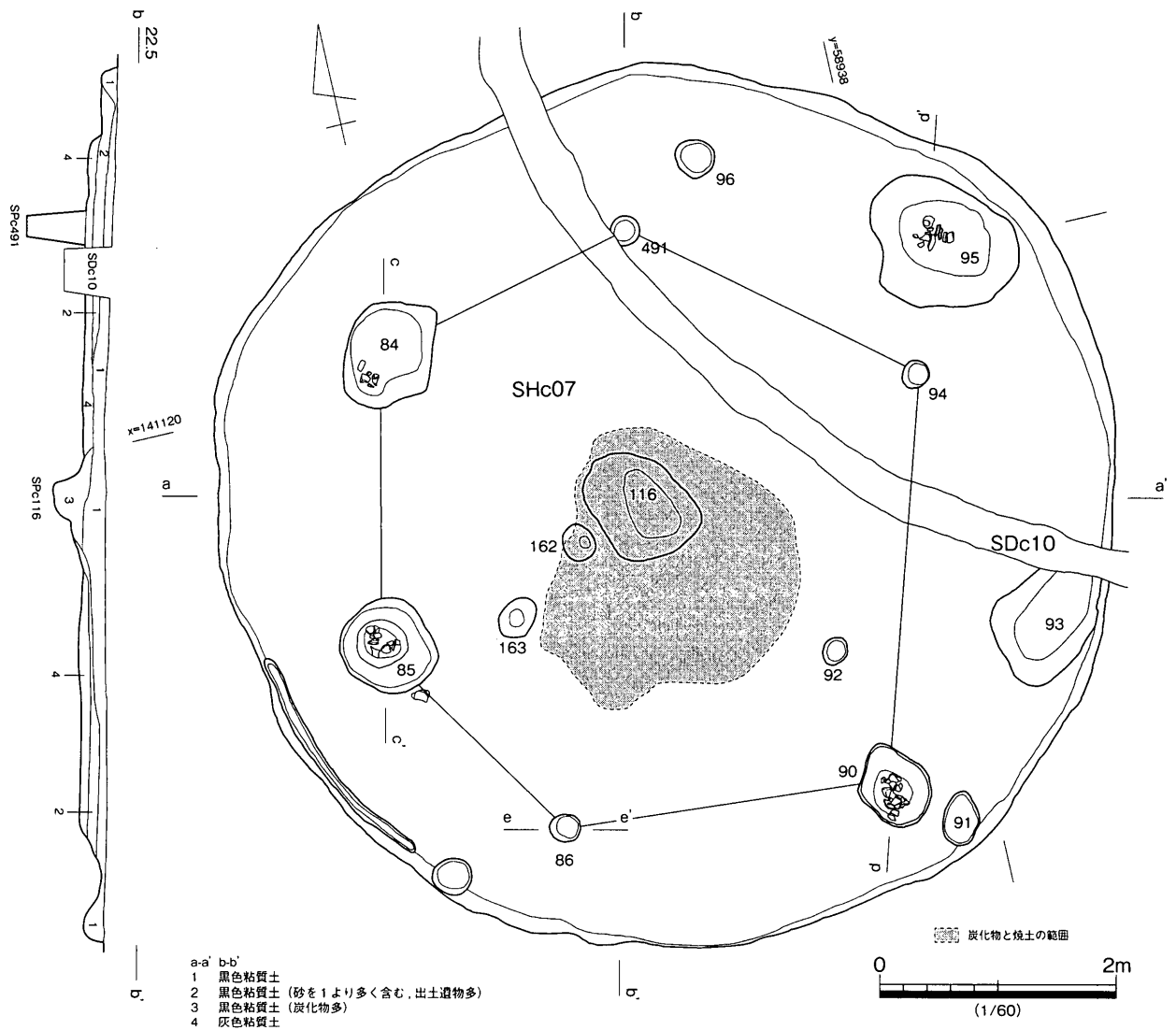
壁溝は西辺で壁溝の一部を検出したが、土層断面を見る限り住居跡の全周を周っていたものと考えられる。断面からの推定値として、幅 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。

支柱穴跡は SPc84・85・86・90・94・491 の 6 基を確認した。平面形は円形ないし不整円形を呈し、柱間は長辺 3.3 m、短辺 2.2 m を測り、柱穴跡の直径は 0.2 ~ 0.9 m、深さ 0.2 ~ 0.45 m を測り、かなりバラツキがある。埋土は灰色系の細砂と青灰色シルトの 2 層に分かれる。

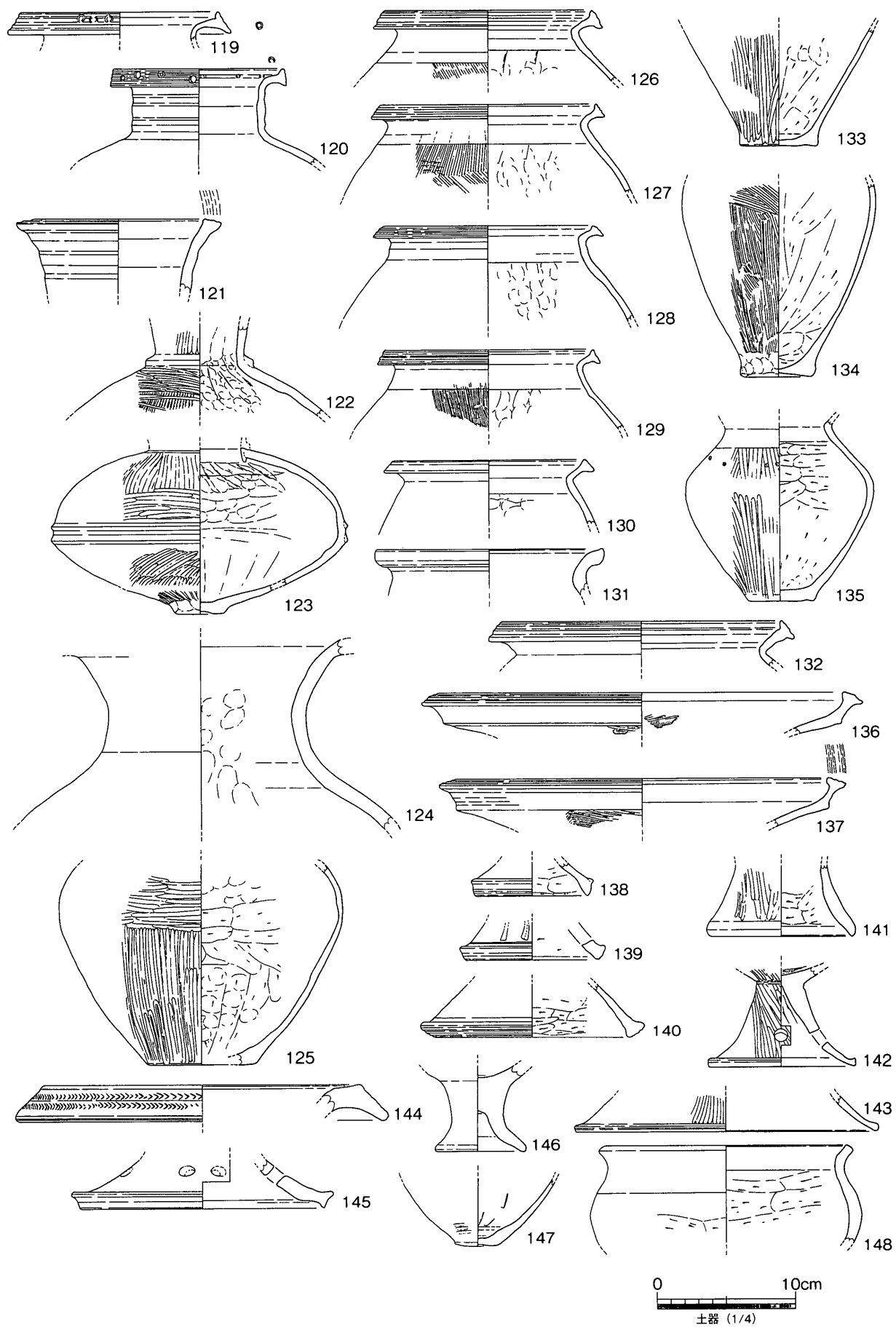
中央土坑 SPc116 は床面の中央に位置する。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は二段掘方の逆台形状を呈する。埋土は炭化物を多量に含んだ黒色粘質土である。長径 1.05 m、短径 0.7 m、深さ約 0.4 m を測る。

SHc07 からは弥生時代中期末～後期前半に当る、119 ~ 166 の弥生土器、石器が出土した。

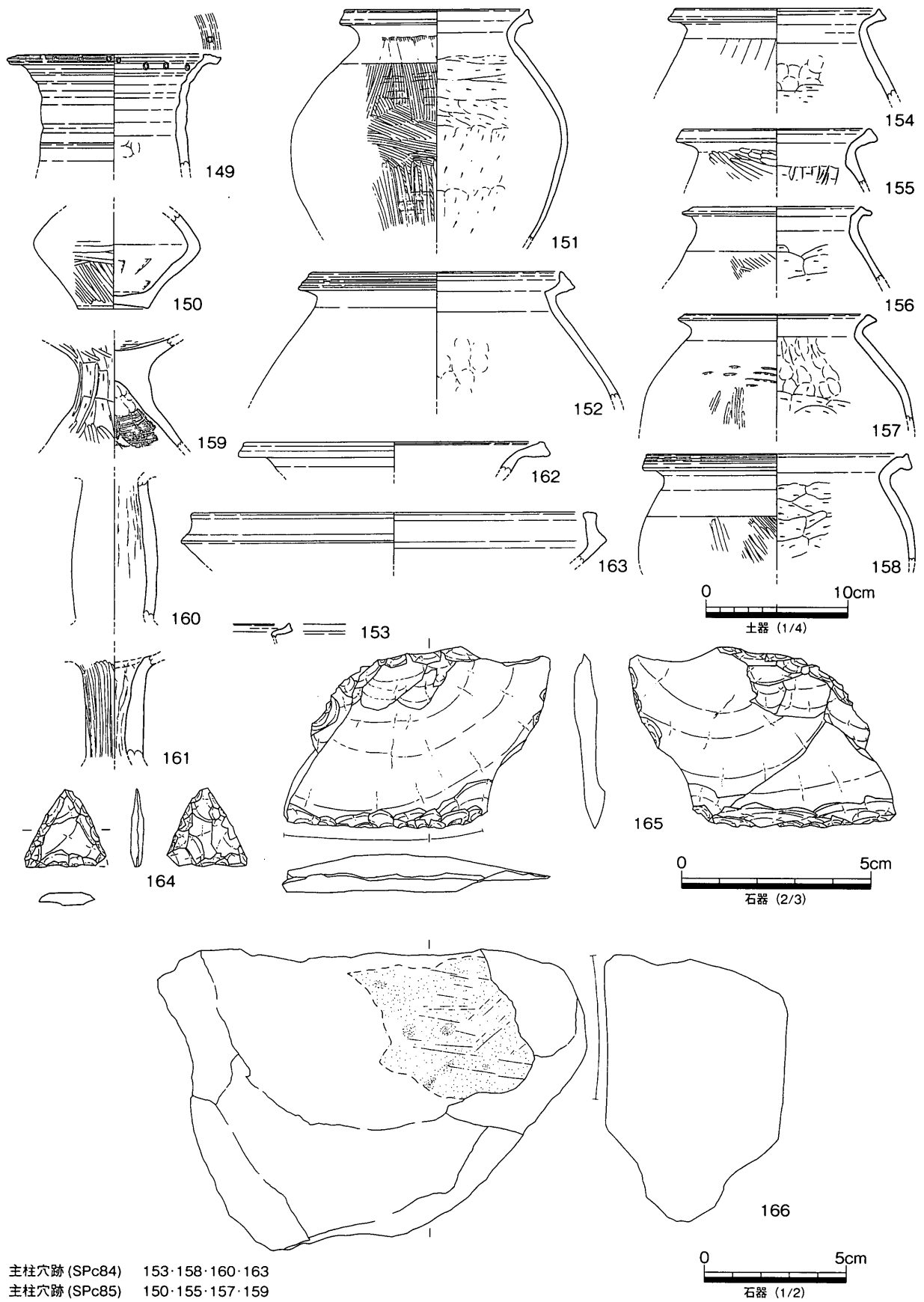
119 ~ 125・150 は壺である。119・120 は広口壺である。119 は口縁部で、端部は内傾し、上下



第24図 SHc07 平・断面図



第 25 図 SHc07 出土遺物 (1)



- 主柱穴跡 (SPc84) 153・158・160・163
- 主柱穴跡 (SPc85) 150・155・157・159
- 主柱穴跡 (SPc86) 149・156
- 主柱穴跡 (SPc90) 154
- 主柱穴跡 (SPc491) 161・162

第26図 SHc07 出土遺物(2)

に肥厚して、外面には凹線文と竹管文を施している。120は上半部である。口縁端部は上下に肥厚し、擬凹線文を施す。頸部は直立気味で体部に続く。胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。121は長頸壺の口頸部である。口縁端部は平坦に仕上げ、凹線文を施している。頸部は外反気味に伸びる。胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。122・123は形状等から、吉備産の細頸壺と考えられる。体部は算盤玉状の形状を呈し、貼り付け突帯を付している。底部は尖り気味の平底を呈している。外面はハケ後ヘラミガキ、内面上半部は絞り目が顕著である。125は壺の下半部である。底部は平底で、体部外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリを顕著に施している。胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。

126～135・151・152は甕である。126～132・152は甕の上半部である。126～129・132の口縁部は、体部端部からくの字状に外反し、口縁端部は内傾し上下に肥厚する。端部外面には凹線文ないし擬凹線文を施している。なお、129は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。133・134は甕の下半部である。135は口縁部を欠く小型の甕である。体部の上位に最大径を有し、底部は平底である。外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリを施している。この土器は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。151は底部を欠く甕である。口縁部は逆ハの字状に外反し、端部は平坦に仕上げている。体部は丸味を帯び、中央に最大径が位置する。外面上半部はタタキ後ハケ、下半部はハケ後ヘラミガキを施している。内面はヘラケズリを顕著に施している。

136～143は高杯である。136・137は杯部の上半部である。口縁部は体部から屈曲し、外上方に短く伸びて、端部は水平気味に肥厚し、凹線文を施している。138～143は脚部である。138～140の端部は肥厚し、凹線文を施している。内面はヘラケズリである。

144・145は器台の口縁部と脚部である。146は台付鉢の脚部である。147・148は鉢である。

149・150・153～163は主柱穴跡出土の土器である。SPc84からは153・158・160・163、SPc85からは150・155・157・159、SPc86からは149・156、SPc90からは154、SPc491からは161・162の土器が出土した。これらの中で、153・155は香東川下流域産の土器と考えられる。

164はサヌカイト製の石鏃である。165は両端部を欠く、サヌカイト製の打製石庖丁である。166は砂岩の砥石である。

SHc08 (第27・28図)

IV区中央北寄りの第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc07・10・12・16・19、SKc05等が隣接し、この住居跡はSHc10に壊されている。

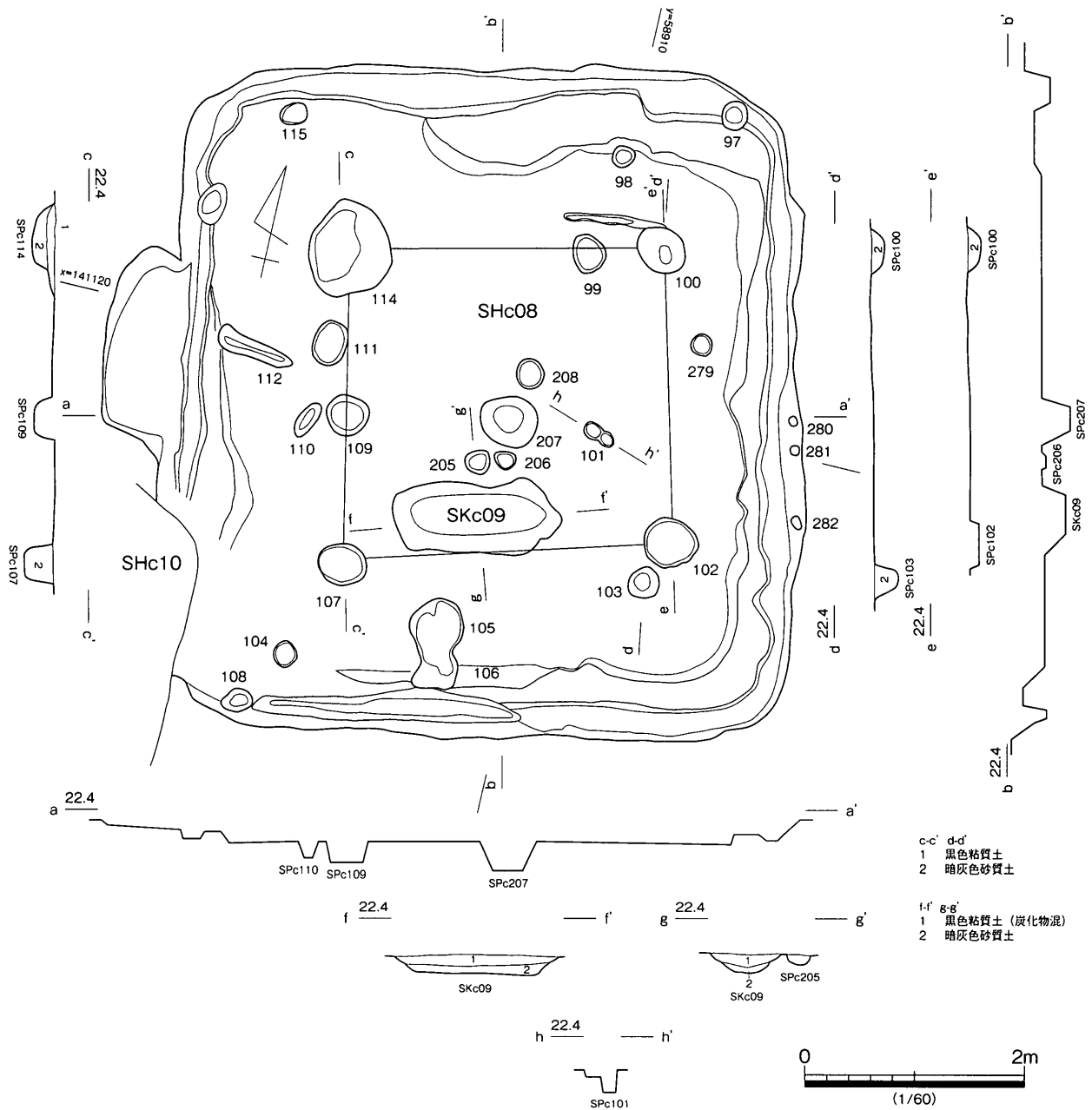
平面形は隅丸方形状を呈し、西辺部中央には不整形な突出部を備える。長径6.0m、短径5.7m、深さ0.2mを測る。なお、北西や南西辺で一部途切れるが、幅の狭いベッド状の遺構が配されている。床面上では壁溝、主柱穴跡4基、中央土坑1基を検出した。

壁溝は全周し、幅0.2～0.4m、深さ約0.1～0.2mを測る。

ベッド状遺構は先述したような検出状況で、幅0.2～0.5m、高さ0.1～0.2mを測る。

主柱穴跡はSPc100・102・107・114の4基を確認した。円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺3.0m、短辺2.7mを測り、柱穴跡の直径は平均して約0.4mを測るが、SPc114のみ0.9mを測る。深さは0.1～0.3mを測る。SPc114が他に比べ大型なのは、おそらく抜き取りによるものと考えられる。

中央土坑SKc09は床面の南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈す



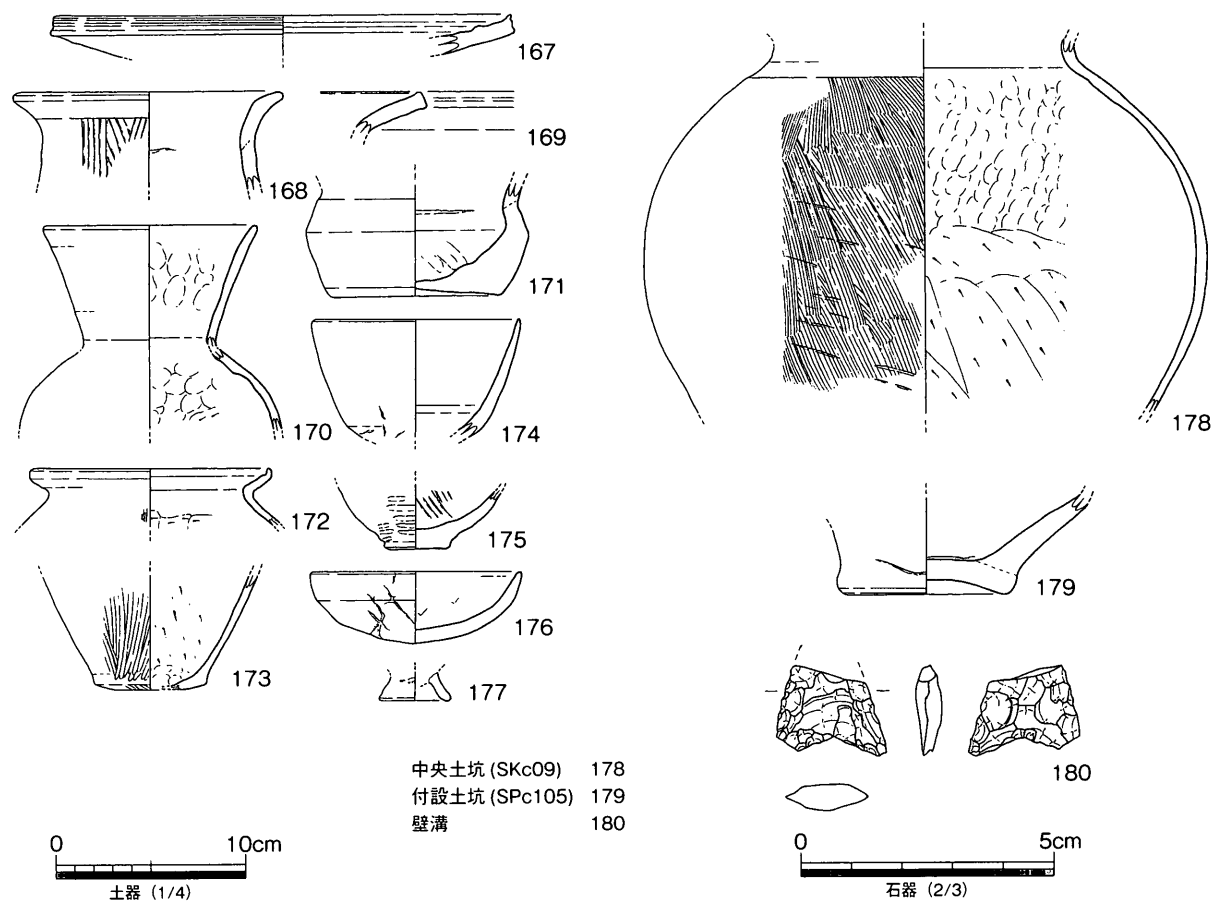
第 27 図 SHc08 平・断面図

る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は上下 2 層に分かれ、上層は炭化物を含んだ黒色粘質土、下層は暗灰色砂質土である。長径 1.5 m、短径 0.6 m、深さ約 0.2 m を測る。

なお、床面中央の SPc205・207 等や南半部の SPc105・106 は住居跡に係わる遺構の可能性が高い。

SHc08 からは弥生時代後期後半～終末期に当る、167～180 の弥生土器と石器が出土した。

167～170 は壺である。167 は香東川下流域産の壺の口縁部である。168 は長頸壺の口頸部である。頸部は垂直気味で、口縁部は逆ハの字状に開き、端部は丸い。170 は細頸壺の上半部である。口頸部はくの字状に伸び、端部は丸く仕上げている。体部は球体気味である。172・173・178 は甕である。173 は甕の底部である。底部は平底で、外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリが顕著である。この土器は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。178 は中央土坑 SKc09 から出土した甕の体部



第 28 図 SHc08 出土遺物

である。174～176は鉢である。177は脚台付き製塩土器の脚部である。179はSPc105から出土した、縄文土器の深鉢底部である。この遺跡では縄文土器の資料は少なく、希少な資料である。

180は上半部を欠く、サヌカイト製石鏃である。

SHc09 (第 29 図)

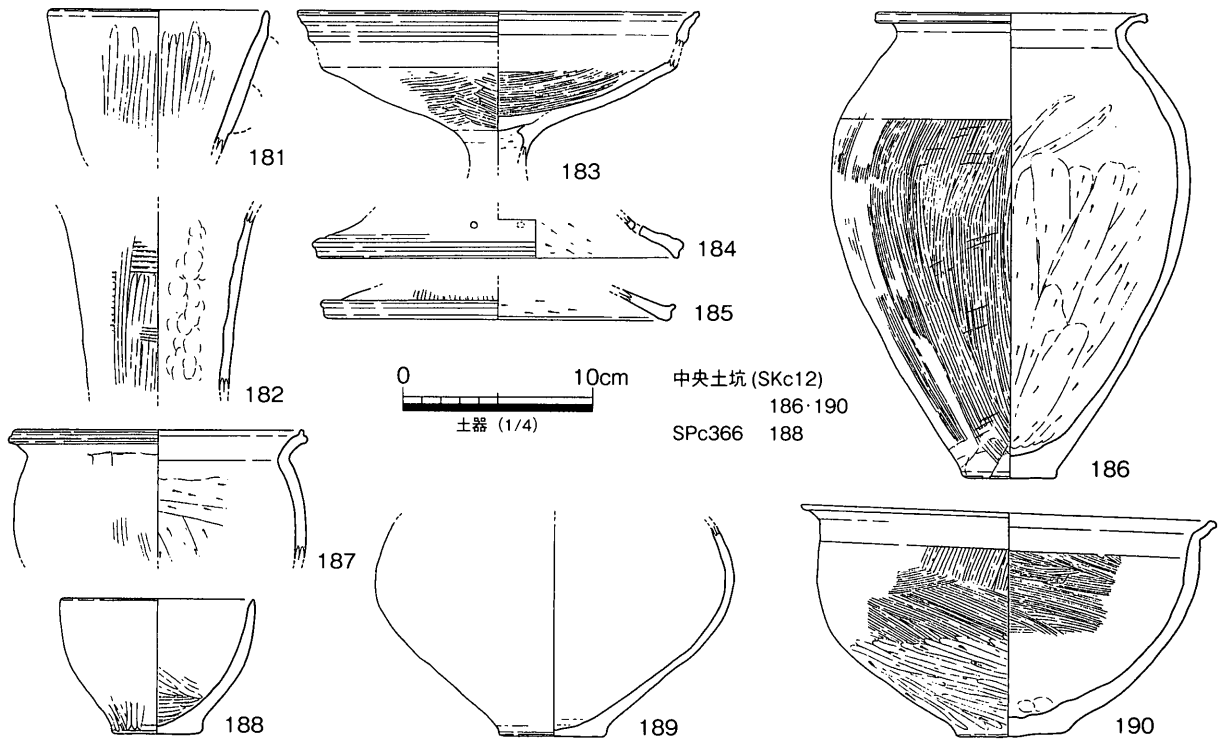
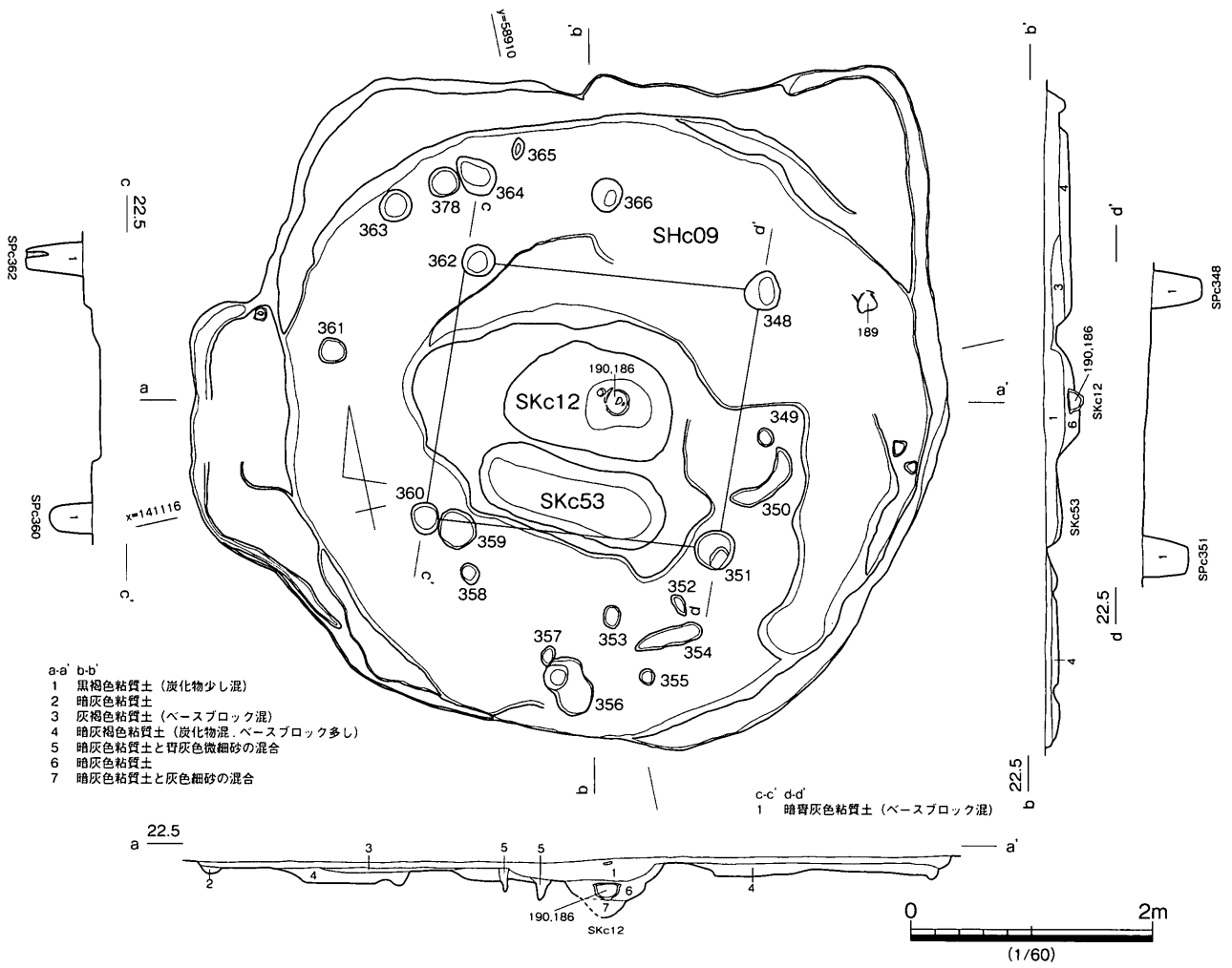
IV区中央南寄りの第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc10・11・12・19、SKc05等が隣接する。

平面形は不明瞭で、北辺が他辺に比べ長い不整形を呈するが、床面の形状から、直径約6.2mの円形住居跡が先に建てられ、後に多角形住居に建て替えられたものと考えられる。なお、西辺には六角形住居に伴う不整形な台形状の張出部を備えている。張出部を含めて長径6.3m、短径5.3m、深さ0.1～0.2mを測る。床面上では壁溝、主柱穴跡4基、中央土坑2基を検出した。

壁溝は東辺と張出部で検出したが、土層断面から、南辺を除きほぼ全周しているものと考えられる。幅約0.2m、深さ約0.1～0.2mを測る。

主柱穴跡はSPc348・351・360・362の4基を確認した。円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺2.5m、短辺2.1mを測る。柱穴跡の直径は平均して0.25～0.3m、深さは0.3～0.45mを測る。SPc362には柱材の基部が残存していた。埋土はベースブロックを含んだ暗青灰色の粘質土である。

中央土坑SKc12・53は床面の南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を



第29図 SHc09 平・断面図、出土遺物

呈する。形状より SKc12 は中央炉で、SKc53 は灰や炭を溜める付属の土坑と考えられる。なお、中央土坑の周囲には高さ 0.1 m、幅 0.1～0.8 m の不整形な土堤状の高まりがあり、炉に伴う遺構と考えられる。

SKc12 の断面は不整形な播鉢状を呈し、埋土は 3 層に分かれ、上層は住居跡の全域に堆積している炭化物を含んだ黒褐色粘質土、中下層は暗灰色系の粘質土である。長径 1.4 m、短径 0.85 m、深さ約 0.45 m を測る。SKc53 は SKc12 の南に配され、平面は東西方向の中心軸をもつ長楕円形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、長径 1.6 m、短径 0.5 m、深さ約 0.15 m を測る。

SHc09 からは弥生時代後期前半に当る、181～190 の弥生土器が出土した。

181 は取っ手と底部を欠く、ジョッキ形土器である。182 は細頸壺の頸部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。183～185 は高杯である。183 は脚部を欠く高杯である。体部から屈曲して外上方に直線状に伸び、口縁端部は尖り気味に仕上げている。体部内外面ともにヘラミガキを施している。この土器は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。184・185 は脚部端部で、184 は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。186・190 は SKc12 から出土した甕と鉢である。186 の口縁部は逆ハの字状に開き、端部は平坦に仕上げている。体部は長胴気味で底部は平底を呈する。体部外面はタタキ後ハケ、内面はヘラケズリを顕著に施している。189 は床面から出土した壺、188 は SPc366 から出土した鉢である。

SHc10 (第 30・31 図)

IV 区中央の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺には SHc08・11・14・16・19、SKc23 等が隣接し、この住居跡は SHc08 を掘り込んでいる。

西辺がやや膨らんだ隅丸方形の平面形を呈し、長径 6.0 m、短径 5.4 m、深さ 0.3 m を測る。床面上では壁溝、支柱穴跡 4 基、中央土坑 1 基を検出した。なお、不明瞭な点もあるが、南辺を除く三辺に、ベッド状の遺構を検出した。埋土は数層に分かれ、貼床層として捉えられるのが 4・5 層に当り、ベッド状遺構を形成するのは 8 層に当る。

壁溝は平面では検出できていないが、土層断面図では少なくとも東辺と西辺で確認できる。幅 0.1～0.2 m、深さ約 0.1 m を測る。

ベッド状遺構は残りが悪く、土層断面図から、先述したように南辺を除く三辺で検出した。幅 0.95～1.2 m、高さ 0.1 m を測る。

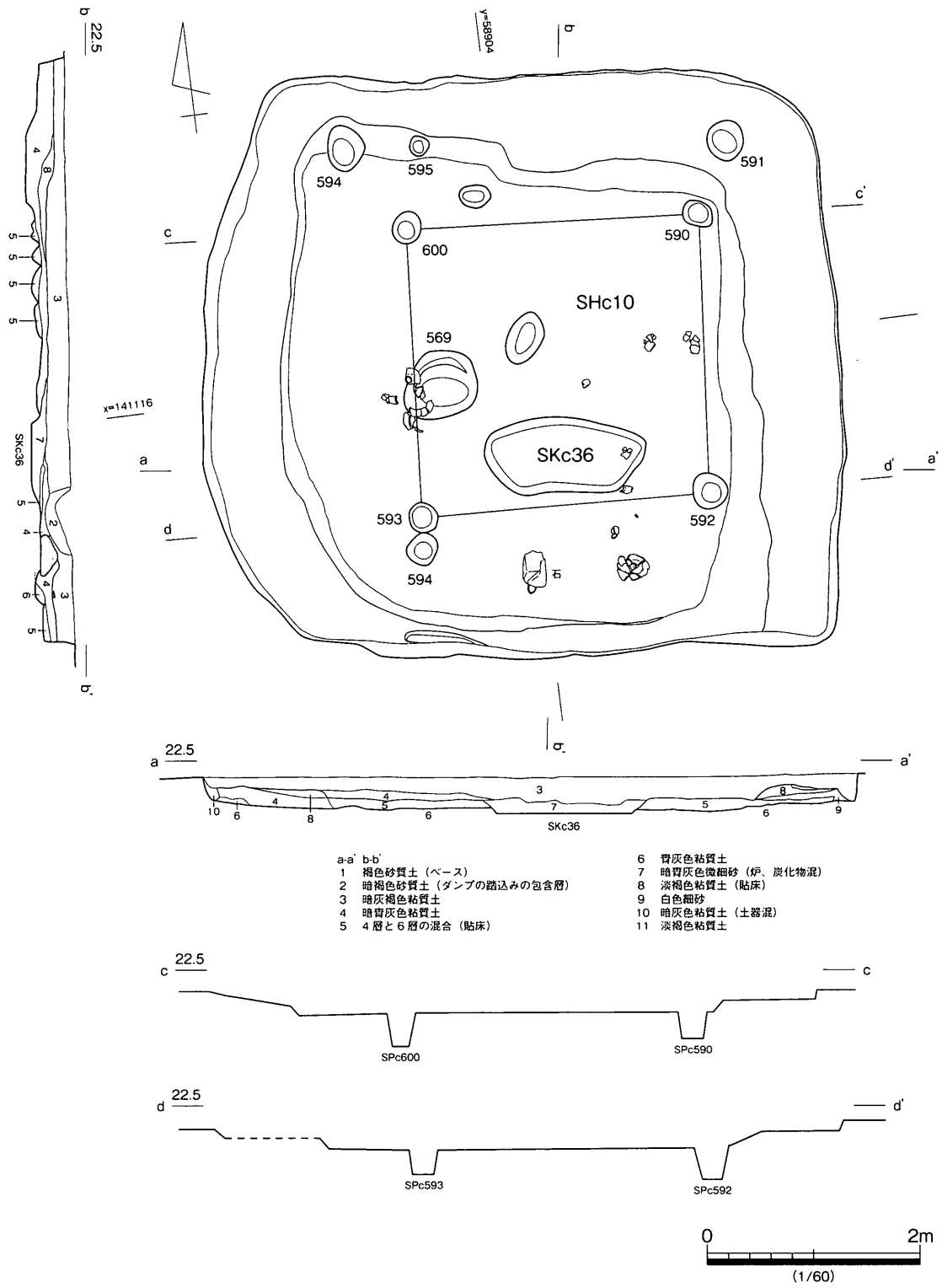
支柱穴跡は SPc590・592・593・600 の 4 基を確認した。円形ないし不整形な楕円形を呈し、柱間は長辺 2.7 m、短辺 2.6 m を測り、柱穴跡の直径は約 0.35 m、深さ 0.2～0.3 m を測る。

中央土坑 SKc36 は床面の南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、埋土は炭化物を含んだ暗青灰色微細砂である。長径 1.5 m、短径 0.7 m、深さ約 0.1 m を測る。

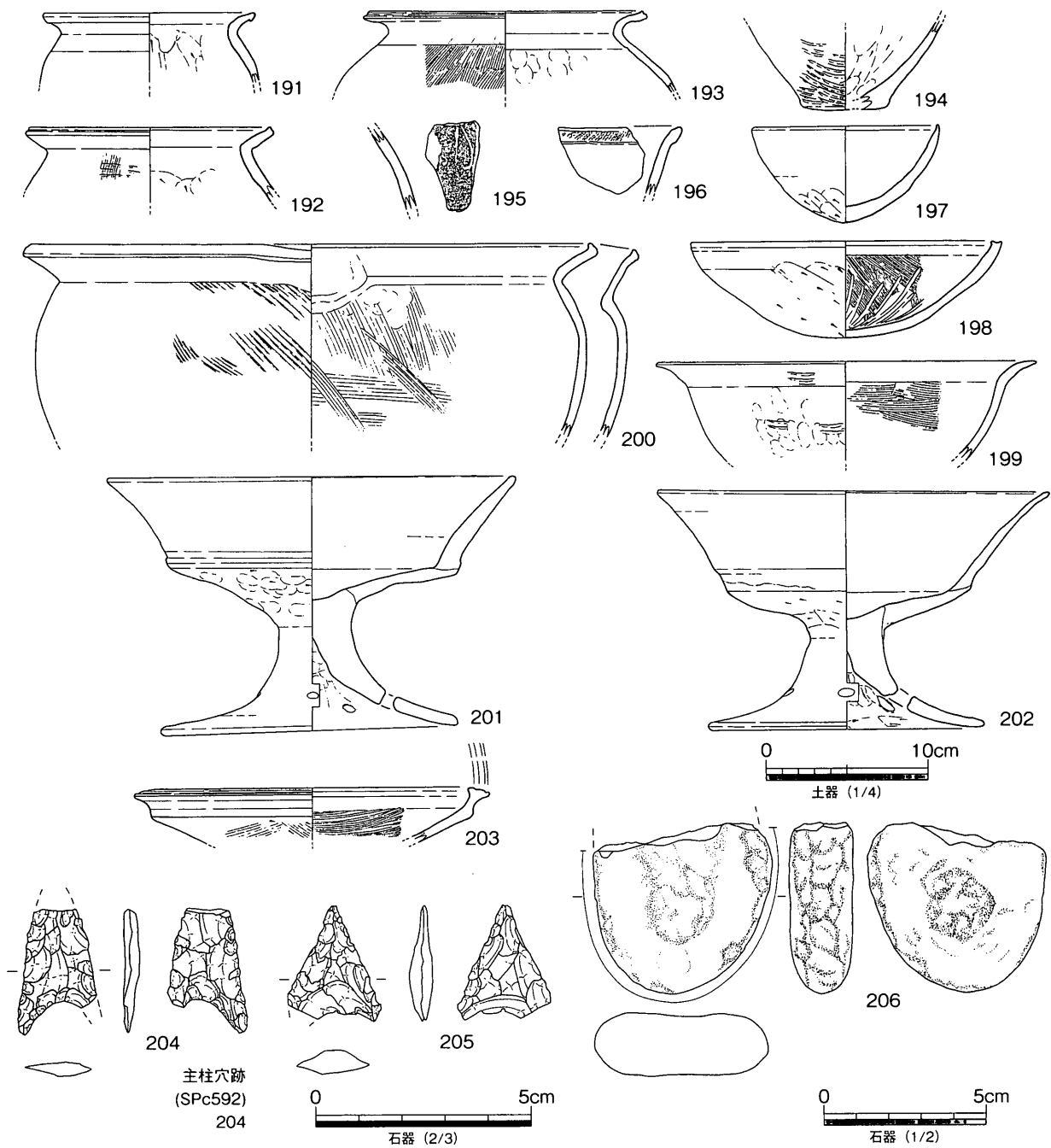
なお、南辺中央部には、貼床層 4 層から頭を出した 20×30cm の石を検出した。おそらくこの石に木製の階段を据えて、出入口として使用していたものと考えられる。

SHc10 からは弥生時代後期前半古相、後期後半～古墳時代前期初頭に当る、191～206 の弥生土器、古式土師器と石器が出土した。

191～194 は甕である。193 は甕の上半部で、胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。195 は記号文を施した壺の体部片である。196 は縄文土器の深鉢の口縁部で混入品である。縄文土器



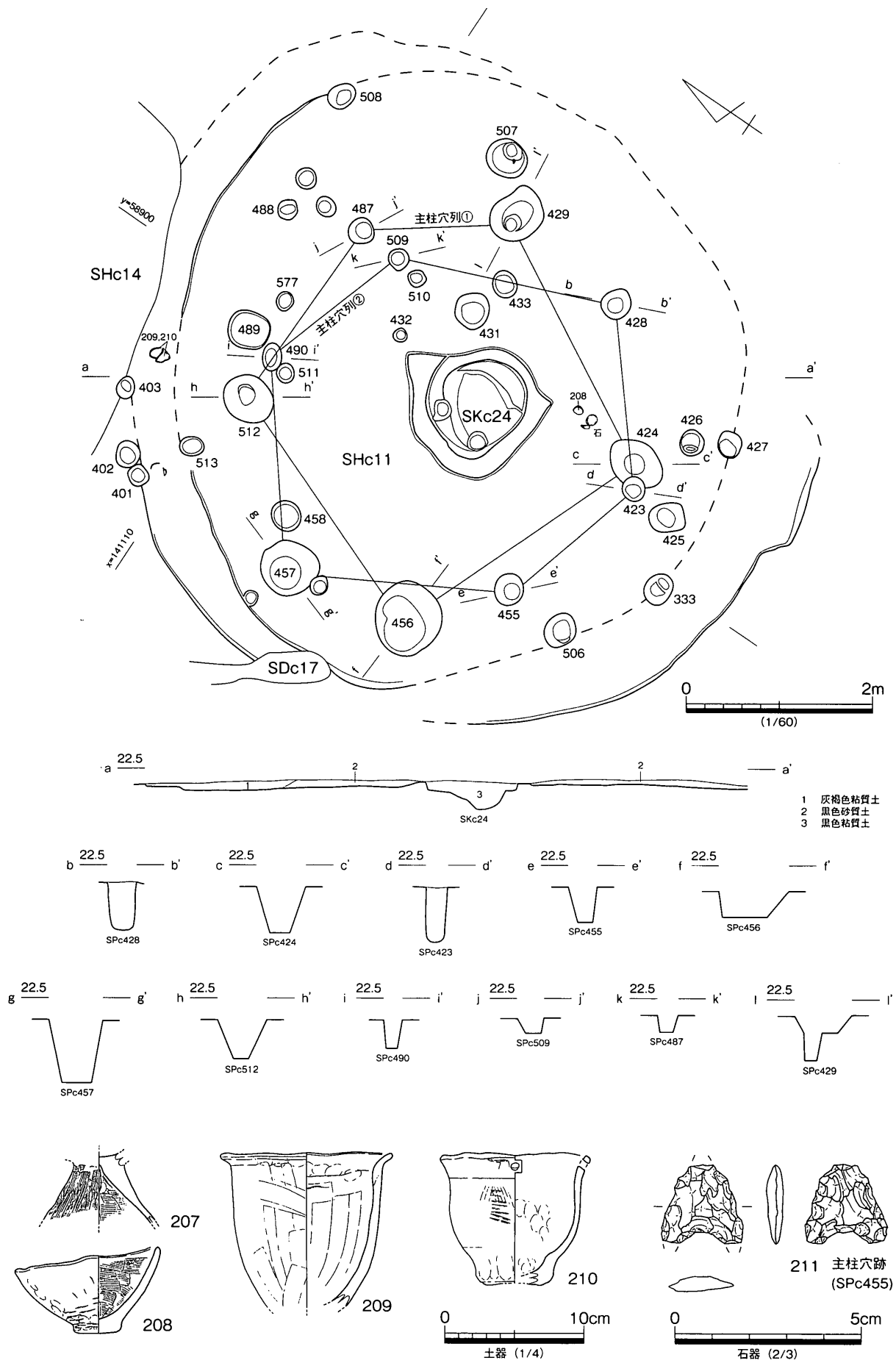
第30図 SHc10平・断面図



第31図 SHc10 出土遺物

の資料は少なく、希少な資料である。197～200は鉢、201～203は高杯、201・202は古式土師器の高杯である。口縁部は逆ハの字状に外反し、端部は尖り気味に丸く仕上げている。脚部はハの字状に外反し、端部は丸く仕上げている。

204・205はサヌカイト製の石鏃である。206は砂岩製の凹石である。周囲には敲打痕があることから、敲石としても使用されていた可能性がある。



第 32 図 SHc11 平・断面図、出土遺物

SHc11 (第 32 図)

IV区中央南寄りの第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc09・10・14、SKc25が隣接し、住居跡の北辺でSHc14に掘り込まれている。

保存状態が悪く平面形は不明瞭であるが、検出状況から建て替えによるものか、2基の住居跡が同じ位置で重複しているものと考えられる。平面形は円形状を呈し、内側と外側で二つの掘り方を部分的に確認した。比較的明瞭なのが内側の住居跡で、直径は約6.2m、深さ0.1mを測る。外側の住居跡は一回り大きく、推定される直径は約7.0mを測る。床面上では建て替えによるものか、二組の主柱穴跡列が確認できる。これを、仮に主柱穴跡列①と主柱穴跡列②に区分する。埋土は2層に分かれるが黒色砂質土が主体を占め、貼床層と考えられる。

主柱穴跡列①に含まれる柱穴跡は、直径4.2mの円内に五角形状に配された、SPc424・429・456・487・512である。平面形は円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺3.0m、短辺1.5m、径0.25～0.75m、深さ0.2～0.5mを測り、かなり不揃いである。特にSPc487は小型の柱穴跡で、補助的な柱の可能性はある。

主柱穴跡列②に含まれる柱穴跡は、直径約4.1mの円内に六角形状に配された、SPc423・428・455・457・490・509である。平面形は円形を呈し、柱間は長辺2.4m、短辺1.7m、直径0.25～0.6m、深さ0.15～0.65mを測り、かなり不揃いである。主柱穴跡列の前後関係については、柱穴跡の重複関係から、主柱穴跡列①が先行する。

中央土坑SKc23は床面の中央に位置する。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は二段掘り方の深鉢状を呈する。埋土は黒色粘質土である。長径1.1m、短径1.0m、深さ約0.3mを測る。なお、この土坑の外周には、炉に伴う幅0.15～0.5mの土堤状の高まりを検出した。

SHc11からは弥生時代後期後半頃に当る、207～211の弥生土器と石器が出土した。207は高杯の脚部である。208・210は鉢、209は粗製で小型の甕である。211はサヌカイト製の石鏃である。

SHc12 (第 33 図)

IV区中央、V区との境界上の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc08・13・16・18等が隣接し、SHc13とは重複すると考えられるが、前後関係は不明である。

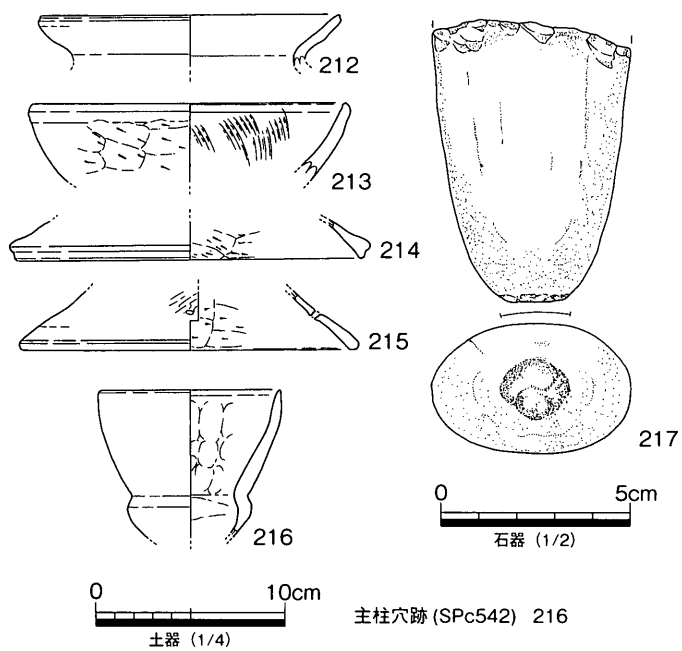
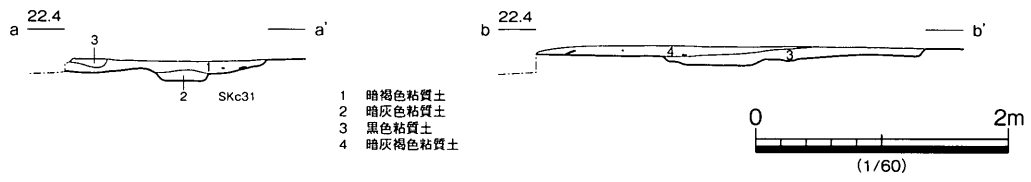
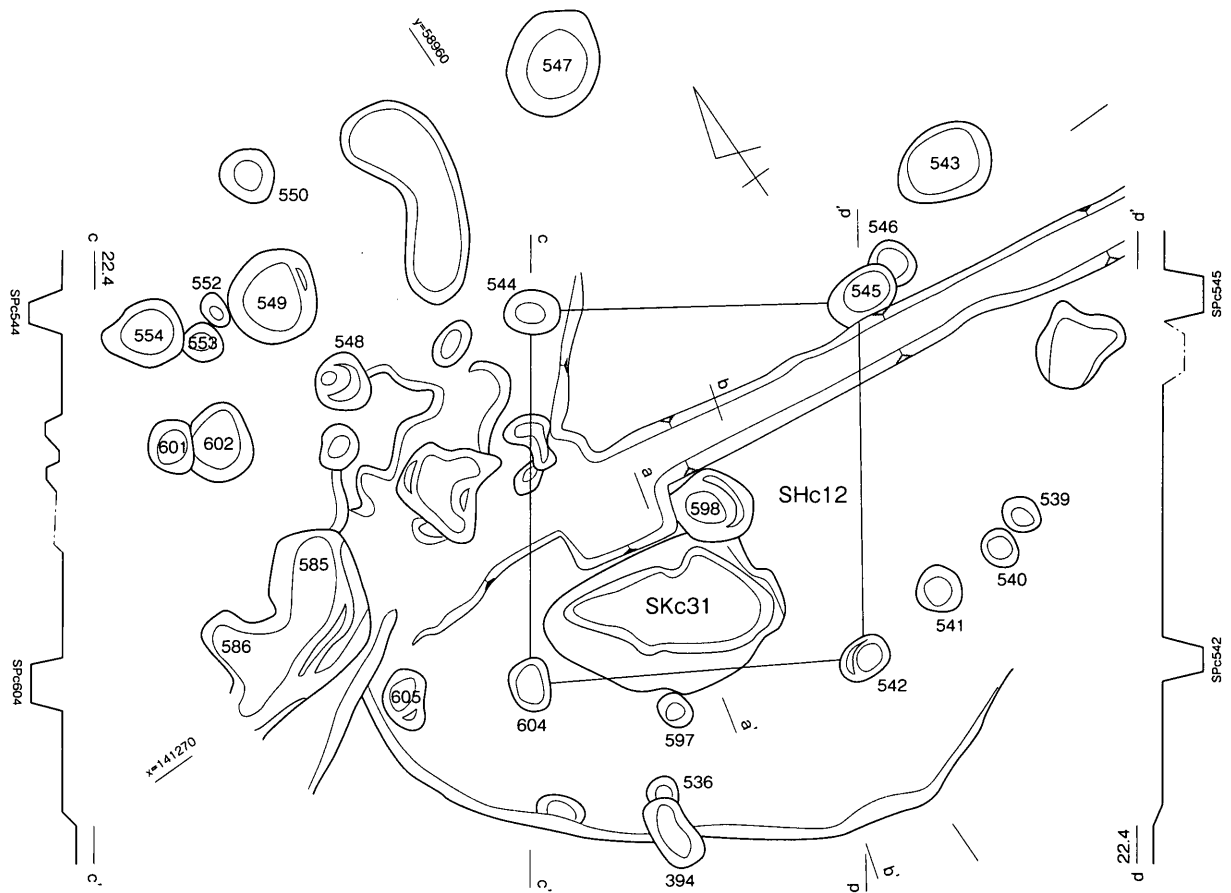
残りが悪く、南辺と東辺の一部が残っている程度で、全体の形状は不明瞭であるが、主柱穴跡や中央土坑の配置から、隅丸方形形状を呈する可能性が高い。長径5.1m以上、短径4.1m以上、深さ0.1mを測る。床面上では主柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。

主柱穴跡はSPc542・544・545・604の4基を確認した。楕円形状を呈し、柱間は長辺2.9m、短辺2.6mを測り、柱穴跡の直径は0.4～0.5m、深さ約0.3mを測る。

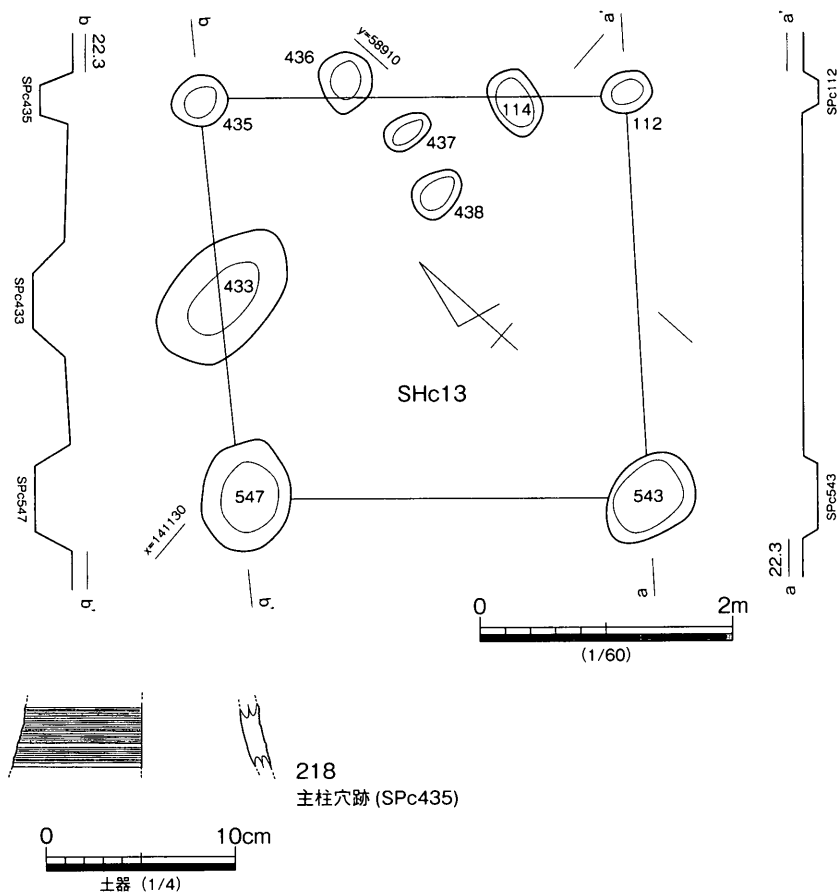
中央土坑SKc31は床面の南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈する。断面は二段掘り方の浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層が暗褐色系の粘質土、下層が黒色の粘質土である。長径1.9m、短径1.2m、深さ約0.15mを測る。

なお、SPc598は床面中央に位置し、主柱穴跡程度の規模を示すことから、住居跡に係わる柱穴跡の可能性が高い。

SHc12からは弥生時代終末期～古墳時代初頭に当る、212～217の弥生土器、古式土師器と石器が



第33図 SHc12平・断面図、出土遺物



第 34 図 SHc13 平・断面図、出土遺物

出土した。

212は古式土師器の甕の口縁部である。213は鉢、214・215は高杯の脚部である。214は胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。215は古式土師器の高杯脚部である。216はSPc542から出土した、底部を欠く小型丸底壺である。この土器は、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。

217は砂岩製の敲石で、下端部に敲打痕を顕著に残している。

SHc13 (第 34 図)

V区中央、IV区との境界近くの第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺にはSHc12・18等が隣接し、SHc12とは重複すると考えられるが、前後関係は不明である。

残りが悪く、支柱穴跡が残っている程度で、全体の形状は不明である。直径は3.7m以上で、埋土は残っていない。床面上では支柱穴跡4基を検出した。

支柱穴跡はSPc112・435・543・547の4基を確認した。円形ないし不整円形状を呈し、柱間は長辺2.8m、短辺2.6mを測り、柱穴跡の直径は0.3～0.7m、深さ0.1～0.3mを測る。

SHc13の遺物は少なく、図化できるものとしては、支柱穴跡SPc435から出土した、弥生時代中期前半頃に当る、218の壺の頸部片のみである。

SHc14 (第 35 ~ 37 図)

IV区中央西寄りの第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺には SHc10・11・15・16等が隣接し、SHc11を僅かに掘り込んでいる。

平面形は隅丸五角形状を呈する。長径7.1 m、短径6.8 m、深さ0.15 mを測る。埋土は数層に分かれるが、その中で5・6層が貼床に相当するものと考えられる。床面上では壁溝、側板痕、主柱穴跡5基、中央土坑2基を検出した。

壁溝は南半部の3辺で検出したが、全周していた可能性が高い。幅0.2～0.4 m、深さ約0.1 mを測る。

側板痕は南辺、北西辺を除く三辺の主柱穴跡間を繋ぐように僅かに残っていた。幅0.1 m、深さは1～2 cmである。

主柱穴跡は SPc460・463・467・469・492の5基を確認した。不整円形を呈し、柱間は長辺3.0 m、短辺2.0 mを測る。柱穴跡の直径は0.5～0.6 m、深さは約0.3 mを測る。

中央土坑 SKc26は床面のほぼ中央に位置し、平面は不整円形状を呈する。断面は逆台形状を呈し、長径0.7 m、短径0.5 m、深さ約0.3 mを測る。中央土坑 SKc30はSKc26の南に隣接し、東西方向の中心軸をもつ長楕円形状を呈する。断面は極浅い皿状を呈し、埋土中に黒色炭化物を顕著に含む。形状よりSKc26は中央炉で、SKc30は灰や炭を溜める付属の土坑と考えられる。なお、この2基の中央土坑の周囲には、高さ0.1 m、幅0.15～0.3 mの不整形な土堤状の高まりを検出した。

なお、SPc492と南辺の壁溝の間には、西に向かって湾曲気味に延びる幅の狭い排水溝を検出した。

SHc14からは弥生時代後期後半頃に当る、219～246の弥生土器と石器が出土した。これらの中で230・231・232・233・245・246はSKc26、238はSPc460、235はSPc463、236・244はSPc467から出土している。

219～223・230・231は広口壺である。222は広口壺の頸部で、外面には赤色顔料が付着している。234は壺の体部片で、焼成破裂土器である。224～229・235・236は甕である。226の口縁部は逆くの字状に短く屈曲し、端部は窪む。肩部は直線気味に下がり下半部へ続く。形状及び胎土からこの土器は、香東川下流域産の土器と考えられる。227は甕の底部である。この土器も胎土等から、香東川下流域産の土器と考えられる。232・233・237・238は鉢である。232は焼成破裂土器の鉢の上半部である。

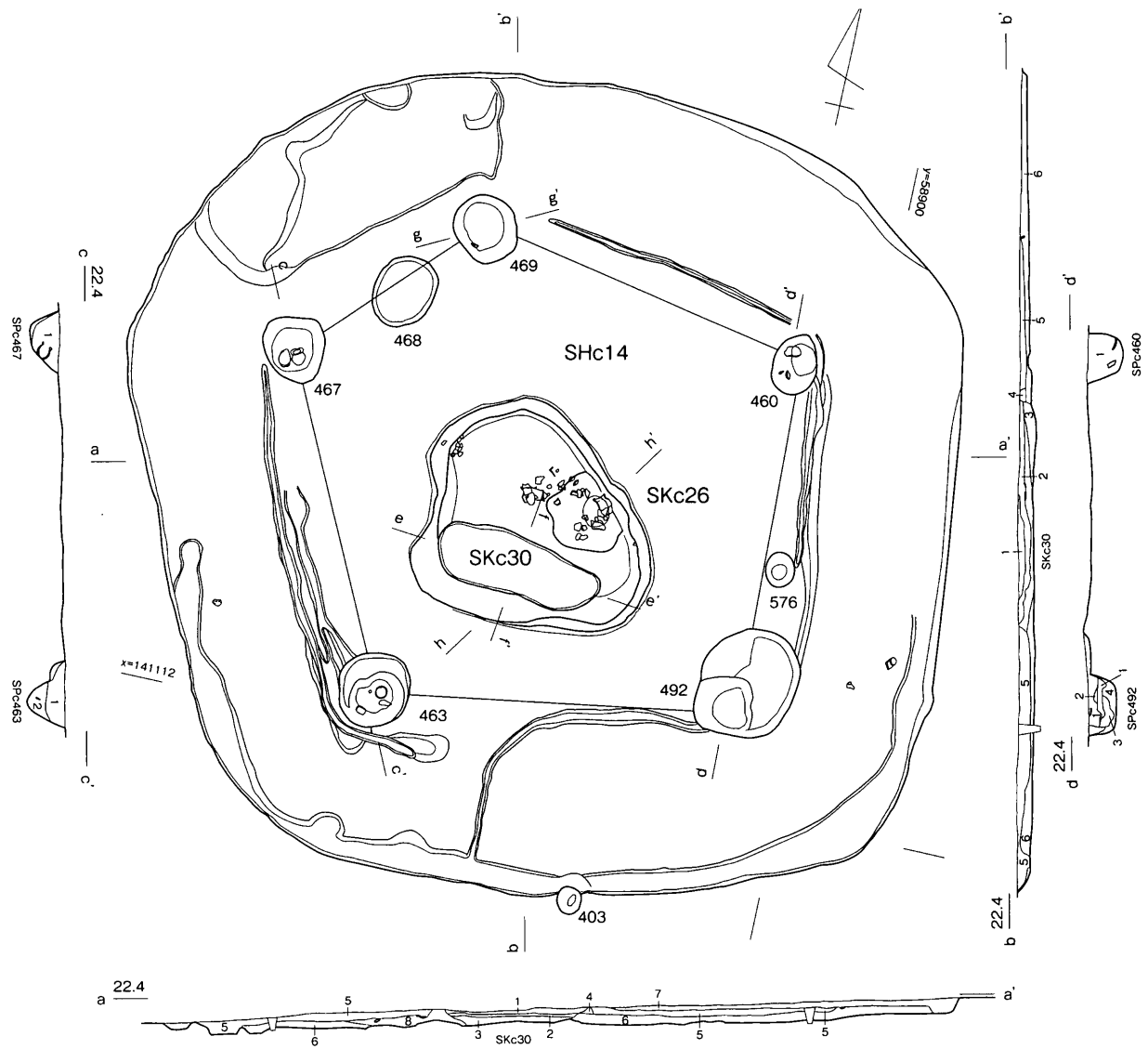
239・240はサヌカイト製の石鏃である。241はサヌカイト製の石鏃を転用した楔形石器である。244はサヌカイト製の槍先形石器の先端部である。この遺跡では槍先形石器の出土例が少なく、希少な資料である。242は結晶片岩製の柱状片刃石斧の上半部である。243・245・246は砥石である。

SHc15 (第 38 図)

IV区西半部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺には SHc14・16・17が隣接する。西辺は調査区より外れているため、全体の約2/3を検出した。

平面形は円形を呈し、直径は約5.2 m、深さ約0.05 mを測る。床面上では壁溝、主柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。

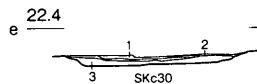
壁溝は一部未検出であるが、土層断面図から全周していた可能性が高い。幅0.2～0.3 m、深さ0.05～0.15 mを測る。



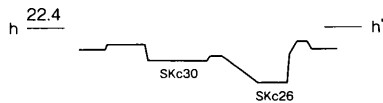
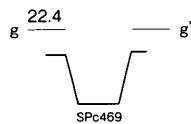
c-c'
 1 暗灰色粘質土
 2 暗灰色粘質土と青灰色微細砂の混合

a-a' b-b'
 1 黒色炭化物
 2 暗灰色粘質土と白色微細砂の混合
 3 暗灰色粘質土と白色微細砂の混合 (2層より暗灰色粘質土多し)
 4 黒色粘質土
 5 暗灰褐色粘質土
 6 暗灰色粘質土と青灰色微細砂の混合 (貼り床)
 7 暗灰色粘質土
 8 暗灰色粘質土 (貼り床)

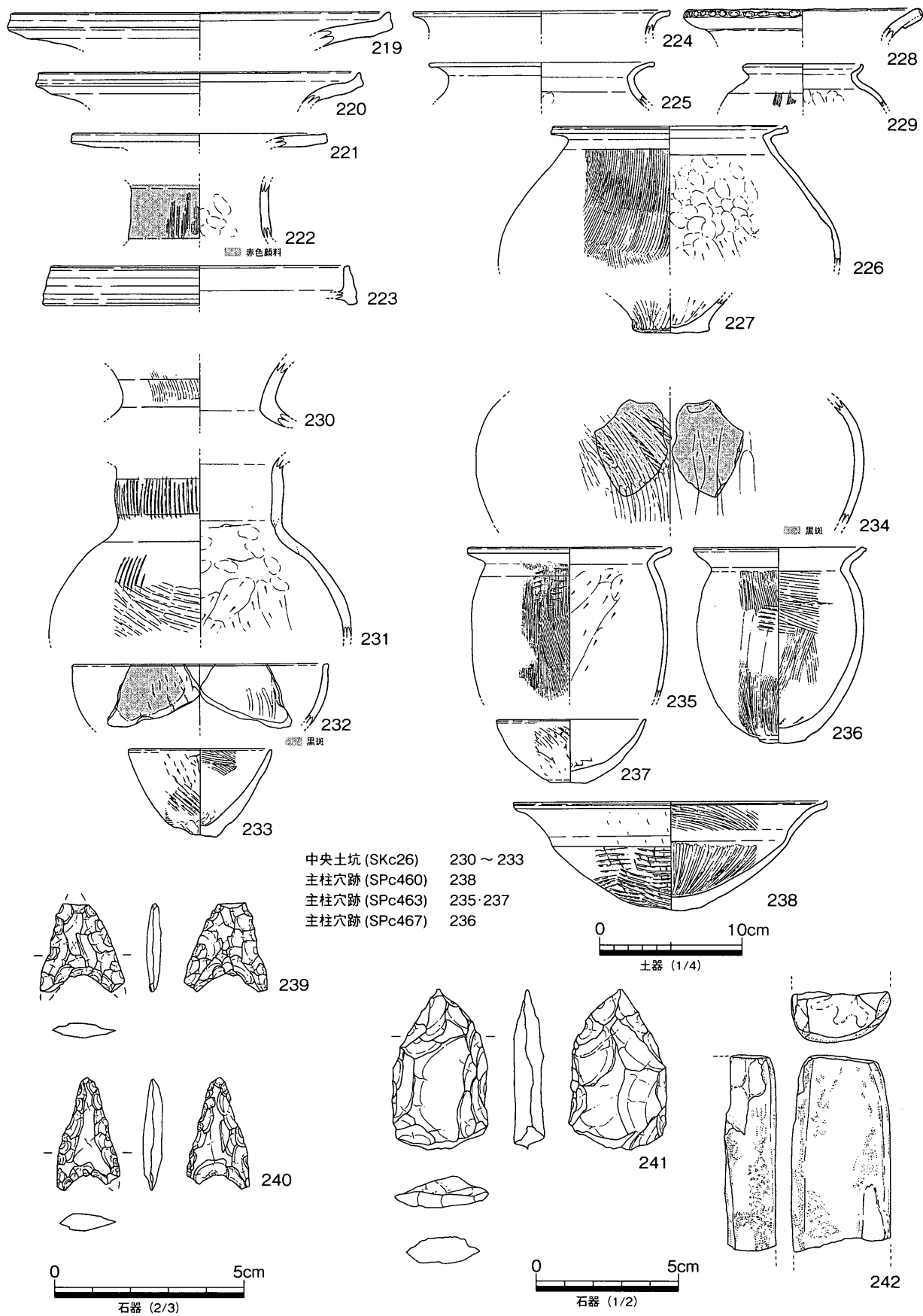
d-d'
 1 暗灰色粘質土
 2 灰色細砂
 3 1層と青灰色微細砂の混合
 4 青灰色微細砂



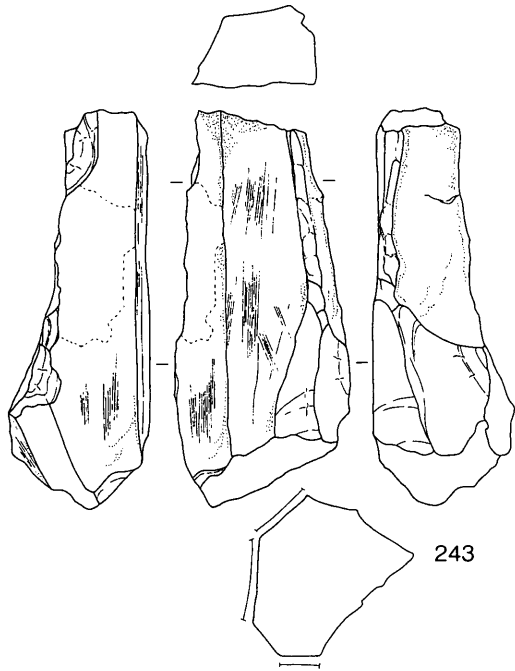
e-e' f-f'
 1 暗灰色粘質土
 2 黒色炭化物
 3 暗灰色微細砂



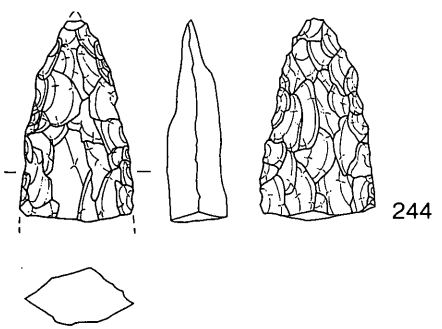
第 35 図 SHc14 平・断面図



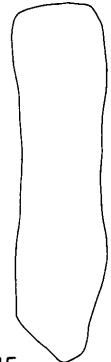
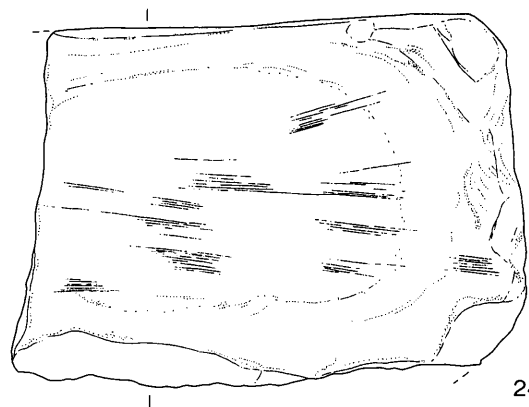
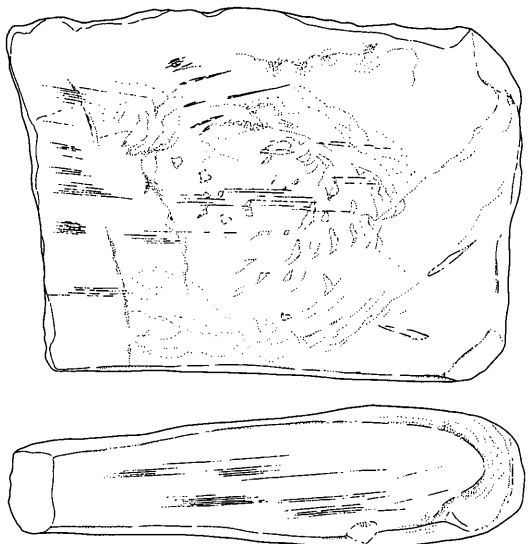
第 36 図 SHc14 出土遺物 (1)



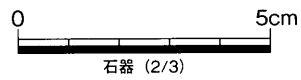
243



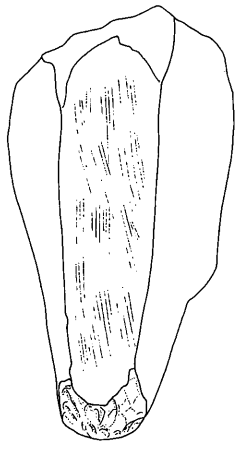
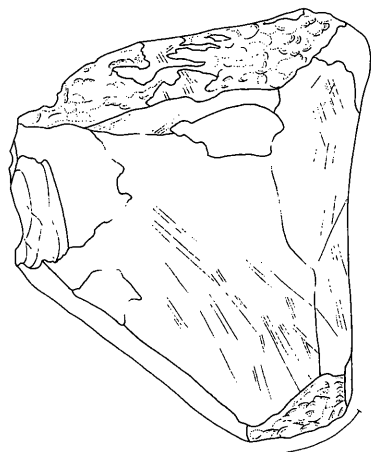
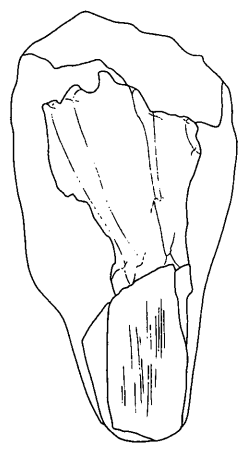
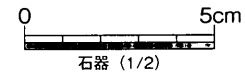
244



245

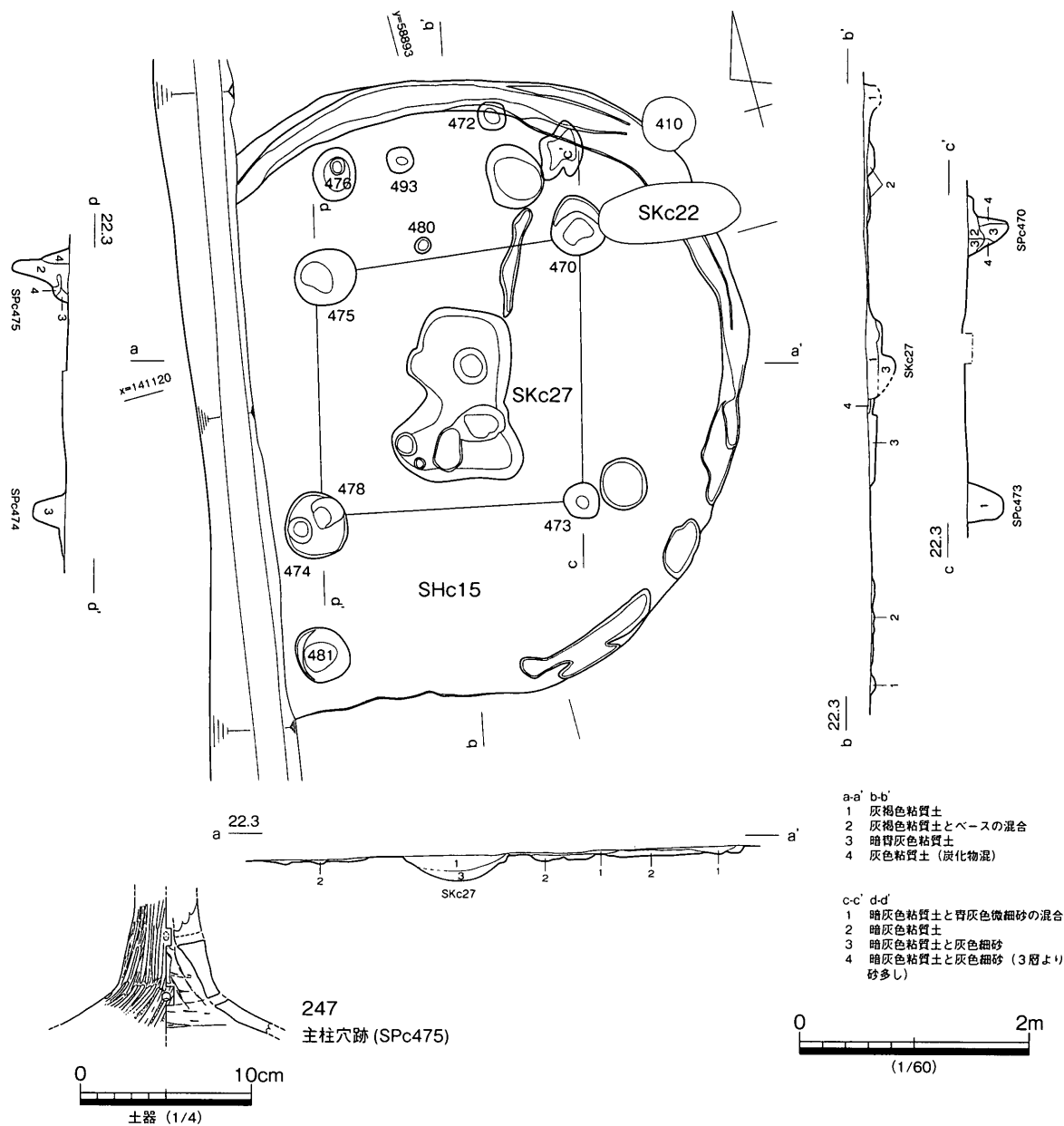


中央土坑 (SKc26) 245·246
柱柱穴跡 (SPc467) 244



246

第 37 図 SHc14 出土遺物 (2)



第 38 図 SHc15 平・断面図、出土遺物

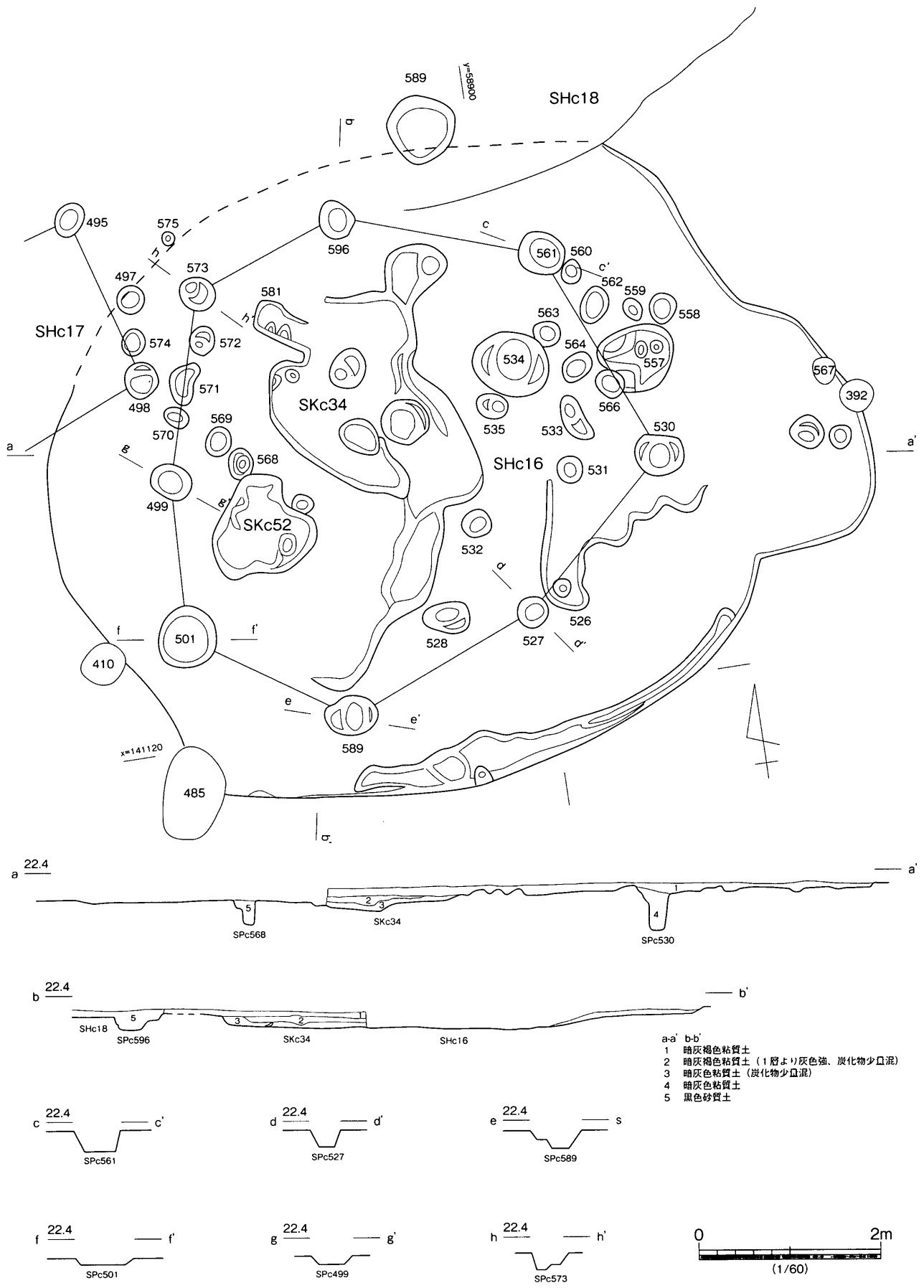
支柱穴跡は SPc470・473・475・478 の 4 基を確認した。平面形は円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺 2.3 m、短辺 2.0 m を測り、柱穴跡の直径は 0.3 ~ 0.55 m、深さ 0.3 ~ 0.5 m を測る。

中央土坑 SKc27 は床面の中央に位置する。平面は南北方向に向き、中央が窪む不整形な楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈し、中央が深さ 0.1 m ほど窪んでいる。埋土は上下 2 層に分かれ、上層は灰褐色粘質土、下層は暗青灰色粘質土を呈する。

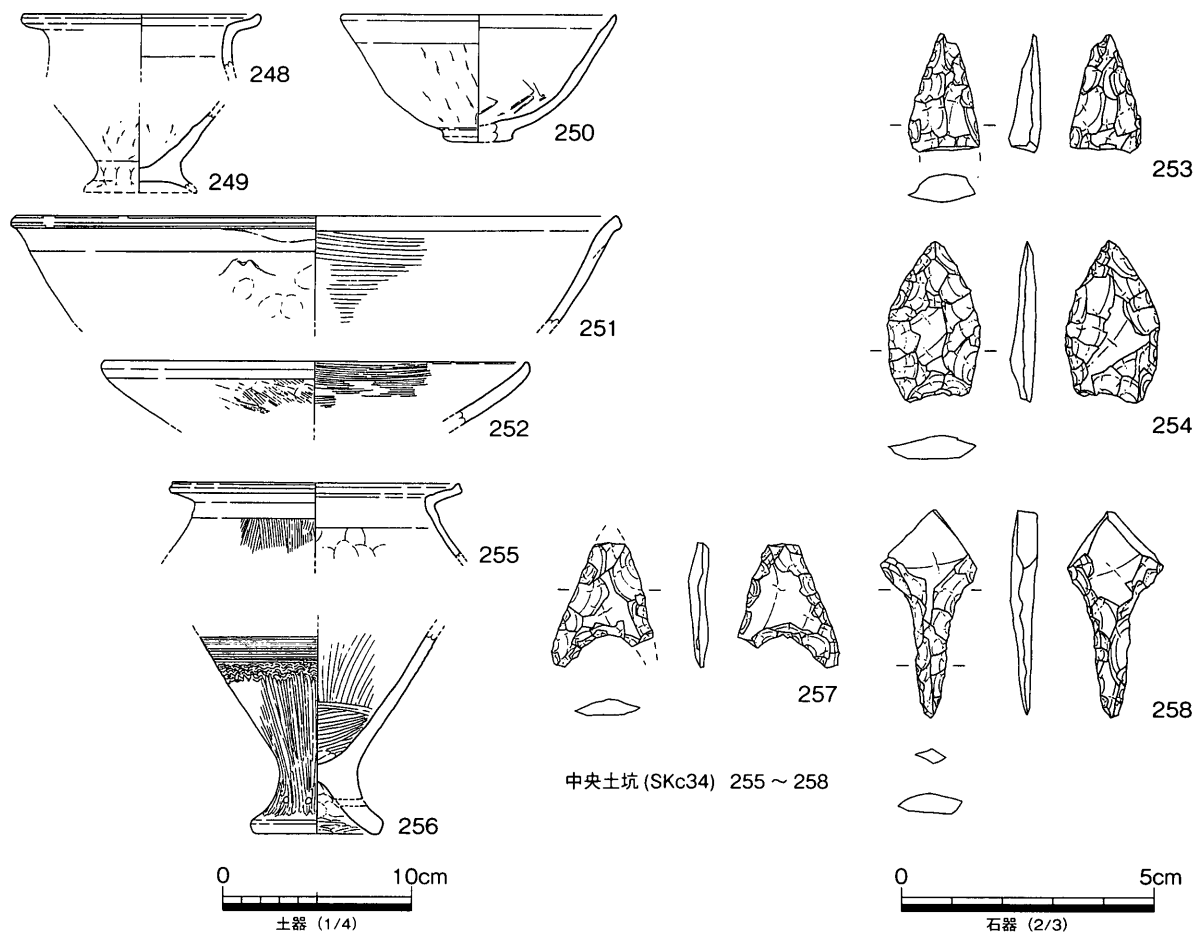
SHc15 の遺物は少なく、図化できるものとしては、支柱穴跡 SPc475 から出土した、弥生時代後期中頃に当る、247 の高杯脚部片のみである。

SHc16 (第 39・40 図)

IV 区西半部の北寄りの第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。この住居跡の周辺には SHc08・



第 39 図 SHc16 平・断面図



第40図 SHc16 出土遺物

10・12・14・15・17、SKc28が隣接し、住居跡の北西辺でSHc17と重複するが、前後関係については不明瞭である。

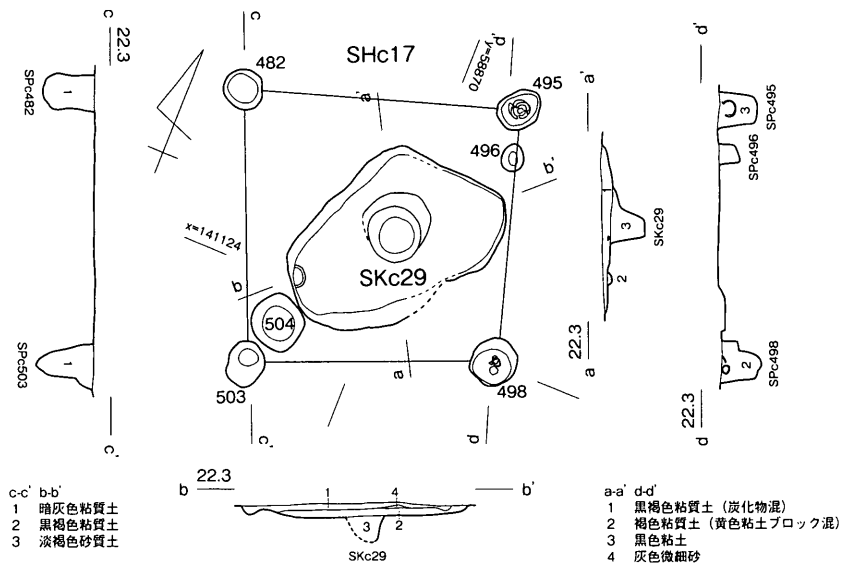
削平を受け残りが悪く、北半部の形状が不明瞭である。形状から2棟の住居跡が重複している可能性を残す大型の住居跡である。平面形は楕円形に近い円形状を呈する。東辺には不整形な張出が付く。張出を含めた長径は約9.2m、短径は7.0m、深さ0.1～0.2mを測る。床面上では壁溝、支柱穴跡8基、中央土坑1基を検出した。埋土は暗灰褐色粘質土が主体を占める。

壁溝は南辺の一部で検出した。東半部がかなり幅が広く、抜き取りが行われた可能性がある。幅0.2～0.5、深さ0.1mを測る。

支柱穴跡は約5.6mの円内にSPc499・501・527・530・561・573・589・596の8基を確認した。平面形は円形ないし不整円形を呈し、柱間は長辺2.5m、短辺1.8m、柱穴跡の直径は0.35～0.65m、深さは0.1～0.2mを測り、かなり不揃いである。

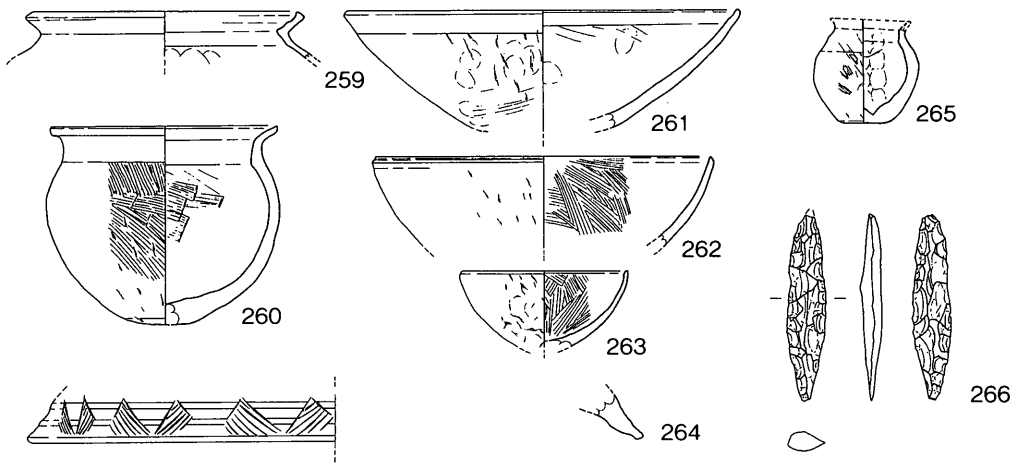
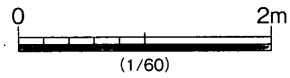
中央土坑SKc34は床面の中央に位置する。平面は不整形で、範囲が不明瞭である。断面は浅い皿状を呈する。埋土は暗灰褐色系粘質土で、炭化物を含む。長径約3.0m、短径約1.5m、深さ約0.3mを測る。張出部は隅丸の不整形な台形状を呈し、上辺幅2.4m、下辺幅2.8m、高さ1.3m、深さ0.05mを測る。なお、床面上のSKc52は中央土坑の可能性を有し、SKc34以前の炉跡の可能性が高い。

SHc16からは弥生時代中期中葉、後期後半～終末期に当る、248～258の弥生土器と石器が出土した。

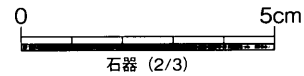
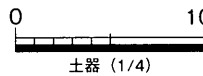


- c-c' b-b'
- 1 暗灰色粘質土
 - 2 黒褐色粘質土
 - 3 淡褐色砂質土

- a-a' d-d'
- 1 黒褐色粘質土 (炭化物混)
 - 2 褐色粘質土 (黄色粘土ブロック混)
 - 3 黒色粘土
 - 4 灰色微細砂



- 中央土坑 (SKc29) 262
 支柱穴跡 (SPc495) 260・261・263
 支柱穴跡 (SPc498) 265



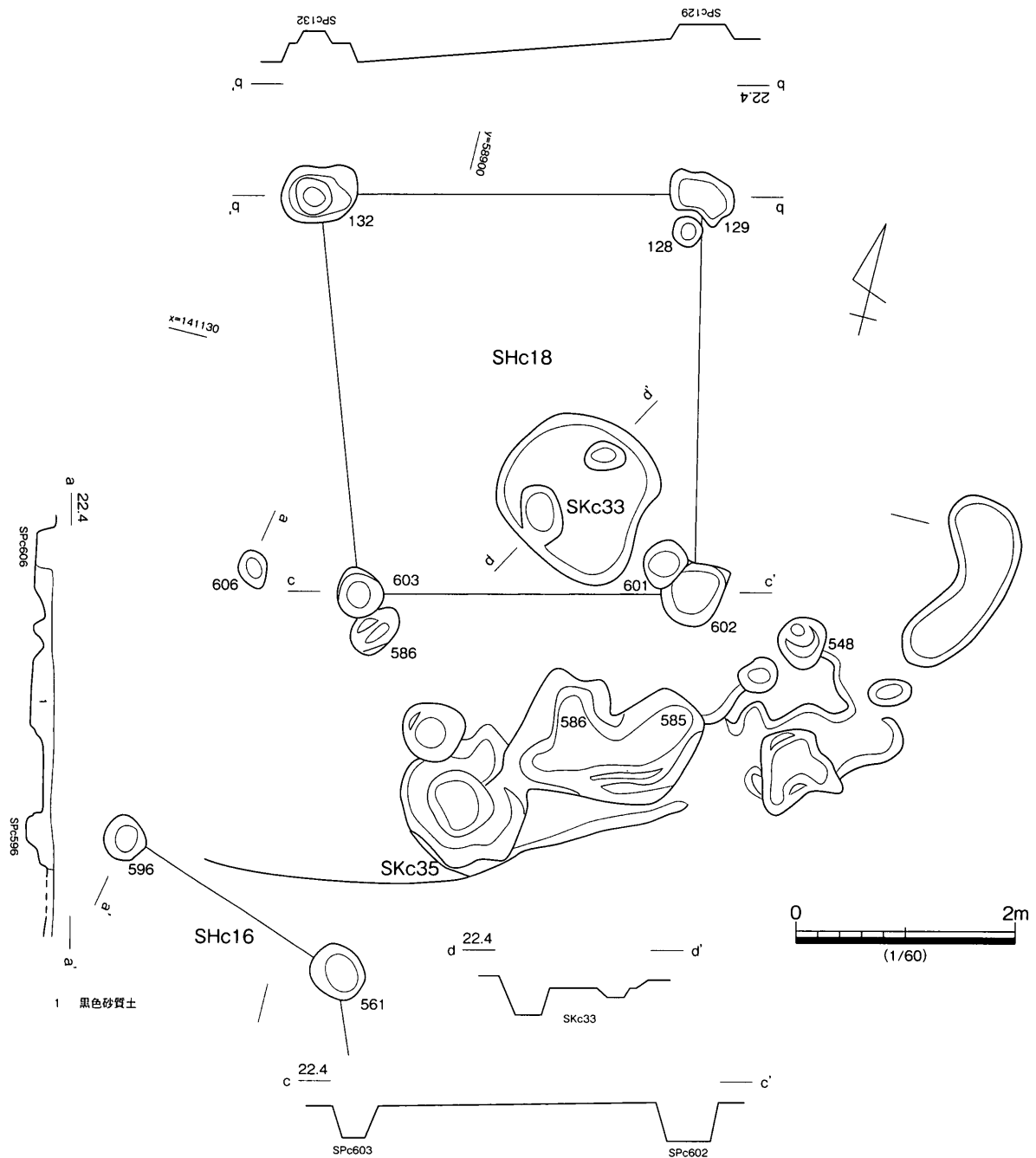
第 41 図 SHc17 平・断面図、出土遺物

248 は広口壺の口頸部である。形状及び胎土からこの土器は、香東川下流域産の土器と考えられる。249 は台付鉢の底部である。250～252 は鉢である。255・256 は中央土坑 SKc34 から出土した土器である。255 は甕口縁部で、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。256 は弥生時代中期中葉頃の、台付鉢の下半部である。

253・254 はサヌカイト製の石鏃である。257・258 は中央土坑 SKc34 から出土したサヌカイト製の石鏃と石錐である。

SHc17 (第 41 図)

IV区西南部北寄りの第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。SHc15・16、SKc28、SDc14 が隣接し、



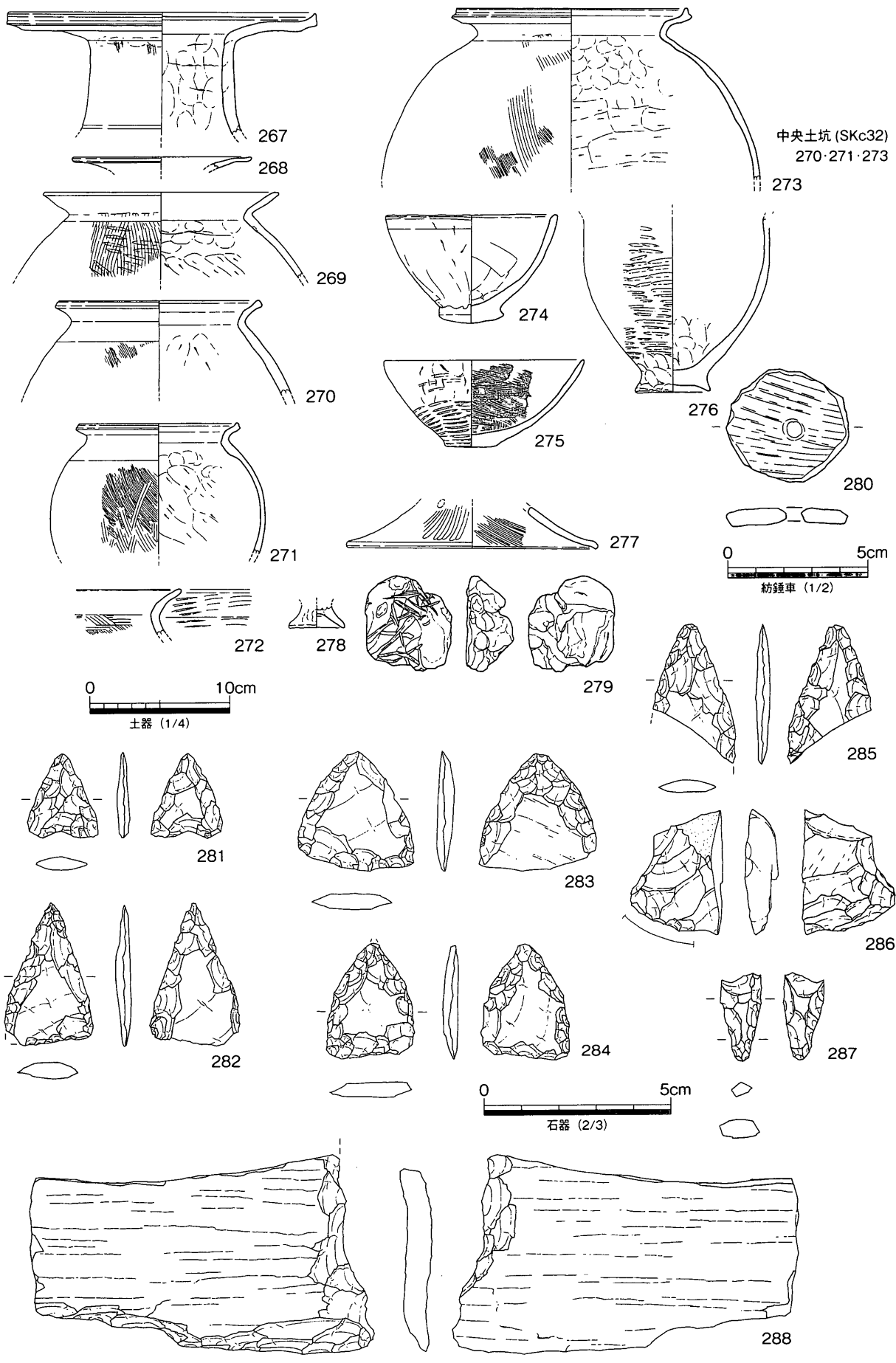
第 42 図 SHc18 平・断面図

SDc14 に壊されている。住居跡の南東辺で SHc16 と重複するが、前後関係については不明瞭である。

削平を受け、掘り方が全て消失しているため、全体の形状は不明である。床面上では支柱穴跡 4 基と中央土坑 1 基を検出した。

支柱穴跡は SPc482・495・498・503 の 4 基を確認した。平面形は不整円形状を呈し、柱間は長辺 2.2 m、短辺 2.0 m を測り、柱穴跡の直径は 0.3 ~ 0.4 m、深さ 0.3 ~ 0.45 m を測る。

中央土坑 SKc29 は床面の中央に位置し、平面は不整形な楕円形状を呈する。断面は二段掘り方の浅い皿状を呈し、中央がピット状に窪む。埋土は 4 層に分かれ、最下層の 3 層が黒色粘土、中層の 2 層は



第43圖 SHc18 出土遺物

ベースのブロックを含む褐色の粘質土、最上層の1層は炭化物を含んだ黒褐色の粘質土である。長径1.8 m、短径1.1 m、深さ0.3 mを測る。埋土の状況から、一度埋められ再利用された状況が確認できる。

SHc17からは弥生時代後期後半～終末期に当る、259～266の弥生土器と石器が出土した。

259・260は甕である。259は甕の口縁部で、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。260・261・263はSPc495から出土した小型の甕と底部を欠く鉢である。264はヘラ鋸歯文を全周に施した、器台の口縁端部と考えられる。262は中央土坑SKc29から出土した鉢の上半部である。265はSPc498から出土した手づくね土器である。

266はサヌカイト製の石錐である。

SHc18 (第42・43図)

IV・V区中央の境界上の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。SHc12・13・24・27等が隣接する。削平を受け、掘り方が全て消失しているため、全体の形状は不明であるが、中央土坑から南へ約3.0 m箇所、住居跡の掘り方と考えられる、浅くて不明瞭な落ち込みを検出した。当初この住居跡との関係も考慮に入れていたが、想定されるSHc18の範囲と異なるため、別の住居跡の掘り方の一部と考えられる。SHc18の床面上では支柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。

支柱穴跡はSPc129・132・602・603の4基を確認した。平面形は不整形円形状を呈し、柱間は長辺3.6 m、短辺3.0 mを測り、柱穴跡の直径は0.45～0.7 m、深さ0.1～0.2 mを測る。

中央土坑SKc33は床面の南東寄りに位置し、平面は不整形な円形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、南北の端部がピット状に窪む。長径1.55 m、短径1.4 m、深さ0.2 mを測る。

SHc18からは弥生時代後期後半～終末期に当る、259～266の弥生土器と石器が出土した。

267・268は広口壺の口頸部と口縁部である。269～273は甕である。273の口縁部は逆ハの字状に開き、端部は凹線状に窪む。体部は球体気味である。内面の上半部には指頭圧痕、下半部にはヘラケズリを顕著に施している。274～276は鉢である。277は高杯脚部である。278は脚台付製塩土器の脚台部である。

279は焼土塊で、スサ状の圧痕が顕著に認められる。280は甕の体部片を転用した紡錘車である。

281～285はサヌカイト製の石鏃である。285は形状から大型の部類に属する。286はサヌカイト製の打製石庖丁片である。287はサヌカイト製の石錐の先端部片である。288は結晶片岩製の打製石庖丁であるが、形状から未製品の可能性が高い。

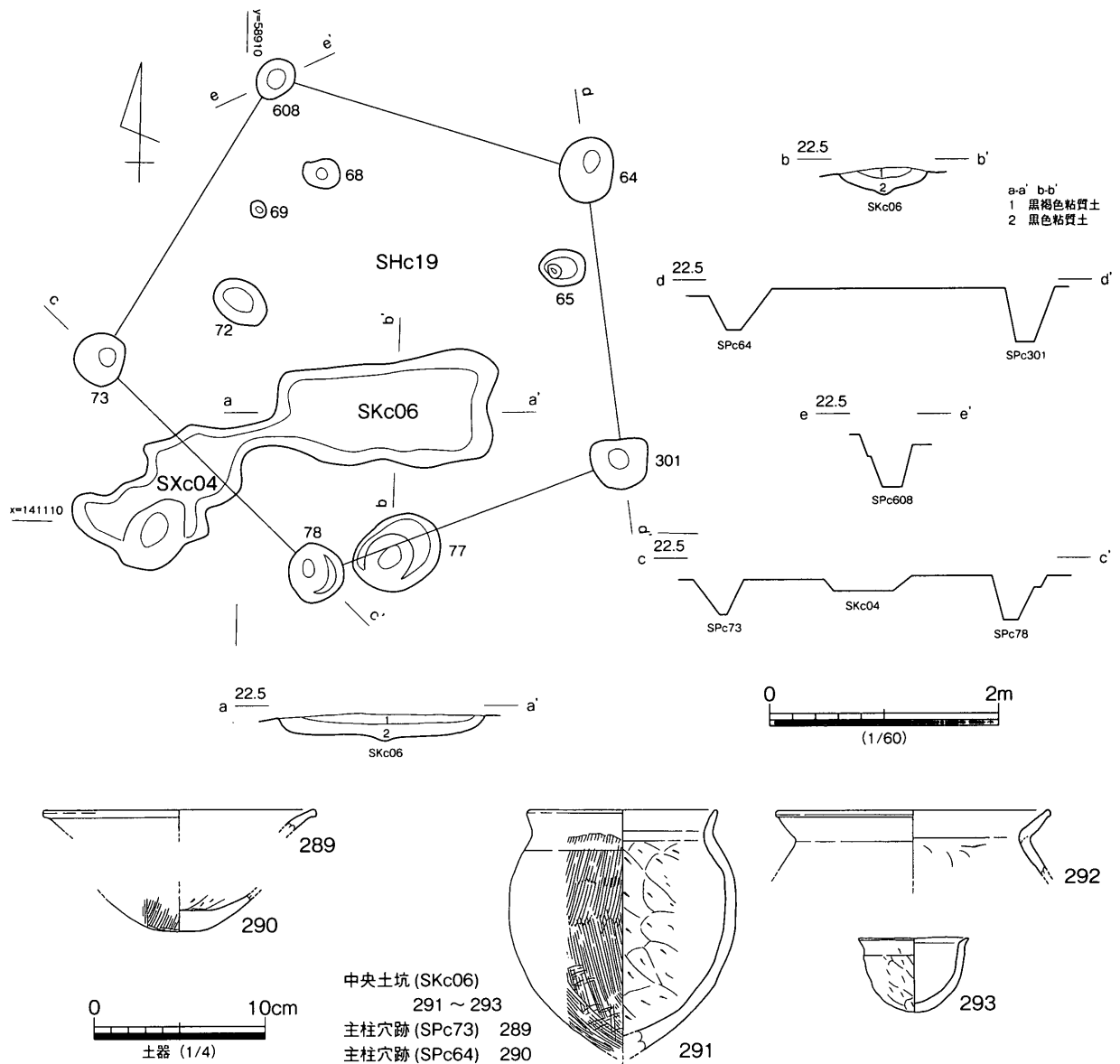
SHc19 (第44図)

整理作業の途上で確認した竪穴住居跡である。IV区中央部の第3検出面上に位置し、SHc08・09・10、SXc03が隣接している。

削平を受け、掘り方が全て消失しているため、全体の形状は不明である。床面上では支柱穴跡5基と中央土坑1基を検出した。

支柱穴跡は直径4.5 mの円内にSPc64・73・78・301・608の5基を確認した。平面形は不整形円形状を呈し、柱間は長辺2.8 m、短辺2.5 mを測り、柱穴跡の直径は0.3～0.55 m、深さ0.3～0.5 mを測る。

中央土坑SKc06は床面中央のやや南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈する。なお、SKc06の西端部ではSXc04と繋がっており、先後関係が確認できないことから、



第44図 SHc19 平・断面図、出土遺物

一連の遺構の可能性がある。断面は浅い皿状を呈し、中央部が僅かに窪む。埋土は上下2層に分かれ、いずれも黒色系の粘質土である。長径2.0m、短径0.8m、深さ0.2mを測る。

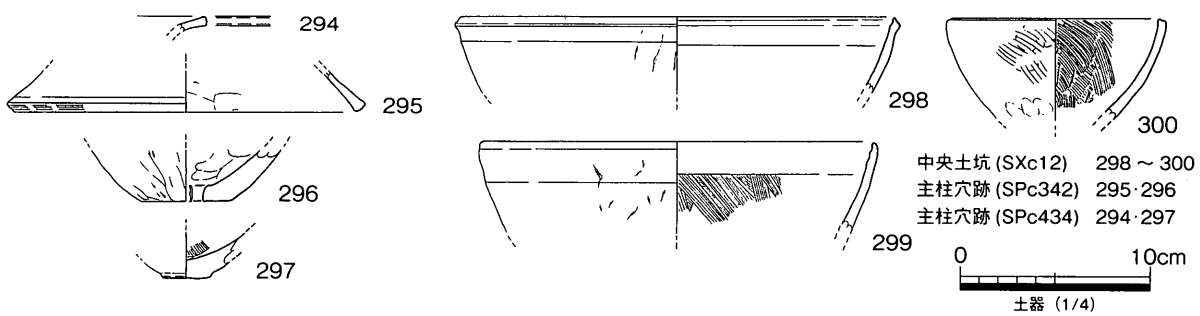
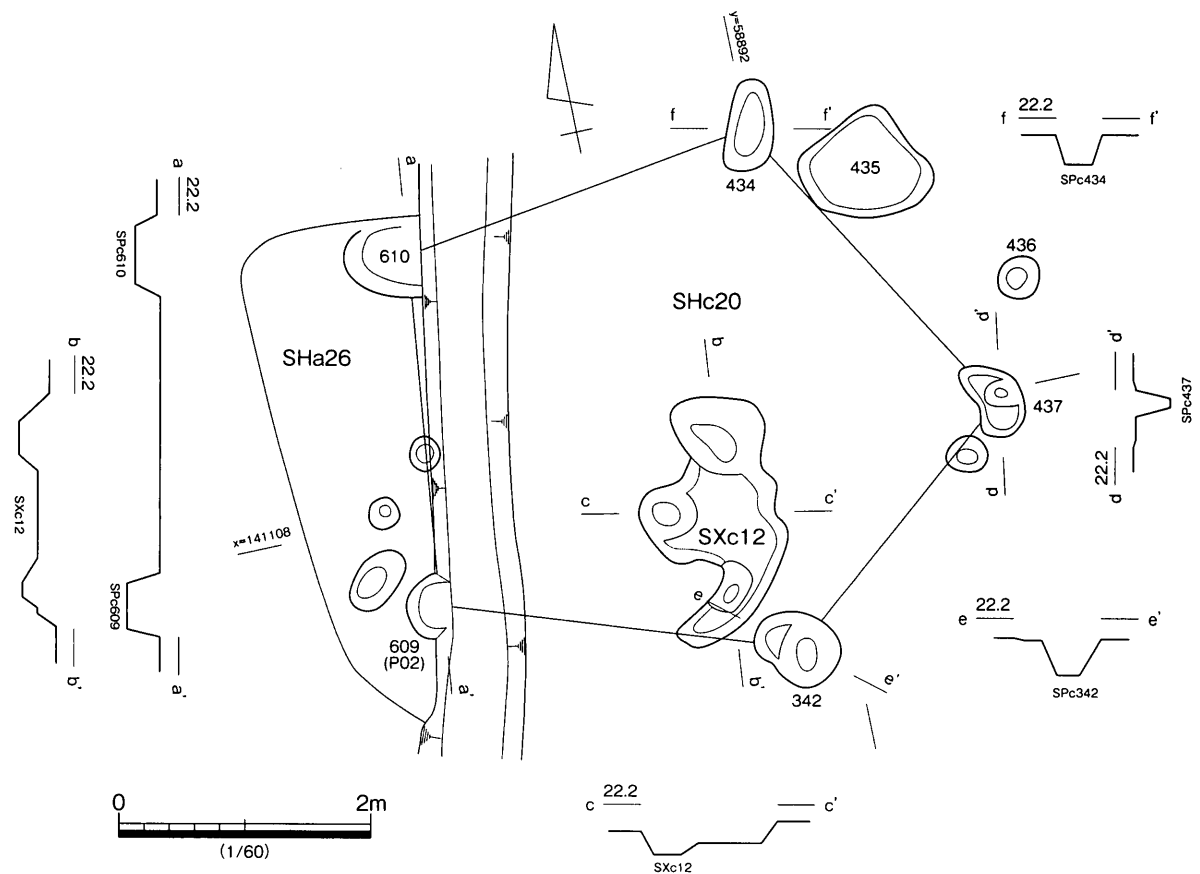
SHc19からは弥生時代終末期頃に当たる、289～293の弥生土器が出土した。

289はSPc73から出土した甕の口縁部片である。290はSPc64から出土した鉢の底部である。291～293は中央土坑SKc06から出土した土器である。291は底部を欠く鉢、292は甕の口縁部、293は小型の手づくね土器である。

SHc20 (第45図)

整理作業の途上で確認した竪穴住居跡である。IV区南西端部の第3検出面上に位置し、西端部はⅢ区のSHa26と重複する。周辺にはSHc11・14・SHa24が隣接している。

削平を受け、掘り方が全て消失しているため、全体の形状は不明である。床面上では主柱穴跡5基と



第 45 図 SHc20 平・断面図、出土遺物

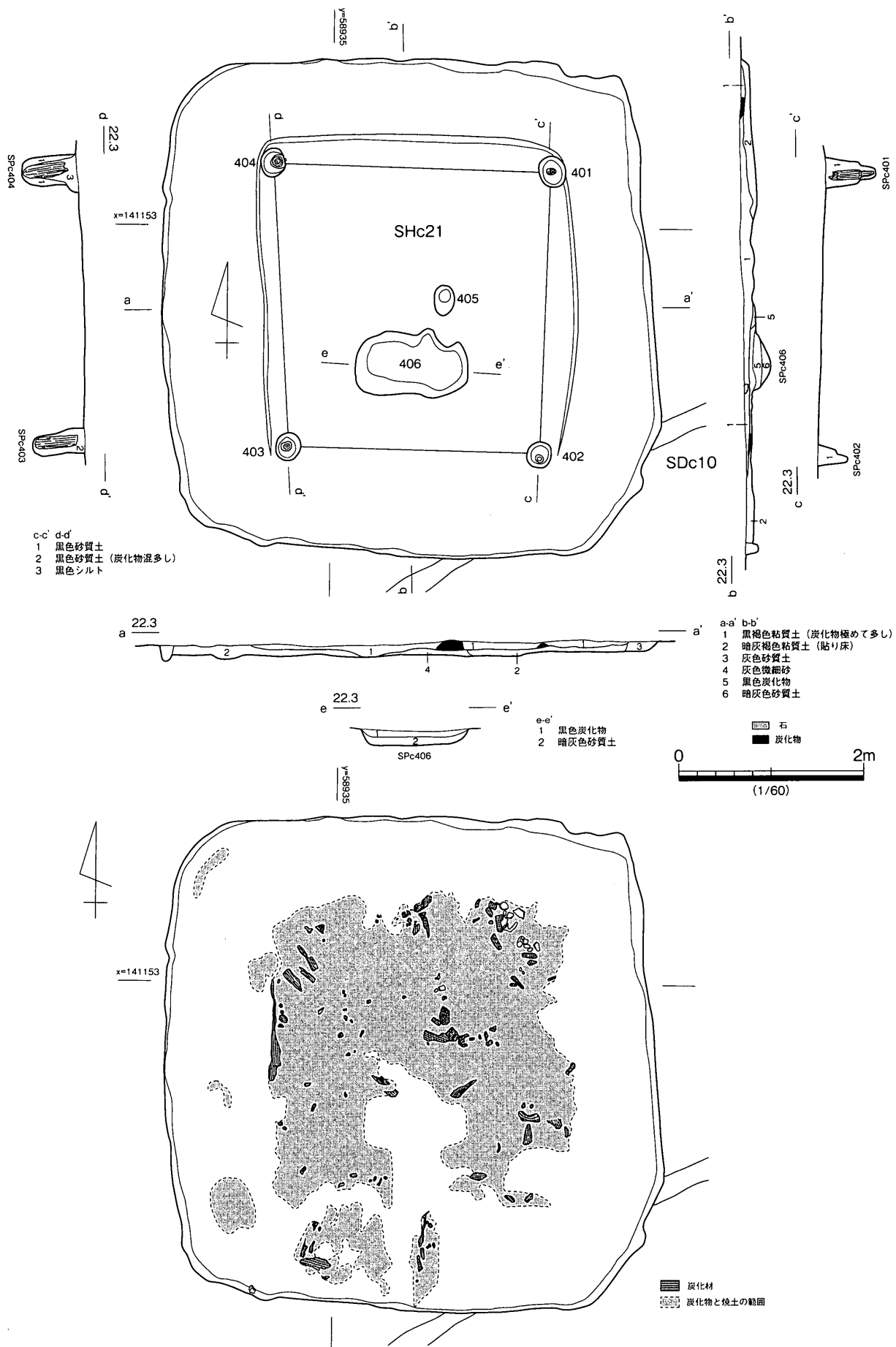
中央土坑 1 基を検出した。

主柱穴跡は直径 4.5 m の円内に SPc342・434・437・609・610 の 5 基を確認した。平面形は不整形円形状を呈し、柱間は長辺 2.8 m、短辺 2.5 m を測り、柱穴跡の直径は 0.4 ~ 0.7 m、深さ 0.2 ~ 0.3 m を測る。

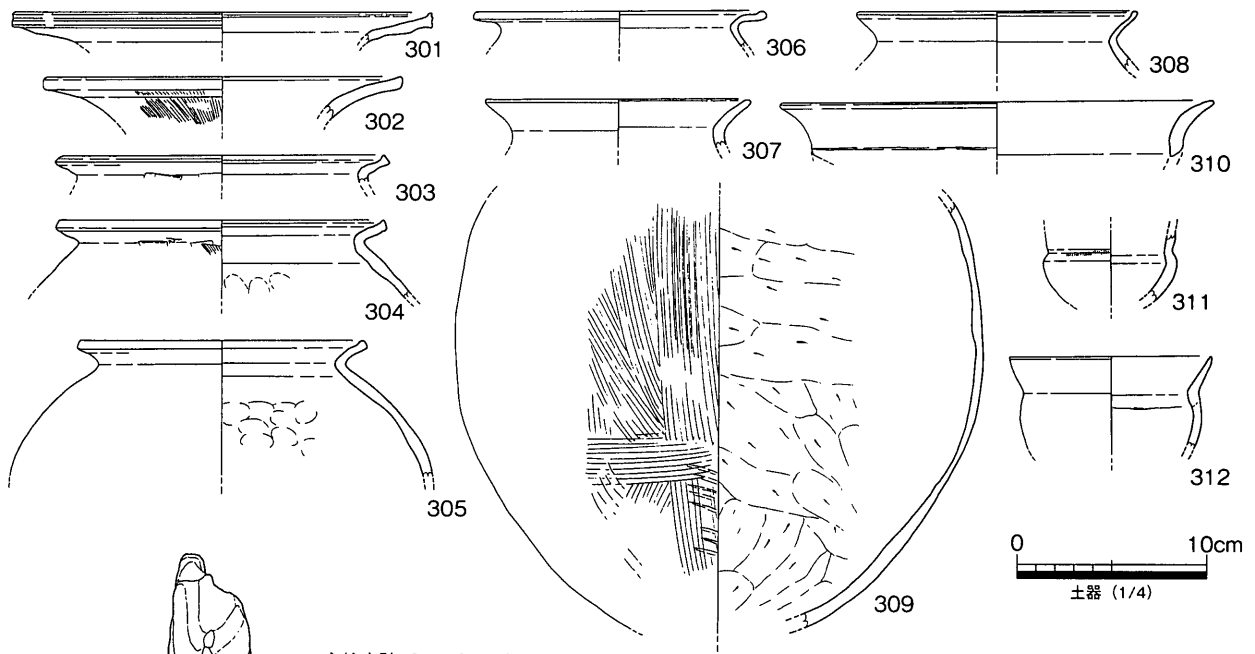
中央土坑 SXc12 は床面中央のやや南東寄りに位置し、平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な形状を呈する。断面は皿状を呈し、僅かに窪む所がある。埋土は上下 2 層に分かれ、長径 2.0 m、短径 1.1 m を測る。

SHc20 からは弥生時代後期後半～終末期に当る、294 ~ 300 の弥生土器が出土した。

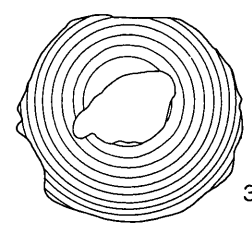
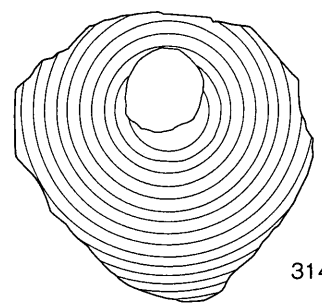
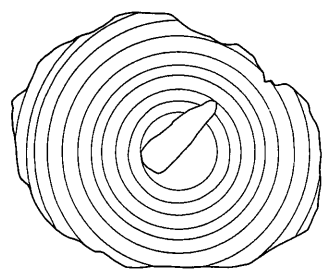
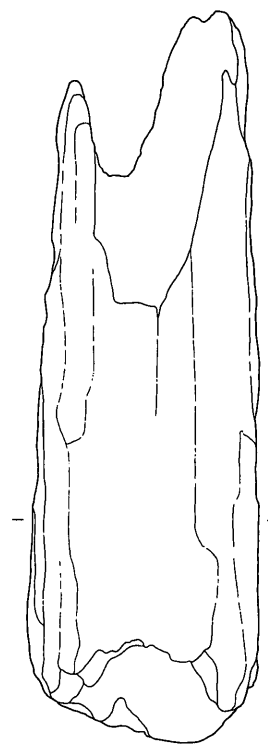
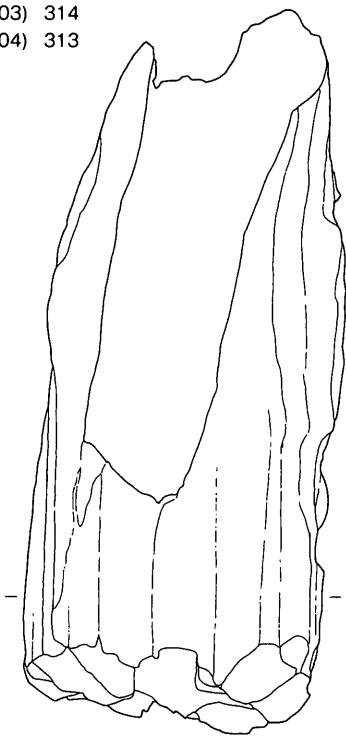
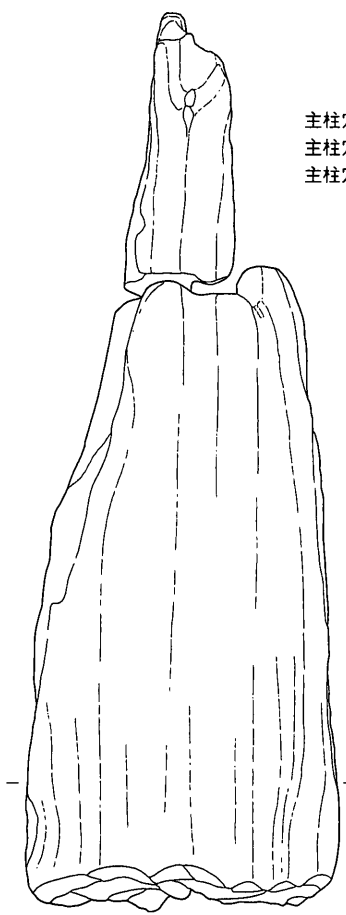
294・297 は SPc434 から出土した土器で、294 は広口壺の口縁部片、297 は鉢の底部片である。295・296 は SPc342 から出土した土器である。295 は高杯の脚部で、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。298 ~ 300 は中央土坑 SXc12 から出土した鉢の上半部である。



第 46 図 SHc21 平・断面図



主柱穴跡 (SPc401) 315
 主柱穴跡 (SPc403) 314
 主柱穴跡 (SPc404) 313



313

314

315

第 47 図 SHc21 出土遺物

SHc21 (第 46・47 図)

V区北東端部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺にはSHc27・28・SDc19等が隣接する。この住居跡は焼失家屋で、住居跡の上面からは焼土、炭化材等が広範囲に広がっていた。

平面形は隅丸形状を呈し、長径5.3m、短径5.0m、深さ0.15mを測る。床面上では壁溝、主柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。なお、残りが悪いが、ベッド状の遺構が周るものと考えられる。埋土は数層に分れるが、ベッド状遺構を形成するのは2層に当る。

壁溝は平面では検出できていないが、土層断面図では少なくとも北辺を除く三辺で確認できることから、本来、全周していたものと考えられる。幅0.1～0.3m、深さ約0.1mを測る。

ベッド状遺構は先述したように残りが悪いが、土層断面図から、おそらく全周していたものと考えられる。幅約0.7m、高さ約0.1mを測る。

主柱穴跡はSPc401・402・403・404の4基を確認した。円形を呈し、柱間は長辺3.0m、短辺2.8mを測り、柱穴跡の直径は約0.35m、深さ0.3～0.6mを測る。なお、SPc401・403・404には柱材が残っていた。

中央土坑SPc406は床面の南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈する。断面は皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層に黒色炭化物が堆積していた。長径1.2m、短径0.65m、深さ約0.15mを測る。

なお、床面中央に位置するSPc405は、住居跡に伴う柱穴跡の可能性が高い。

SHc21からは弥生時代終末期～古墳時代初頭に当る、301～315の弥生土器、古式土師器と木製品が出土した。

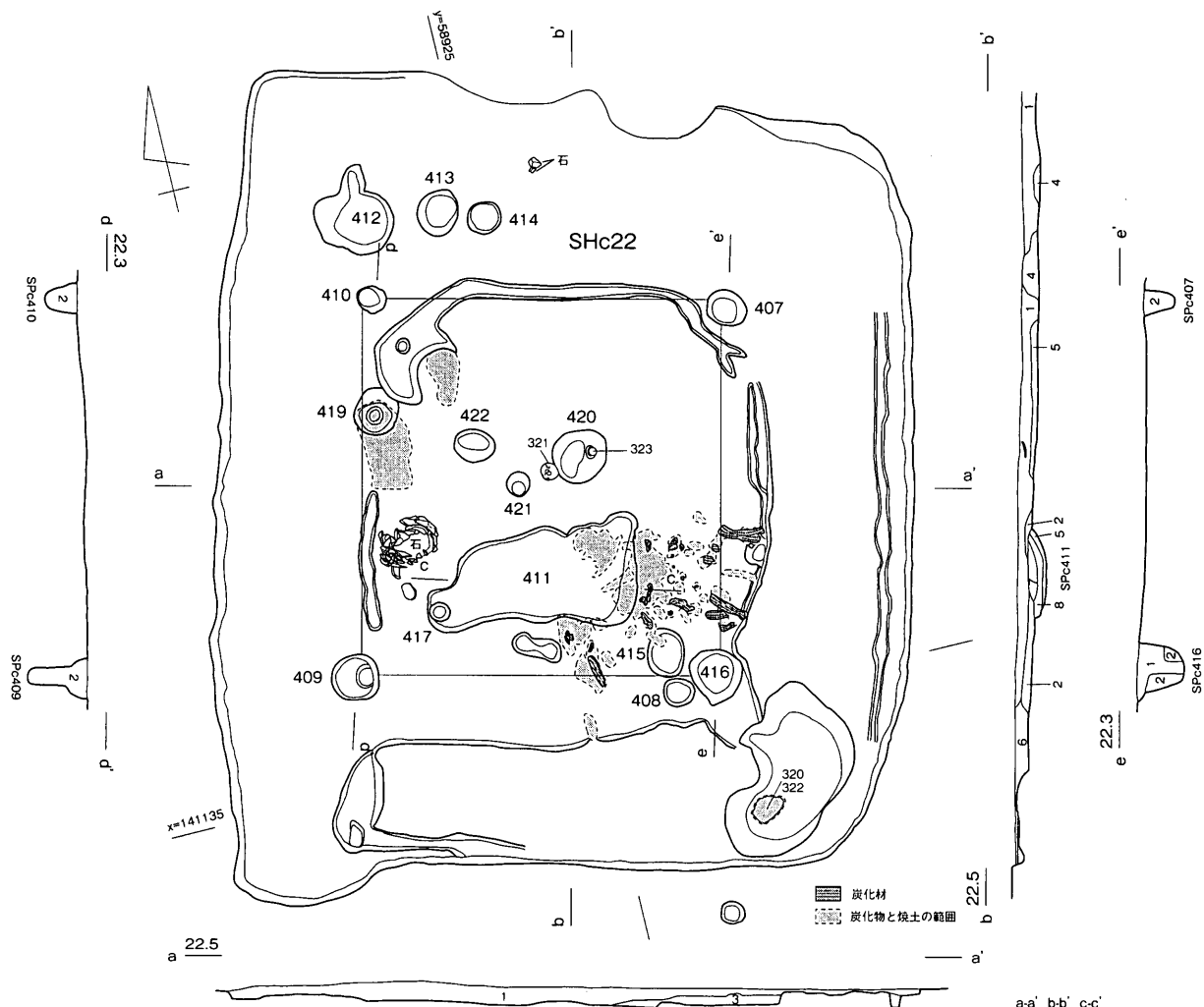
301・302は広口壺の口縁部である。303～306・309は甕である。306は甕の口縁部で、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。307・308は古式土師器の甕の口縁部である。310は高杯の口縁部である。312は底部を欠いた小型丸底壺で、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。311は口縁部と底部を欠くため定かではないが、おそらく312同様の小型丸底壺であろう。

313～315は主柱穴跡から出土した柱材である。いずれも劣化により加工痕は不明瞭である。313はSPc404から出土した柱材の基底部である。長さ35.2cm以上、径12.4cm以上を測り、樹種はコナラである。314はSPc403から出土した柱材の基底部である。長さ28.4cm以上、径12.6cm以上を測り、樹種はコナラである。315はSPc401から出土した柱材の基底部である。長さ28.6cm以上、径9.2cm以上を測り、樹種はヤマグワである。樹種同定の詳細は、第IV章 自然科学分析に掲載している。

SHc22 (第 48 図)

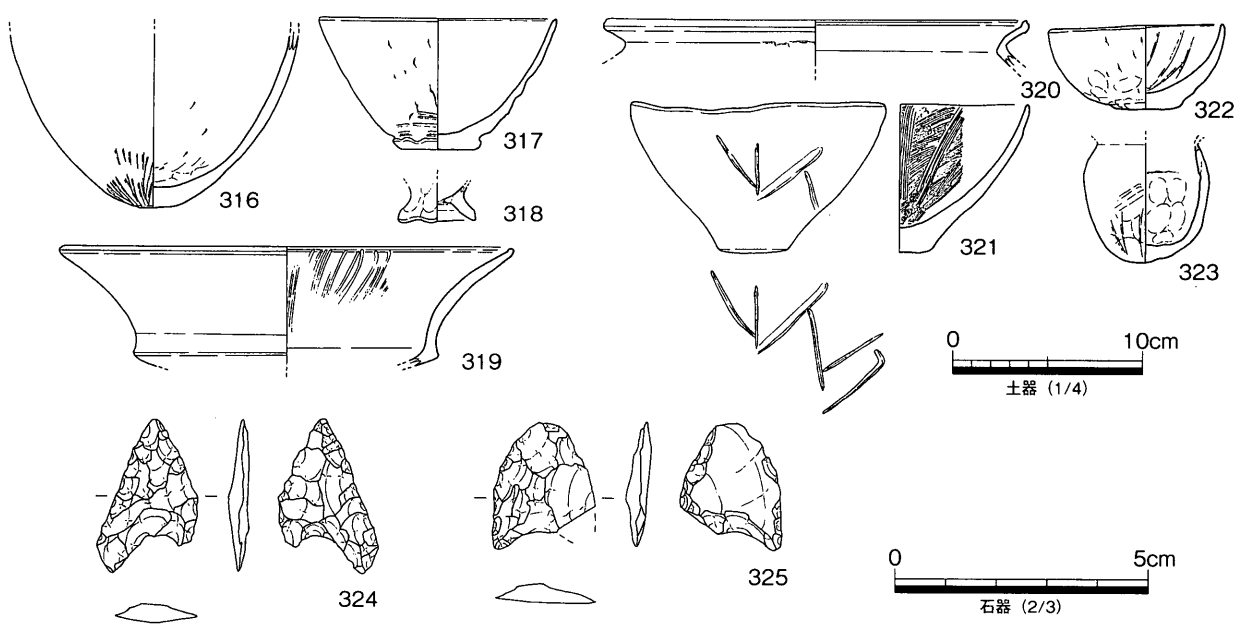
V区北東部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺にはSHc27・28・SDc19・24等が隣接し、この住居跡の北辺部はSDc19によって壊されている。この住居跡は焼失家屋で、住居跡の上面からは焼土、炭化材等を検出した。なお、この住居跡から西へ約7.0m隔てたSDc24は、位置関係からこの住居跡に伴う周溝状遺構の可能性がある。

平面形は隅丸長形状を呈し、南辺の西隅が僅かに突出する張出部を検出した。長径6.3m、短径5.6m、深さ0.15mを測る。床面上では壁溝、側板痕、主柱穴跡4基と中央土坑1基を検出した。なお、壁溝と側板痕との間に、ベッド状の遺構が巡っていたものと考えられるが、残りが悪く、南辺で僅かにその

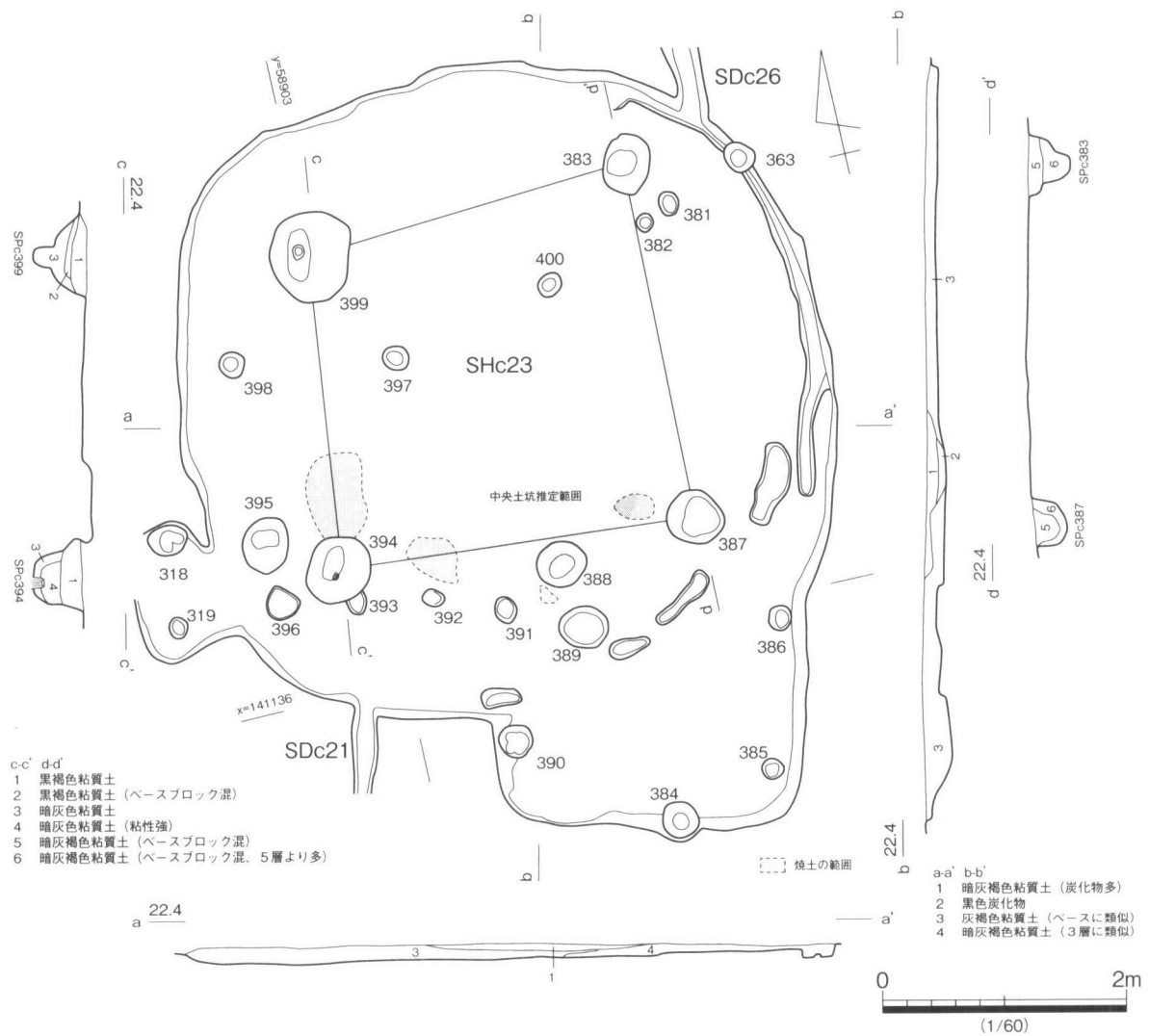


- a-a' b-b' c-c'
- 1 黒褐色粘質土 (炭化物混)
 - 2 黒色粘質土 (炭化物多)
 - 3 黒褐色砂質土
 - 4 淡褐色中砂
 - 5 黒色砂質土
 - 6 黒褐色粘質土 (炭化物混)
 - 7 黒色炭化物
 - 8 黒色炭化物 (砂混)

- d-d' e-e'
- 1 暗灰褐色粘質土 (炭化物混)
 - 2 黒色粘質土



第48図 SHc22 平・断面図、出土遺物



第49図 SHc23 平・断面図

痕跡を確認した。

壁溝は東辺と南辺にも確認できることから、本来全周していたものと考えられる。幅約0.1m、深さ0.1mを測る。

ベッド状遺構は先述したように南辺で検出した。幅0.8～1.1m、高さ約0.1mを測る。

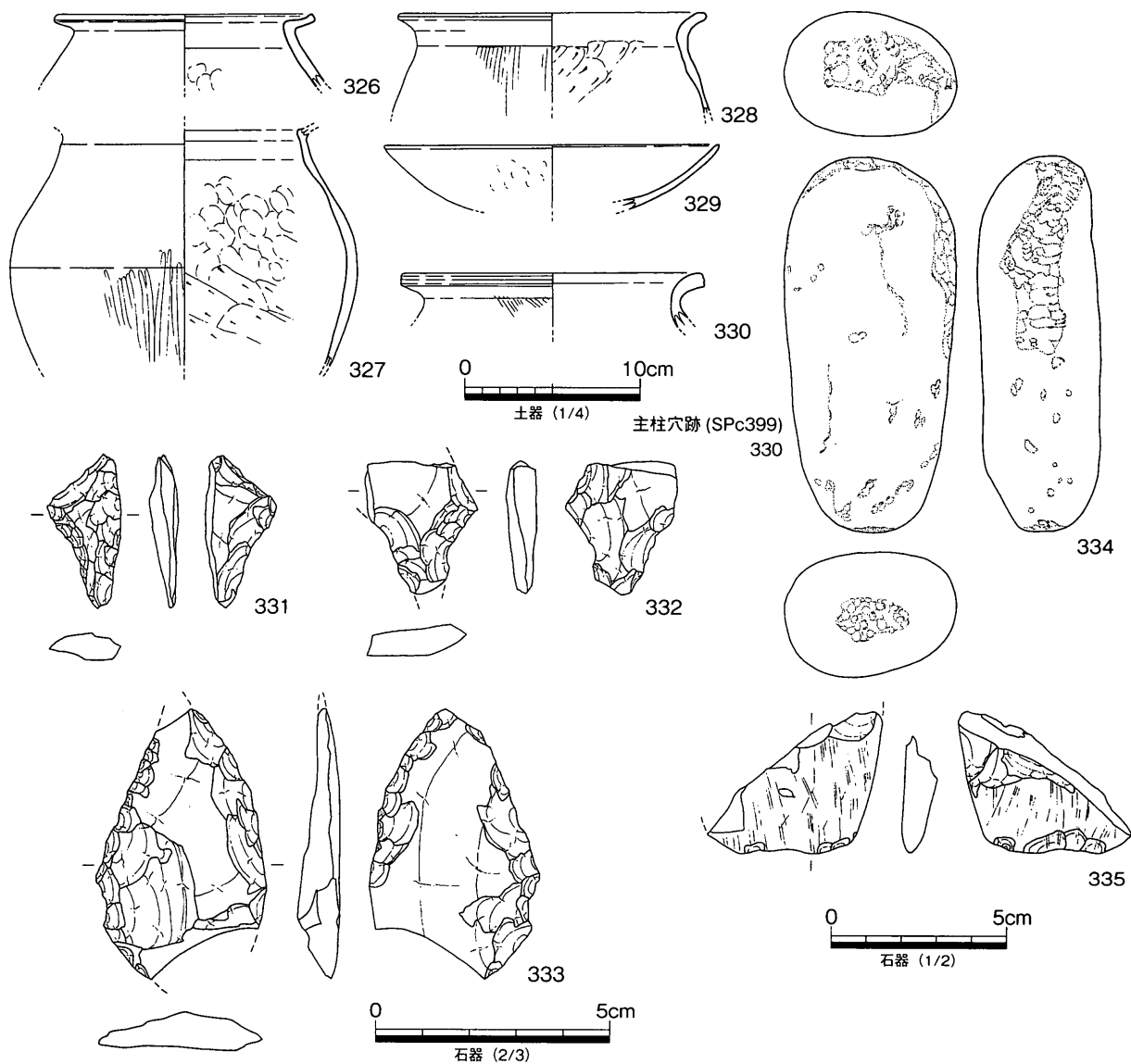
側板痕は南辺を除く三辺の主柱穴跡間で検出したが、本来全周していた可能性が高い。幅約0.1m、深さは2～3cm程度を測る。

主柱穴跡はSPc407・409・410・416の4基を確認した。円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺3.0m、短辺2.8mを測り、柱穴跡の直径は0.25～0.45m、深さ0.3～0.5mを測る。

中央土坑SPc411は床面の南寄りに位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、埋土は3層に分かれ、黒色炭化物が堆積していた。長径1.7m、短径0.9m、深さ約0.15mを測る。

なお、床面上の南西部には、台石と考えられる大型の礫石器が据えられているが、被熱によるためか、表面のほぼ全面が剥離している。

SHc22からは弥生時代終末期～古墳時代初頭に当る、316～325の弥生土器、古式土師器、石器が



第50図 SHc23 出土遺物

出土した。

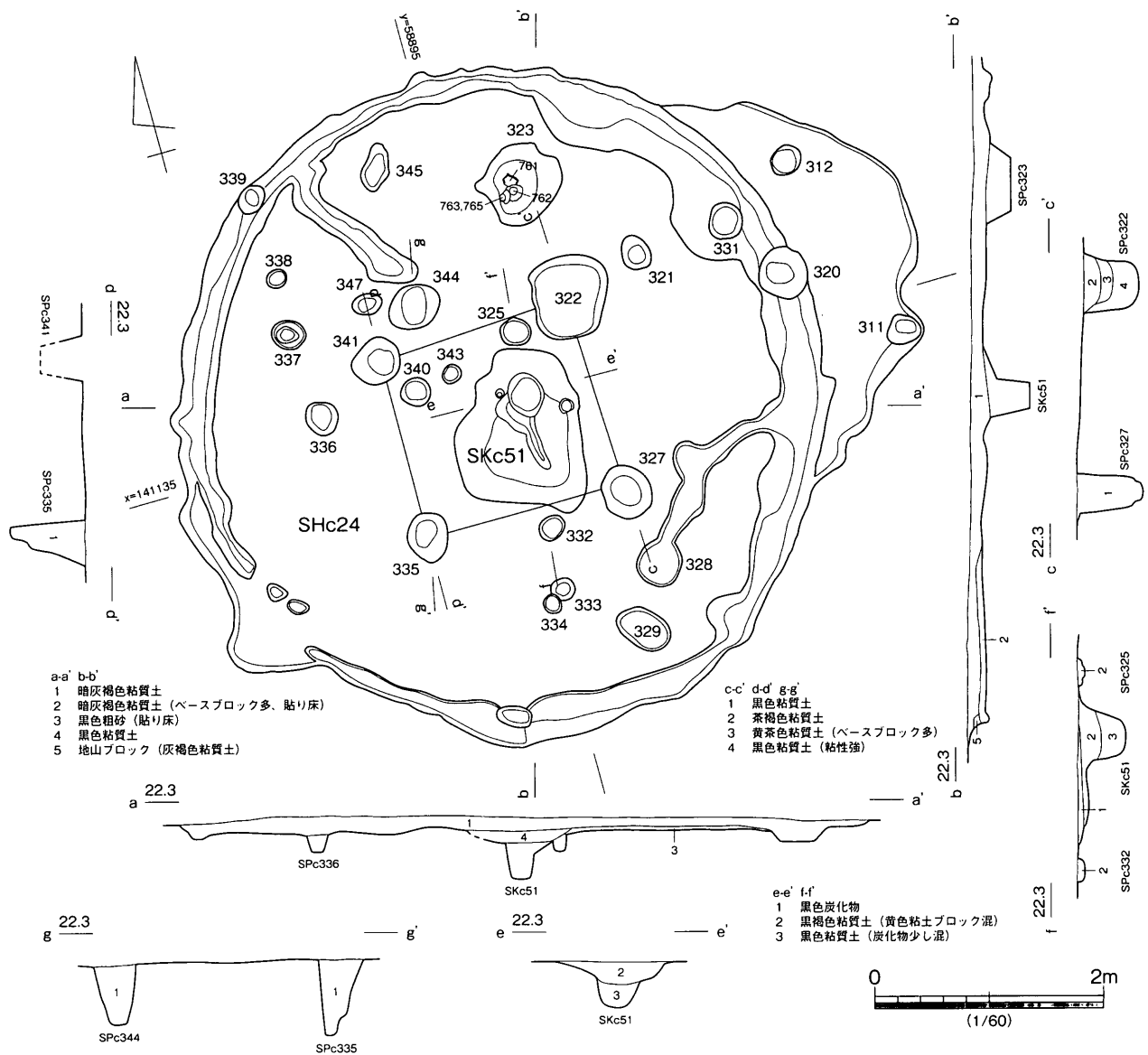
316・320は甕である。316は僅かに平底を残す甕の下半部である。320は甕の口縁部である。317・321・322は鉢である。322の外面には、ヘラ状工具により記号文を施している。319は古式土師器の高杯の杯部である。口縁部は逆ハの字状に外反し、端部は尖り気味に仕上げている。318は脚台付製塩土器の脚台部である。

324・325はサヌカイト製の石鏃である。

SHc23 (第49・50図)

V区中央部の第3検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺にはSHc26・29、SDc21・26等が隣接しこの住居跡と交わるが、SDc26については住居跡に伴う排水路の可能性もある。住居跡の上面からは小範囲の焼土を数箇所検出した。そのため、この住居跡は焼失家屋の可能性もある。

平面形は方形気味の円形状を呈し、南東隅に張出部を検出した。直径約5.3m、深さ約0.15mを測る。



第 51 図 SHc24 平・断面図

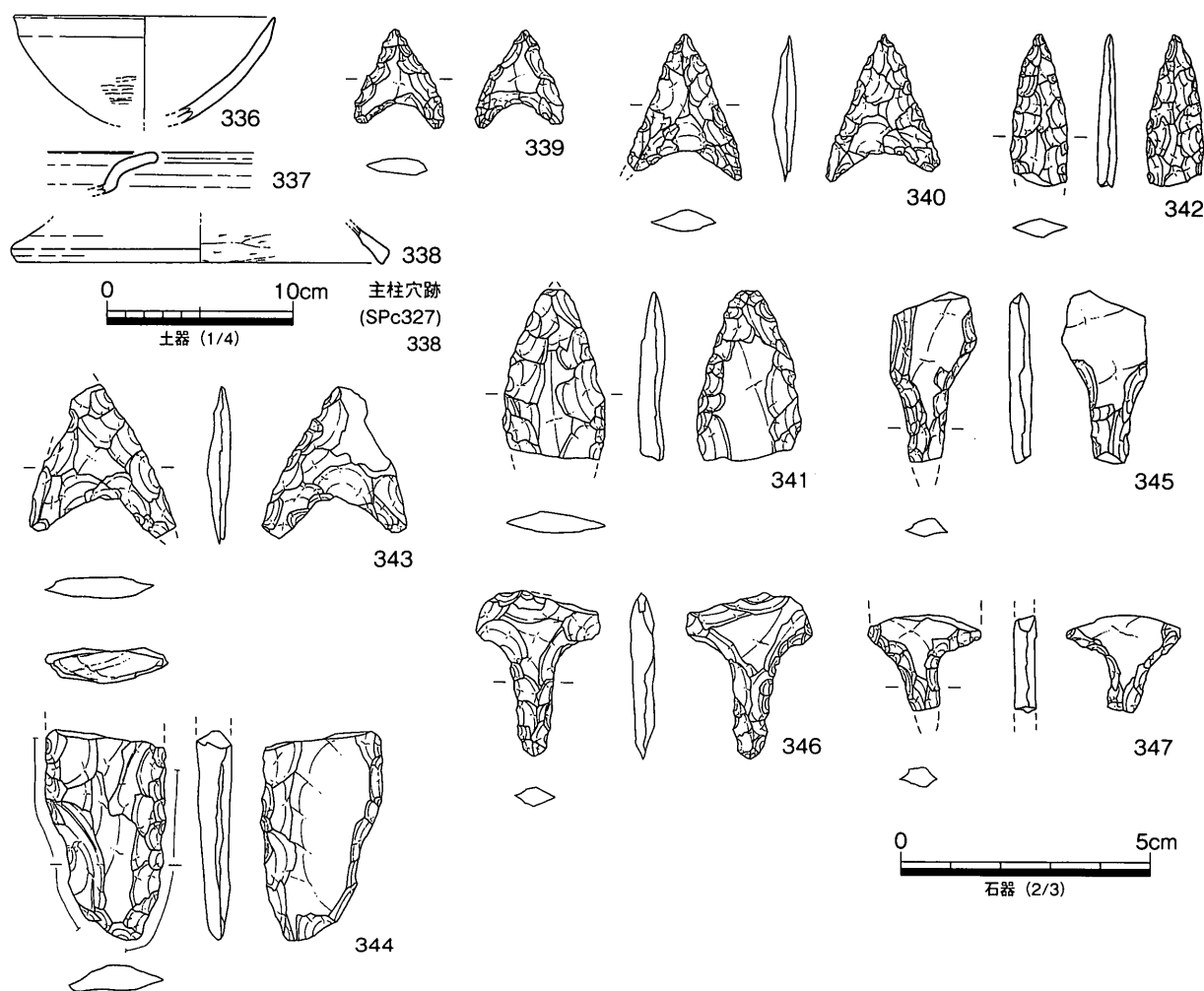
床面上では、壁溝、主柱穴跡 4 基を検出した。埋土は 1～4 層に分かれ、主体を占める 3・4 層は貼床層に相当し、平面で確認できていないが、中央土坑と考えられる土層が認められる。

壁溝は東半部に途切れ気味に確認できるが、本来全周していたものと考えられる。幅約 0.1～0.2 m、深さ 0.1 m を測る。

主柱穴跡は Spc383・387・394・399 の 4 基を確認した。不整形を呈し、柱間は長辺 3.0 m、短辺 2.5 m を測り、柱穴跡の直径は 0.4～0.7 m、深さ 0.3～0.45 m を測る。なお、Spc394 の底部からは柱材の底部を検出した。

中央土坑は平面では確認できていないが、床面の中央南寄りに位置し、土層断面図の 1・2 層に当たる不整形な落ち込みが相当するものと考えられる。おそらく、平面は楕円形状を呈し、断面は二段掘り方の逆台形状を呈するものと考えられる。埋土は 2 層に分かれるが、いずれも黒色炭化物が堆積していた。長径 1.8 m 以上、短径 1.3 m 以上、深さ約 0.15 m 以上を測る。

張出部は住居跡の南東隅に配され、台形状の形状を呈する。南辺 2.4 m、北辺 2.8 m、西辺 0.8 m、東辺 1.8



第 52 図 SHc24 出土遺物

m、深さ 0.15～0.2 m を測る。床面上の SPc384・385・386・390 は張出部に付属する柱穴跡の可能性が高い。SHc23 からは弥生時代後期後半頃に当る、326～335 の弥生土器と石器が出土した。

326～328・330 は甕である。326・327 の甕は、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。330 は主柱穴跡 SPc399 から出土した、甕の口縁部である。330 は底部を欠く鉢である。

333 はサヌカイト製の削器にしたが、石庖丁の未製品の可能性もある。334 は砂岩製の敲石で、上下両端部には敲打痕が顕著に認められる。335 はサヌカイト製の石斧である。使用に伴うものか、器面はかなり摩滅している。

SHc24 (第 51・52 図)

V 区中央部の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺には SHc18・23・29・SKc44・49、SDc23 等が隣接し、SHc29 とは重複するが、前後関係は不明瞭である。

平面形は円形状を呈し、直径約 5.7 m、深さ約 0.15 m を測る。床面上では、壁溝、主柱穴跡 4 基、中央土坑を検出した。埋土は 1～5 層に分かれ、少なくとも 2・3 層は貼床層に相当するものと考えられる。

壁溝は一部途切れているが、ほぼ全周している。抜き取りよるものか北東辺はかなり幅が広い。0.1～0.6 m、深さ 0.1 m を測る。住居跡の北西部や東部では、壁溝に繋がる排水溝状遺構が部分的に確認

できる。

主柱穴跡は SPc322・327・335・341 の 4 基を確認した。不整形円形を呈し、柱間は長辺 1.7 m、短辺 1.6 m を測り、柱穴跡の直径は 0.4 ～ 0.7 m、深さ 0.5 ～ 0.7 m を測る。

中央土坑 SKc51 は床面の中央に位置し、平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な形状を呈する。断面は浅い皿状を呈し、北端部がピット状に窪む。埋土は 3 層に分かれ、上層には黒色炭化物が堆積していた。長径 1.5 m、短径 0.9 m、最深部の深さは 0.1 m を測る。ピット状の窪みは、直径 0.3 m、深さ 0.4 m を測る。

なお、この住居跡の東辺部には、残りの悪い不整形な落ち込みが接しており、住居跡に伴う張出部の可能性もある。

SHc24 からは弥生時代後期後半頃に当る、336 ～ 347 の弥生土器と石器が出土した。

336 は底部を欠く鉢である。この土器は、IV 区の南東端部で II 区との境界に位置する、SXa12 出土の土器と接合関係にある。337・338 は高杯の口縁部片と脚部片である。

339 ～ 343 はサヌカイト製の石鏃である。344 は形状よりサヌカイト製の石鏃を転用した楔形石器と考えられる。345 ～ 347 はサヌカイト製の石錐である。

SHc25 (第 53 図)

V 区東端部の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺には SHc04・22・27、SDc10 等が隣接し、SHc25 は SDc10 を掘り込んでいる。

平面は削平を受けて東半部の形状は不明瞭であるが、円形を呈するものと考えられる。直径は約 5.0 m、深さ約 0.05 m を測る。床面上では主柱穴跡 5 基と中央土坑 1 基を検出した。

主柱穴跡は不整形な五角形状の配置を呈し、SPc50・54・55・349・352 の 5 基を確認した。平面形は不整形円形を呈し、柱間は長辺 2.1 m、短辺 1.3 m を測り不揃いである。柱穴跡の直径は 0.35 ～ 0.6 m、深さ 0.15 ～ 0.4 m を測る。

中央土坑 SPc351 は床面の中央に位置する。平面は不整形な円形状呈し、断面は二段掘り方の逆台形状をする。長径 0.55 m、短径 0.5 m、深さ約 0.2 m を測る。

SHc25 からは、348 ～ 352 の弥生土器と石器が出土した。図化できる土器としては、SPc54 から出土した、348 の櫛描直線文を施した弥生時代中期頃の甕の破片のみである。

349 ～ 351 はサヌカイト製の石鏃である。349 は SPc54 から出土した石鏃である。352 はサヌカイト製の石錐の先端部である。

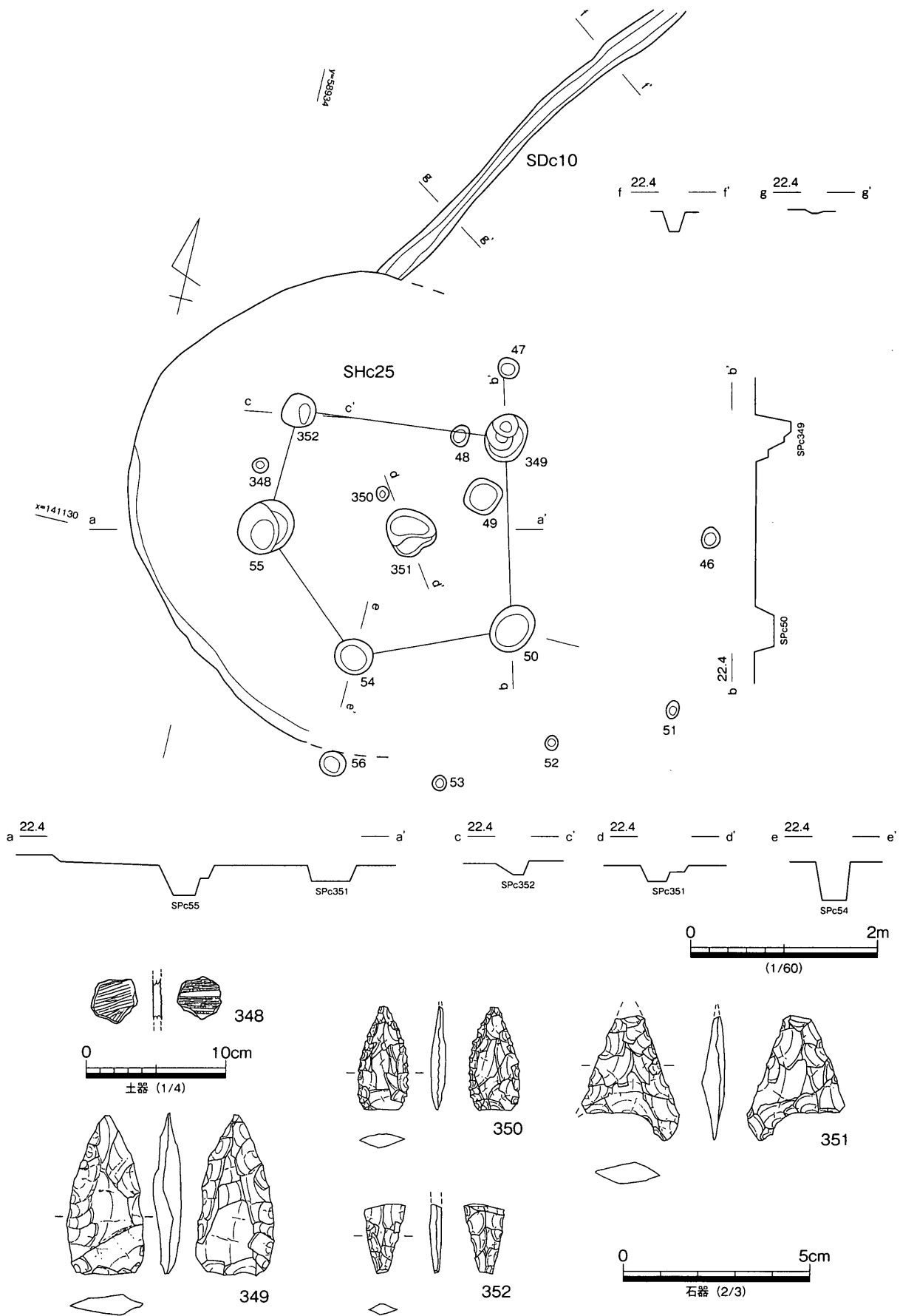
SHc26 (第 54 図)

V 区中央部北端の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺には SHc23、SKc50、SDc24・25・26 等が隣接する。

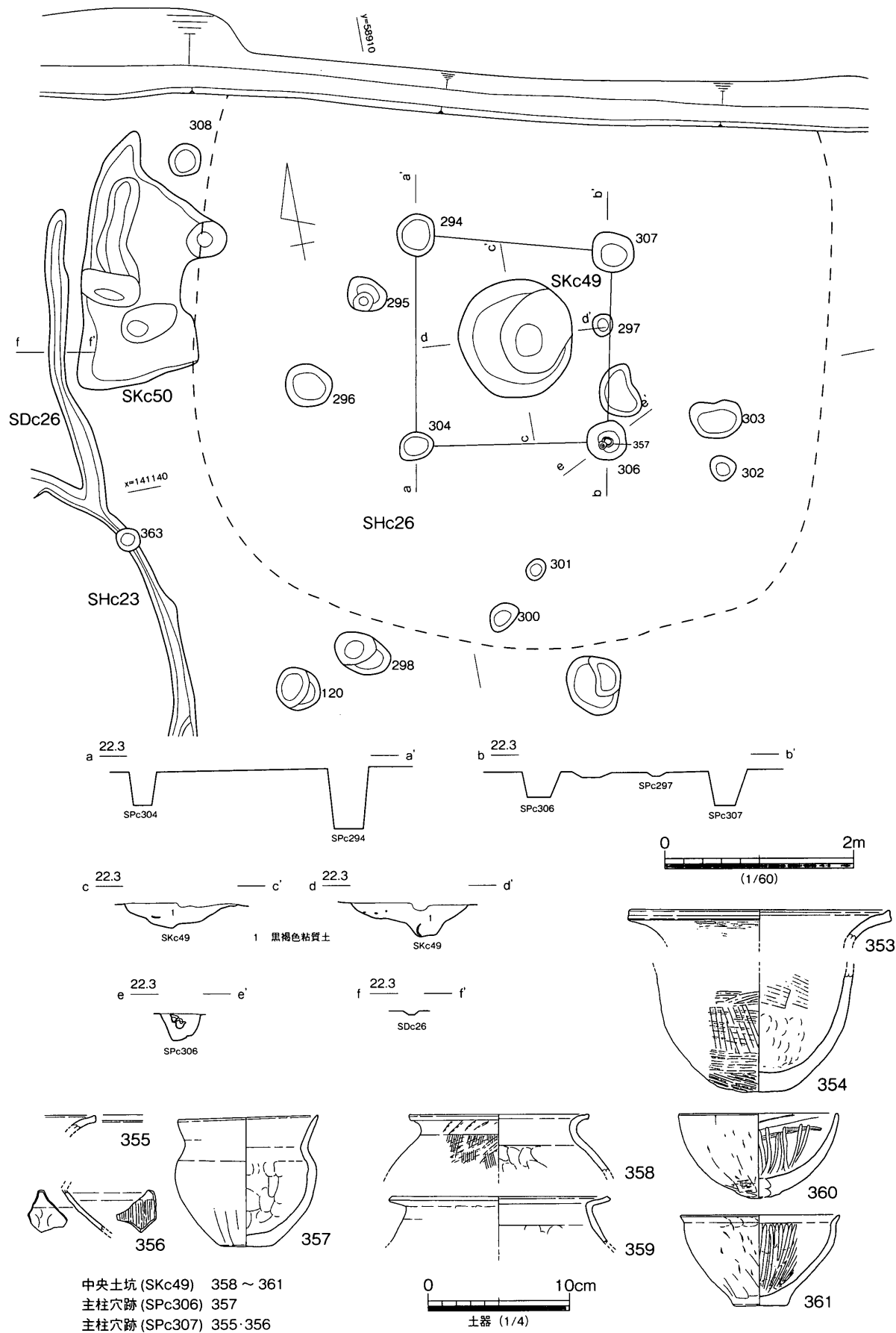
平面は削平を受けて残りが悪く、不明である。床面上では主柱穴跡 4 基と中央土坑 1 基を検出した。

主柱穴跡は四角形状の配置を呈し、SPc294・304・306・307 の 4 基を確認した。平面形は不整形円形を呈し、柱間は長辺 2.0 m、短辺 1.9 m を測る。柱穴跡の直径は 0.4 ～ 0.45 m、深さ 0.35 ～ 0.65 m を測る。

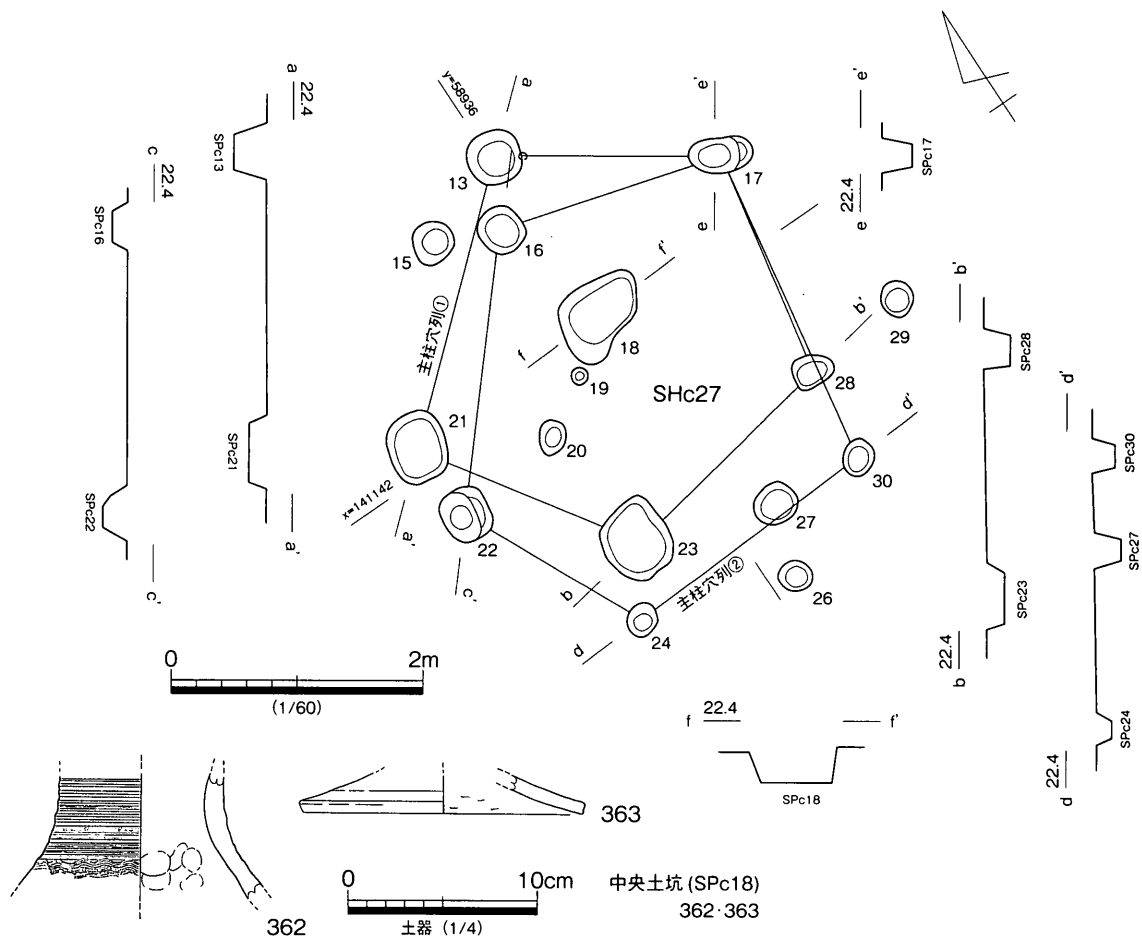
中央土坑 SKc49 は床面の中央に位置する。平面は不整形な円形状呈し、断面は二段掘り方の逆台形状をする。埋土は黒褐色の粘質土の単層である。直径 1.2 m、深さ約 0.3 m を測る。



第 53 図 SHc25 平・断面図、出土遺物



第 54 図 SHc26 平・断面図、出土遺物



第 55 図 SHc27 平・断面図、出土遺物

SHc26 からは弥生時代後期後半頃に当たる、353～361 の弥生土器が出土した。

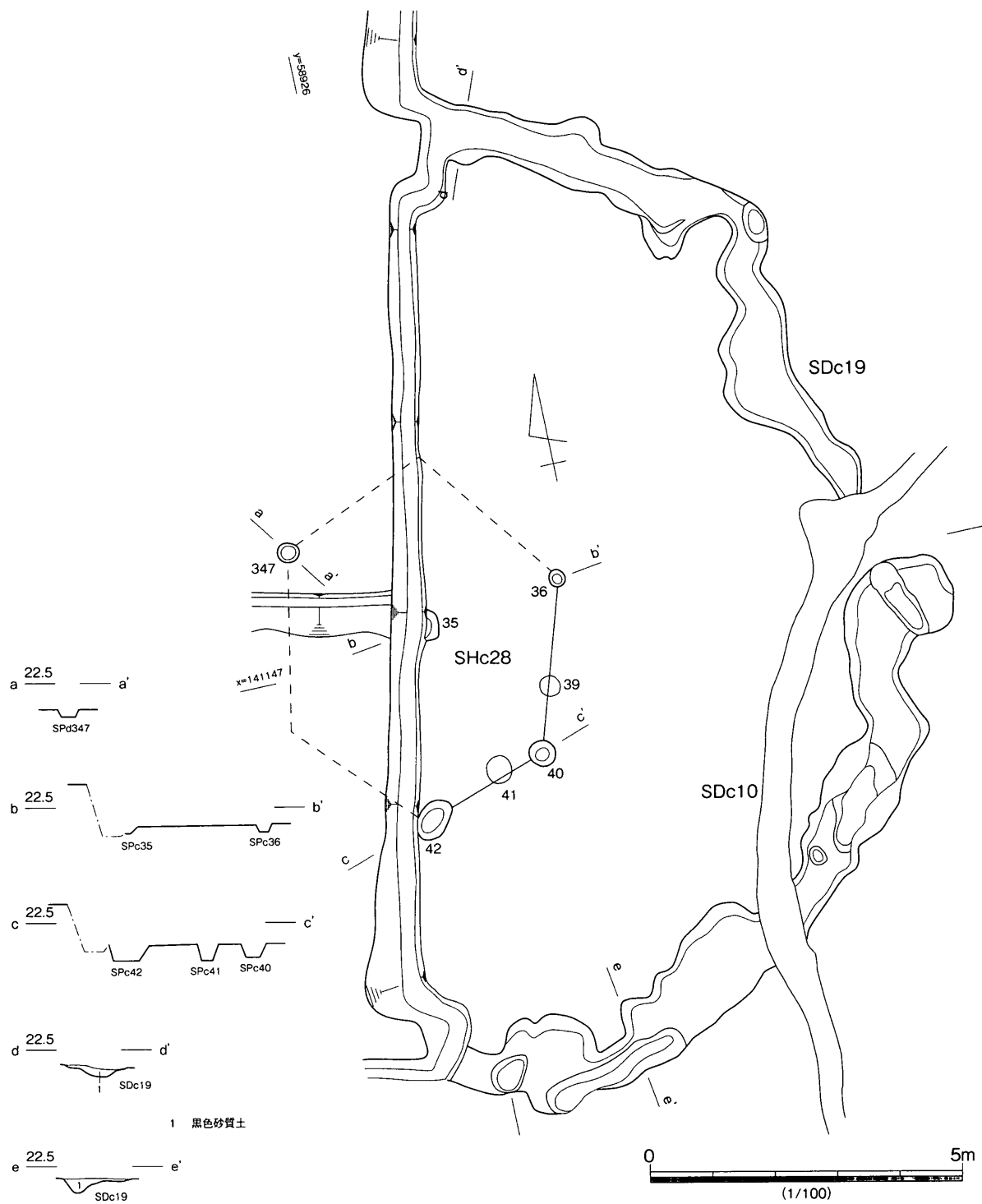
353・354 は上位の包含層に含まれる可能性がある土器で、353 が広口壺の口縁部、354 は口縁部を欠く鉢である。355・356 は SPc307 出土の甕である。355 は甕の口縁部片、356 は甕の肩部である。形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。357 は SPc306 出土の鉢である。358～361 は中央土坑 SKc49 から出土した土器である。358・359 は甕の上部で、359 は形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。360・361 は鉢である。

SHc27 (第 55 図)

V 区東端部北寄りの第 3 検出面上で検出した住居跡である。周辺には SHc21・22・25、SKc37、SDc10・19 等が隣接する。

平面は削平を受けて残りが悪く、不明である。床面上では中央土坑 1 基と、建て替えによるものか、二組の主柱穴跡列が確認できる。これを、仮に主柱穴跡列①主柱穴跡列②に区分する。

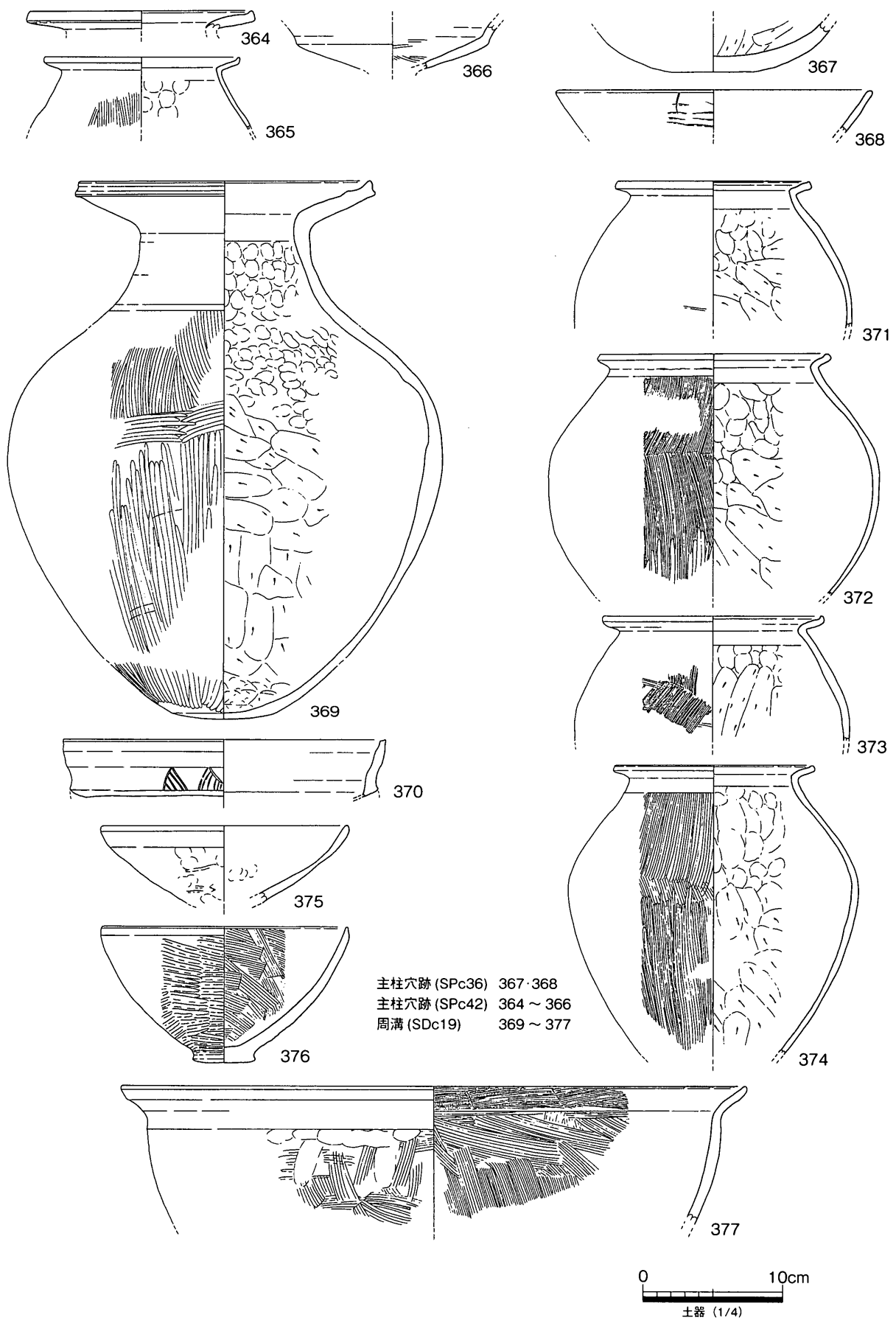
主柱穴跡列①に含まれる柱穴跡は、直径 3.2 m の円内に五角形状に配された、SPc13・17・21・23・28 である。平面形は円形ないし不整円形を呈し、柱間は長辺 2.3 m、短辺 1.7 m、径 0.35～0.6 m、深さ 0.15～0.3 m を測る。なお、SPc17 は主柱穴跡列②の柱穴跡とも重複しており、2 基の柱穴跡の先後関係が認められる。



第56図 SHc28・SDc19平・断面図

主柱穴跡列②に含まれる柱穴跡は、直径約3.5mの円内に五角形状に配された、SPc16・17・22・24・30である。平面形は円形ないし不整形円形を呈し、柱間は長辺2.7m、短辺1.7m、径0.25～0.45m、深さ0.1～0.2mを測る。主柱穴跡列の前後関係については、柱穴跡の先後関係が不明瞭なため不明である。

中央土坑SPc18は床面の中央付近に位置する。平面は不整形な楕円形状呈し、断面は逆台形状をする。長径0.8m、短径0.4m、深さ約0.2mを測る。



第 57 図 SHc28・SDc19 出土遺物

SHc27の遺物は少なく、図化できるものとしては、中央土坑 SPc18 から出土した 362・363 の弥生土器である。362 は櫛描文を顕著に施した壺の頸部である。363 は高杯の脚部で、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。

SHc28、SDc19 (第 56・57 図)

整理作業の途上で確認した竪穴住居跡である。V 区東部の VI 区際の第 3 検出面上の住居跡で、約半分が調査区より外れるため、住居跡の東半部を検出した。周辺には SHc21・22、SKc38、SDc19 等が隣接する。なお、SDc19 はこの住居跡から約 5.0 m 隔て、住居跡の外周を周るように配されており、SHc28 に伴う周溝の可能性が高い。

平面は削平を受けて残りが悪く、不明である。床面上では主柱穴跡 4 基と中央土坑 1 基を確認できる。

柱穴跡は、長径 5.6 m の楕円内に六角形状に配された、6 基の主柱穴跡が想定できるが、その内 SPc36・40・42 と VI 区内の柱穴跡 1 基の 4 基を検出した。平面形は円形ないし楕円形を呈し、柱間は長辺 2.7 m、短辺 2.0 m、径 0.25～0.7 m、深さ 0.15～0.25 m を測る。

中央土坑 SPc35 は床面の中央付近に位置する。平面は不整形円形状呈し、断面は逆台形状をする。直径約 0.5 m、深さ約 0.1 m を測る。

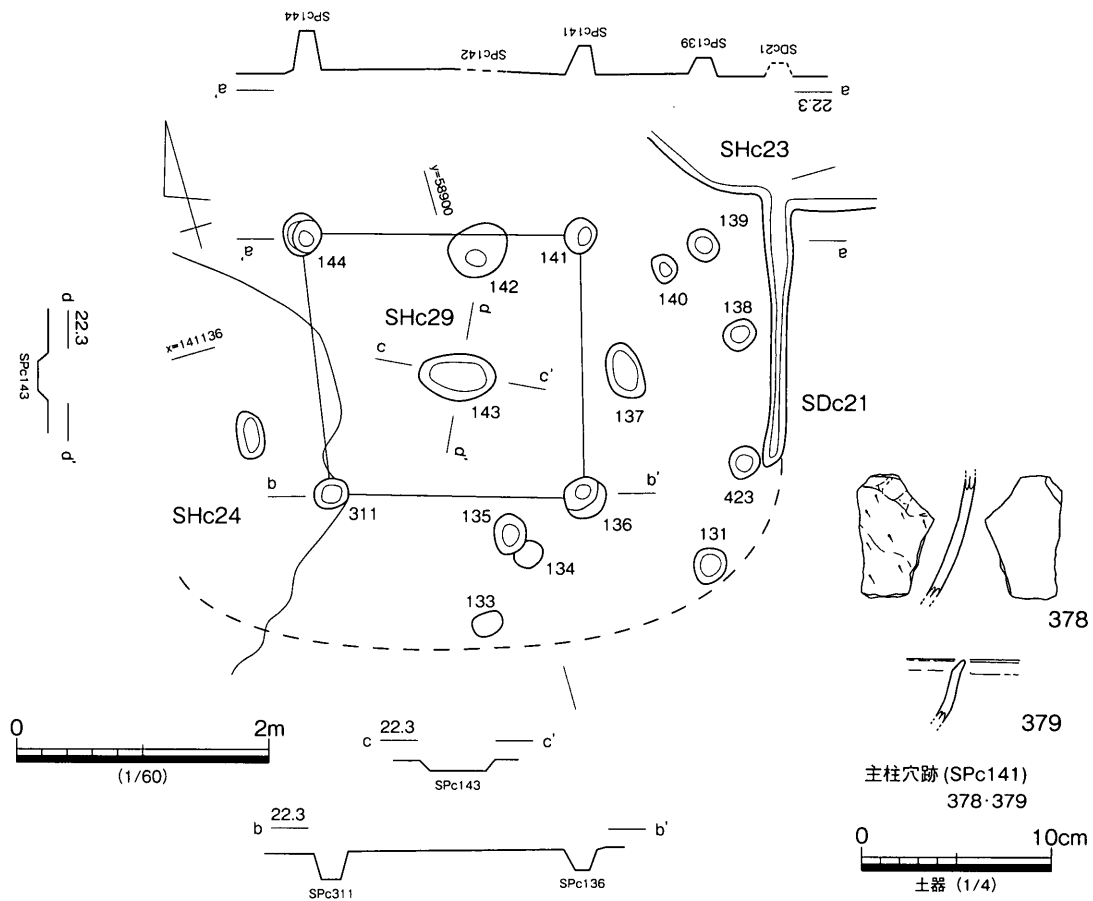
SDc19 は先述したように、SHc28 の外周を周る周溝状の遺構である。SHc28 から約 5.0 m 隔てた区域を、直径約 17.0 m の円形に周る溝状遺構である。西半部が調査区より外れるため、東半部を検出した。平面形は凹凸が多い不整形な形状を呈し、幅は 0.5～1.5 m を測り、断面は地点により異なるが、概ね上位が幅広で、下位が不整形な U 字状ないし深鉢状を呈し、深さ約 0.15～0.2 m を測る。埋土は単層で黒色系の粘質土を呈する。なお、この溝の中間地点では溝が途切れる区域があり、通路として掘り残した可能性がある。

SHc28 からは弥生時代終末期頃に当る、364～368 の弥生土器が出土した。364～366 は SPc42 から出土した土器である。364 は広口壺の口縁部、365 は甕の上半部である。両者とも形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。366 は高杯の杯部の底部である。367・368 は SPc36 から出土した土器である。367 は壺の底部、368 は鉢の口縁部である。

SDc19 からは弥生時代後期後半～終末期頃に当る、369～377 の弥生土器と石器が出土した。369 は広口壺である。口縁部はくの字状に外反し、端部は平坦に仕上げている。体部の最大径は上位に位置し、底部は丸底気味の平底である。この土器は形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。370 は複合口縁の壺の口縁部で、外面には鋸歯文を施している。371～374 は甕の上半部である。372 の口縁部は、くの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり下半部へ続く。形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。374 は底部を欠く甕である。口縁部は、くの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり、下半部へ続く。形状及び胎土からこの土器も、香東川下流域産の土器と考えられる。375～377 は鉢である。377 は大型の鉢で、口縁部はくの字状に外反し、端部は丸く仕上げている。

SHc29 (第 58 図)

V 区中央部の第 3 検出面上で検出した竪穴住居跡である。周辺には SHc18・23・24、SKc45、SDc21



第 58 図 SHc29 平・断面図、出土遺物

等が隣接し、SHc23・24 とは重複する。SHc23・24 との前後関係については不明瞭であるが、これらの住居跡より先行する可能性がある。なお、SDc21 は南北方向に延びる細い溝状遺構であり、住居跡の東辺を画する壁溝と考えられる。

平面は削平を受けて不明瞭であるが、SDc21 の形状から、隅丸方形の形態が推定できる。床面上では主柱穴跡 4 基と中央土坑 1 基を検出した。

壁溝は東辺部で確認した。直線状にはほぼ南北方向へ延びており、検出した長さ 2.1 m、幅 0.15 ~ 0.2 m、深さ 0.2 m を測る。

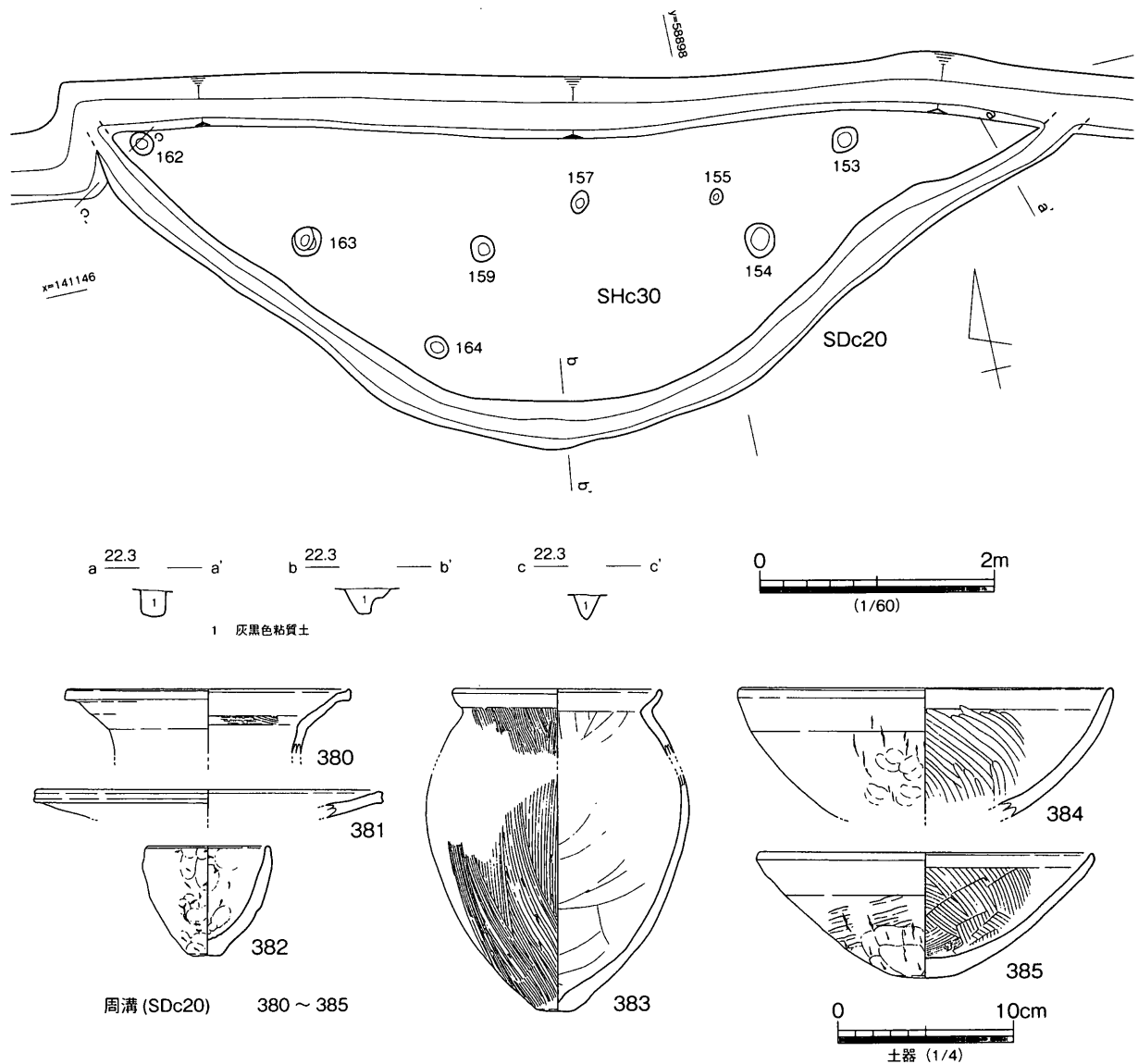
主柱穴跡は四角形状の配置を呈し、SPc136・141・144・311 の 4 基を確認した。平面形は円形を呈し、柱間は長辺 2.2 m、短辺 2.0 m を測る。柱穴跡の直径は 0.25 ~ 0.3 m、深さ 0.2 ~ 0.3 m を測る。

中央土坑 SPc143 は床面の中央に位置する。平面は楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径 0.6 m、短径 0.4 m、深さ約 0.1 m を測る。

SHc29 からは、主柱穴跡 SPc141 から 378・379 の弥生土器が出土した。378 は甕の体部片で、胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。379 は鉢の口縁部片である。

SHc30、SDc20 (第 59 図)

整理作業の途上で確認した住居跡である。V 区西半部の北辺の調査区外に、所在が予想される住居跡である。この住居跡の西には SHc31 の周溝状遺構 SDc22 が所在する。



第 59 図 SHc30・SDc20 平・断面図、出土遺物

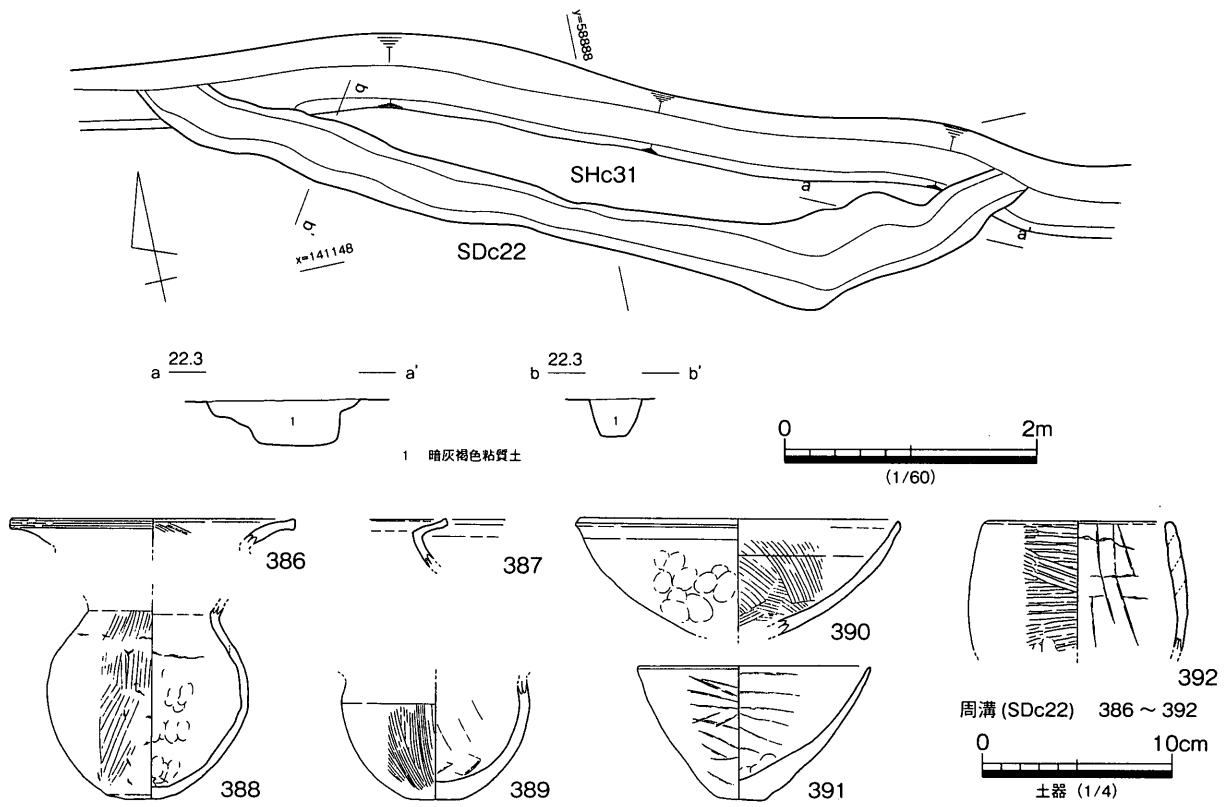
住居跡は調査区より外れるため、外周を周る周溝状遺構のみを検出した。SHc30 に伴う周溝状遺構が SDc20 である。この溝状遺構は SDc22 の東に位置し、南に向かって外湾し、周溝状遺構の南端部付近を検出したものと考えられる。断面は地点によって異なり、V 字状、U 字状、逆台形状等の形状差がある。埋土は単層で灰褐色粘質土で、検出した長さ約 12.5 m、幅 0.2 ~ 0.4 m、深さ約 0.2 m を測る。

SDc20 からは弥生時代後期後半~終末期頃に当る、380 ~ 385 の弥生土器が出土した。380・381 は広口壺の口縁部である。381 は胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。383 は甕である。384・385 は鉢である。

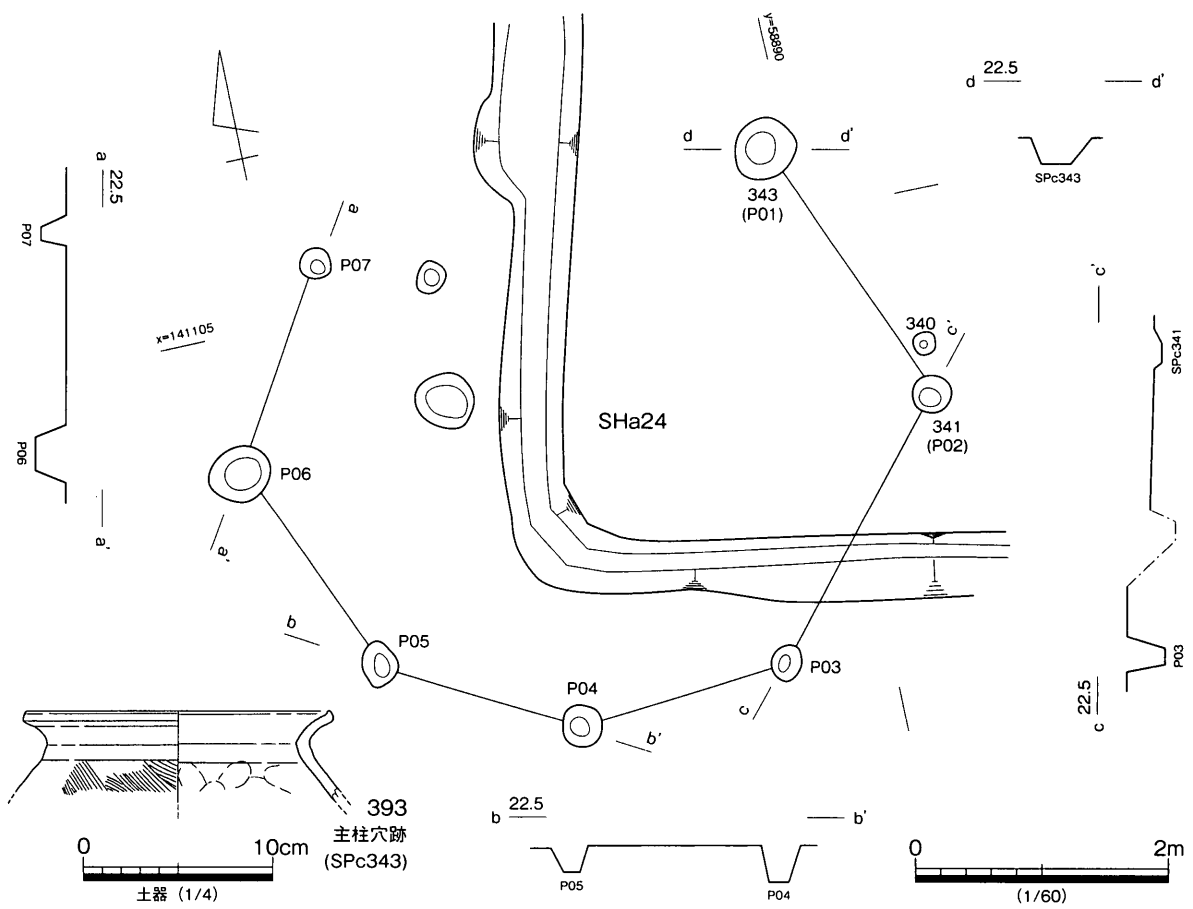
SHc31、SDc22 (第 60 図)

SHc30 同様に整理作業の途上で確認した住居跡である。この住居跡は先述したように、SHc30 の西に位置し、住居跡は調査区より外れるため、外周を周る周溝状遺構のみを検出した。

SHc31 に伴う周溝状遺構が SDc22 である。この溝状遺構は SDc20 の西に位置し、南に向かって外湾し、



第 60 図 SHc31・SDc22 平・断面図、出土遺物



第 61 図 SHa24 平・断面図、出土遺物

SDc20 同様に周溝状遺構の南端部付近を検出したものと考えられる。埋土は単層で暗灰褐色粘質土である。検出した長さ約 7.5 m、幅 0.3 ～ 0.7 m、深さ約 0.3 m 以上を測る。

SDc22 からは弥生時代後期後半～終末期頃に当る、386 ～ 392 の弥生土器が出土した。386・387 は甕の口縁部である。387 は胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。388 ～ 392 は鉢である。

SHa24 (第 61 図)

IV 区南西端部と III 区の第 3 検出面上に位置し、SHc20 の南に位置し、整理作業の途上で確認した竪穴住居跡である。

平面は削平を受けて残りが悪く不明であるが、おそらく円形を呈する竪穴住居跡と考えられる。床面上では 7 基の支柱穴跡を確認した (註 3)。

支柱穴跡は、直径 5.3 m の円内に八角形状に配されたと考えられるが、1 基を欠く 7 基の支柱穴跡を確認した。SPc341・343 と III 区の P03 ～ 07 である。平面形は円形ないし不整形円形を呈し、柱間は 2.3 ～ 1.7 m、柱穴跡の直径は 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.15 ～ 0.3 m を測る。

SHa24 の遺物は僅かで、図化できるものとしては、支柱穴跡 SPc343 から出土した、393 の弥生時代後期後半頃の甕口縁部のみである。

2. 柵列跡

SAC01 (第 62 図)

IV 区南西部の第 3 検出面上で検出した柵列跡である。周辺には SXc01・02、SHc05・09 等が隣接している。柵列跡は 4 間 (7.2m) の構造で、柱間は 1.5 ～ 2.2 m を測る。主軸方位は北から 51° 東に向く。柱穴跡は円形を呈し、柱穴跡の直径約 0.3 m、深さ 0.15 ～ 0.35 m を測る。

SAC02 (第 62 図)

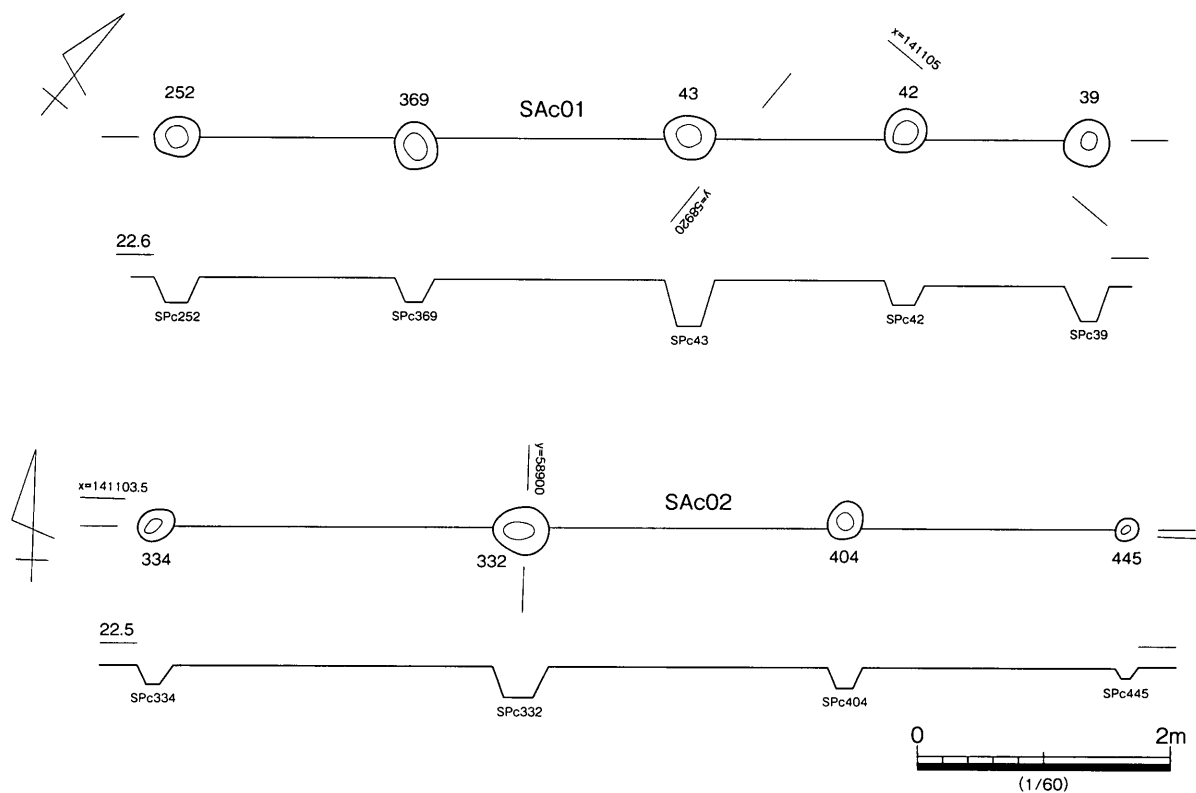
IV 区中央の南部の第 3 検出面上で検出した柵列跡である。SAC02 の北には SHc11 が隣接する。柵列跡は 3 間 (7.7m) の構造で、柱間は 2.2 ～ 2.9 m を測る。主軸方位は北から 88° 東に向く。柱穴跡は円形を呈し、柱穴跡の直径は 0.2 ～ 0.45 m、深さ約 0.1 ～ 0.25 m を測る。

3. 井戸跡

SEc01 (第 63 ～ 65 図)

V 区東部の第 3 検出面上で検出した井戸跡である。先述したように SEc01 は、南に位置する SHc06 の周溝 SDc10 の北辺に接している。また、周辺は他の部分と異なり、不整形な落ち込み状の形状を呈し、多量の遺物が出土している。その、北辺部の落ち込み状の遺構の東辺にこの井戸が位置する。なお、この遺構は定型的な井戸跡と捉えるより出水状の遺構と考えられる。

平面は不整形な円形状を呈し、断面は浅い椀状を呈する。長径 1.55 m、短径 1.3 m、深さ 0.3 m を測る。埋土は 3 層に分かれるが、上層に当る 1 層は周囲の落ち込み状遺構からの流れ込みによるもので、この井戸跡の本来の埋土は、2・3 層である。1・2 層は黒色系の粘質土で、最下層に当る 3 層は暗灰色系の



第 62 図 SAc01・02 平・断面図

砂質土である。1層の下位からは土器溜り状の遺構を検出した。

SEc01 からは弥生時代後期後半～終末期に当る、394～434の弥生土器と石器が出土した。

394～401は広口壺である。395・396は形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。397の頸部の下端にはヘラ描列点文を巡らせ、ヘラ状工具により記号文を施している。402は長頸壺の頸部と体部上半部である。403は複合口縁の壺の口頸部である。404・405は細頸壺の口縁部と体部片である。いずれも、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。

407～416は甕である。407～410は甕の上半部で、形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。411～415は形状も類似し、412を除き、外面にタタキを残している点で類似している。

417は形状より小型の器台に分類した。

418～422は高杯である。418は杯部の口縁部、419は杯部の底部、420は杯部と脚部の接合部、421は脚台部である。いずれの高杯も形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。

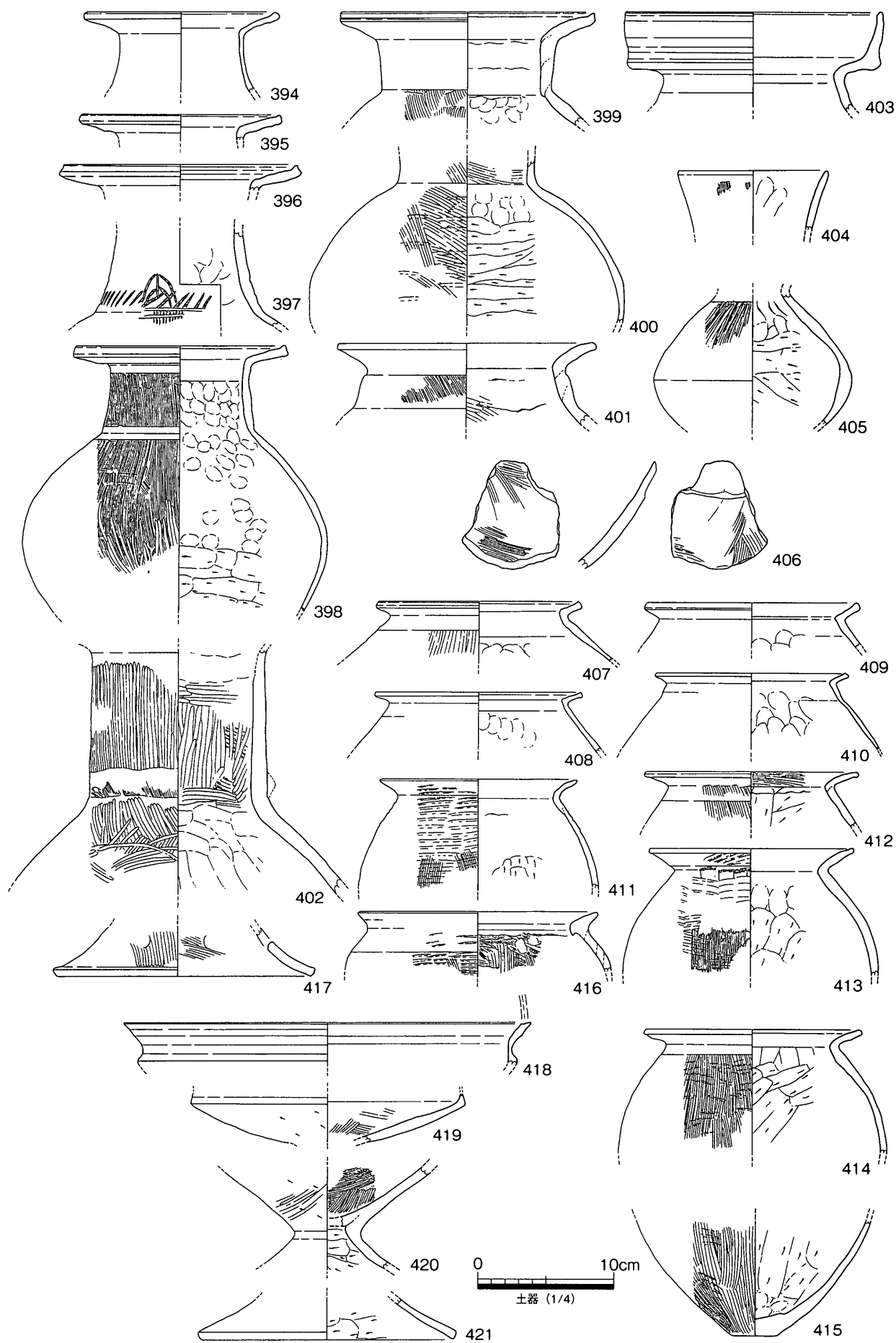
406・423～430は鉢である。406は焼成破裂痕がある鉢の体部片である。431は長胴気味の有孔鉢である。432は壺の底部片で、焼成破裂痕が認められる。

433は脚台付製塩土器の脚台部である。僅かに残る体部の外面にはヘラケズリを残し、その形状から推定して、体部は膨らみをもつ長胴状の形状を呈するものと考えられる。

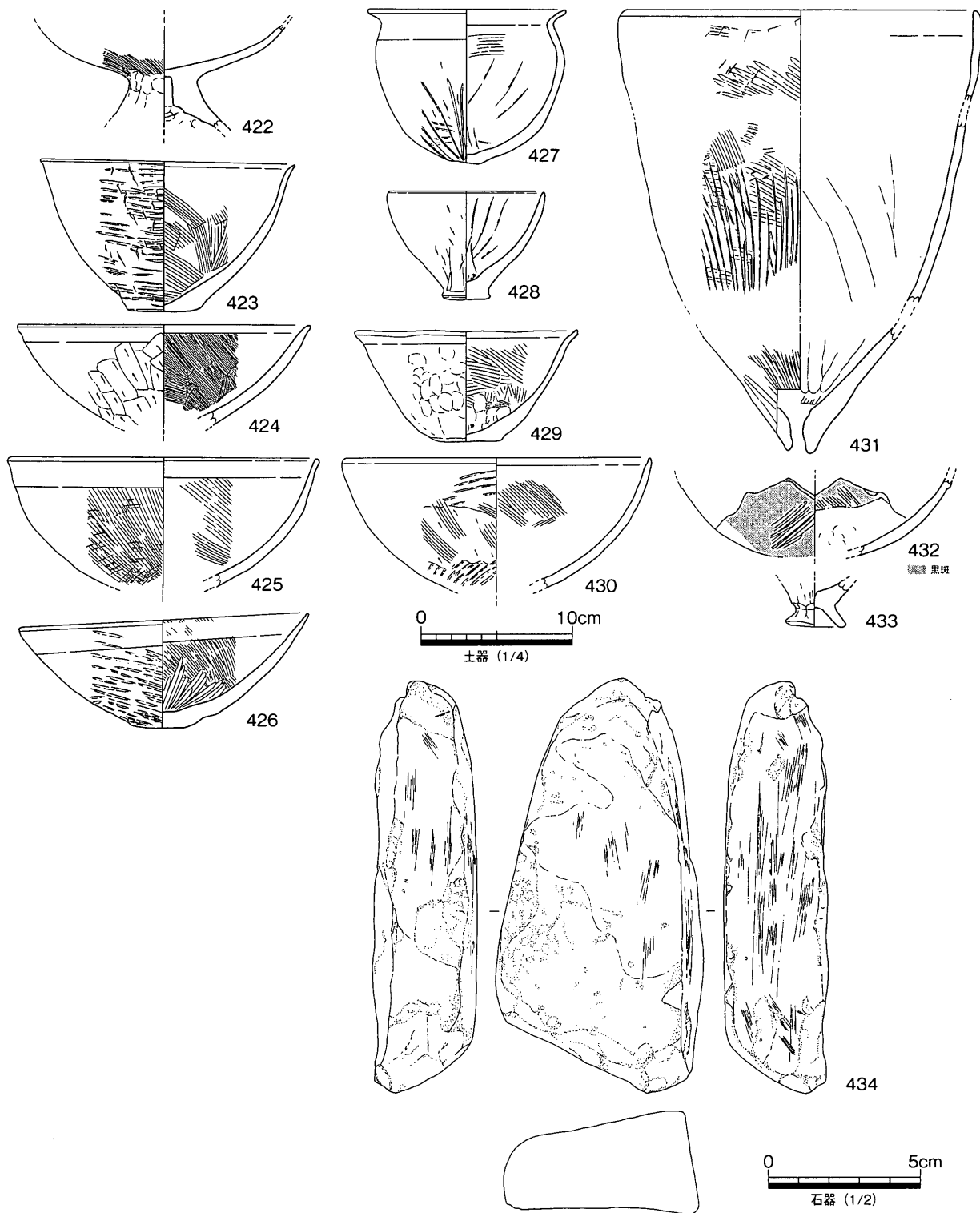
434は砂岩製の砥石である。



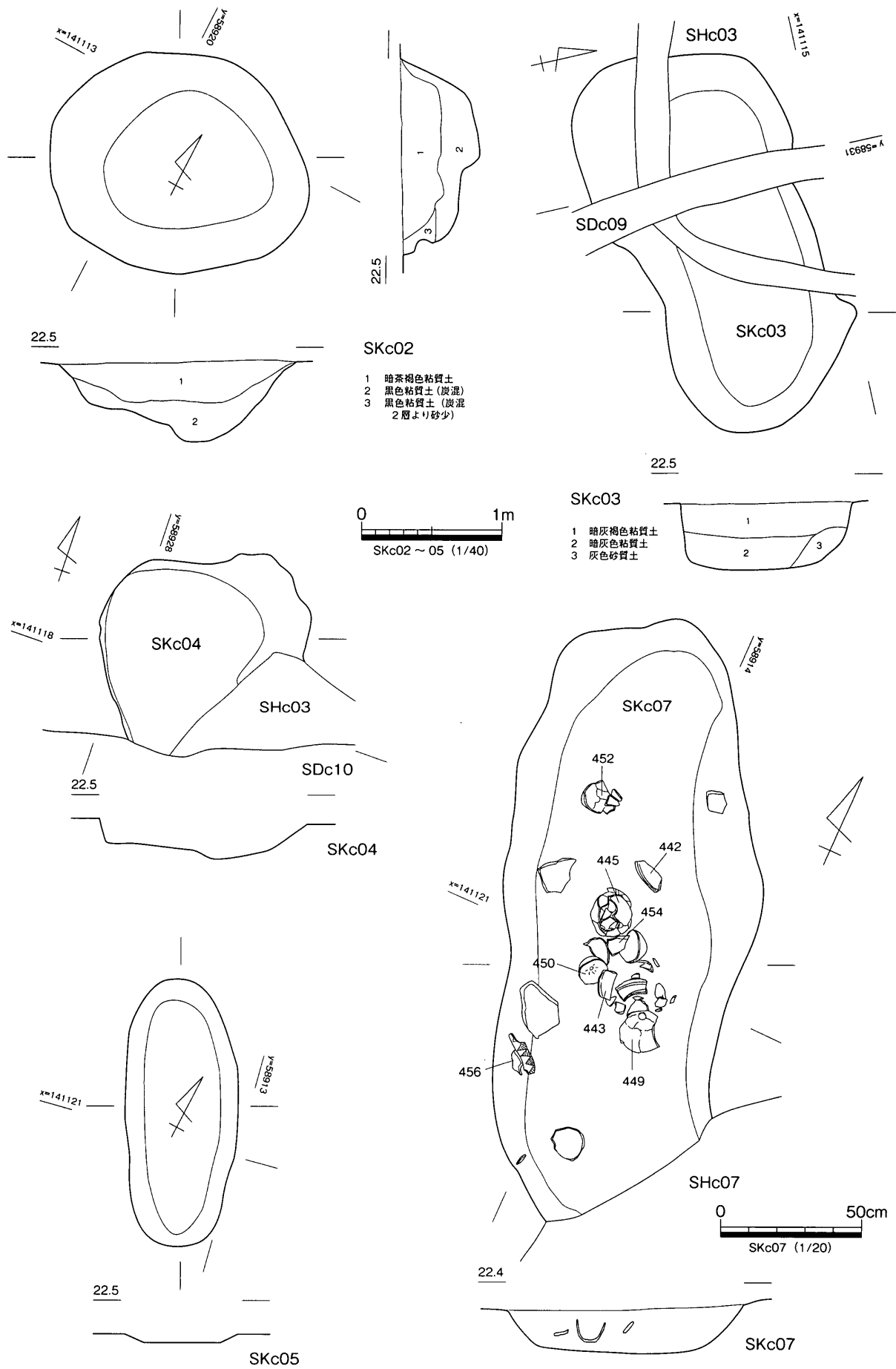
第 63 図 SEc01 平・断面図



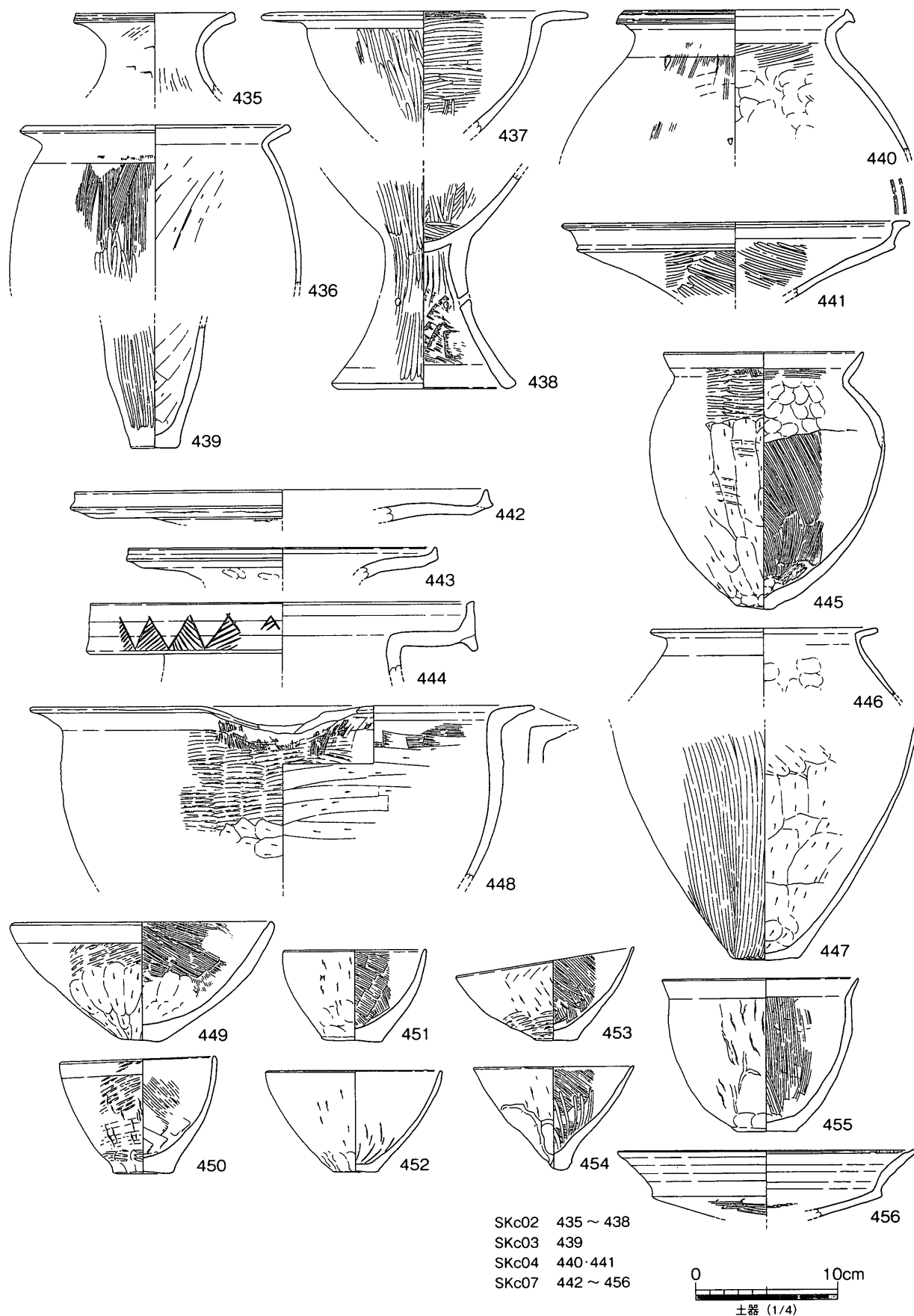
第 64 図 SEc01 出土遺物 (1)



第 65 図 SEc01 出土遺物 (2)



第 66 図 SKc02・03・04・05・07 平・断面図



第 67 図 SKc02 · 03 · 04 · 07 出土遺物

4. 土坑

SKc02 (第 66・67 図)

Ⅳ区東端部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc03・05、SKc03 等が隣接する。平面は不整形な円形状を呈し、断面は二段掘り方の逆台形状を呈する。長径 1.9 m、短径 1.55 m、深さ 0.55 m を測る。埋土は 3 層に分かれ、概ね上層が暗茶褐色系の粘質土で、下層が炭化物を含んだ黒色系の粘質土である。

SKc02 からは弥生時代中期中葉頃に当る、435～438 の弥生土器が出土した。

435 は広口壺の口頸部である。436 は甕の上半部である。437 は西瀬戸内系の高杯の杯部である。438 は台付鉢の脚部である。

SKc03 (第 66・67 図)

Ⅳ区東端部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc02・03、SKc02、SDc09 等が隣接し、この土坑は SHc03 と SDc09 に壊されている。

平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈し、断面は幅広の U 字状を呈する。長径 2.7 m、短径 1.2 m、深さ 0.45 m を測る。埋土は 3 層に分かれ、概ね暗灰色系の粘質土が主体を占める。

SKc03 の遺物は少なく、図化できるものでは 439 の弥生土器の口縁部を欠く鉢が挙げられる。

SKc04 (第 66・67 図)

Ⅳ区東端部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc03・04、SDc10 等が隣接し、この土坑は SHc03 に壊されている。

平面は SHc03 に壊されているため不明瞭な点が多いが、不整形な楕円形状を呈するものと考えられる。断面は幅広の逆台形状を呈する。長径 1.5 m、短径 1.0 m 以上、深さ 0.3 m を測る。

SKc04 からは弥生時代後期前半古相に当る、440・441 の弥生土器が出土した。

440 は甕の上半部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。441 は高杯の杯部である。

SKc05 (第 66 図)

Ⅳ区東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc05・07、SKc07 等が隣接し、この土坑は、西に隣接する SHc05 の方向に向きを揃えるように配されている。

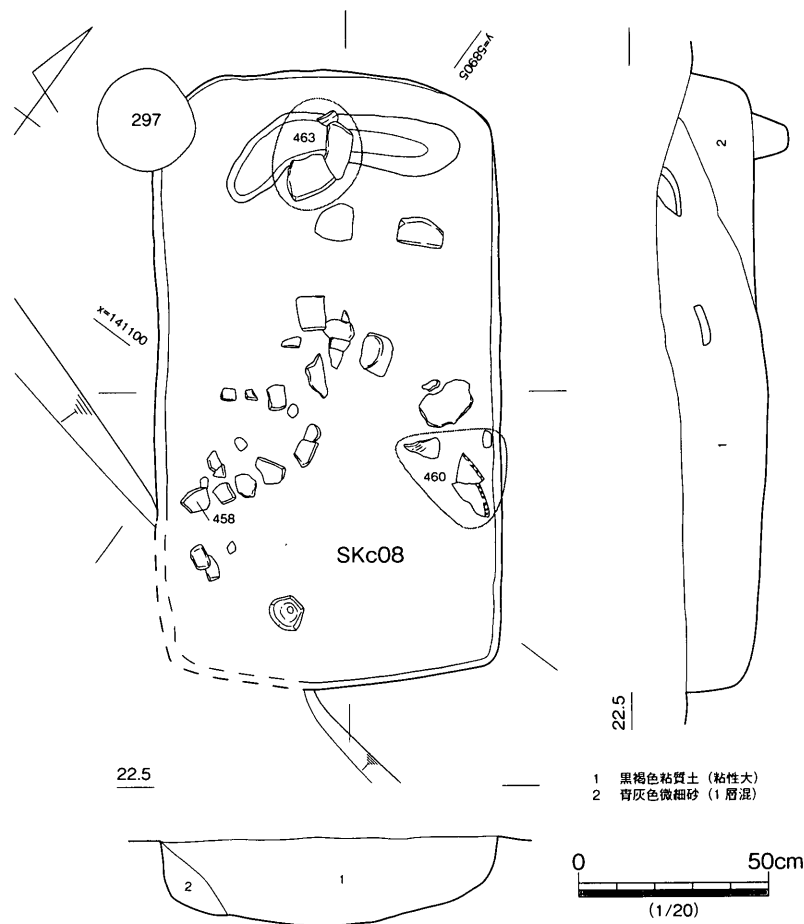
この土坑は削平を受け、残りが悪い。平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な長円形を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径 1.9 m、短径 0.8 m、深さ 0.05 m を測る。

SKc07 (第 66・67 図)

Ⅳ区東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc07・08、SKc05 等が隣接し、この土坑は南端部を SHc07 に壊されている。

平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な長円形を呈し、断面は隅丸の逆台形状を呈する。長径 2.1 m 以上、短径 0.8 m、深さ 0.15 m を測る。埋土からは多量の遺物が出土している。

SKc07 からは弥生時代後期後半頃に当る、442～456 の弥生土器が出土した。



第 68 図 SKc08 平・断面図

442・443は広口壺の口縁部である。444は複合口縁の壺で、口縁部の外周には鋸歯文を巡らしている。445～447は甕である。446・447は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。448は大型の片口鉢である。449～455は鉢である。456は高杯の杯部で、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。

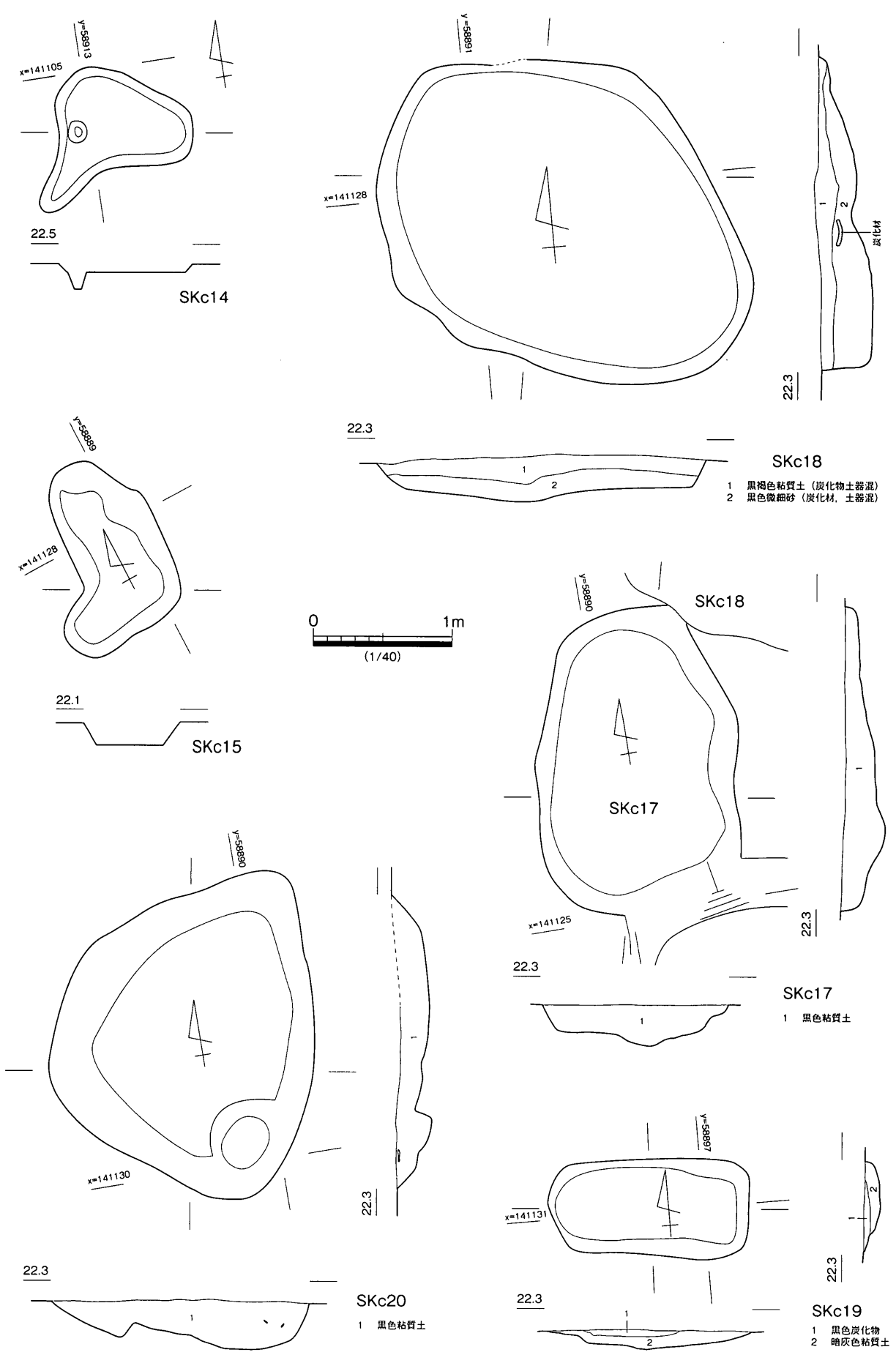
SKc08 (第 68・70 図)

IV区中央南端の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc09・11、SAc02等が隣接している。平面は北西方向の中心軸をもつ隅丸長方形を呈し、底部は比較的平坦であるが、北端部が細長く部分的に窪んでいる。断面は隅丸で幅広のU字状を呈する。長径1.6m、短径0.9m、深さ0.25mを測る。埋土は2層に分かれるが、黒褐色粘質土が主体を占める。なお、この土坑は形状から墓の可能性はあるが、認定するには資料不足である。

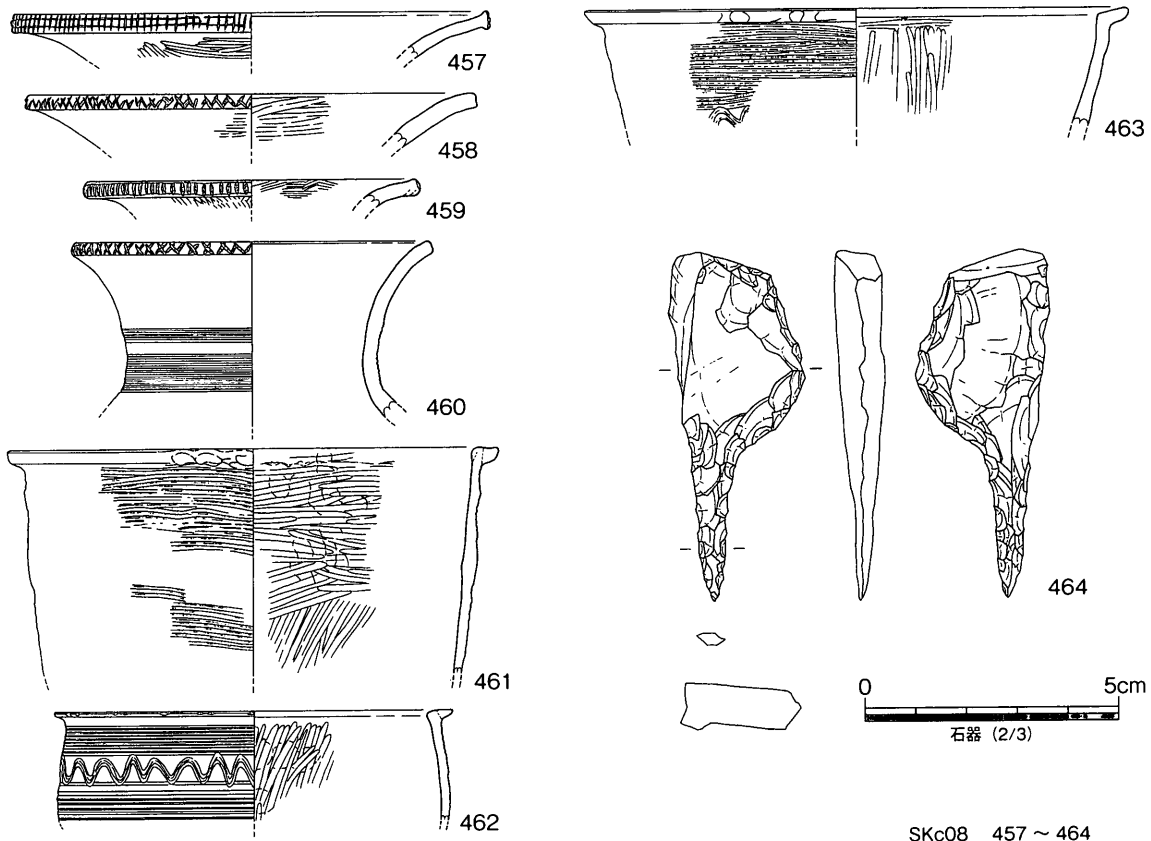
SKc08からは弥生時代中期前半頃に当る、457～463の弥生時代の土器と石器が出土した。

457～460は広口壺の口縁部ないし口頸部である。460の頸部には櫛描直線文を顕著に施している。461～463は口縁部に突帯を貼付ける瀬戸内型甕である。462は櫛描直線文及び波状文を顕著に施している。

464はサヌカイト製の石錐である。

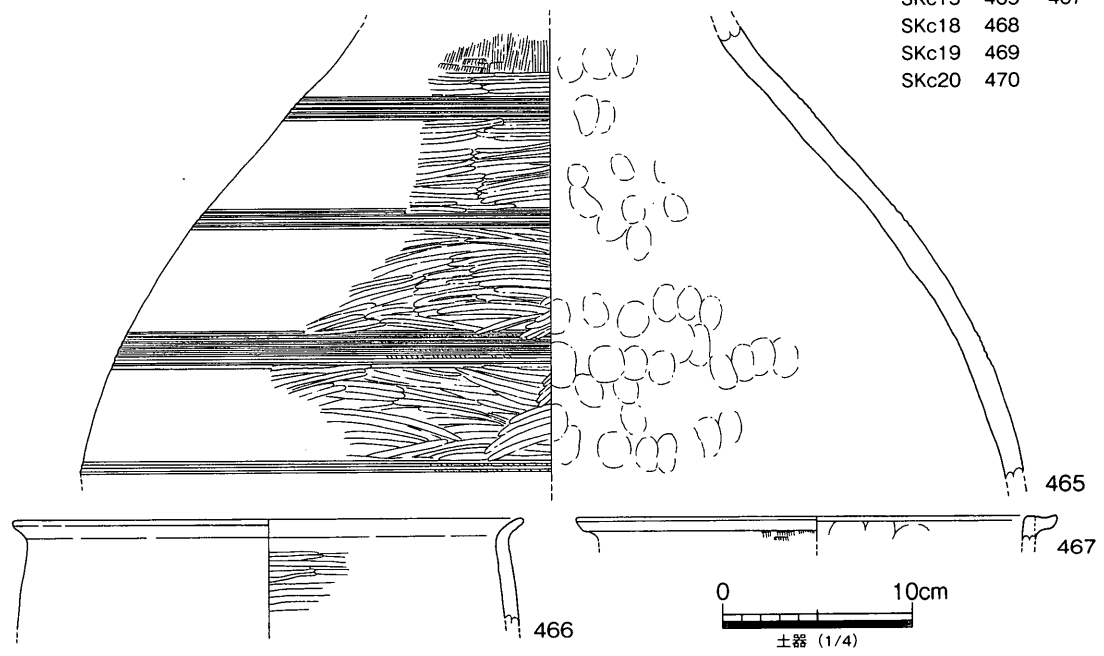


第 69 図 SKc14・15・17～20 平・断面図

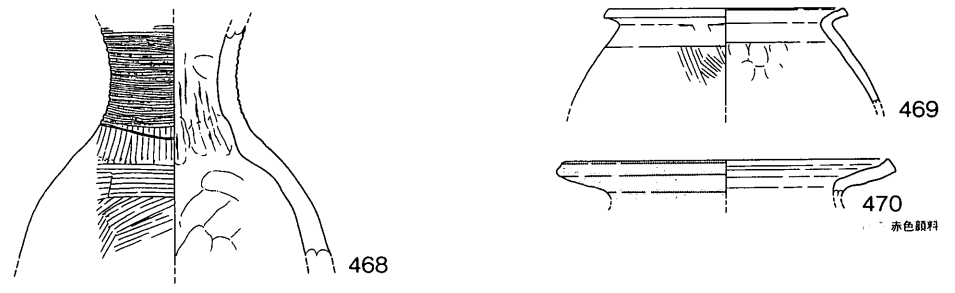


0 5cm
石器 (2/3)

- SKc08 457 ~ 464
- SKc15 465 ~ 467
- SKc18 468
- SKc19 469
- SKc20 470



0 10cm
土器 (1/4)



第70図 SKc08・15・17・19・20 出土遺物

SKc14 (第 69 図)

IV区南半部中央の第3検出面上で検出した土坑である。周辺には西方にSHc09等が隣接する。

平面はくの字状に曲がった不整形な楕円形状を呈し、底部にピット状の窪みがある。断面は浅い皿状を呈する。長径1.2 m、短径0.7 m、深さ0.1 mを測る。

SKc15 (第 69・70 図)

IV区北東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSKc15・17・18・20、SXc11・06・07等が隣接している。

平面はくの字状に曲がった不整形な楕円形状を呈し、断面は隅丸の逆台形状を呈する。長径1.3 m、短径0.7 m、深さ0.15 mを測る。

SKc15からは弥生時代中期前半頃に当る、465～467の土器が出土した。465は大型壺の体部上半部である。外面には櫛描直線文を顕著に施している。466・467は甕である。467は口縁部に突帯を貼付ける瀬戸内型甕の口縁部である。

SKc17 (第 69・70 図)

IV区北東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSKc15・18・28、SDc14等が隣接している。

平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は凹凸を有す深皿状を呈する。長径2.2 m、短径1.3 m、深さ約0.3 mを測る。埋土は単層で黒褐色粘質土を呈する。

SKc18 (第 69 図)

IV区北東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSKc15・17・28等が隣接している。

平面は不整形な円形状を呈し、底部は平坦気味ながら凹凸がある。断面は浅いU字状を呈する。長径2.9 m、短径2.0 m、深さ約0.3 mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上層が炭化物を含んだ黒褐色粘質土、下層が黒色微細砂である。

SKc18の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代中期前半頃に当る、468の細頸壺が挙げられる。

SKc19 (第 69・70 図)

IV・V区境界中央の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc18・24、SKc28等が隣接している。

平面は東西方向の中心軸をもつ隅丸長方形形状を呈し、断面は不整形な浅い皿状を呈する。長径1.45 m、短径0.7 m、深さ0.15 mを測る。埋土は2層に分かれ、上層が黒色炭化物層、下層が暗灰色粘質土である。形状より住居跡の中央土坑の可能性がある。

SKc19の遺物は僅かで、図化できるものとしては、469の弥生後期後半頃の甕の上半部が挙げられる。なお、この土器は形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。

SKc20 (第 69・70 図)

IV区北東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc24、SKc15・18等が隣接している。

平面は不整形な円形状を呈し、底部は凹凸が顕著で、南端部に窪みがある。断面は凹凸がある不整形な皿状を呈する。長径2.4 m、短径1.9 m、深さ約0.35 mを測る。埋土は単層で黒褐色粘質土である。

SKc20の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代後期後半頃に当る、470の弥生土器の壺口縁部が挙げられる。なお、この土器は形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。また、外面に赤色顔料を塗布している。

SKc22 (第 71 図)

IV区東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc14・15・16等が隣接し、この土坑はSHc15を掘り込んでいる。

平面は東西方向の中心軸をもつ長楕円形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径1.2 m、短径0.5 m、深さ0.15 mを測る。埋土は単層で、焼土、炭化物を多量に含んだ暗灰色粘質土である。形状より削平を受けた住居跡の中央土坑の可能性はある。

SKc23 (第 71・73 図)

IV区中央部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc09・10・11・19等が隣接する。

平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な長楕円形を呈し、断面は幅広で隅丸の逆台形状を呈する。長径2.85 m、短径1.05 m、深さ0.3 mを測る。埋土からは多量の遺物が出土している。

SKc23からは弥生時代後期後半～終末期に当る、471～481の弥生土器が出土した。

471・472は広口壺の口縁部と口頸部である。472は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。また、この土器の外面には、赤色顔料を塗布している痕跡が認められる。473は短頸壺の口縁部である。474・475は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる、甕の上半部ないし口縁部である。476は口縁部を欠く小型壺、477は高杯の脚部である。478～481は鉢である。

SKc25 (第 71 図)

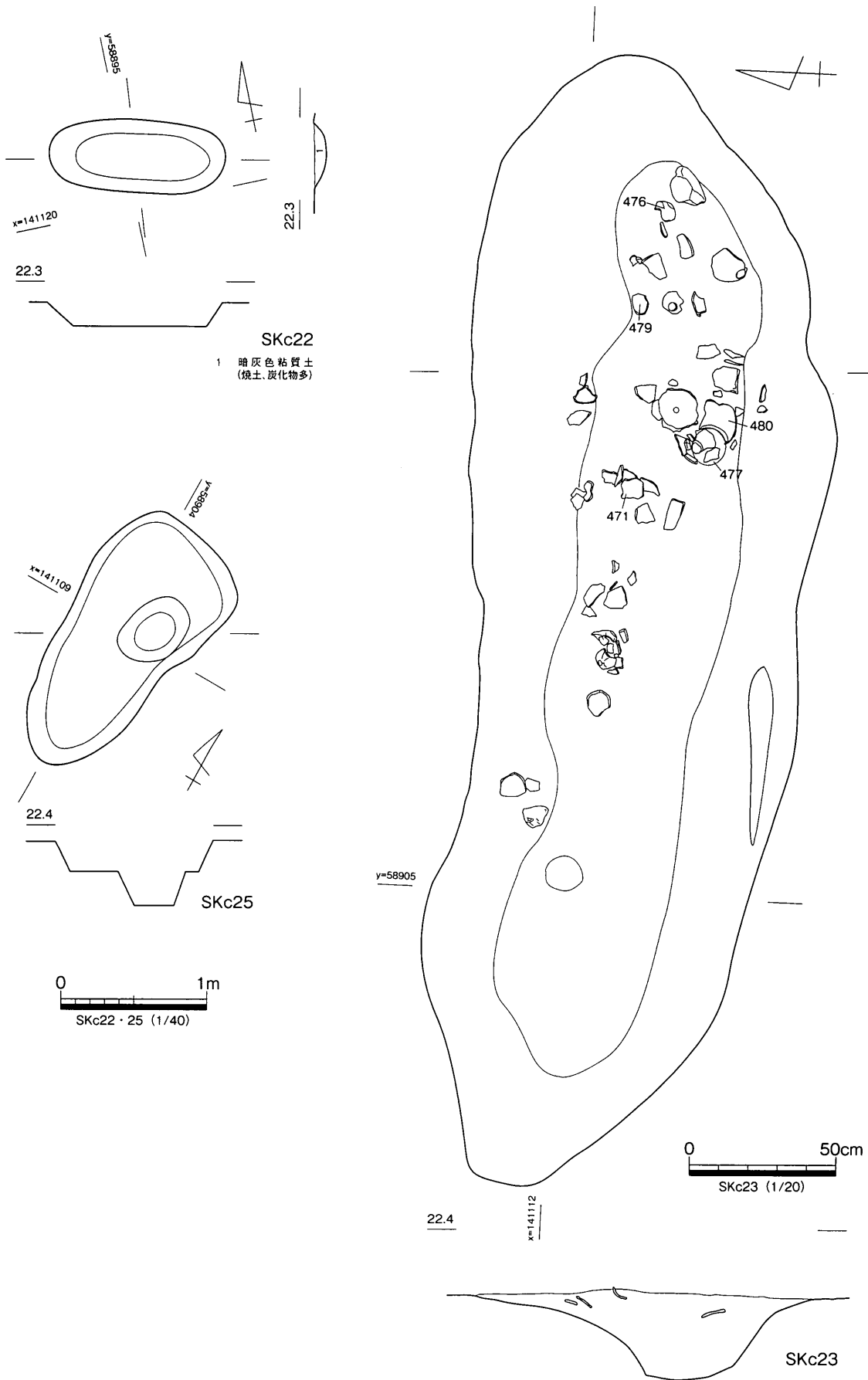
IV区中央部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc09・11、SKc23等が隣接する。なお、この土坑はSHc11と接するが、先後関係は確認できない。

平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈し、底部にピットが検出された。ピットを含めた断面は二段掘り方の逆台形状を呈する。長径1.9 m、短径0.8 m、深さ0.45 mを測る。

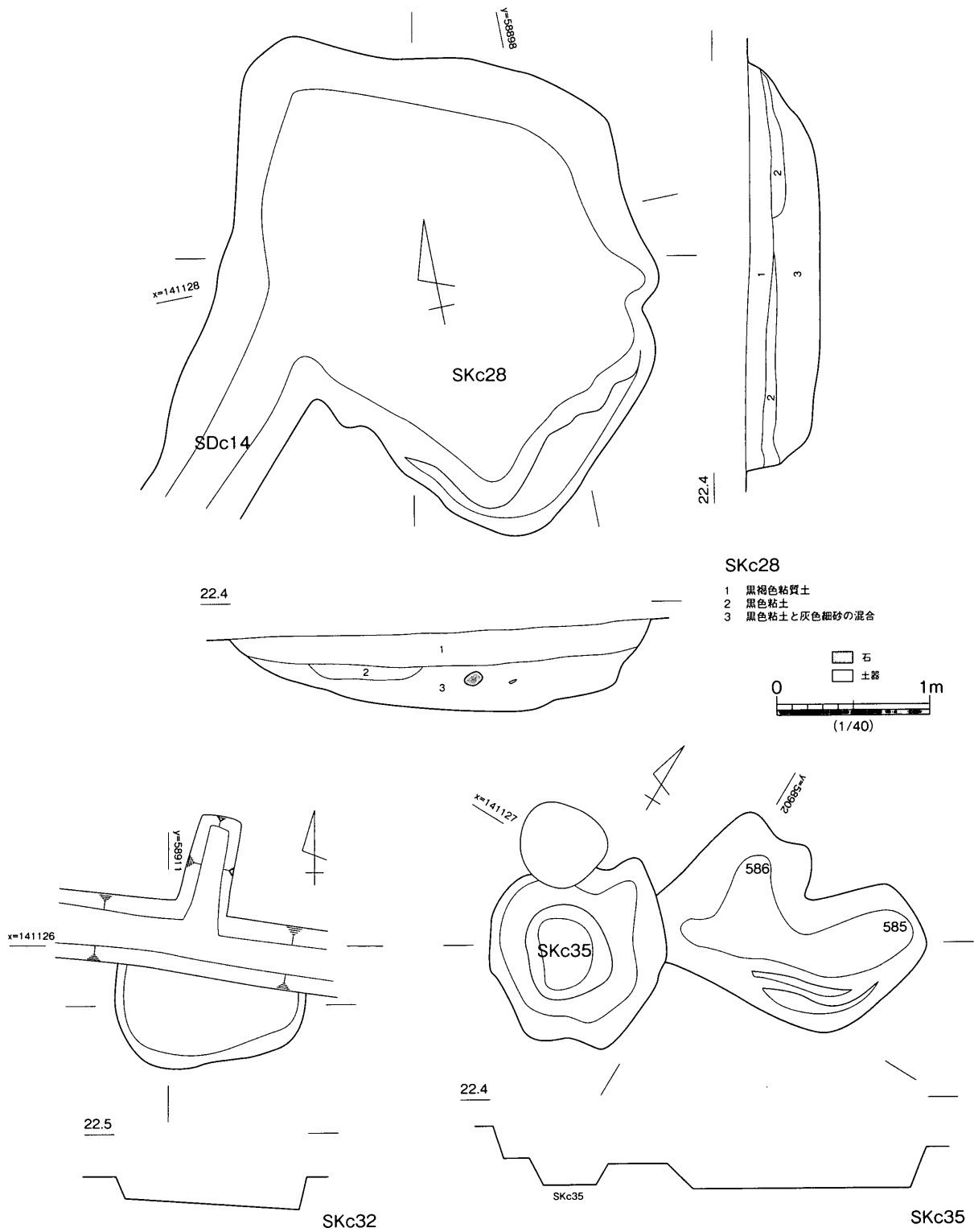
SKc28 (第 72・73 図)

IV区東部北端の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc16・17・18、SKc19等が隣接する。なお、この土坑の東辺からはSDc14が派生し南西方向へ流下しているため、この土坑は出水状の遺構と判断される。

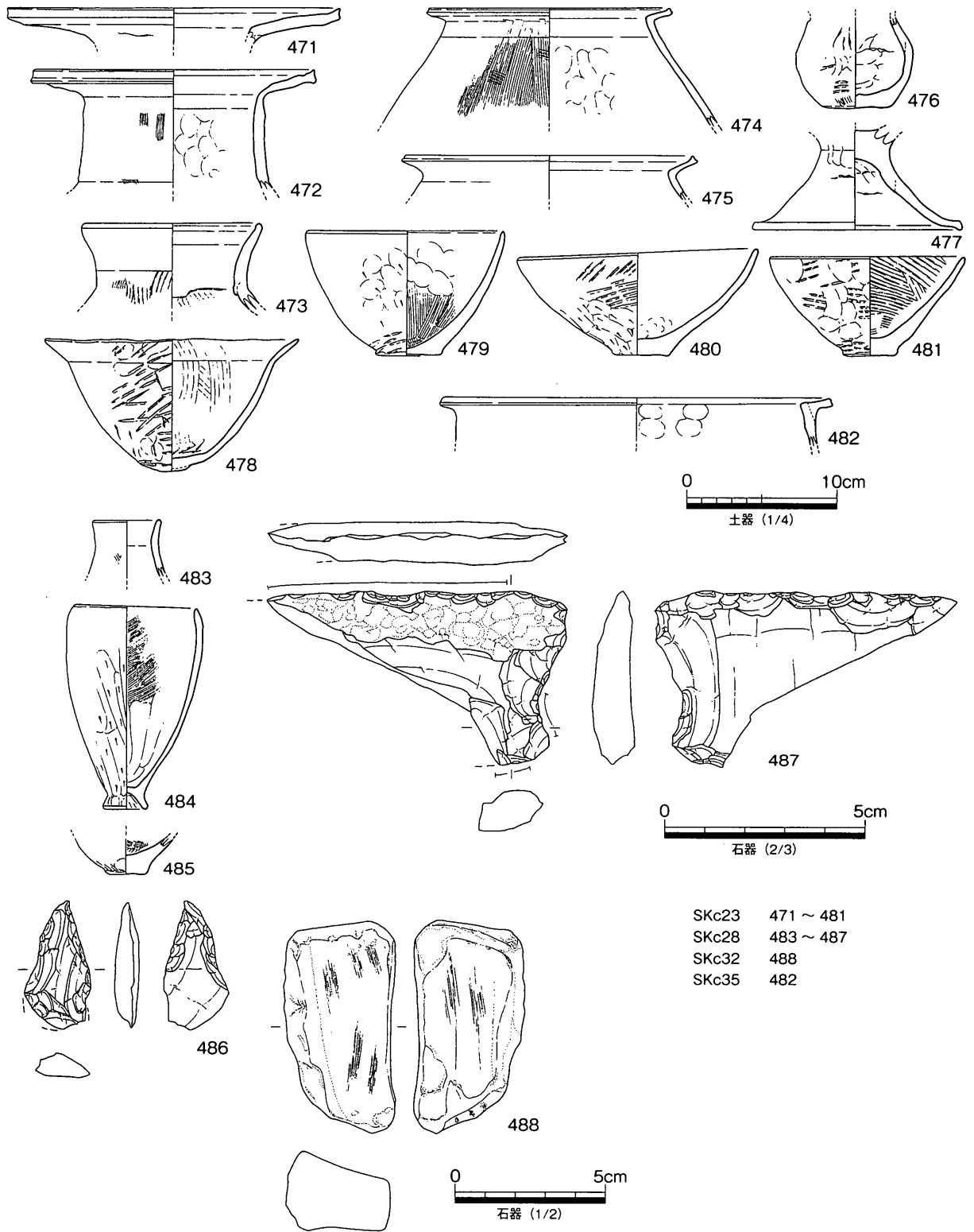
平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な多角形状を呈し、断面は幅広の深皿状を呈する。長径3.6 m、短径2.5 m、深さ0.55 mを測る。埋土は3層に分かれ、上層に当る1・2層は黒色系の粘質土、下層に



第71図 SKc22・23・25平・断面図

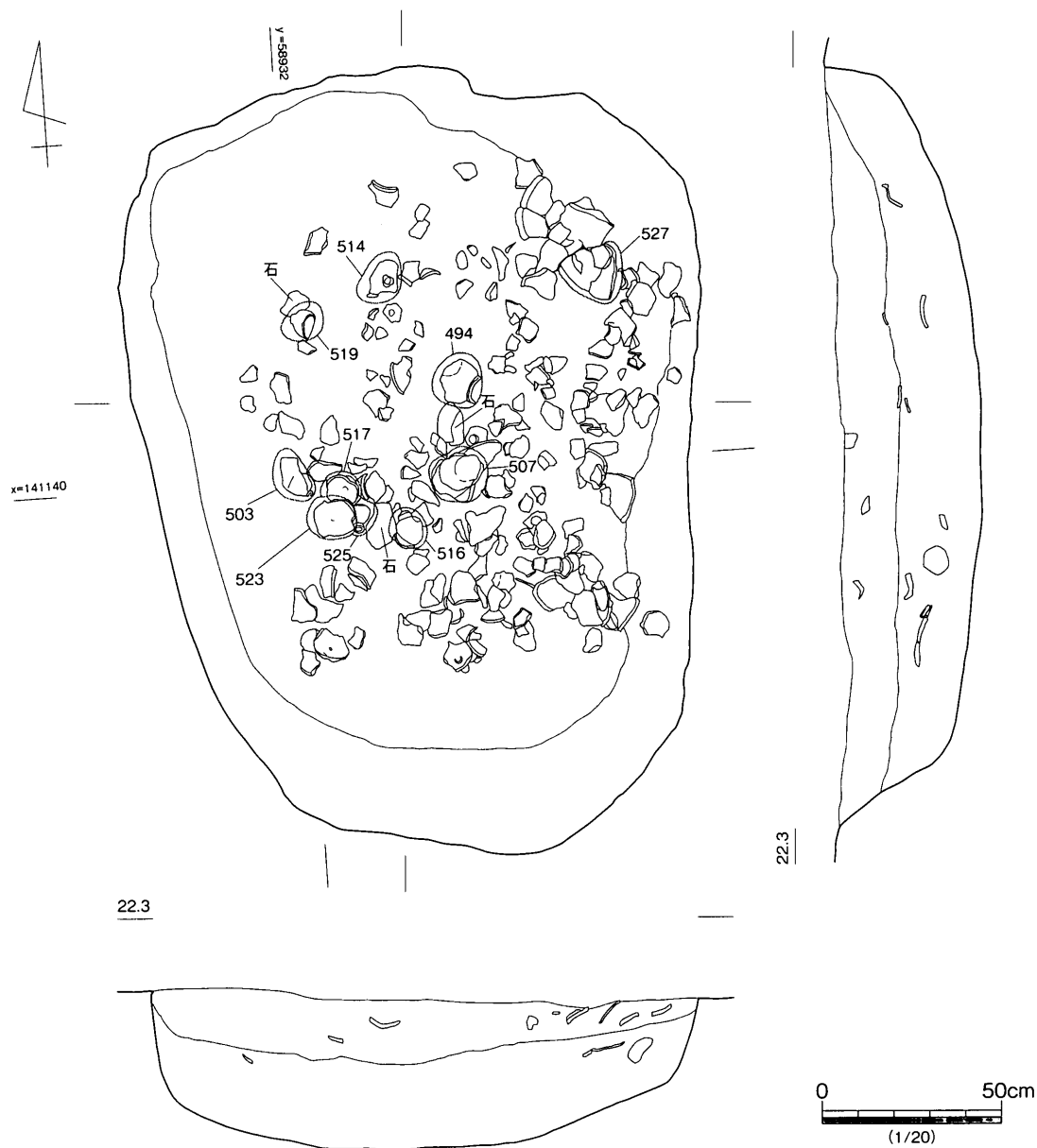


第 72 図 SKc28・32・35 平・断面図



SKc23 471 ~ 481
SKc28 483 ~ 487
SKc32 488
SKc35 482

第73図 SKc23・28・32・35 出土遺物



第 74 図 SKc37 平・断面図

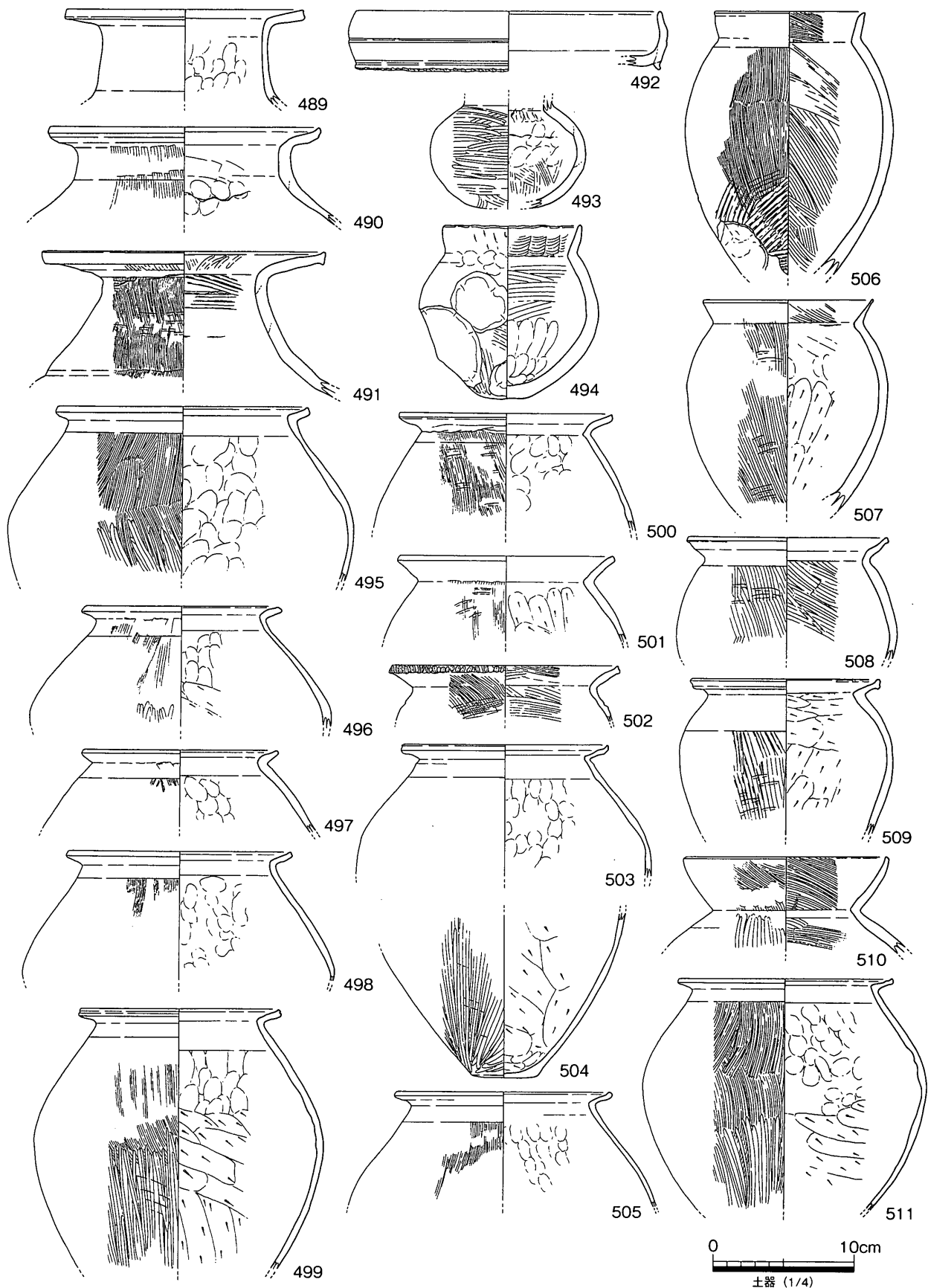
当る 3 層は黒色粘土と灰色細砂の混合層である。

SKc28 からは弥生時代後期後半頃に当る、483 ~ 487 の弥生土器と石器が出土した。

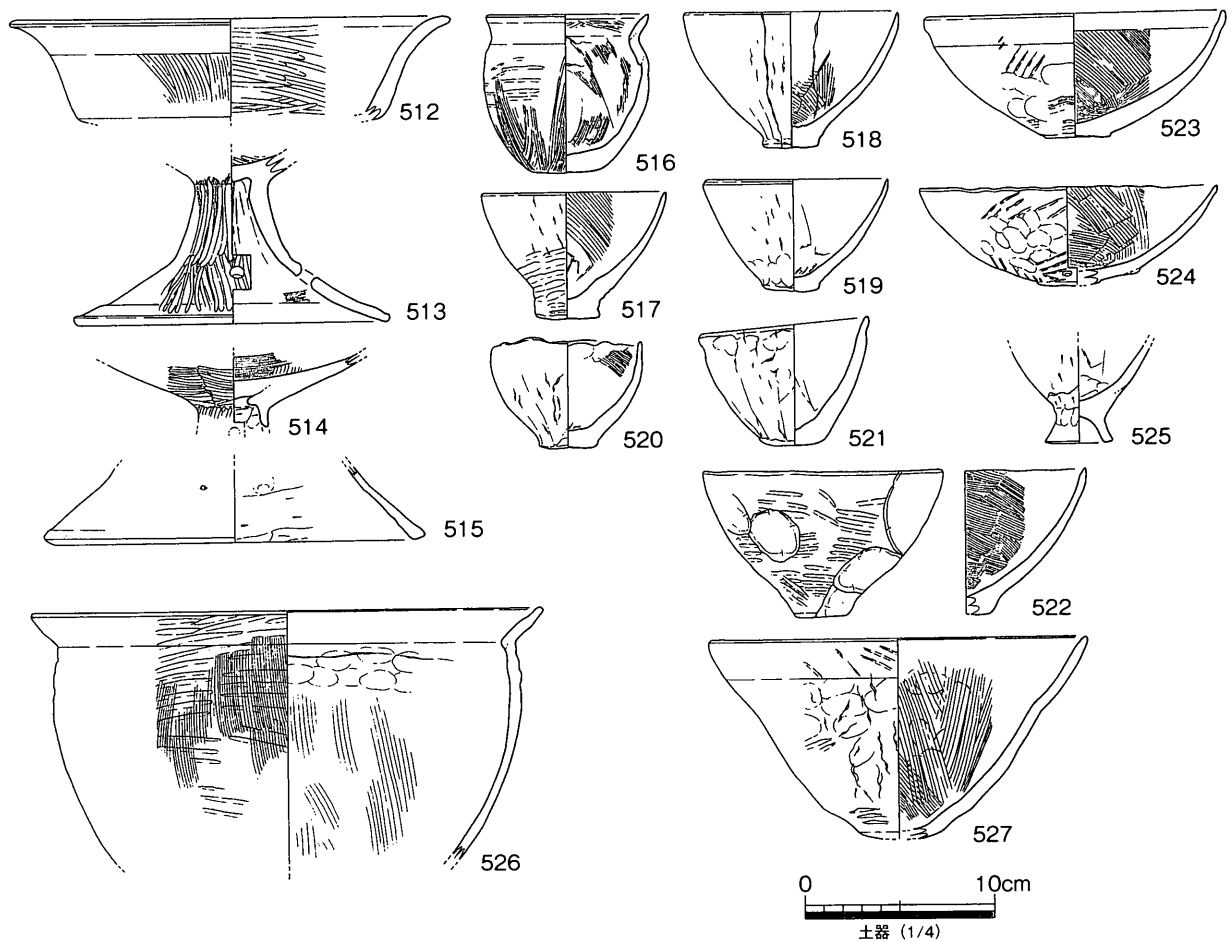
483 は小型の短頸壺の上半部である。484 は弥生時代後期後半新相頃の脚台付製塩土器である。製塩土器は破片で出土することが多いが、この土器はほぼ完形に近く希少な遺物である。体部はやや膨らみを持ち、下半部はヘラケズリを施し、脚台部は小型である。内面の上半部にはハケを施している。

485 は小型の鉢の底部である。

486 はサヌカイト製の石鏃である。487 は約 1/2 を欠くサヌカイト製の打製石庖丁である。表皮に近い部分を素材にしているため、素材面を残している。刃部には潰れ痕を顕著に残している。



第75図 SKc37 出土遺物 (1)



第76図 SKc37 出土遺物(2)

SKc32 (第72・73図)

IV区中央北端の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc08・12・13等が隣接する。

北半部が側溝により失われているため不明瞭な点があるが、平面は南北方向の中心軸をもつ不整形な円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径1.25m、短径0.6m以上、深さ0.2mを測る。

SKc32の遺物は僅かで、図化できるものとしては、488の砂岩製の砥石が挙げられる。

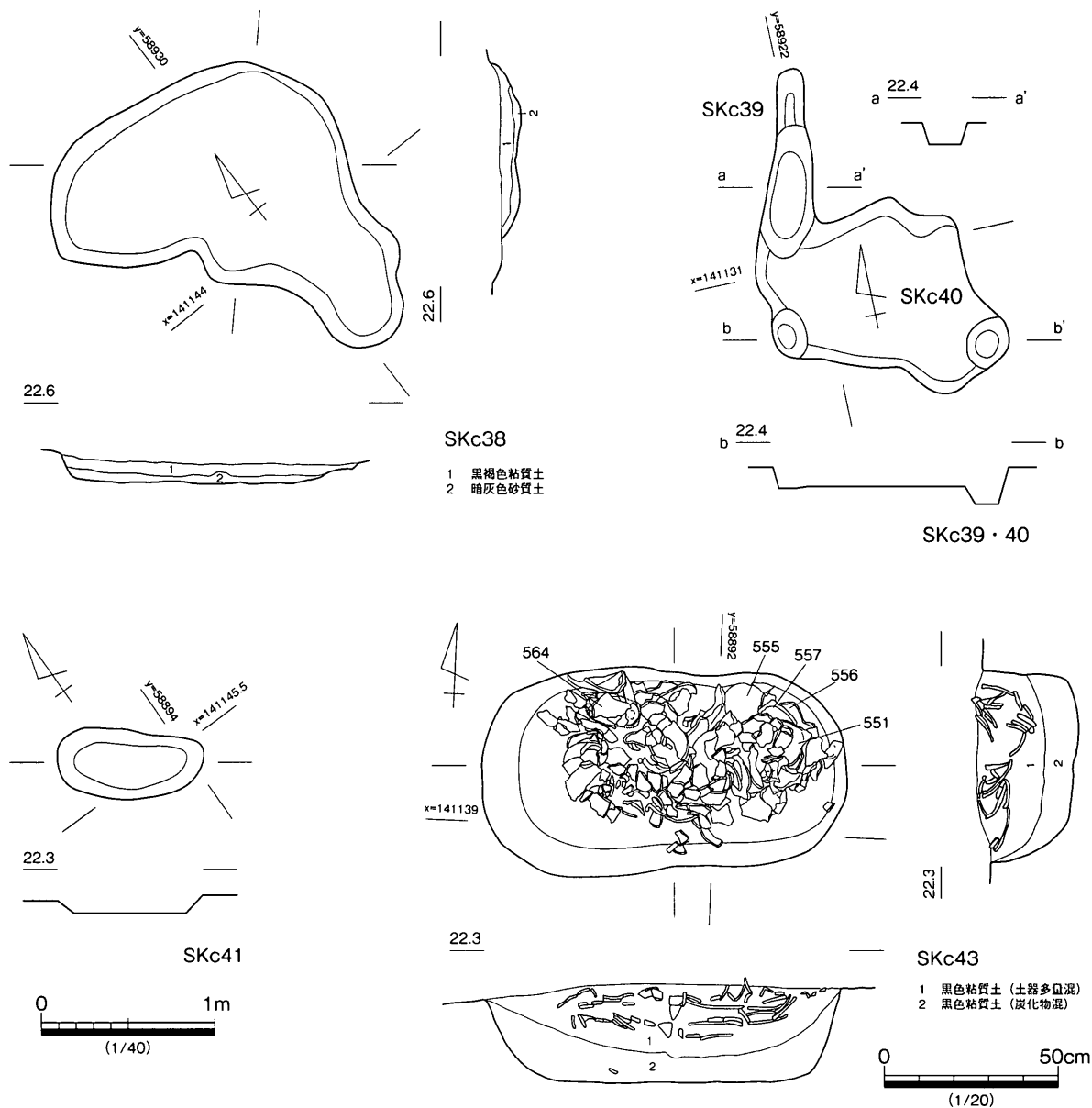
SKc35 (第72・73図)

IV区中央北端の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc12・16・18、SKc28等が隣接する。

東辺に不整形な落ち込みと接していて、本来先後関係があるものと考えられるが不明瞭である。平面は不整形な円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径1.35m、短径1.15m、深さ0.2mを測る。

SKc37 (第74～76図)

V区東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc27、SHc06の周溝状遺構SDc10、SHc28の周溝状遺構SDc19等が隣接している。なお、この土坑は、形状がSEc01と類似することから出水状の遺構の可能性が高い。

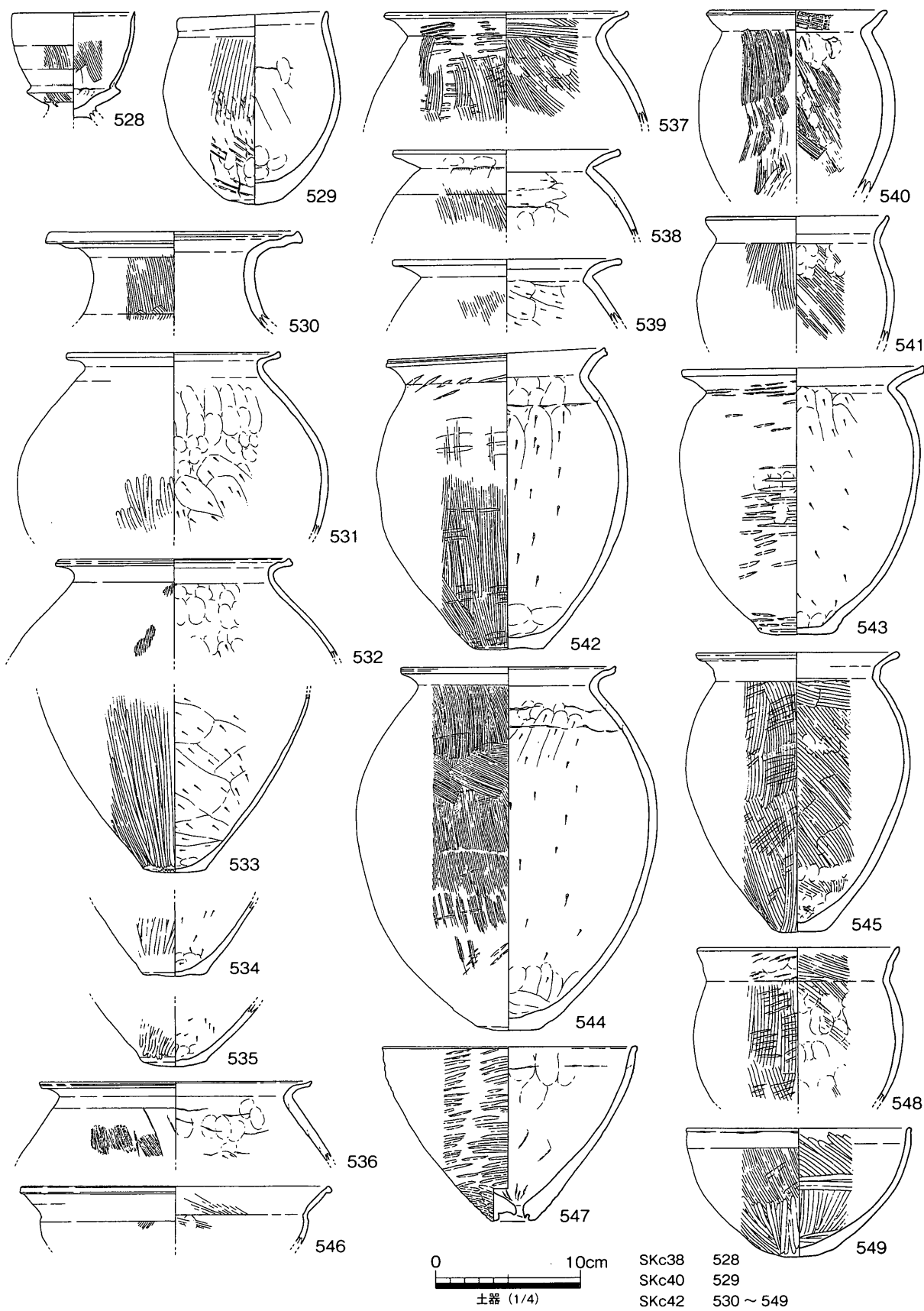


第 77 図 SKc38・39・40・41・43 平・断面図

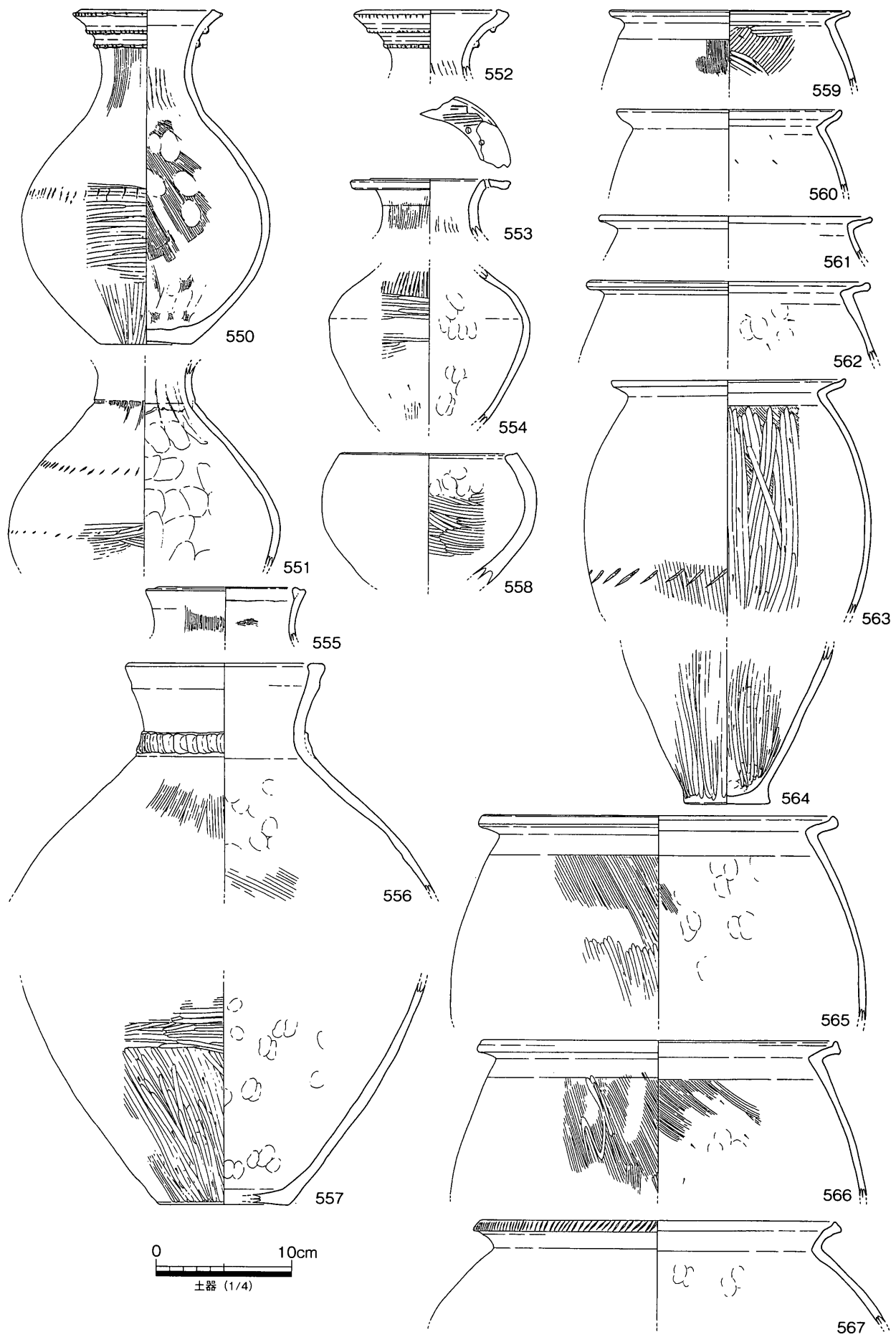
平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。長径 2.2 m、短径 1.5 m、深さ 0.4 m を測る。埋土は上下 2 層に分かれ、上層から下層にかけて多量の遺物が出土した。

SKc37 からは弥生時代後期後半～古墳時代前期前半に当る、489～527 の弥生土器、土師器が出土した。

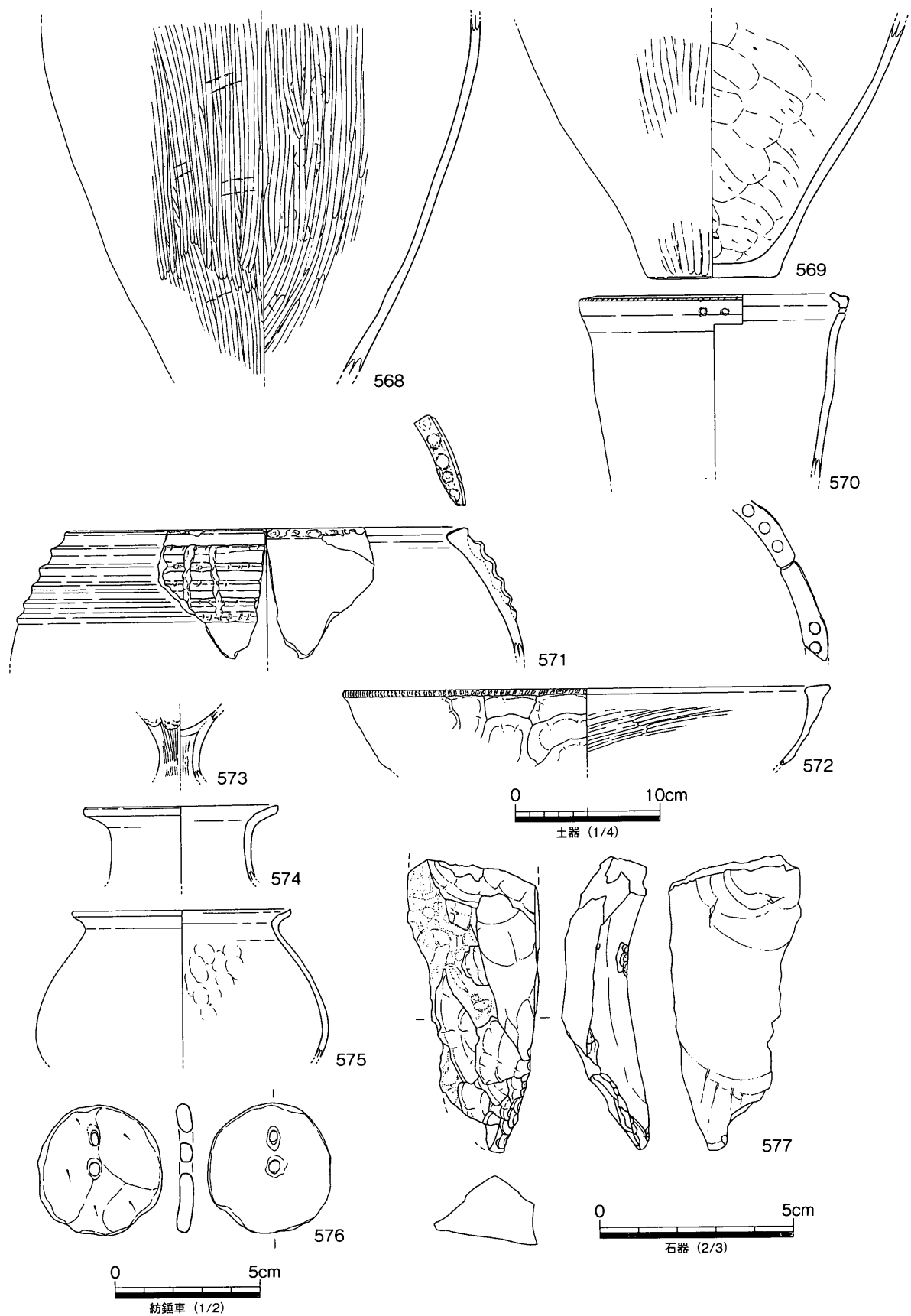
489～491 は広口壺の口頸部である。492 は複合口縁の壺である。493 は古式土師器の壺の体部である。494 は鉢で、焼成破裂土器である。495～511 は甕である。495～499・503・505・511 は形状が類似した甕の上半部である。口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり下半部へ続く。おそらく下半部は 504 の様な形状を呈するものと考えられる。調整も類似し、外面の上半部はハケ、下半部はヘラミガキ、内面の上半部は指オサエ、下半部はヘラケズリを顕著に施している。これらの中で、495・496・498・499・504・505・511 は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。506 の底部には焼成破裂痕が認められる。



第 78 図 SKc38・40・42 出土遺物



第 79 図 SKc43 出土遺物 (1)



第 80 図 SKc43 出土遺物 (2)

510は土師器の壺の上半部である。512～515は高杯である。512は土師器の高杯杯部である。口縁部は逆ハの字状に外反し、端部は尖り気味に仕上げている。513・515は高杯の脚部である。514は杯部の底部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。516～524・526・527は鉢である。522の体部には焼成破裂痕が認められる。525は脚台付製塩土器の下半部である。

SKc38 (第77・78図)

V区東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc28、SHc06の周溝状遺構SDc10、SHc28の周溝状遺構SDc19等が隣接し、この遺構はSHc28の周溝状遺構SDc19の圏内に位置する。

平面は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、断面は幅広の浅い皿状を呈する。長径2.1m、短径1.2m、深さ0.15mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上層は黒褐色粘質土、下層は暗灰色砂質土を呈する。

SKc38の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代終末期頃に当る、528の台付小型丸底壺が挙げられる。この土器は、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。

SKc39・40 (第77・78図)

V区東部の第3検出面上で検出した不整形な土坑である。周辺にはSHc22、SHc06の周溝状遺構、SDc10北辺の落ち込み状遺構に隣接する。そのため、SDc10の落ち込み状遺構に係わる遺構の可能性もある。

SKc39・40は先後関係がなく接しており、本来同一遺構の可能性が高い。SKc39は南北方向の溝状の遺構で、南端部でSKc40と接する。南半部が窪む。長径1.1m、短径1.2m、深さ0.15mを測る。SKc40は凹凸のある不整形な形状を呈し、底部にピット状の窪みがある。長径1.5m、短径1.0m、深さ0.15～0.2mを測る。

SKc40の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代終末期に当る、529の甕が挙げられる。

SKc41 (第77図)

V区北東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc30の周溝状遺構SDc20等が隣接する。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は幅広の浅い皿状を呈する。長径0.85m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。

SKc42 (第78図)

V区西部中央第3検出面上の、SDc15の東方で検出した遺構であるが、調査時に形状を掴めていないため、詳細な点は不明であるが、弥生土器が径約3.6mの範囲内に多量に出土したため、住居跡、土坑、落ち込み等の可能性が考えられる。

SKc42からは弥生時代後期後半頃に当る、530～549の弥生土器が出土した。

530は広口壺の口頸部である。531～545・548は甕である。531・532は形状が類似した、甕の上半部である。口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がって下半部へ続き、調整も類似している。おそらく下半部は533～535の様な形状を呈するものと考えられる。531～535は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。545の口縁部はくの字状に外反し、端部は上部に僅かに拡張している。体部は長胴気味で、底部は平

底である。外面にはハケ、内面にはヘラケズリを顕著に施している。546・547・549は鉢である。

SKc43 (第 77・79・80 図)

V区東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc24、SDc23等が隣接している。平面は楕円形状を呈し、底部は比較的平坦である。断面は幅広のU字状を呈する。長径1.05 m、短径0.55 m、深さ0.3 mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上下層とも黒色粘質土であるが、下層は炭化物を含む。なお、上層からは多量の遺物が出土している。

SKc43からは、550～577の弥生土器や石器が出土した。主体になるのは弥生時代中期中葉の土器であるが、少量の後期の土器を含んでいる。

550～554は壺である。550～552は細頸壺で、550・552は頸部に貼付突帯を二条付し、刻目文を施している。553・554は広口壺である。555・556・570は直口壺である。556は頸部と体部との境界に貼付突帯を付し、突帯を指頭圧痕により成形している。558は脚部を欠く台付鉢である。559～569は甕で、565～569は比較的大型の部類である。571～573は台付鉢である。571の口縁部には円形浮文を巡らし、体部には貼付突帯を数条付している。576は土器の体部片を転用した紡錘車で、作り直しによるものか、穿孔が2箇所ある。

574・575は弥生時代後期の土器で、574は広口壺の口頸部、575は甕の上半部で、形状から575は、香東川下流域産の土器を模倣した土器と考えられる。

577は赤色頁岩製のスポール状の剥片である。背面に礫面を残すことから、原石の表皮に近い部分から肉厚で幅広の板状の剥片を分割し、それを素材として用いている。背面には、稜形成の調整痕、それを掘り込む主要剥離面と同方向の縦長状の剥離痕等から、素材の小口面を作業面として形成するための石核調整剥片ないし、打面形成のためのスポール状の石核調整剥片と考えられ、旧石器に属する可能性が高い。

SKc44 (第 81・82 図)

V区北東部の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc24、SKc43等が隣接する。

平面は円形を呈し、断面は幅広の逆台形状を呈する。径1.4 m、深さ約0.2 mを測る。

SKc44からは弥生時代後期後半に当る、578～580の弥生土器が出土した。

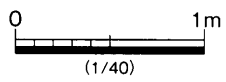
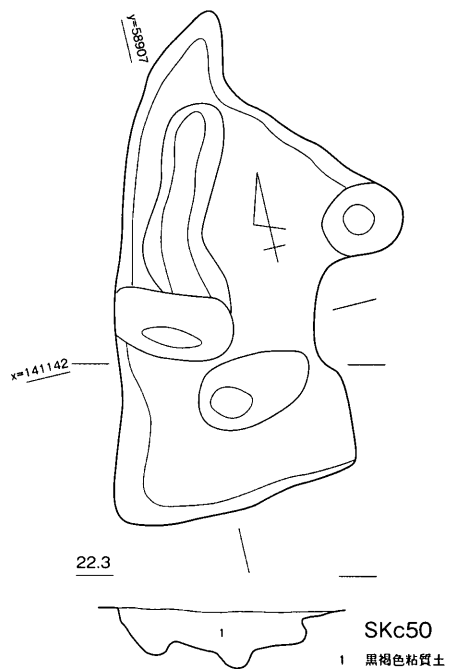
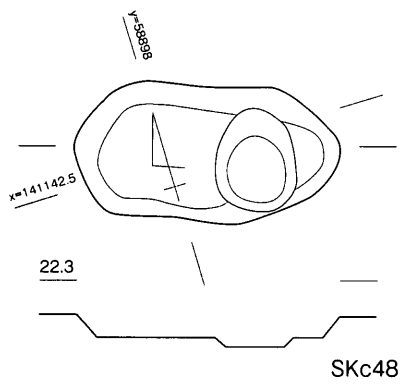
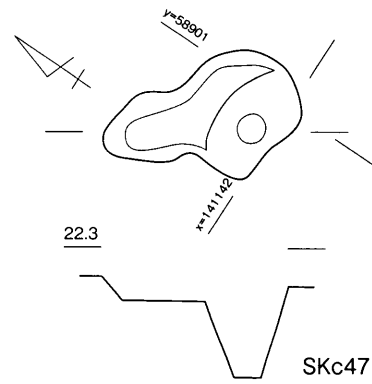
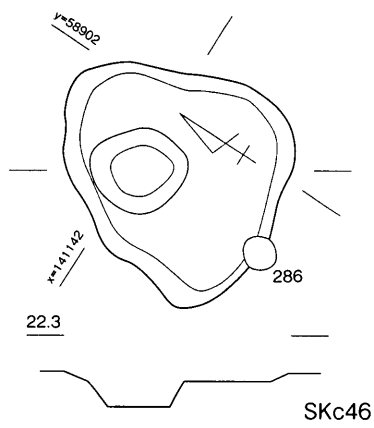
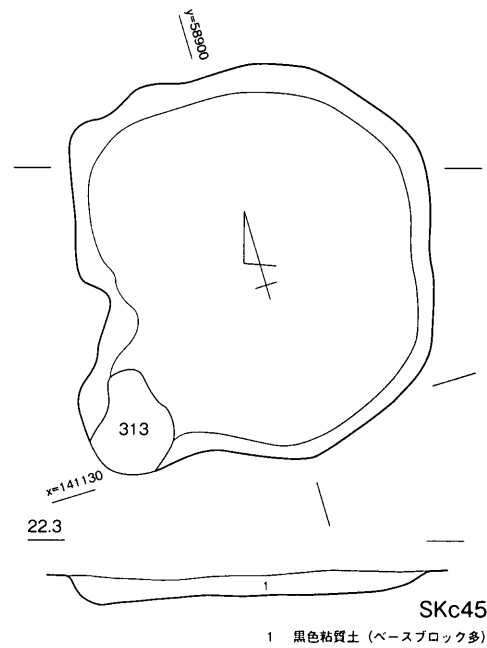
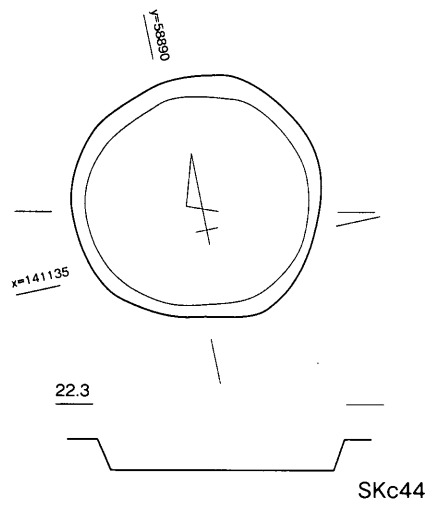
578・579は甕の口縁部である。578には端部に凹線文を施している。580は鉢の上半部である。

SKc45 (第 81・82 図)

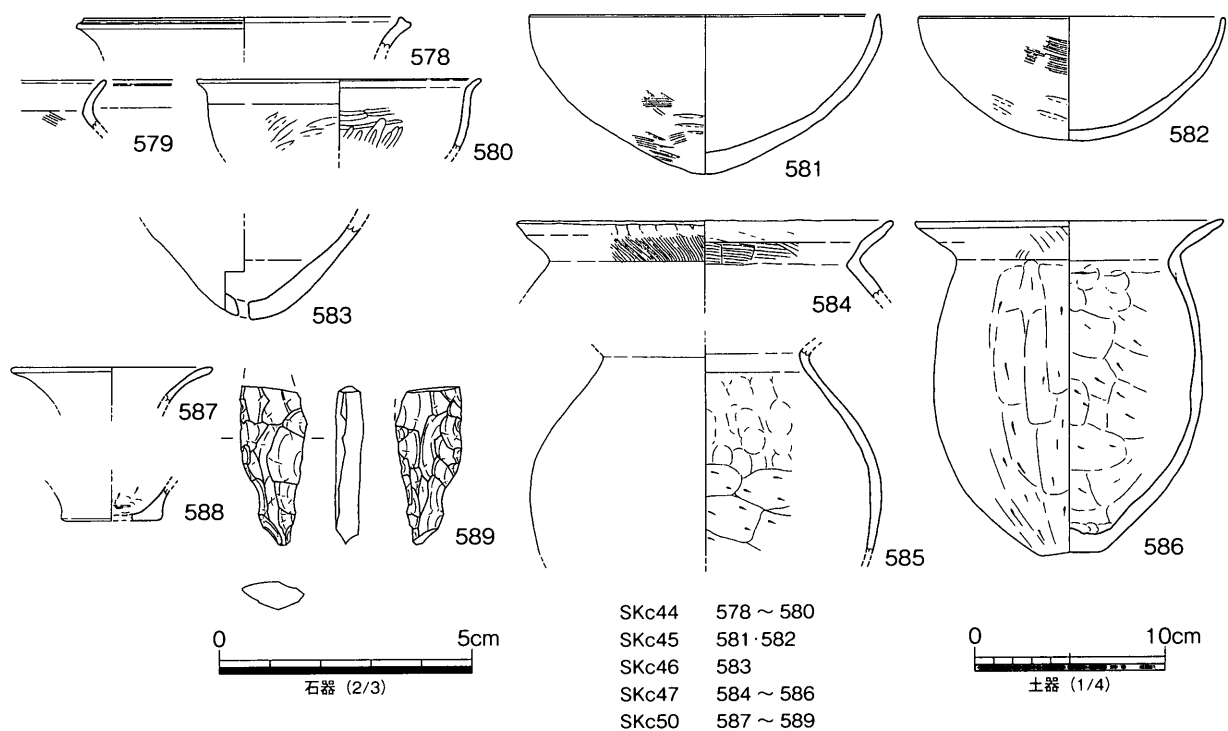
V区中央の第3検出面上で検出した土坑である。周辺にはSHc23・24・29、SDc23等が隣接している。SHc29とは重複するが、この住居跡は削平を受けて残りが悪く、前後関係は不明である。

平面は不整形な円形状を呈し、南西端部に柱穴跡が掘り込んでいる。底部は比較的平坦である。断面は幅広で浅い皿状を呈する。長径2.1 m、短径1.9 m、深さ0.1 mを測る。埋土は単層で、ベースブロックを含む黒色粘質土である。

SKc45からは弥生時代後期後半～終末期に当る、581・582の弥生土器の鉢が出土した。



第 81 図 SKc44 ~ 48・50 平・断面図



第 82 図 SKc44 ~ 47・50 出土遺物

SKc46 (第 81・82 図)

V 区中央北の第 3 検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc23、SKc47、SDc20・23 等が隣接している。

平面は不整形な楕円形状を呈し、底部は比較的平坦であるが、柱穴跡状の窪みがある。断面は幅広の浅い皿状を呈する。長径 1.4 m、短径 1.2 m、深さ 0.2 m を測る。この土坑は形状から、柱材の抜き取り穴跡の可能性が考えられる。

SKc46 の遺物は僅かで、図化できるものとしては、583 の弥生土器の有孔鉢の底部が出土している。

SKc47 (第 81・82 図)

V 区中央北の第 3 検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc23、SKc46、SDc20・23 等が隣接し、先述した SKc46 の西隣に位置する。

平面は不整形な楕円形状を呈し、底部に柱穴跡状の窪みがある。断面は二段掘り方の逆台形状を呈する。長径 1.0 m、短径 0.6 m、深さ約 0.5 m を測る。

SKc47 からは弥生時代後期後半頃に当る、584 ~ 586 の弥生土器の甕が出土した。

585 は甕の体部の上半部で、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。

SKc48 (第 81 図)

V 区中央北の第 3 検出面上で検出した土坑である。周辺には SHc23、SKc46・47、SDc20・23 等が隣接している。

平面は東西方向の中心軸をもつ不整形な楕円形状を呈し、底部は比較的平坦であるが、浅い窪みがあ

る。断面は二段掘り方の逆台形状を呈する。長径 1.3 m、短径 0.7 m、深さ 0.25 m を測る。

SKc50 (第 81・82 図)

V 区中央北の第 3 検出面上で検出した不整形な落ち込み状の遺構である。周辺には SHc23・26、SDc26 等が隣接する。

平面は削平を受けたためか、凹凸が顕著な不整形な楕円形状を呈し、底部に柱穴跡状や溝状の窪みが数箇所ある。断面は凹凸が顕著な不整形な形状を呈する。長径 2.7 m、短径 1.1 m、深さ約 0.3 m を測る。埋土は黒褐色粘質土の単層である。

SKc50 からは、587～589 の弥生土器及び石器が出土した。587 は壺の口縁部である。588 は甕の底部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。

589 は先端部を欠くサヌカイト製の石鏃である。

5. 溝状遺構

SDc08 (第 83 図)

IV 区中央部の第 3 検出面上で検出した、北東方向に延びる幅広で不整形で、短い溝状遺構である。南端部は SHc10 と接するが、重複しあわない。

検出した長さは 2.4 m、幅は 0.4～0.7 m を測る。断面は不整形な U 字状を呈する。埋土は 3 層に分かれる。

SDc13 (第 83 図)

IV 区東半部の第 3 検出面上で検出した、南北方向に延びる短い溝状遺構である。削平を受けたためか、残りが悪く、検出した長さは 1.2 m、幅は約 0.4 m を測る。断面は U 字状を呈し、深さ約 0.42 m を測る。埋土は暗灰色系の粘質土で、上下 2 層に分かれる。

なお、この溝状遺構の北には SHc06 の排水溝状遺構 SDc11 が位置し、その位置関係より SDc11 に関連する溝状遺構の可能性がある。

SDc13 の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代後期後半頃に当る、590・591 が出土している。

590 は高杯の脚部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。591 は甕の底部である焼成破裂痕が認められる。

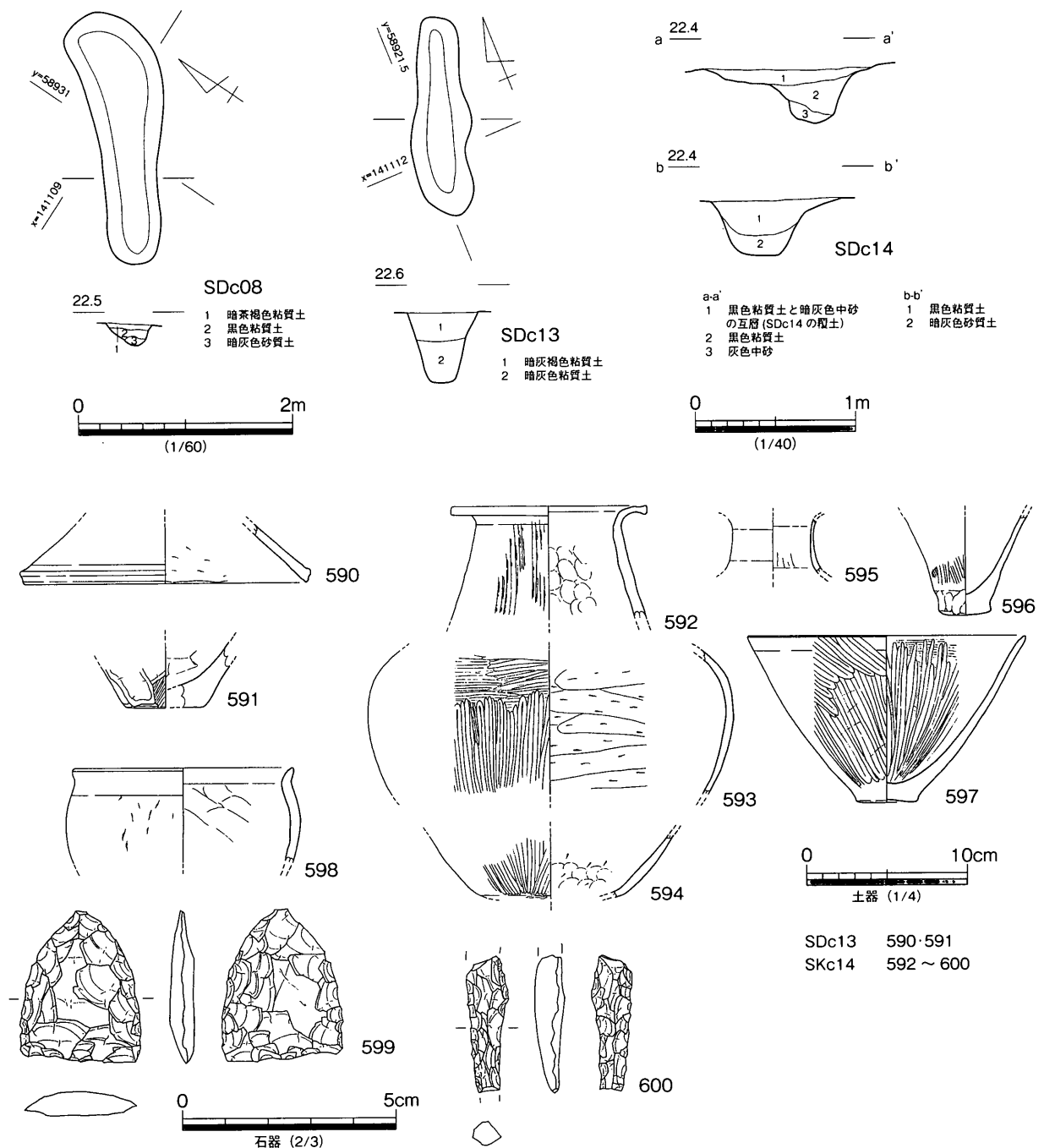
SDc14 (第 83 図)

IV 区西半部の第 3 検出面上で検出した、SKc27 から湾曲気味に南西方向に延びる溝状遺構である。周辺には SHc15・16・17、SKc17・18 等が隣接し、この溝状遺構は SHc17 を掘り込んでいる。

検出した長さ約 20.0 m、幅は約 0.3～1.0 m を測り、断面は地点により異なるが、概ね上位が幅広で、下位が不整形な U 字状を呈し、深さ約 0.35 m を測る。埋土は 2～3 層に分かれる。

なお、この溝状遺構の延長箇所には、Ⅲ区 SDc67 が位置しており、同じ溝状遺構の可能性が高い。

SDc14 からは弥生時代後期後半頃に当る、592～600 の弥生土器及び石器が出土した。



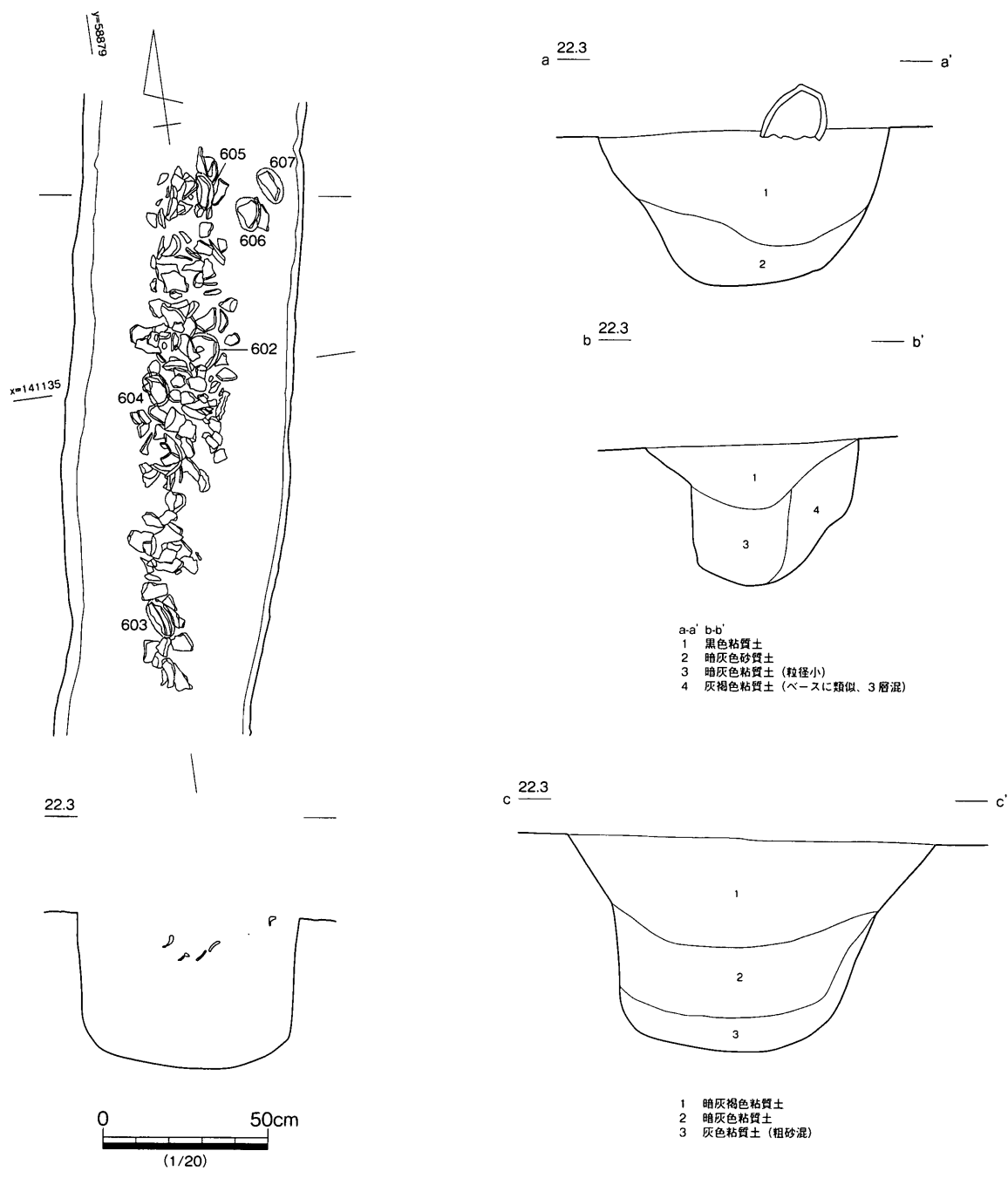
第 83 図 SDc08・13・14 断面図、出土遺物

592～595は壺である。592は長頸壺の口頸部で、593・594は体部と底部である。595は広口壺の頸部で、596～598は鉢である。なお、593～595は胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。

599はサヌカイト製の石鏃である。600は先端部と基部を欠くサヌカイト製の石錐である。

SDc15 (第 84～86 図)

IV・V区東部の第3検出面上で検出した溝状遺構である。調査区を南北に直線状に横断し、IV区の南壁に達し、Ⅲ区へ続くものと考えられるが、Ⅲ区では同方向の溝状遺構は確認できない。Ⅲ区との間の区域で方向を変えたものと考えられ、可能性としてⅢ区のSDa54に繋がるものと推定できる。

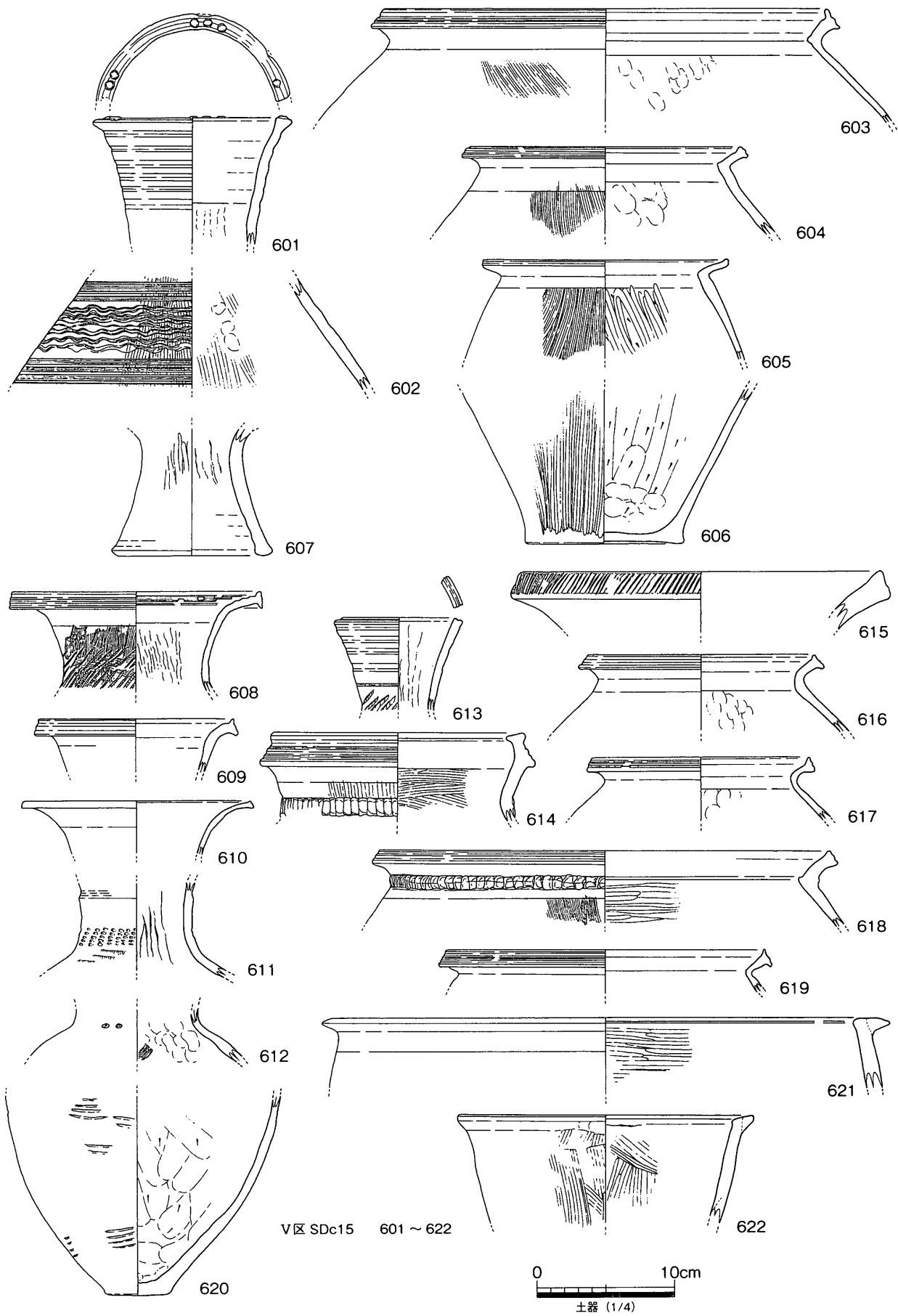


第 84 図 SDc15 平・断面図

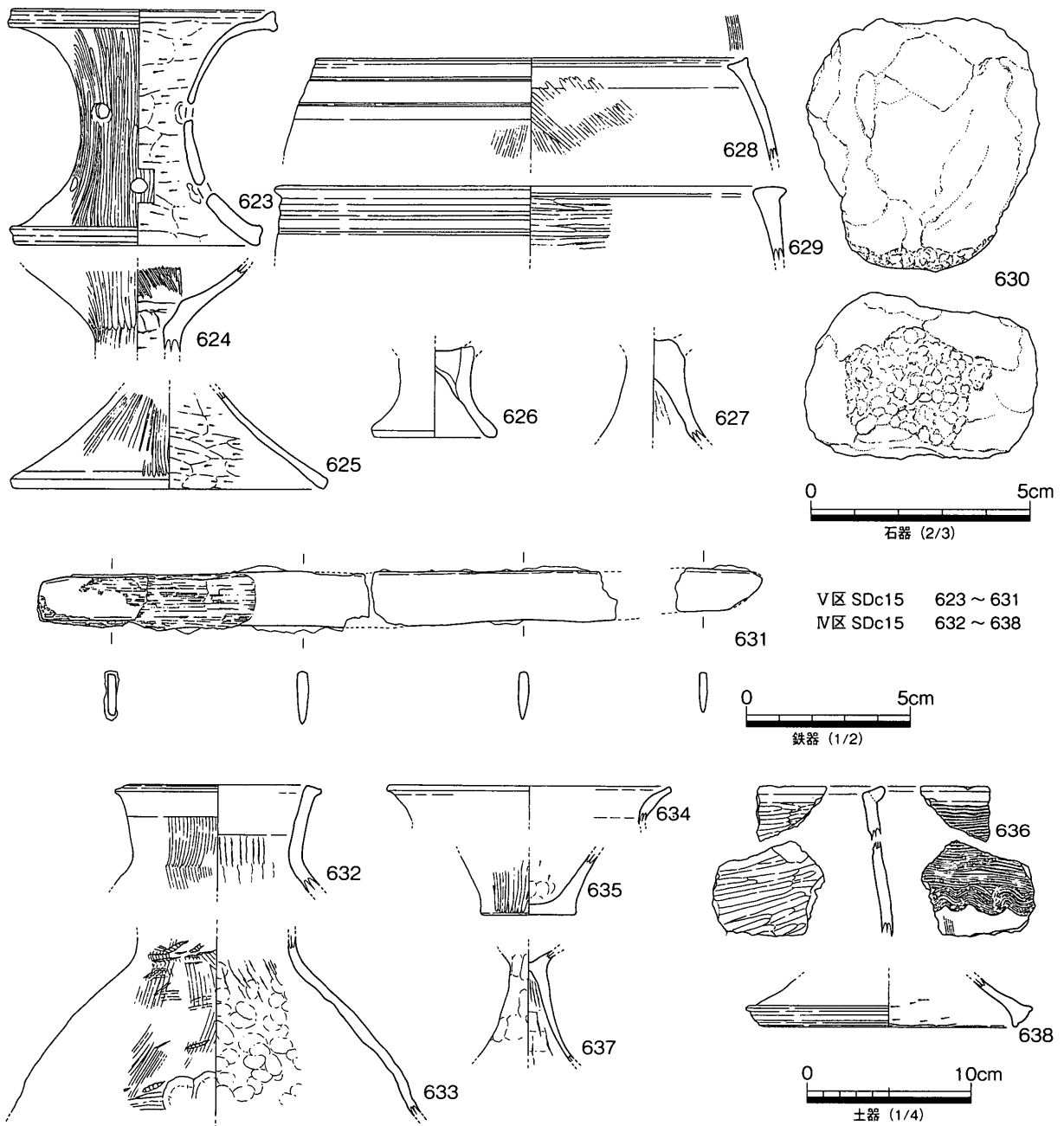
検出した長さは約 28.5 m、幅は約 0.6 ~ 1.5 m を測り、主軸は北寄り 7° 東へ向く。断面は地点により形状の差があるが、概ね隅丸の逆台形状ないし U 字状を呈する。深さは北で約 0.45 m、南で 0.65 m を測り、南方へ流下しているものと考えられる。埋土は数層に分かれるが、概ね上層が暗灰色系の粘質土で、下層が灰色粘質土で、上層からは遺物が多量に出土している。また、V 区の南端部では、土器溜り状に土器が集中する。

SDc15 からは弥生時代中期中葉～後期前半頃に当る、601 ~ 638 の弥生土器及び石器が出土した。

601 ~ 631 は V 区の SDc15 から出土した遺物である。601 ~ 607 は先述した、遺物が土器溜り状に集中する区域から出土した土器である。601 は長頸壺の頸部である。口縁部端部には円形浮文、頸



第 85 图 SDc15 出土遺物 (1)



第 86 図 SDc15 出土遺物 (2)

部には凹線文を複数施している。602 は大型壺の体部上半部である。体部外面には櫛描直線文や櫛描波状文を顕著に施している。603 ~ 606 は甕である。603・604 の口縁部は、上下に拡張し凹線文を顕著に施している。607 は台付鉢の脚部である。

608 ~ 614 は壺である。608 ~ 611 は広口壺の口頸部で、610 は胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。608・609 の口縁端部は、上下に拡張し外面には凹線文を顕著に施している。612・613 は長頸壺である。614 は直口壺の口頸部である。615 は形状より器台に分類した。616 ~ 622 は甕である。616 ~ 619 の口縁端部は拡張し、凹線文を施している。なお、616 は胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。621・622 の甕は、口縁部に突帯を貼付ける瀬戸内型甕である。623 は器台である。625・627 は高杯の脚台部である。628・629 は鉢の口縁部である。630 は安山岩製の

敲石である。631は上層から出土した鉄製の小刀で、柄の部分には木質が僅かに残っている。推定される長さ22.0cm、幅約1.6cmを測る。

632～638はIV区のSDc15から出土した遺物である。632は直口壺の口頸部である。633～636は甕である。633は下端部に焼成破裂痕が認められる。636は口縁部に突帯を貼付ける瀬戸内型甕で、外面には直線文や波状文を施している。637・638は高杯の脚部である。638の端部には凹線文を顕著に施している。

SDc23 (第87図)

V区中央部の第3検出面上で検出した東西方向に伸びる不整形な溝状遺構である。周辺にはSHc23・24・29・30、SKc45・46等が隣接する。

平面形は凹凸が多い不整形な形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。検出した長さは6.8m、幅は0.6～1.0mを測り、深さ約0.2mを測る。埋土は単層で暗灰色系の粘質土である。

SDc23の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代後期後半頃に当る、639の鉢が出土している。

SDc24 (第87図)

V区東半部の第3検出面上で検出した溝状遺構である。この溝状遺構は先述したSDc19の西に位置し、形状も類似している。そのため、SDc19同様に住居跡の外周を周る周溝状の遺構と考えられる。位置的にはSHc22の西方約6.0～8.5m隔てた区域を同住居跡を周る様に配されているが、時期的な点からこの住居跡に伴うものではない。削平を受けて残りが悪く、円形に周る溝状遺構の西辺の一部を残している。

平面形はSDc19同様に凹凸が多い不整形な形状を呈し、検出した長さは8.4m、幅は0.3～1.8mを測り、断面は地点により異なるが、概ね浅い皿状を呈し、深さ約0.12mを測る。埋土は黒色系の粘質土である。

SDc24の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代後期後半頃に当る、641・643の弥生土器の甕上半部と鉢が出土している。

SDc25 (第87図)

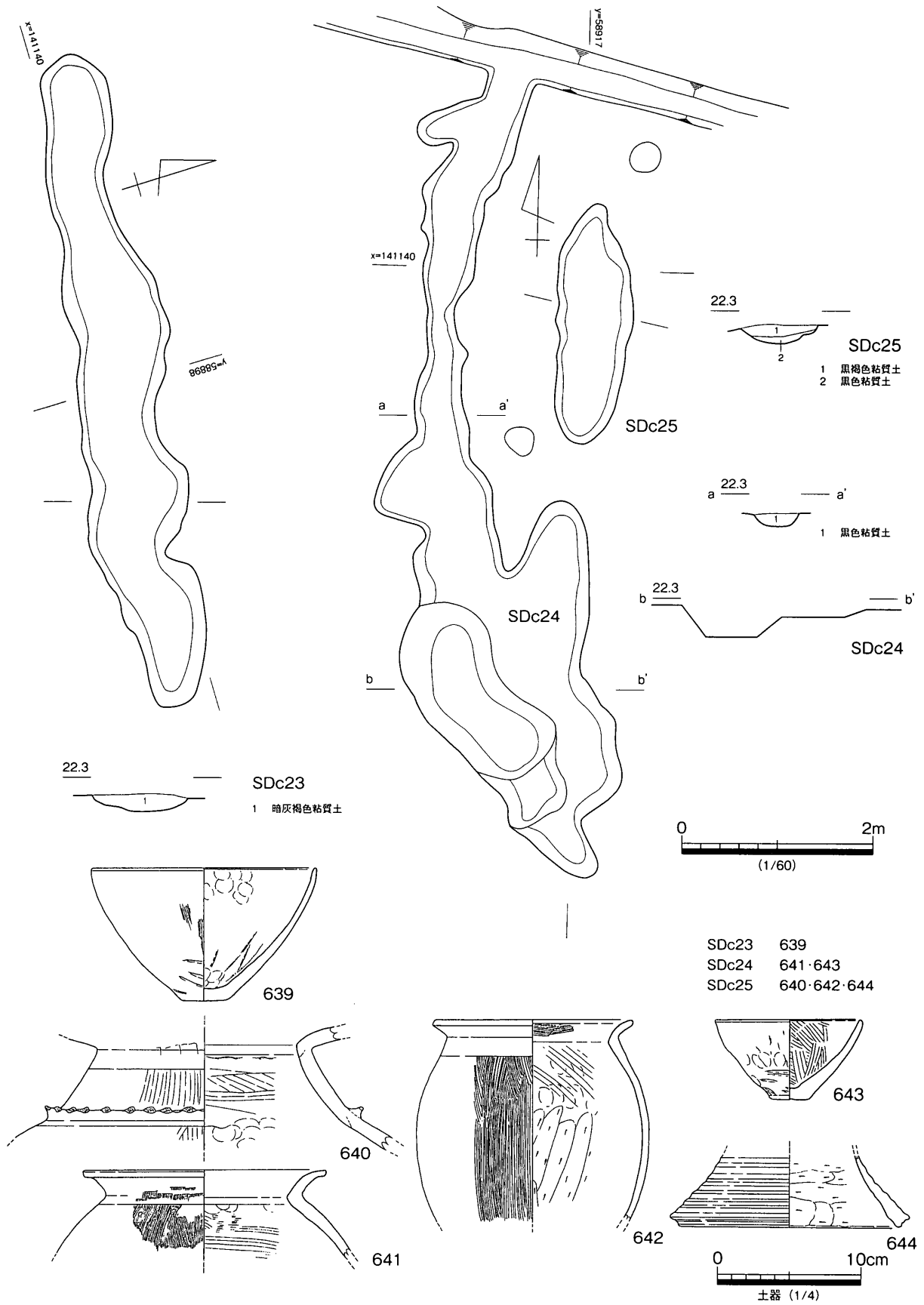
V区東半部の第3検出面上で検出した、幅広で小規模な溝状遺構である。この溝状遺構は先述したSDc25の東に位置する。住居跡の外周を周る周溝状の遺構と考えられる。

SDc24の東方約1.0m隔てた区域を同溝と主軸を合わせる様に配されている。削平を受け残りが悪く、平面形は不整形な形状を呈し、検出した長さ2.5m、幅は0.6～0.8mを測り、断面は浅い皿状を呈し、深さ約0.2mを測る。埋土は上下に分かれるが、いずれも黒色系の粘質土である。

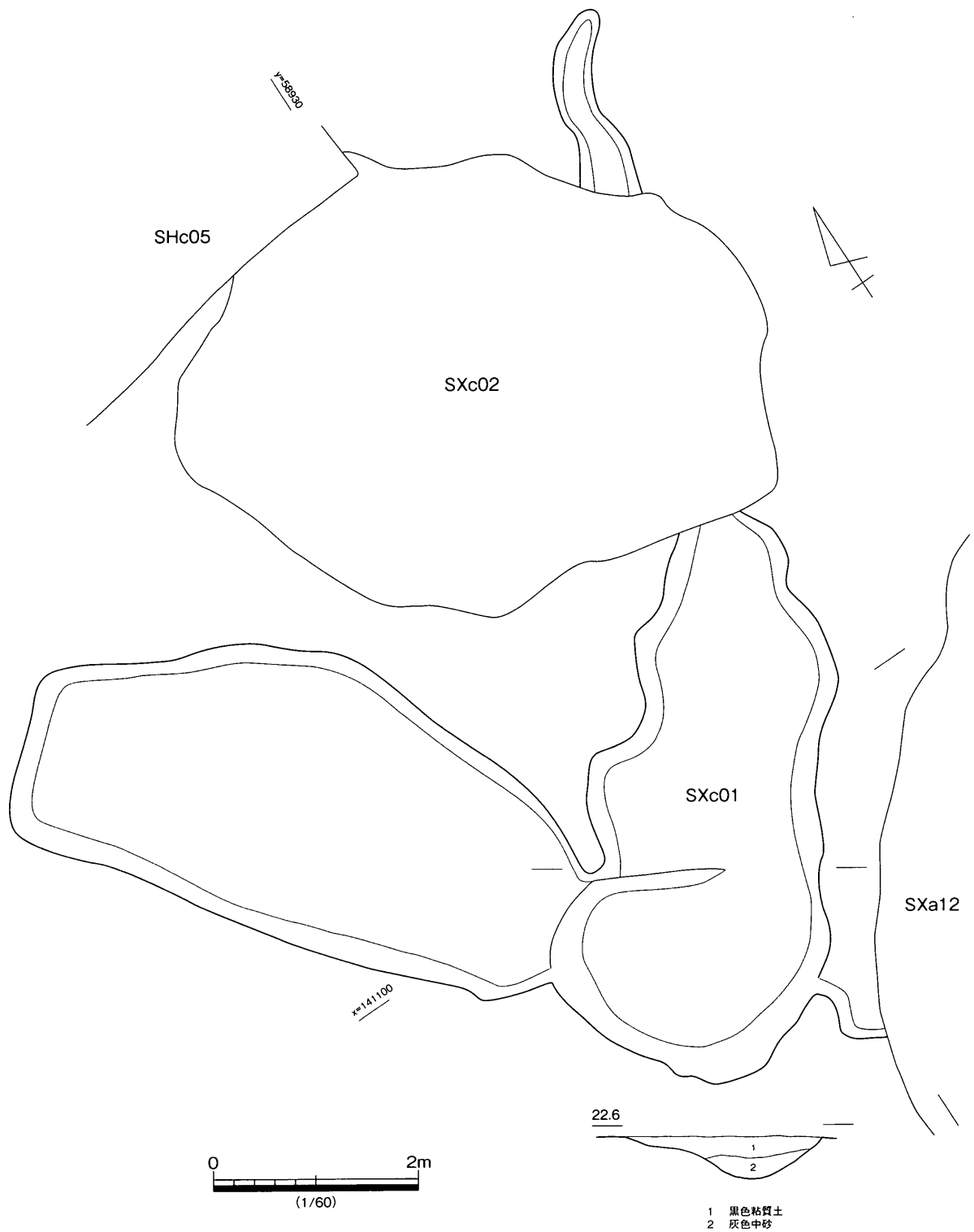
SDc25からは弥生時代後期中頃に当る、640・642・644の弥生土器が出土した。

640は広口壺の頸部で、体部との境に突帯を貼付けている。642は底部を欠く甕である。644は高杯脚部の下半部である。外面には凹線文を顕著に施し、内面はヘラケズリを施している。

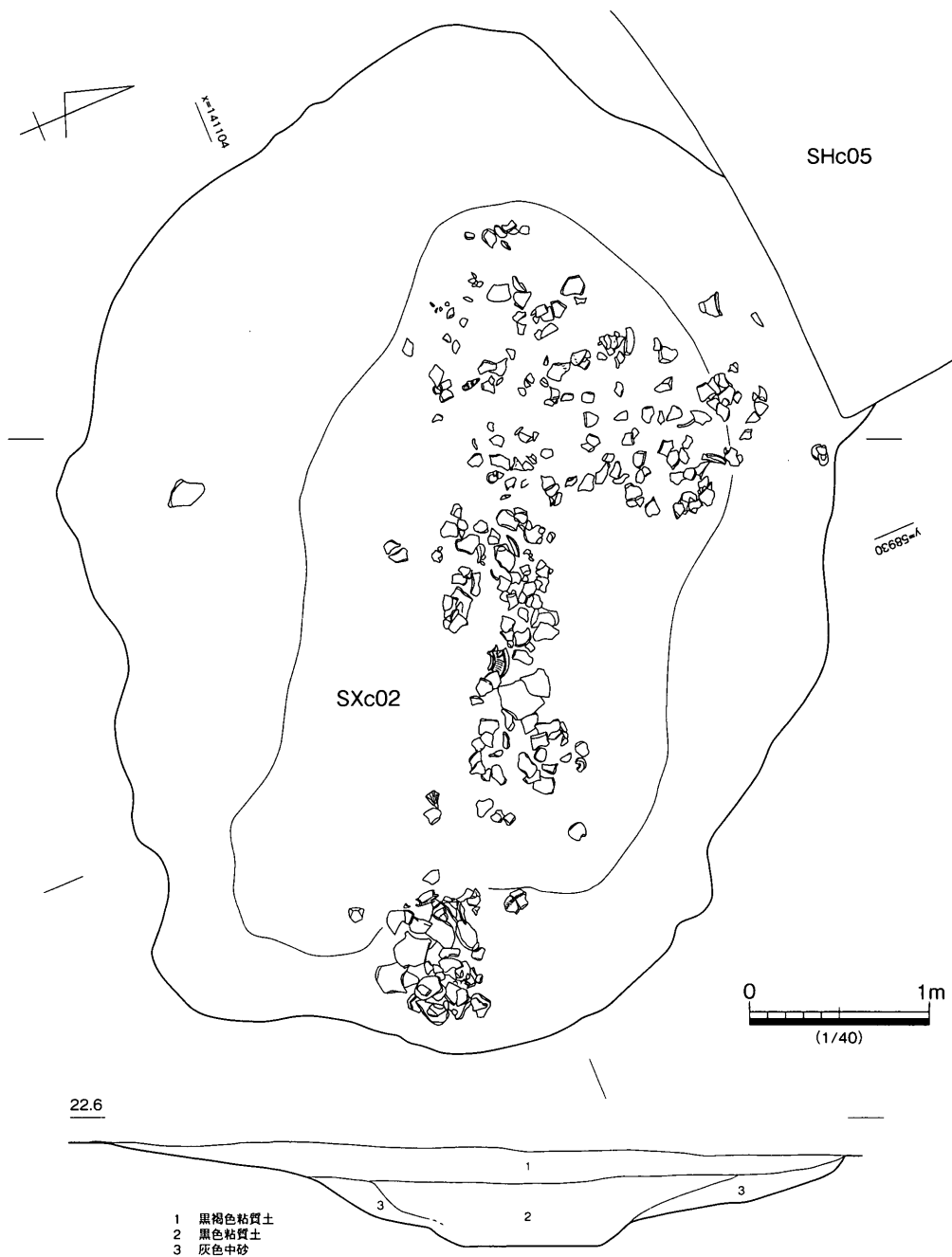
6. 不整形遺構



第 87 図 SDC23 ~ 25 平・断面図、出土遺物



第 88 図 SXc01 平・断面図

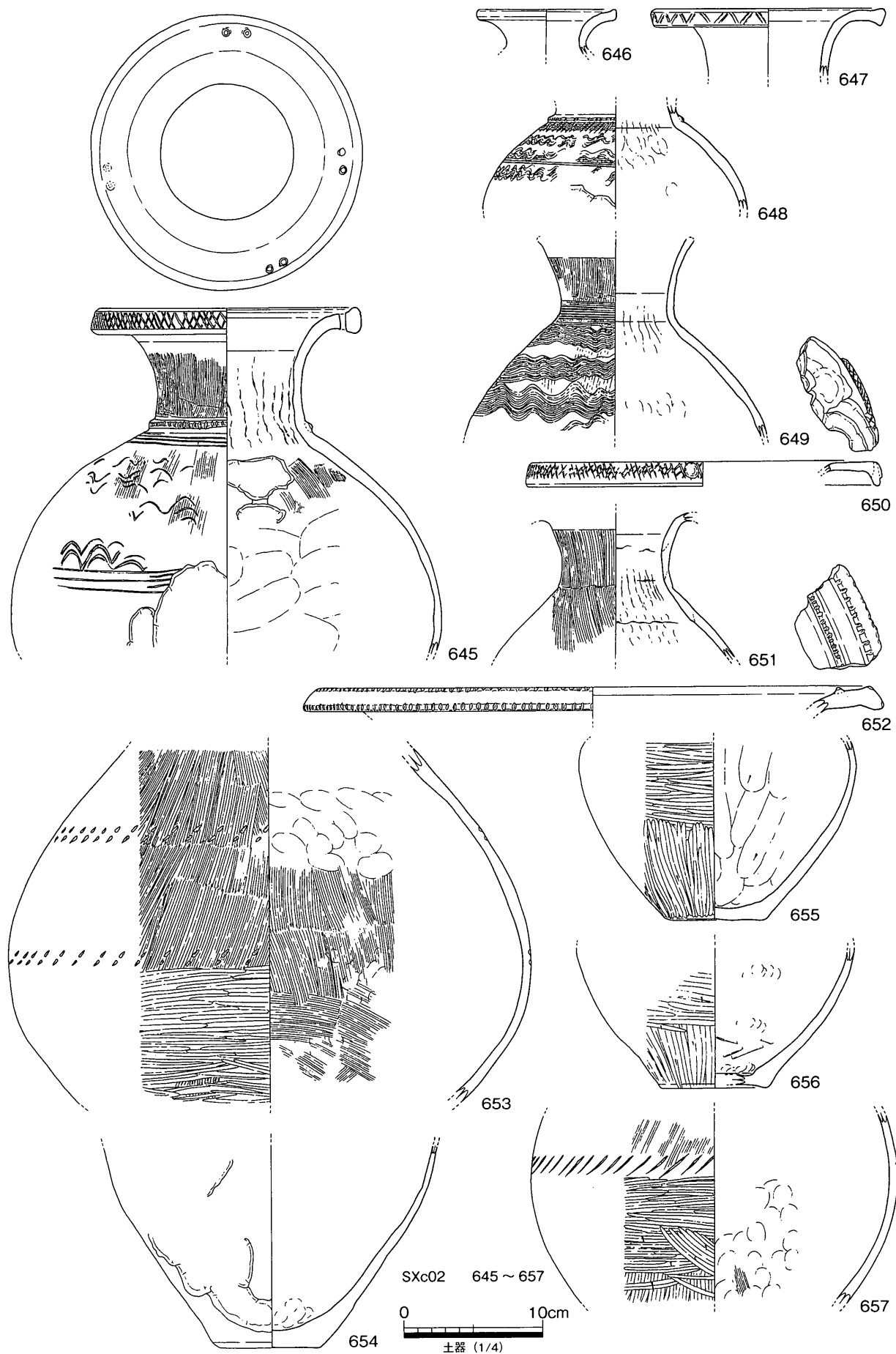


第 89 図 SXc02 平・断面図

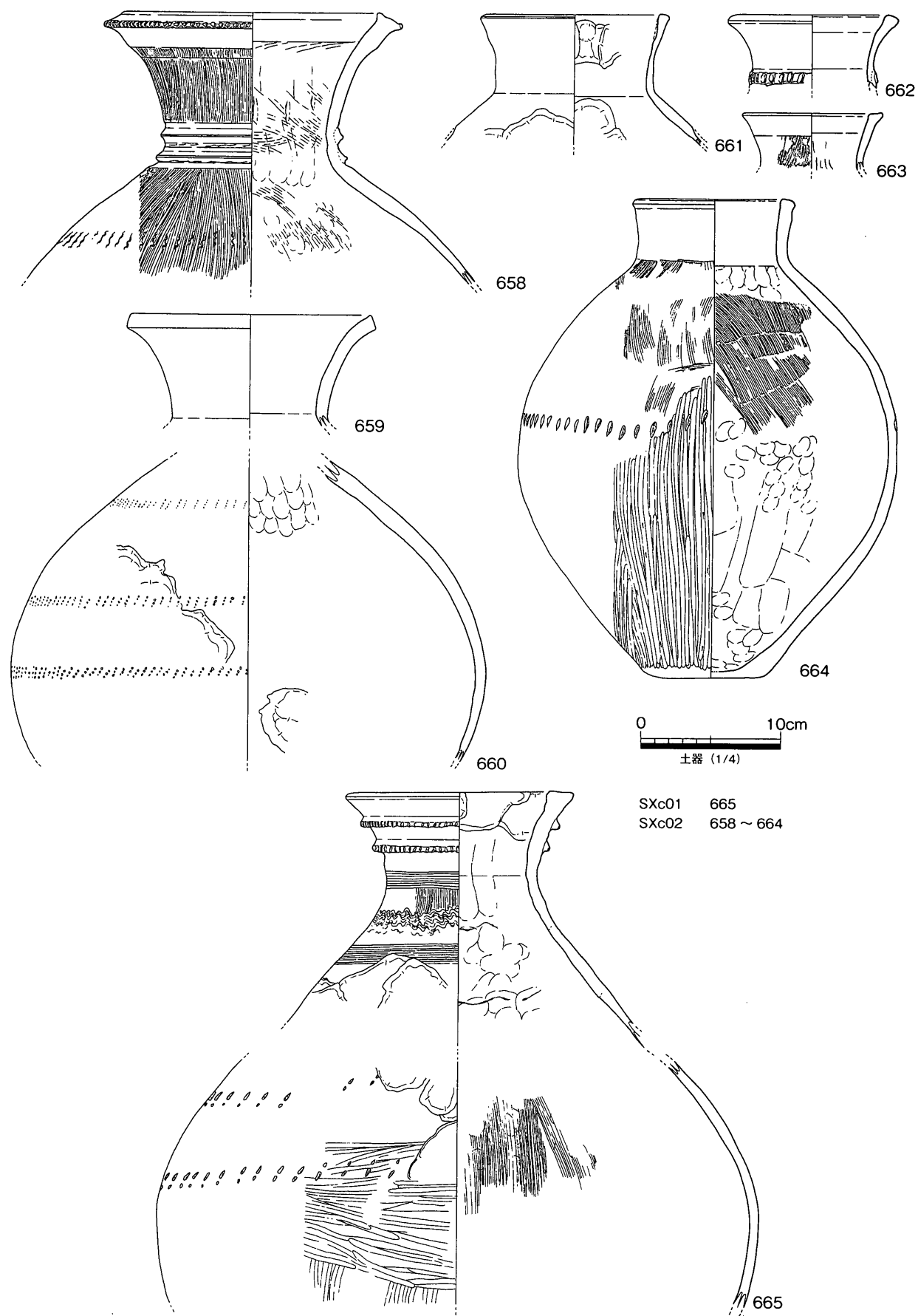
SXc01 (第 88・91・93 図)

IV区南東端部の第3検出面上で検出した、不整形な落ち込みである。周辺にはSXc02、SXa12等が所在し、SXc02には掘り込まれている。なお、南西部では、不整形で長楕円形状の落ち込みと接するが、その先後関係は掴めていない。

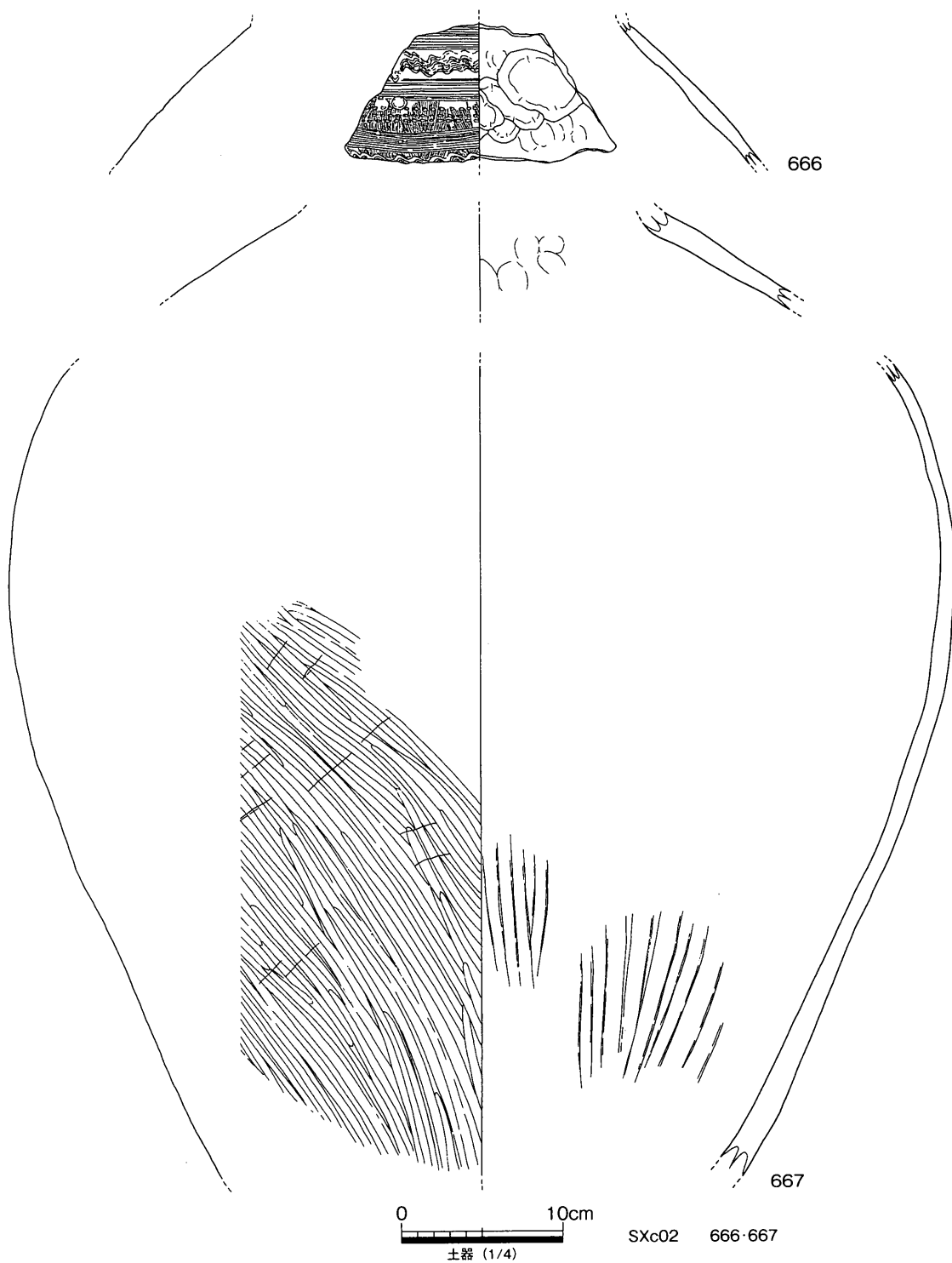
平面形は凹凸のある不整形な形状で北に向かって先細る溝状を呈し、断面形は幅広で不整形な丸底状を呈する。長径10.5m、短径0.3～2.7m、深さ0.45mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上層が黒色粘質土、下層が灰色の砂である。



第90图 SXc01·02 出土遺物(1)



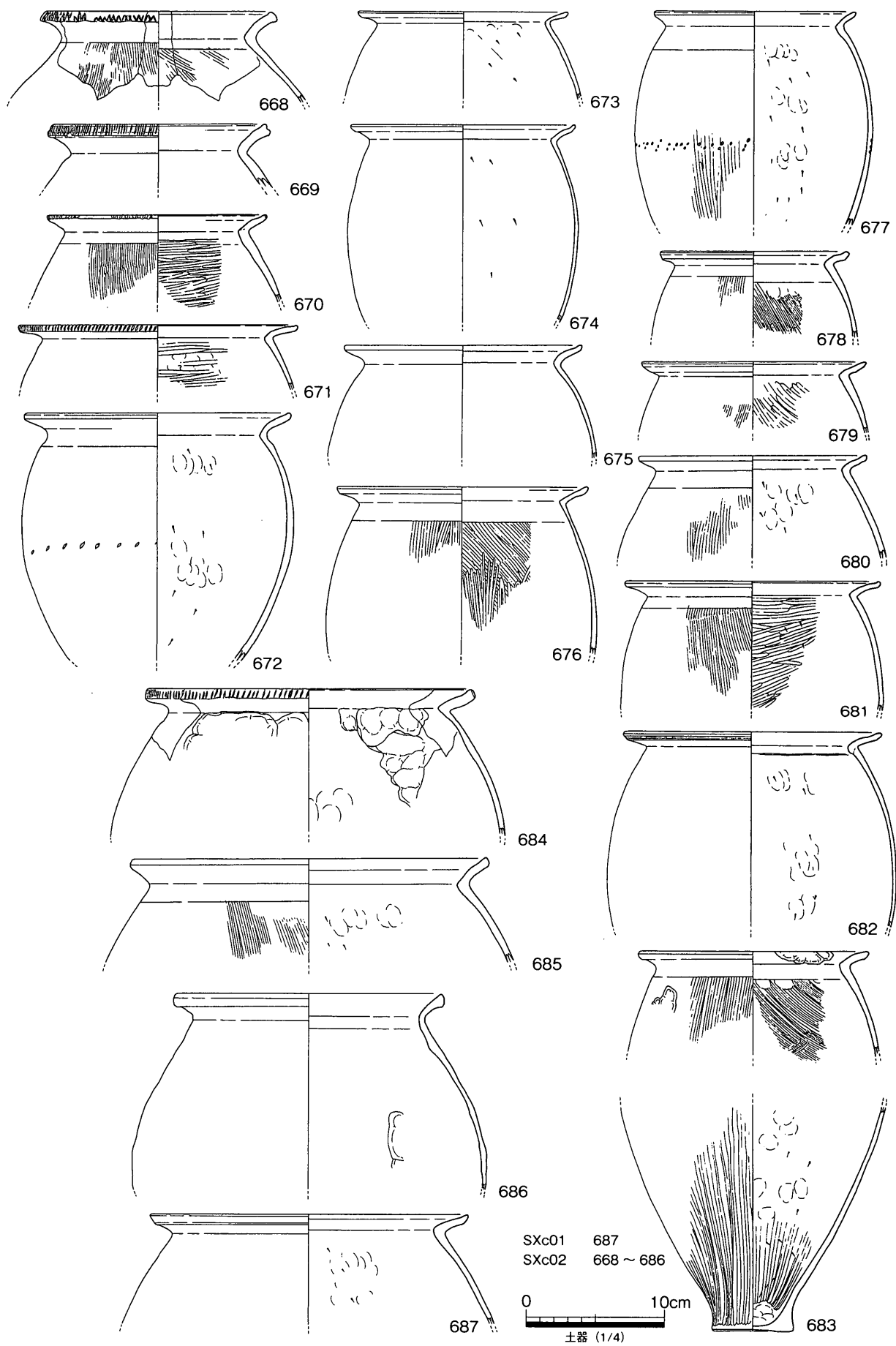
第91図 SXc01・02 出土遺物(2)



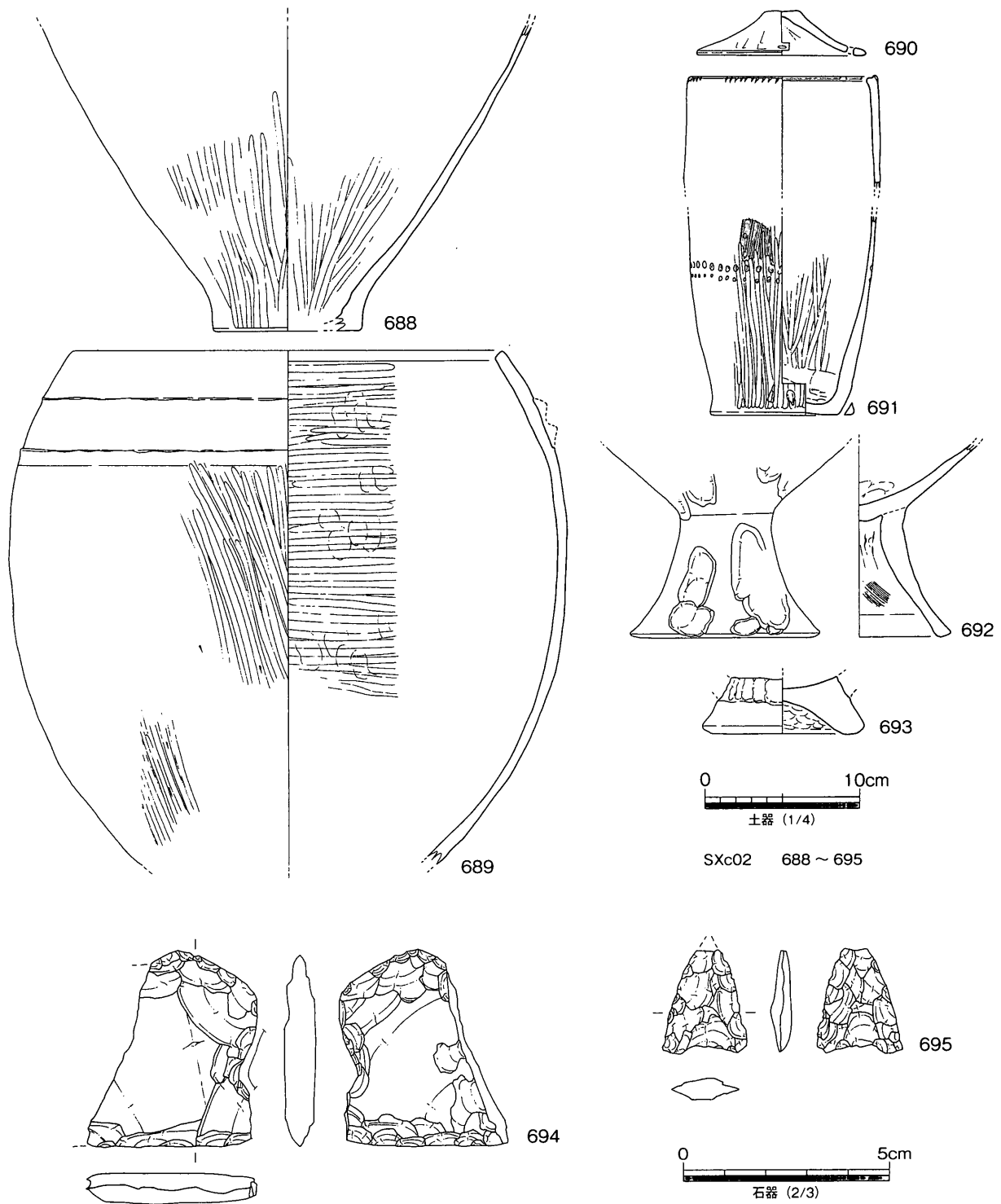
第 92 図 SXc01・02 出土遺物 (3)

SXc01 の遺物は僅かで、図化できるものとしては弥生時代中期中葉頃に当る、665・687 の弥生土器が出土している。

665 は下半部を欠く大型の直口壺である。頸部に 2 条の貼付突帯を付し、刻目文を施す。体部には直線文及び波状文を施しており、焼成破裂痕が認められる。687 は甕の上半部である。



第 93 図 SXc01・02 出土遺物 (4)

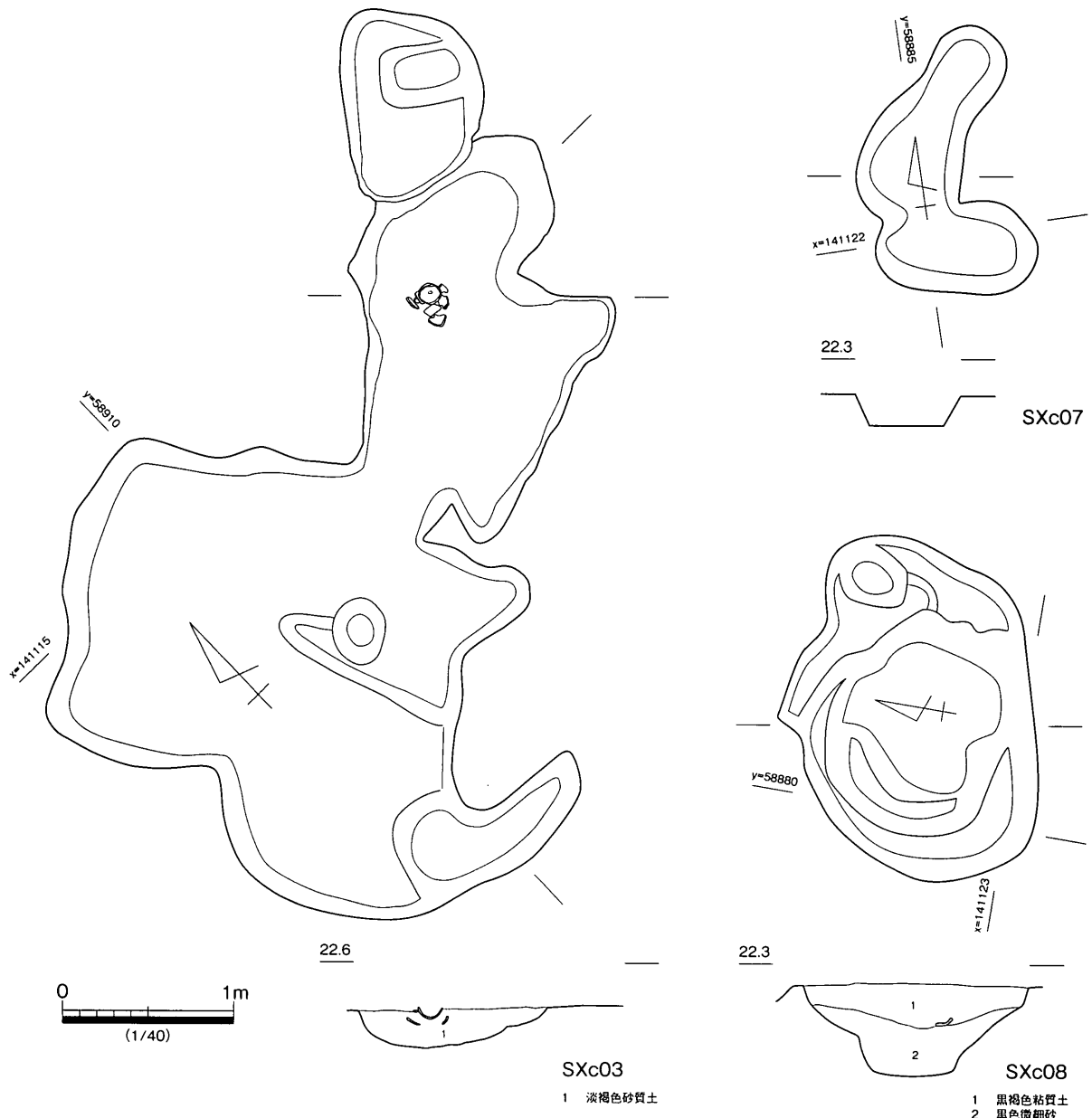


第94図 SXc01・02 出土遺物(5)

SXc02 (第89～94図)

IV区南東端部の第3検出面上で検出した、不整形な落ち込みである。周辺にはSXc01・03、SHc05等が所在し、この遺構はSHc05に掘り込まれている。

平面形は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、断面形は幅広で不整形な逆台形状を呈する。長径5.5



第 95 図 SXc03・07・08 平・断面図

m 以上、短径 4.2 m、深さ約 0.5 m を測る。埋土は 3 層に分かれ、1・2 層は黒色系の粘質土、3 層は側面の周囲には堆積している灰色系の砂である。出土遺物としては 1～2 層の上位から一括遺物が多量に出土した。

SXc02 からは、弥生時代中期中葉頃に当る、645～664・666～686・688～695 の弥生土器と石器が出土した。

645～664・666・667 は壺である。645～647・652・658・659 は広口壺の上半部及び口頸部である。648・649・651・653～657 は、おそらく広口壺に伴う頸部～体部と考えられる土器である。645・648・650 には波状文が顕著である。658 は頸部と体部の境に 2 条の貼付突帯を施している。661～664 は直口壺である。662 は頸部との境に貼付突帯を付し、突帯には指頭圧痕を施している。666・667 は大型壺の体部である。666 の外面には櫛描直線文及び波状文を顕著に施している。なお、

645・648・650・654・657・660・661・666には焼成破裂痕が認められる。

668～686・688は甕である。口縁部はくの字状に屈曲し、端部を丸く仕上げているものが主体を占める。体部は長胴気味である。684・686は焼成破裂痕が認められる。

689は底部を欠く大型の鉢である。口縁部下には貼付突帯が剥がれた痕跡が認められる。体部は丸味をもち、長胴気味である。

690は小型の蓋である。

691は体部の一部を欠くジョッキ型土器である。コップ形の形状を呈し、底部の縁に穿孔が認められる。外面の上半部にはハケ、下半部にはヘラミガキ、内面も下半部にはヘラミガキを顕著に施している。

682は高杯の下半部で、外面には焼成破裂痕が認められる。

693は台付鉢の脚台部である。

694はサヌカイト製の打製石庖丁の端部で、695は先端部を欠くサヌカイト製の石鏃である。

SXc03 (第95・96図)

IV区中央の第3検出面上で検出した、不整形な落ち込みである。周辺にはSHc07・09・10・19等が所在し、この遺構はSHc19を掘り込んでいる。

平面形は凹凸のある不整形な形状を呈し、底部にはSHc19の柱穴跡を検出した。断面形は凹凸がある幅広で不整形な皿状を呈する。長径5.2 m以上、短径1.0 m、深さ約0.2 mを測る。埋土は単層で、淡褐色砂質土である。

SXc03からは弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭に当る、696～706の弥生土器と古式土師器が出土した。

696・697は広口壺の口縁部ないし口頸部である。698・699は甕の上半部である。698は古式土師器に属し、焼成破裂痕が認められる。700～703・706は鉢である。704・705は高杯の杯部と脚部である。なお、704には焼成破裂痕が認められる。

SXc07 (第95・96図)

IV区東部の第3検出面上で検出した、不整形な落ち込みである。周辺にはSDc14・15、SXc05・06等が隣接する。

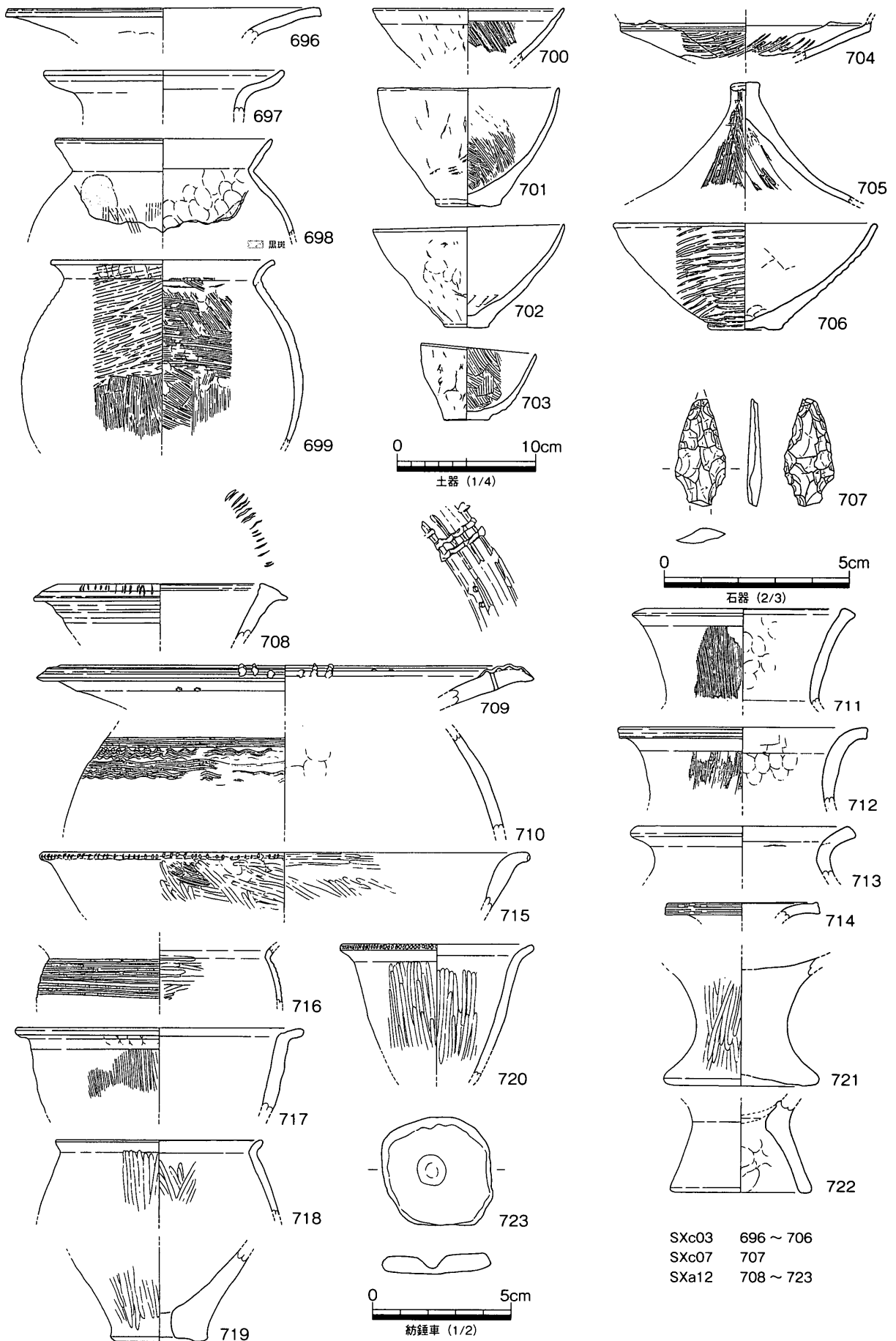
平面形は不整形な楕円形状を呈し、断面形は逆台形状を呈する。長径1.5 m、短径0.6 m、深さ約0.2 mを測る。埋土は黒色砂質土である。

SXc07の遺物は僅かで、図化できるものとしては、707のサヌカイト製の石鏃が出土している。

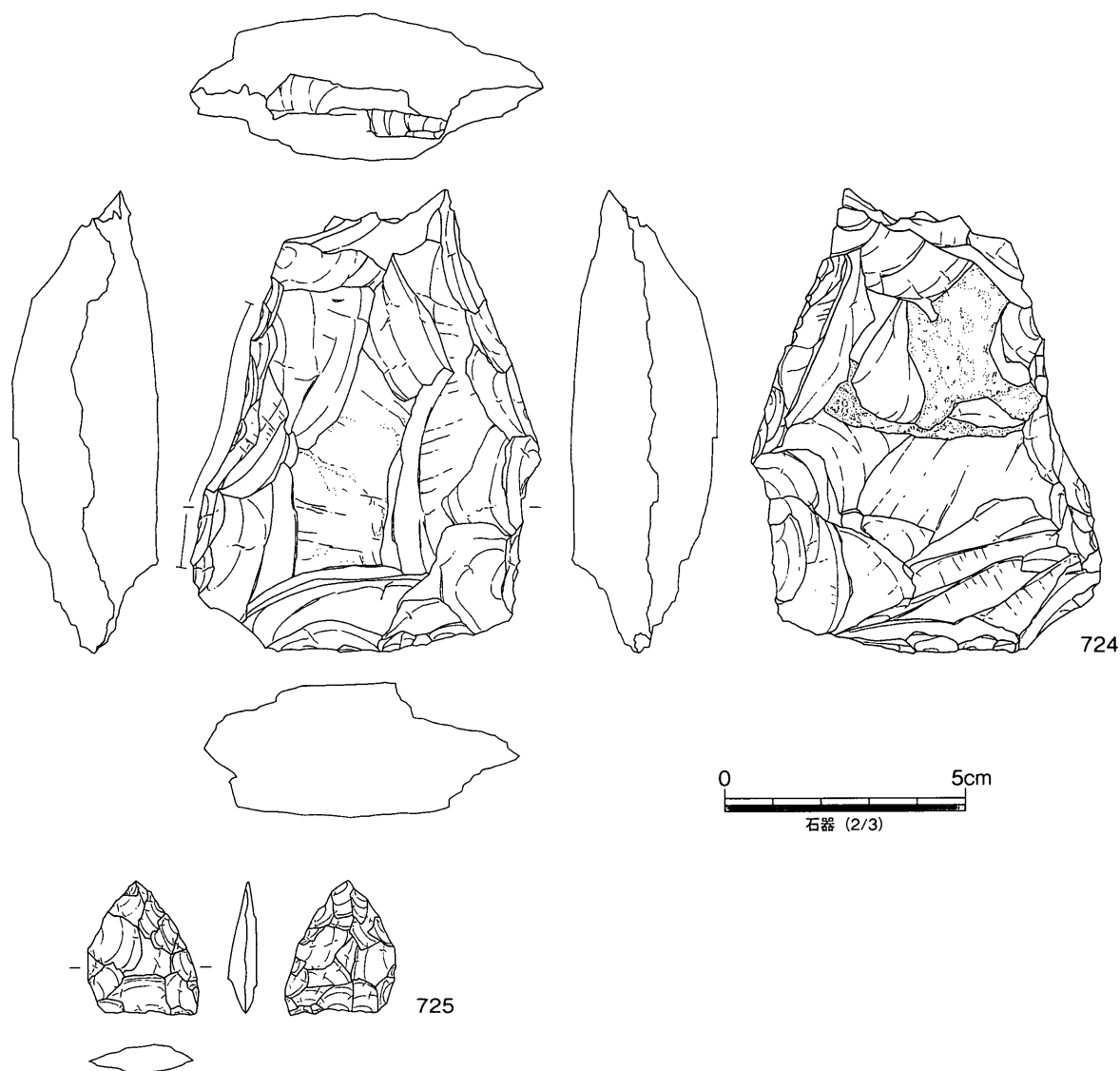
SXc08 (第95図)

IV区東部の第3検出面上で検出した、土坑状の遺構である。周辺にはSDc14・15、SXc09・10等が隣接する。

平面形は不整形な楕円形状を呈し、断面形は凹凸がある不整形な逆台形状を呈する。長径2.0 m、短径1.3 m、深さ約0.5 mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上層は黒褐色粘質土、下層は黒色微細砂が堆積している。



第96圖 SXc03・07出土遺物、SXA12出土遺物(1)



第97図 SXa12 出土遺物 (2)

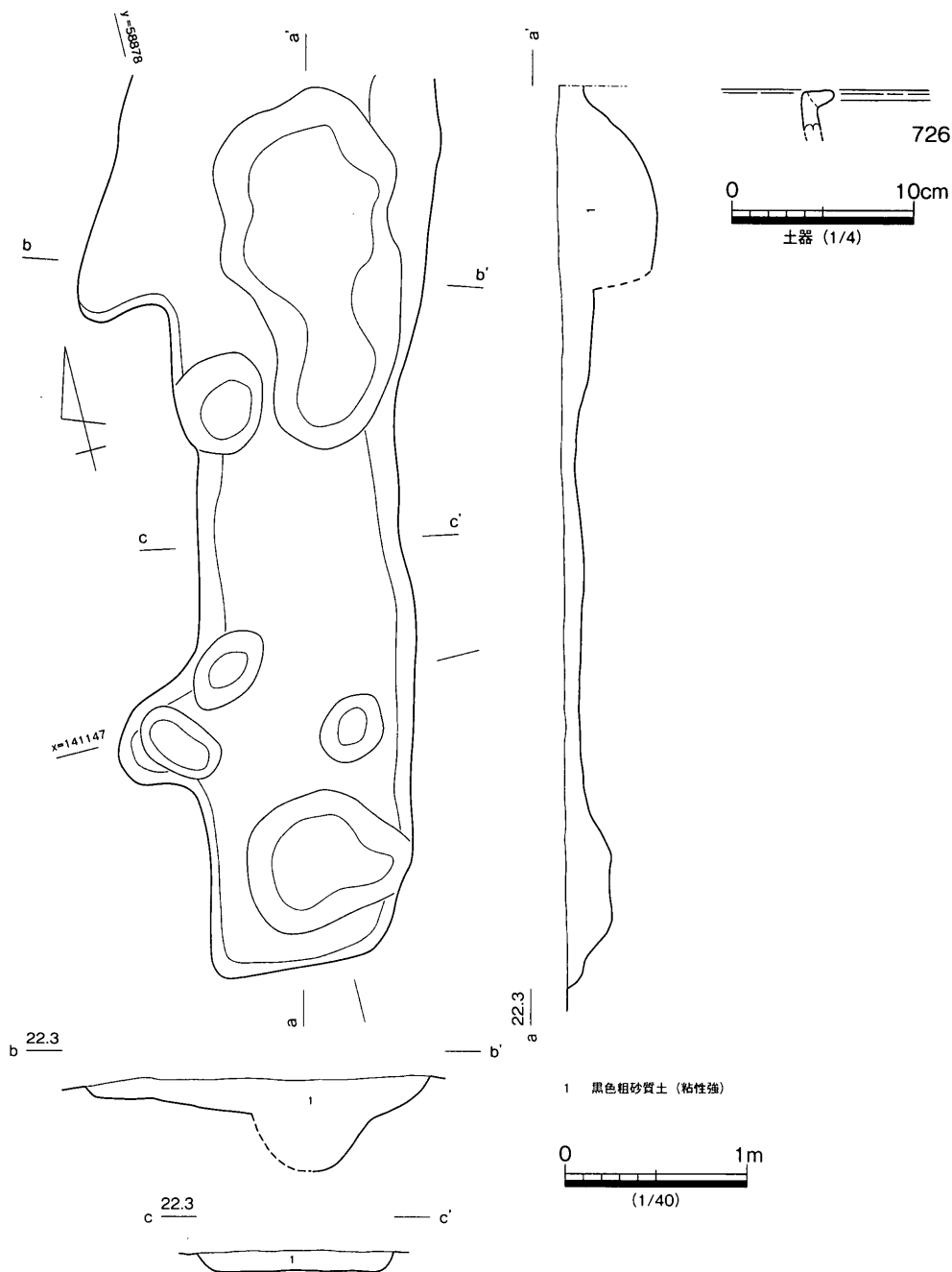
SXc14 (第98図)

IV区東部の第3検出面上で検出した、土坑状の遺構である。周辺にはSDc15が隣接する。

平面形は不整形な溝状を呈し、底部には数基の柱穴跡跡及び南端に土坑状の窪みがある。検出状況から柱穴跡跡や土坑に、不整形な溝状遺構が掘り込んでいるものと考えられる。溝状遺構は検出した長さ5.0 m以上、幅約1.1 mを測る。断面は浅い皿状を呈する。北端部の土坑は、凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、長径1.95 m、短径1.0 m、深さ約0.45 mを測る。埋土は溝状遺構と土坑状遺構ともに黒色粗砂質土の単層である。

SXa12 (第96・97図)

IV区南西部とII区北東部の第3検出面上で検出した、大型の落ち込み状の遺構であり、遺構の主要部が調査区から外れるため、西辺部の一部を検出した。周辺にはSXc01・02・03等が隣接する。



第98図 SXc14平・断面図、SXc15出土遺物

下層からの湧水が著しく、形状から推定して、大型の出水状の遺構か、小流路の西岸の一部とも考えられる。

検出した長さ10.0 m以上、幅3.5 m以上を測る。断面は浅い皿状を呈し、深さ0.8 m以上を測る。埋土は数層に分かれるが、概ね上層が黒褐色系の土で、下層は灰黒色系の土である。

SXc12からは弥生時代中期中葉が主体になるが、少量中期後葉頃の土器を含む、708～725の弥生土器と石器が出土した。

708～714は壺である。708・711は直口壺、709・712～714は広口壺である。714の口縁部には、数条の凹線文を施している。716・718・719は甕である。715・717・720は鉢、721・722は台付

鉢の脚台部である。723は甕の体部片を転用した、穿孔途中の紡錘車である。

724はサヌカイト製の石器で、短辺の稜線上に槌状剥離痕状の縦長の剥離痕が認められることから、楔形石器の削片を剥離し始めた、楔形石器の極初期の段階の石器と考えられる。725はサヌカイト製の石鏃である。

SXc15 (第98図)

IV区ないしV区の第3検出面上で検出した、不整形な遺構であることは確かであると考えられるが、図面や写真等の記録がないため、詳細な位置や形状、規模等は不明である。

SXc15の遺物は僅かで、図化できるものとして、726の瀬戸内型甕の口縁部片が挙げられる。

7. その他の柱穴跡出土遺物 (第99・100図)

IV・V区からは多数の柱穴跡跡を検出している。柱穴跡跡からは弥生時代中期前葉～古墳時代前期初頭頃の遺物が多量に出土しているが、それらの中から代表的な遺物を報告する。

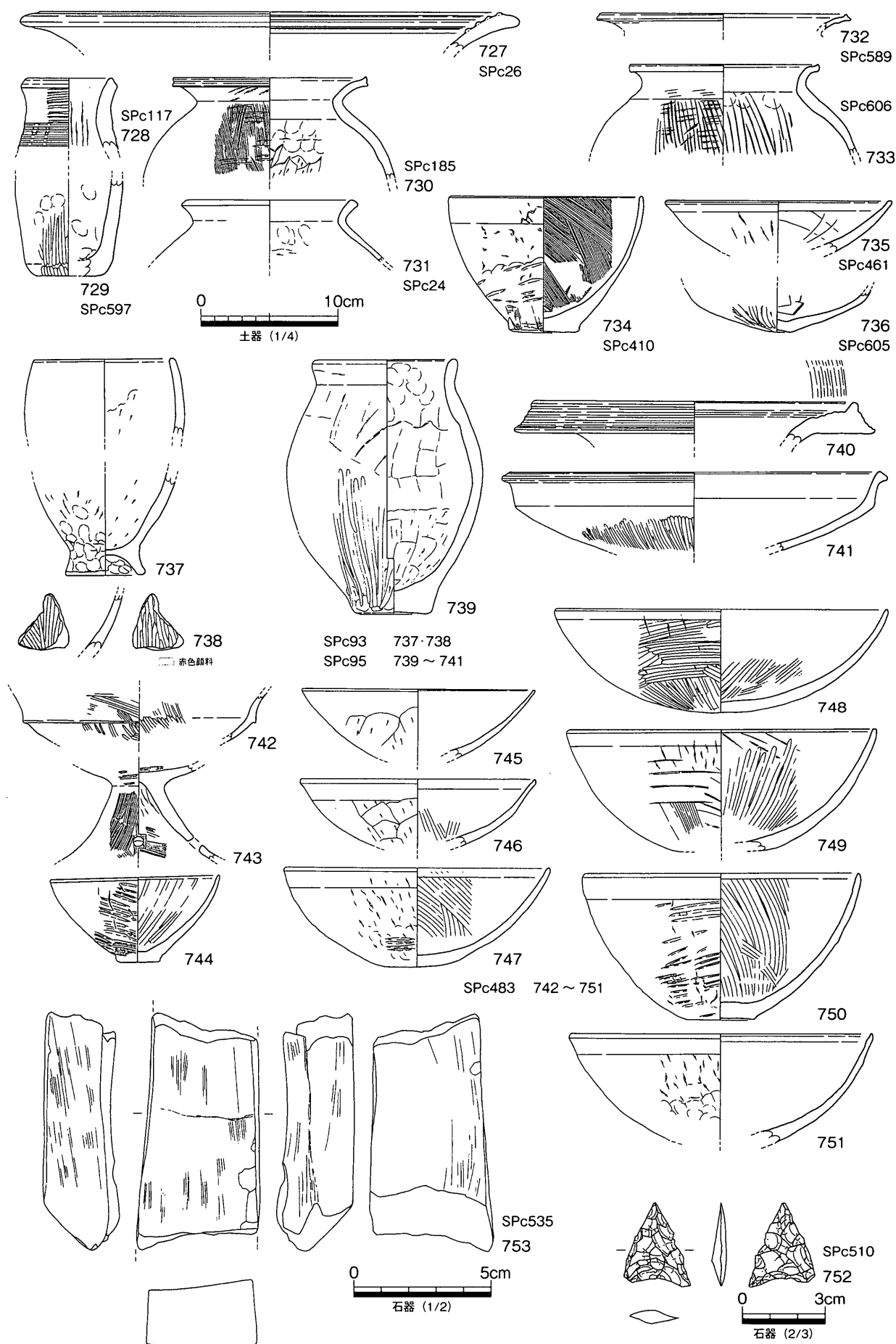
IV区からは727～753の土器と石器が出土した。727はSPc26から出土した。大型の広口壺の口縁部である。728はSPc117から出土した。直口壺の口頸部で、外面には櫛描直線文を顕著に施している。729はSPc597から出土したコップ型の鉢の下半部である。730～733は甕である。730はSPc185から出土した甕の上半部である。731も甕の上半部で、SPc24から出土した。732はSPc589から出土した、古式土師器の甕の口縁部である。この遺跡では、古式土師器は数が少なく希少な資料である。733は、SPc606から出土した甕の上半部である。734～736は鉢である。734はSPc410、735はSPc461、736はSPc605から出土した。737・738はSPc93から出土した。737は台付鉢で、738は高杯杯部と考えられる土器片であるが、内面に赤色顔料を付した跡が残っている。SPc95からは、739～741の土器が出土した。739は短頸壺、740は凹線文を顕著に施した器台の口縁部、741は底部を欠く高杯杯部である。SPc483からは、742～751の土器が出土した。742・743は高杯の杯部と脚部である。744～751は鉢である。

752はSPc510から出土したサヌカイト製の石鏃である。753はSPc535から出土した流紋岩製の砥石である。

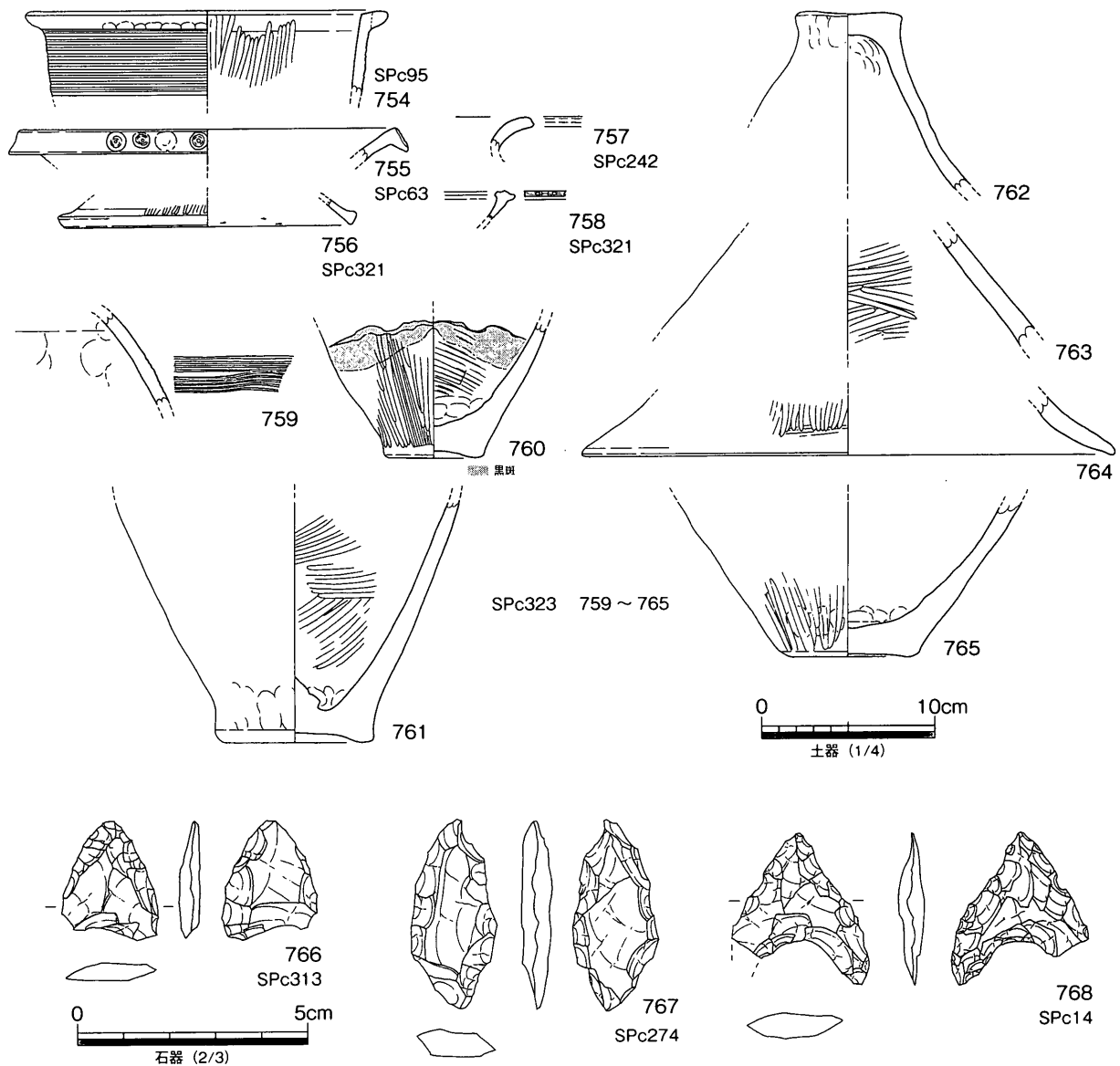
V区からは754～768の土器と石器が出土した。754はSPc95から出土した瀬戸内型甕の上半部である。口縁部下にはヘラ描直線文を顕著に施している。755はSPc63から出土した器台の口縁部で、口縁部には円形浮文を施している。756・758はSPc321から出土した土器である。756は高杯脚部、758は高杯口縁部で、胎土等から香東川下流域産の土器と考えられる。757はSPc242から出土した広口壺の口縁部である。SPc323からは759～765の土器が出土した。759は壺の体部片で、外面には直線文を施している。760・761・765は甕の底部である。762～764は大型の蓋で、おそらく大型の甕に伴うものであると考えられる。

766はSPc313から出土したサヌカイト製の石鏃である。767はSPc274から出土したサヌカイト製の石鏃である。767はSPc14から出土したサヌカイト製の凹基式の石鏃である。形状より縄文期に属する可能性がある。

8. 第1検出面の遺構・遺物



第 99 図 IV区柱穴跡出土遺物



第100図 V区柱穴跡出土遺物

SDc01 (第101図)

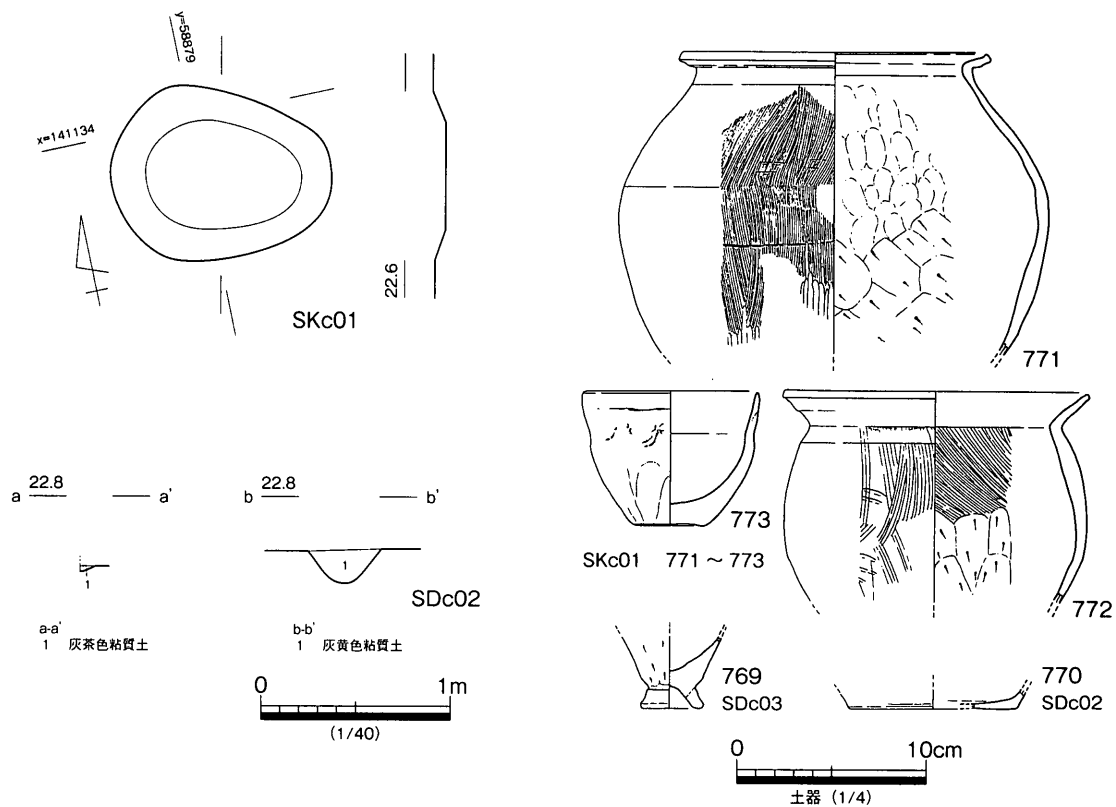
IV区南西部の第1検出面上で検出した溝状遺構である。北西方向に直線方向に延びる溝状遺構である。削平を受けたためか、上面の幅は地点によりかなり差があり、深さもかなり浅い。

検出した長さは約13.5m、幅約0.5m、主軸は北寄り40°西へ向く。断面は浅い皿状を呈し、深さ約0.1mを測る。

SDc02・03・04・05・06・07 (第101図)

IV・V区の1検出面上で検出した溝状遺構である。周辺の条里型地割りの向きに揃え、主軸は北寄り10°東へ向き直線的に延びる溝状遺構である。削平を受けたためか、残存状態にかなり差がある。最も残りが良いのが、SDc02・03・05等の東半部の一群である。

SDc02はIV・V区の西端の壁際に位置し、検出した長さ約25.0m、幅約0.5、深さ約0.2mを測る。



第 101 図 SKc01 平・断面図、SDc02 断面図、SKc01, SDc02・03 出土遺物

SDc03 は SDc02 から東へ約 12.0 m 隔て南北に延びる溝状遺構で、検出した長さ約 14.0 m、幅 0.3 ~ 0.5 m、深さ約 0.2 m を測る。

SDc05 は SDc02 から東へ約 25.5 m、SDc03 から東へ約 13.0 m 隔て、南北に延びる溝状遺構である。検出した長さ約 8.5 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.1 m を測る。

これらの溝状遺構からの遺物は僅かで、図化できるものとして、SDc02・03 の土器がある。

769 は SDc03 から出土した弥生時代後期後半以降の、脚台付製塩土器の下半部であるが、混入品と考えられる。770 は SDc02 から出土した土師器の杯底部である。

SKc01 (第 101 図)

V 区南西部の第 1 検出面上で検出した土坑である。周辺には SDc03 等が隣接する。

平面は卵形状を呈し、断面は浅い皿状を呈する。長径 1.2 m、短径 0.9 m、深さ 0.07 m を測る。

SKc01 からは弥生時代後期後半頃に当たる、771 ~ 773 の土器が出土した。

771・772 は下半部を欠く甕である。771 の口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり下半部へ続く。外面の上半部はハケ、下半部はヘラミガキ、内面の上半部指オサエ、下半部はヘラケズリを顕著に施している。この土器は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。773 は鉢である。

9. 包含層出土遺物（第102～105図）

IV・V区の全域には、弥生時代中期～古墳時代前期頃の土器を多量に含む、層厚約0.3mを測る褐色系の粘質土（第5図4層、第6図3層）が広がり、その上面と下面において検出面を2面確認した。その堆積土中から出土した遺物や、機械掘削、遺構検出時の遺物等、個別の遺構に区分できない遺物を取りまとめて、包含層出土遺物として報告する。

包含層出土の遺物として挙げられる遺物は、774～854の土器と石器である。

774～780は壺である。774～776は広口壺の口縁部ないし口頸部である。778は壺の口縁部で、口縁部は複合口縁を呈し、鋸歯文を施している。779は壺の体部片で、外面には赤色顔料が付着している。

781～791は甕である。786～788の口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり、下半部へ続く。外面の上半部はハケ、下半部はヘラミガキ、内面の上半部は指オサエ、下半部はヘラケズリを顕著に施している。この土器は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。785は786～788と形状等が類似、胎土から香東川下流域産の土器と考えられる土器であるが、外面調整が異なり、タタキを顕著に残している。また器壁も比較的厚い。香東川下流域産の甕は形状が類似していることから、おそらく、ハケ、ミガキ等の最終調整を施していない段階の香東川下流域産の甕と考えられる。

792～794・798は高杯である。792・793は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる高杯杯部である。798は底部を欠く高杯杯部であるが、形状及び胎土から吉備系の高杯と考えられる。

795・796は台付鉢である。

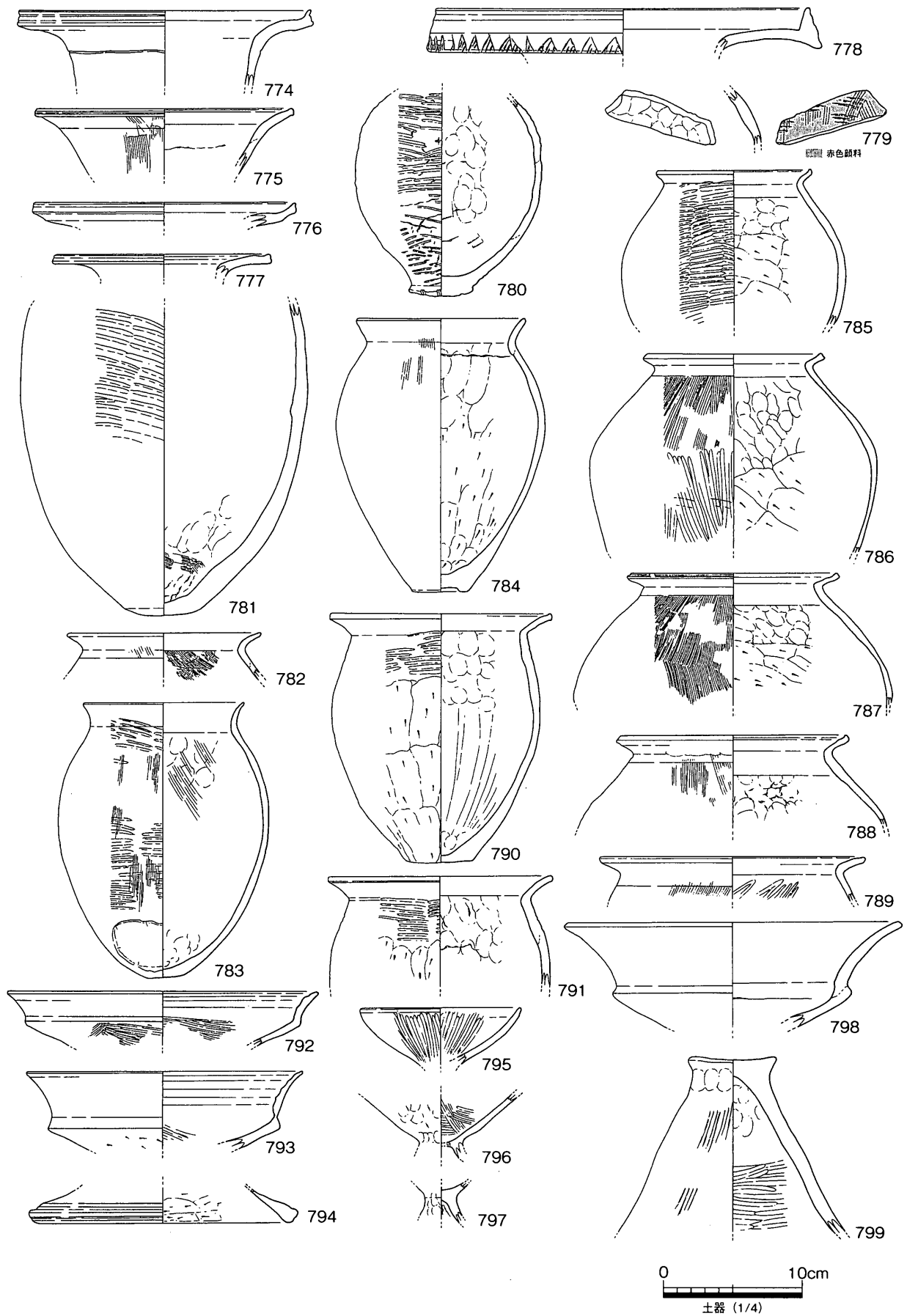
803～813は鉢である。814・815は内面に赤色顔料の付着が認められる土器である。815は形状から大型鉢の可能性が高い。

816～821は脚台付製塩土器の脚台部である。816・818・819～821は、胎土から香東川下流域産の土器と考えられる製塩土器である。

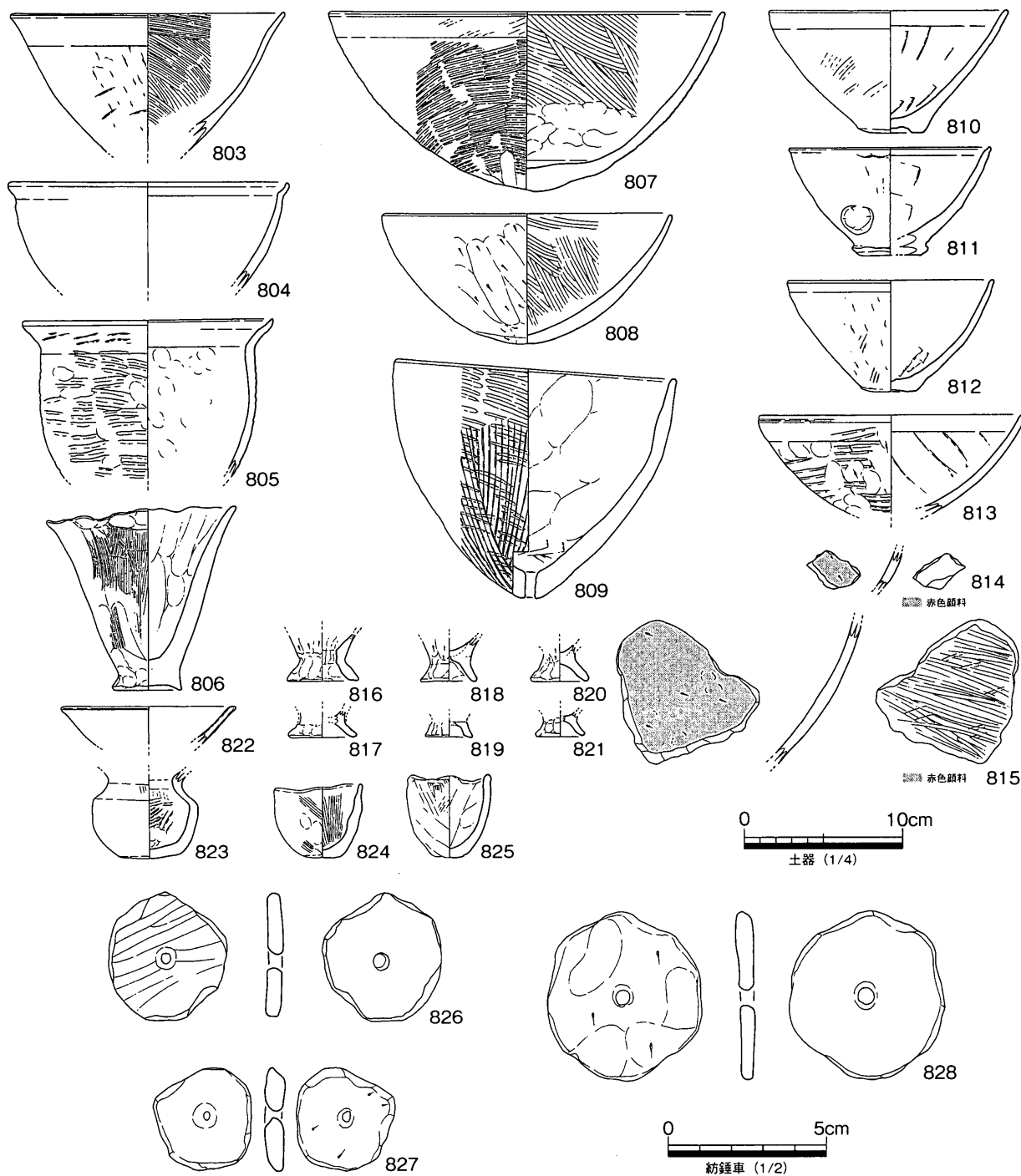
822は緑釉の皿である。この遺跡からは初めての出土例で、周辺地域に古代集落の存在を示唆する資料である。826～828は甕の体部片を転用した紡錘車である。

800・801・829～841はサヌカイト製の石鏃である。840は基部の一部が欠けているが、おそらくロケット型の石鏃と考えられる。844・845はサヌカイト製の石鏃であるが、形状から未製品と考えられる。

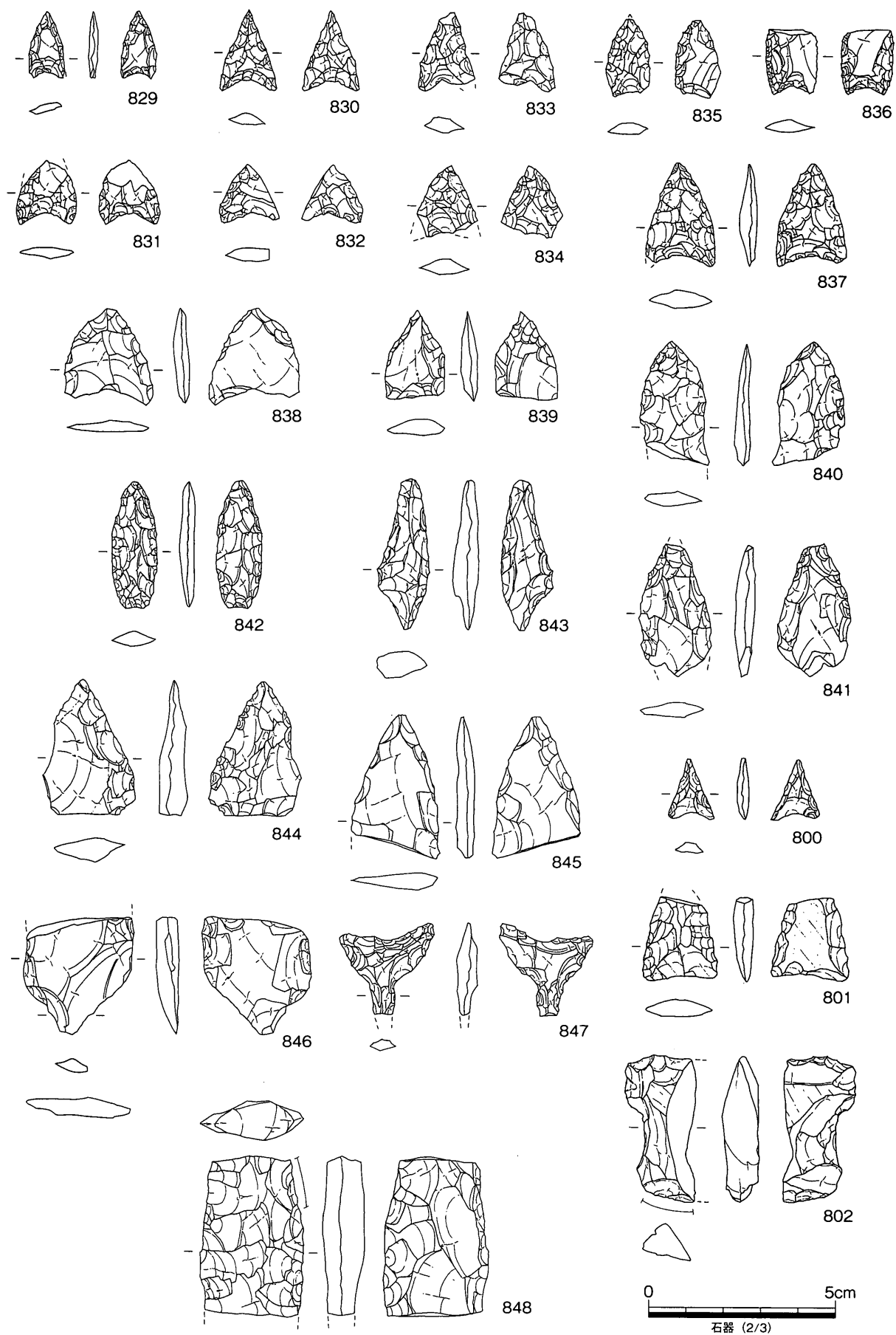
846・847はサヌカイト製の石錐である。846は先端部の調整が未熟な点から、未製品とも考えられる。802はサヌカイト製の打製石庖丁を転用した楔形石器の削片である。848はサヌカイト製の槍先形石器を転用した楔形石器である。849は左右両辺を欠く、大型の打製石庖丁片である。850は緑色片岩製の大型蛤刃石斧の先端部である。851は結晶片岩製の環状石斧片である。環状石斧は出土例も少なく、貴重な資料である。852・854は敲石である。853・855は砥石で、853の器面には、金属器を研磨したものか直線状の使用痕が認められる。



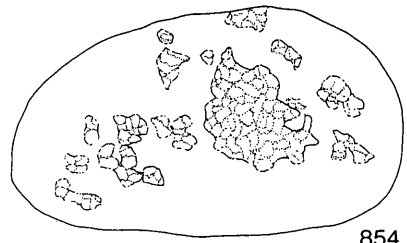
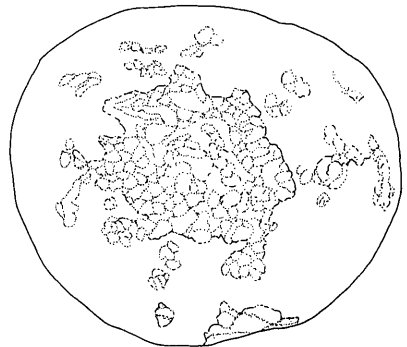
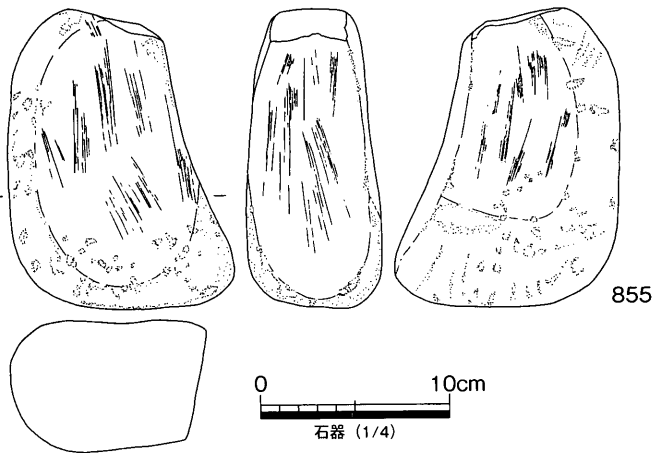
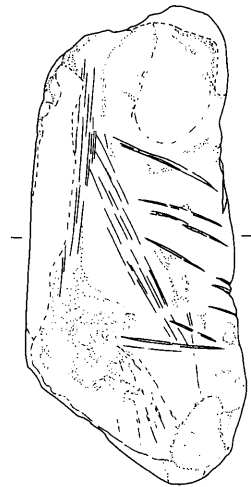
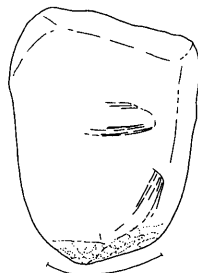
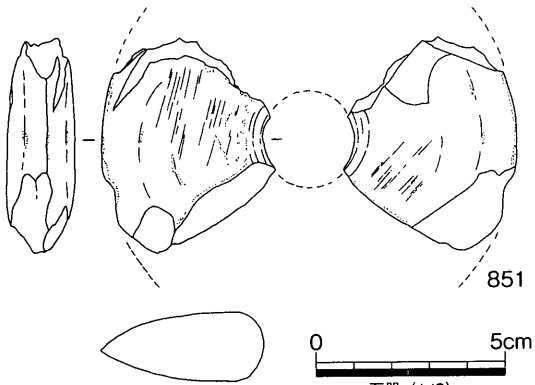
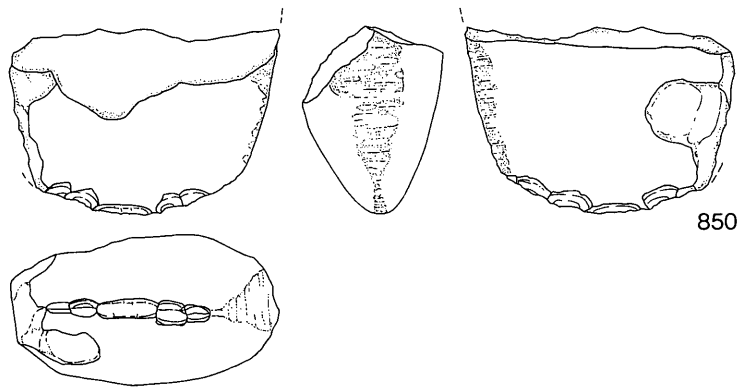
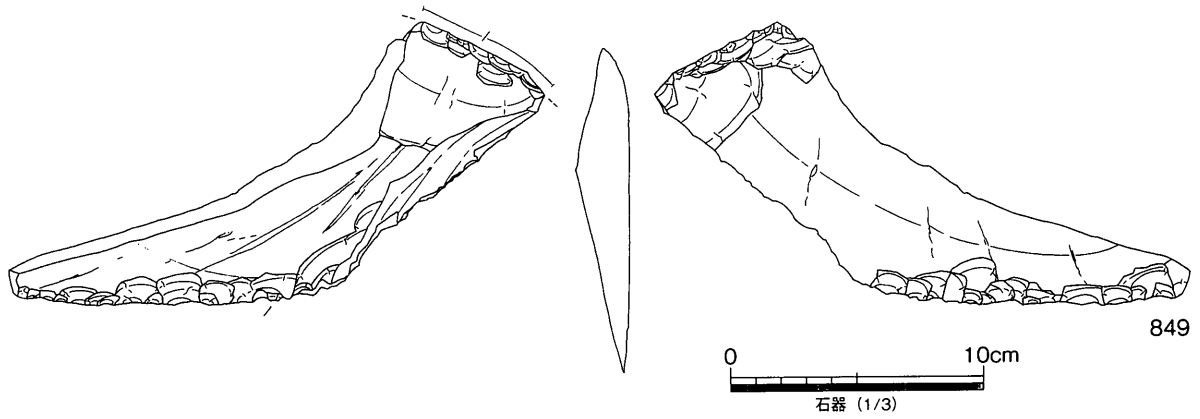
第 102 図 包含層出土遺物 (1)



第 103 図 包含層出土遺物 (2)



第104图 包含層出土遺物(3)

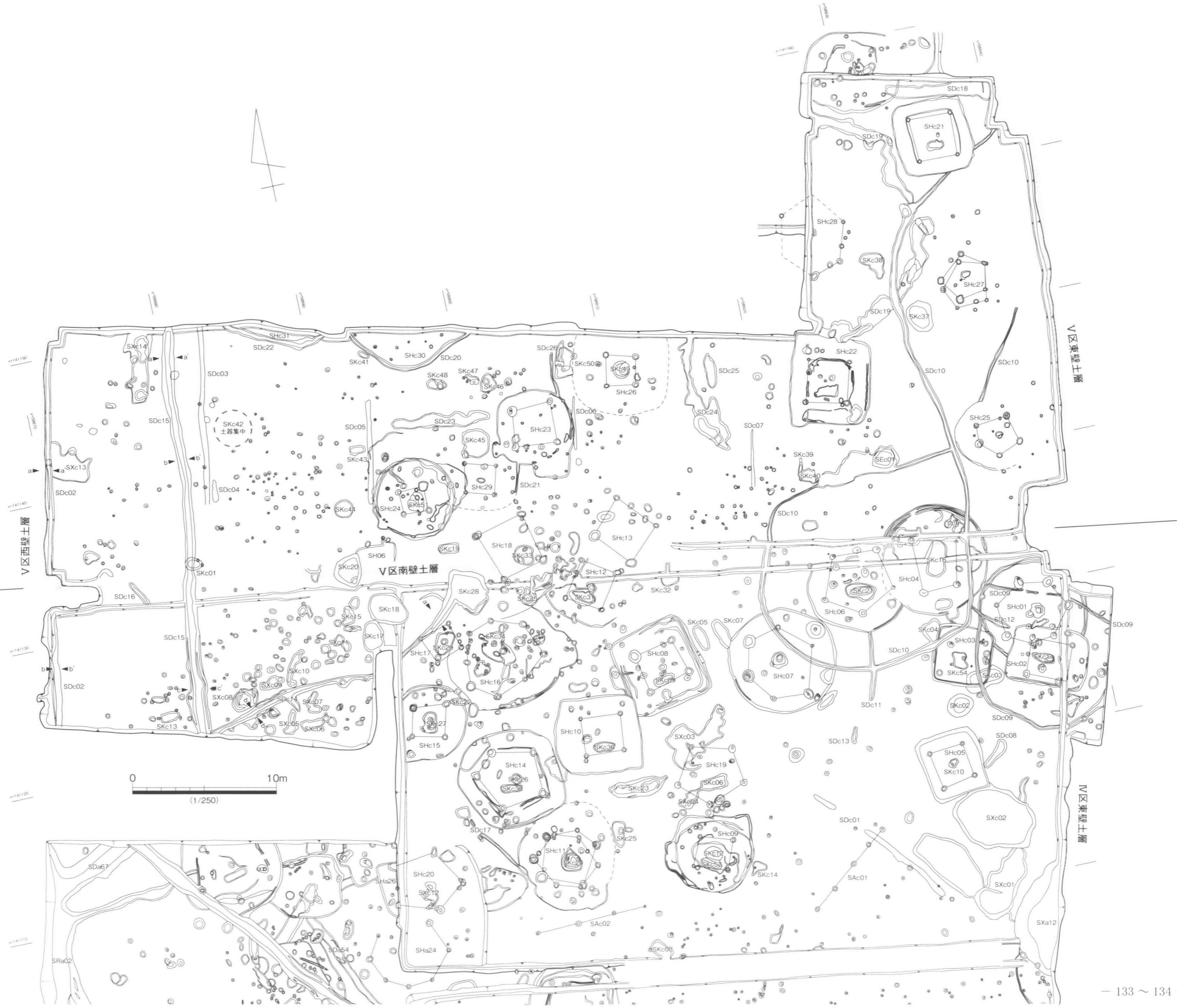


第 105 図 包含層出土遺物 (4)

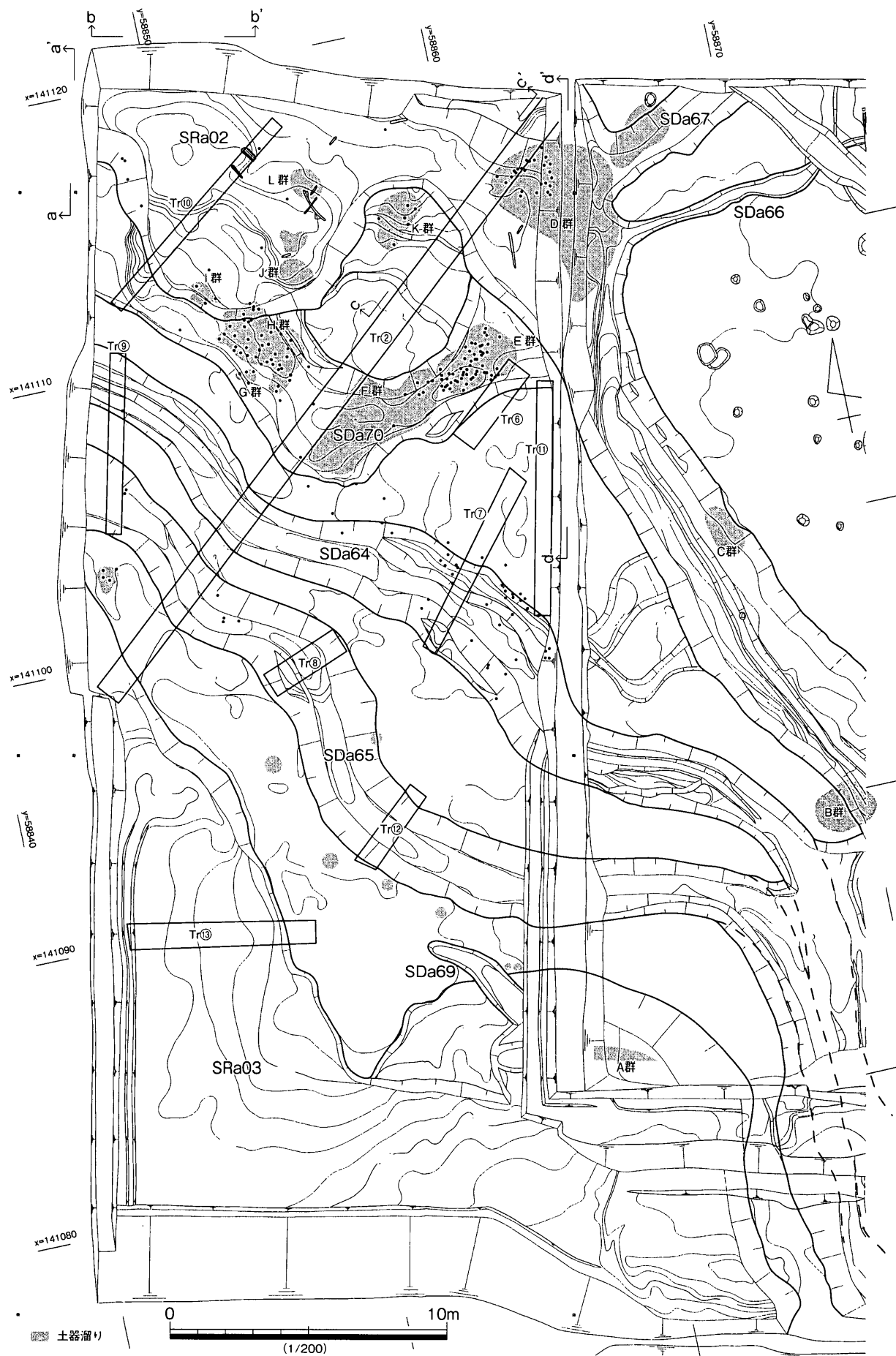
V区

IV区

III区



第106图 IV·V区遺構配置



第107図 IX区第3検出面遺構配置

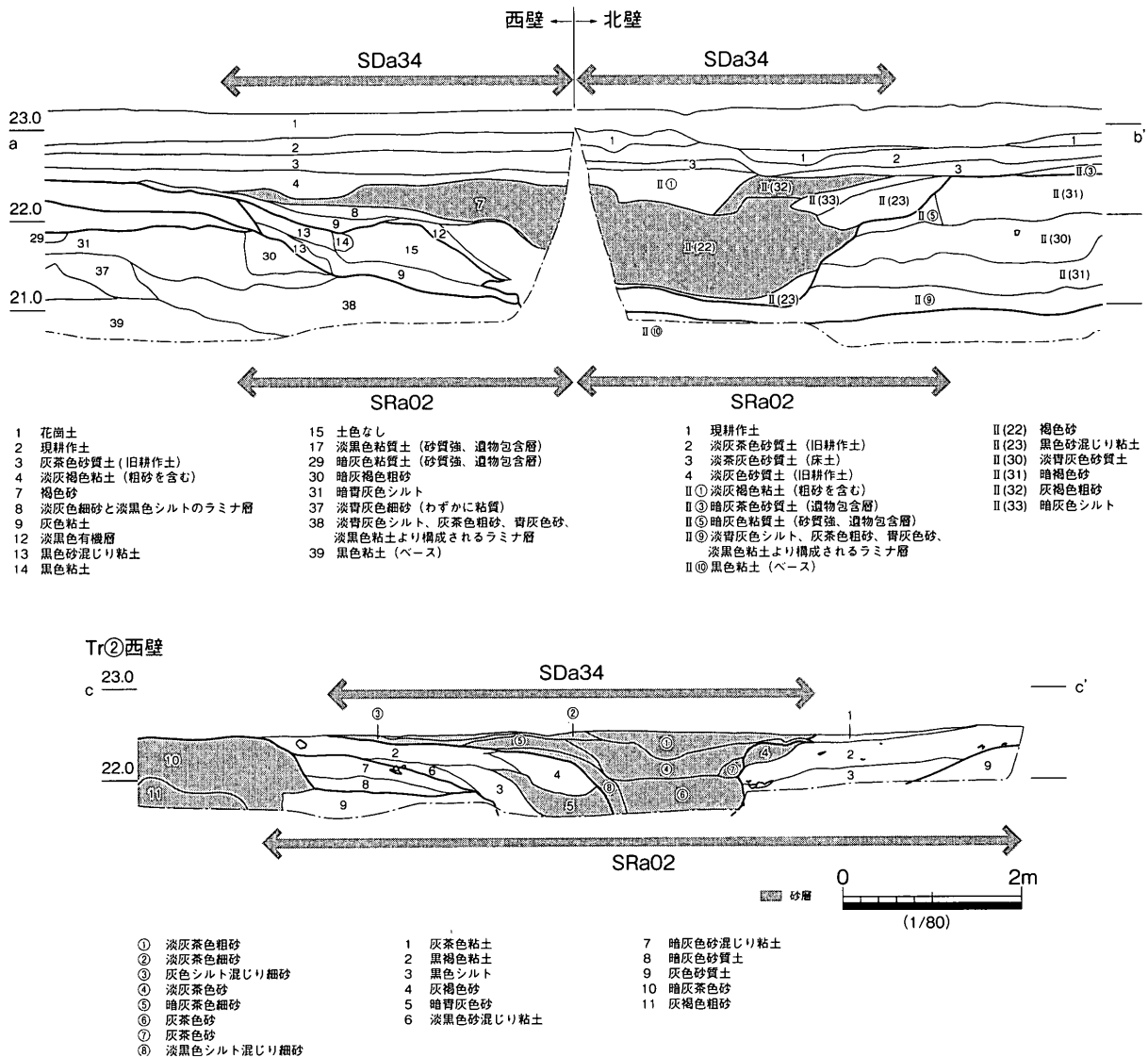
第4節 IX区の遺構・遺物

1. IX区概要

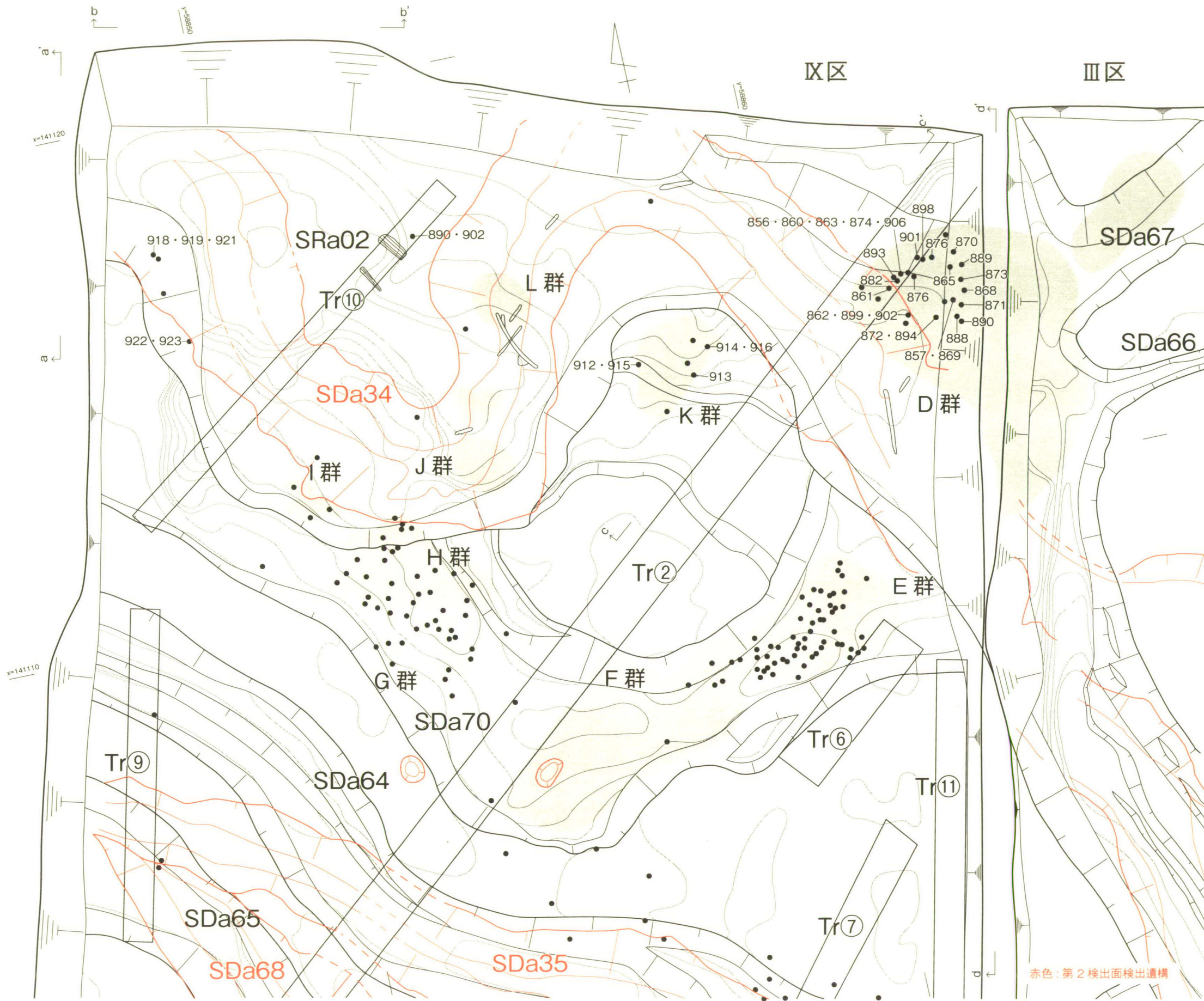
IX区は調査面積 850m²を測る調査区で、先述したように微高地の南西辺の低湿地部に当る。この地区の東隣には、平成 18 年度に整理作業を行い、既に報告している I・III区が位置しており、同地区から続く自然河川跡と、溝状遺構を検出した。

上位の「第2検出面」上からは、I・III区から続く古墳時代前期以降の溝状遺構 2 条、中位の「第2検出面下層」上からは、1 条の溝状遺構、下位の「第3検出面」上も第2検出面と同様に、I・III区から続く弥生時代後期後半～後期末前後の溝状遺構 3 条、自然河川跡 2 条を検出した。IX区で検出した溝状遺構や自然河川跡は、北西-南東方向へ延びており、結果的に微高地上の集落の南西辺を画している。なお、微高地上から続く「第1検出面」については、III区の西半部及びIX区辺りから地形が西に向かって傾斜し、後世の削平を受けたためか検出できなかった。

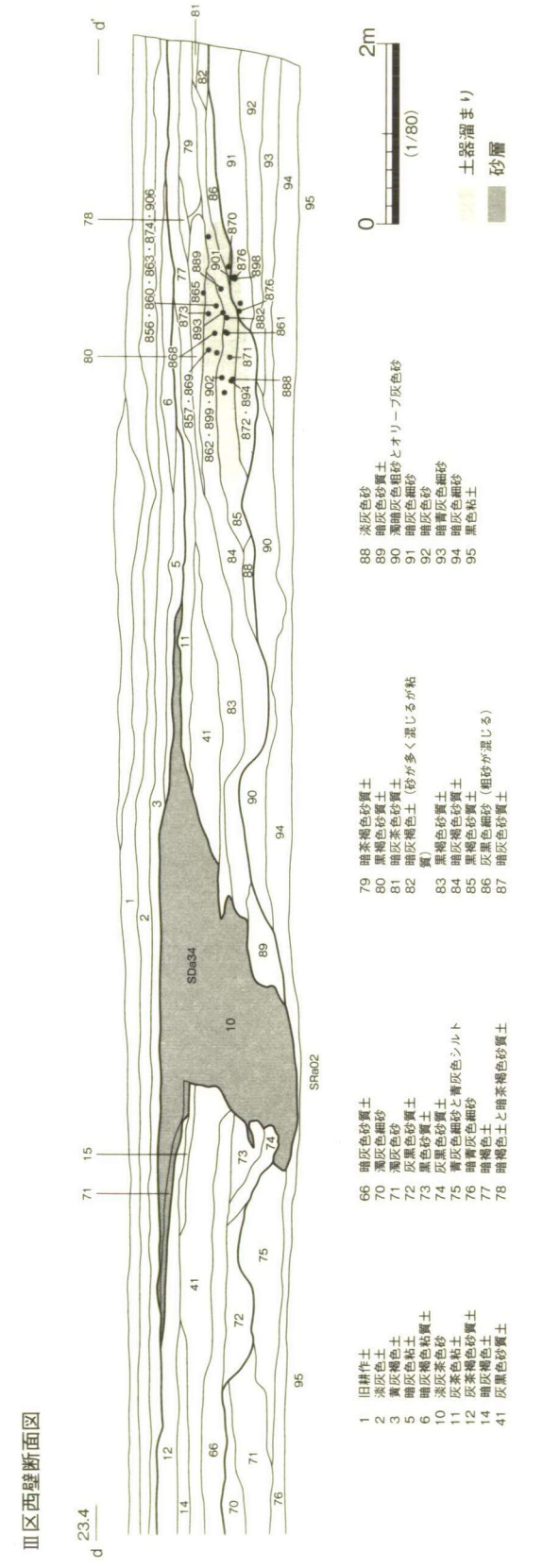
IX区の南半部には、I・III区から続く約 1.0 m の淡灰褐色系の粗砂等が堆積している。堆積砂はラミナ状の堆積も確認できることから、短期間に堆積したものと考えられ、この堆積砂により低湿地部には、



第 108 図 SDa34・SRa02 土層断面図



第109図 SRa02遺物分布平面図



現況の地盤の高さ近くまで埋まっている。なお、この堆積砂は、Ⅸ区第2検出面上のSDa34・35、Ⅰ区SDa23・24・32・33・36～38等の最終埋土と類似している。これらの遺構からは、時期を示す良好な遺物が乏しいため、堆積時期を決めるのは難しい。微高地南西辺の低湿地を埋める大規模な洪水が、この遺跡におよんだことは確かである。

Ⅲ・Ⅸ区では、第3検出面上の溝状遺構がある程度埋まった段階で、土器が大量に廃棄されている状態を確認することができた。廃棄された土器の分布を平面的に分ければ、A～J群に分けられる。Ⅸ区ではD～J群を検出した。中でもE・F群の出土量は注目できる。廃棄された土器は残りの良いものが多く、弥生時代後期後半～終末期の土器が主体を占めている。これらの遺物は、三木町周辺の弥生土器の地域性を検討する上で、多様なデーターを提供してくれる貴重な資料である。

なお、「第1章 第3節 整理作業の経過」でも先述したように、Ⅸ区の整理作業については2ヵ年に分けて行うことになった。主要な遺構については平成19年度に整理作業を行い、自然河川跡(SRa02)の遺物に限り平成21年度に整理を行う事になった。以下SRa02の遺物について報告するのであるが、出土状況を説明するには遺構の状況も把握しておく必要があり、先の報告(註4)と重複するが、遺構の状況を説明した上で遺物を報告することにする。

2. 自然河川跡 SRa02 (第108・109図)

Ⅰ・Ⅲ・Ⅸ区の第3検出面上で検出した自然河川跡である。Ⅰ区のSRa02は、ほぼ東西方向に流れ、Ⅰ区西端部とⅢ区との境界付近で北に大きく屈曲しⅢ区へ延びる。Ⅲ区の南端部ではSDa65と分岐し、その後、直線気味に北方向に流れ、Ⅸ区の北端部へ続く。Ⅸ区では南へ大きく蛇行し、調査区の北西端部より調査区外へ延びる。蛇行するⅨ区の区間では流れが激しかったものか、Ⅰ・Ⅲ区の形状に比べて幅も広く、深さも深く、播鉢状を呈している。

Ⅲ・Ⅸ区のSRa02北端部ではSDa66・67・70が、Ⅲ区南半部ではSDa64が、この河川跡を掘り込んでいる。また、この河川跡の上位に当る第2検出面上では、この河川跡と同じルートをとる、SDa34・35等の溝状遺構を検出した。特にSDa34はこの河川跡と同一方向に流れており、SRa02の埋土を大きく掘り込み、一部分についてはオーバーハング気味に掘り込んでいる箇所も認められる。おそらく、SDa34はSRa02の最終堆積層と判断される。

Ⅰ・Ⅲ区の区間まで含めた検出した長さは77.0m以上、幅は4.0～8.0m以上を測る。深さは地点により差があるが、Ⅰ区では約1.3m(河床面T.P.約20.8m)、Ⅲ区では約0.9m(河床面T.P.約21.3m)、Ⅸ区では約1.6m(河床面T.P.約20.9m)を測る。

Ⅲ区のSRa02では微高地上の集落からの廃棄遺物と考えられる大量の弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の土器溜りを3地点で検出した。その土器溜りを南よりB群、C群、D群と仮称した。Ⅸ区のSRa02も、Ⅲ区から続くD群を始めとして土器溜りを数地点で検出した。

3. 自然河川跡 SRa02 出土遺物 (第110～124図)

遺物の出土層位については、調査区北半部の北東方向に配したTr②の層位名を基準にして取り上げており、その層位と各層位間の土器の接合関係をもとに出土遺物の層位を復元した。また層位が不明瞭な遺物については、垂直分布を参考にして出土遺物の層位を復元した。その結果、SRa02の出土遺物を上層、中層(Tr②2・3層相当)、下層(Tr②7・8層相当)、最下層に分け、更に中層を中層上位(Tr

②2層相当)、中層下位(Tr②3層相当)に細分した。最下層に当る遺物については、取り上げ札の記載内容にもとづいたが、Tr②7・8層と接合する土器があり、その接合関係を考慮して層位を特定した。出土状況としては、中層からの遺物が主体を占め、土器溜りD群もこの層で検出された。上層については、SDa34の掘り込みにより、大部分が失われており、図化に対応できる遺物は抽出できなかった。

なお、SRa02の最下層は、この河川跡の最終流路と考えられる、SDa34の最下層と同レベルに位置し、土質も類似していたため、最下層として取り上げた遺物の中に、SDa34の遺物が混入している可能性がある。

D群出土遺物(第110～114図)

D群は、先述したようにⅢ区から続く土器溜りで、弥生時代後期後半新相頃に当る856～911の土器が出土した。なお、層位的には中層に当る。

856～874・876～883・890は壺である。856～870・873は広口壺である。856～860は同タイプの広口壺である。口縁部は頸部から屈曲させ水平気味に伸び、端部を平坦に仕上げている。頸部は下方に開く様に直線状に伸び体部に続く。体部は丸味をもちながらも底部に続き、底部は僅かに平底を残している。外面にはハケ及びヘラミガキ、内面上半部は指オサエ、下半部はヘラケズリを施している。これらの中で、856・858～860は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。871は直口壺である。口頸部はくの字状に屈曲した後に短く直線状に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。体部は丸味をもちながらも長胴気味で、底部は平底を呈する。外面はタタキ後ハケ、内面はヘラケズリ後ハケを施している。877～881は複合口縁の壺である。878の口縁部は逆ハの字状に開き端部は丸く仕上げ、刻目文を施している。口縁部の下部には比較的大型の円形浮文を施している。879は装飾性の高い壺の口頸部である。口縁部は斜め方向に上下に拡張し、口縁部の外面には上部と下部に鋸歯文を周らしている。頸部は下方に開く様に直線状に伸び、体部に続く体部との境には一条の突帯を周らしている。880・881・877は口縁部が頸部から屈曲し、直線気味に上方に伸びる複合口縁壺の口縁部と口頸部である。877は胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。882・890は短頸壺である。883は口縁部を欠く小型丸底壺である。胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。

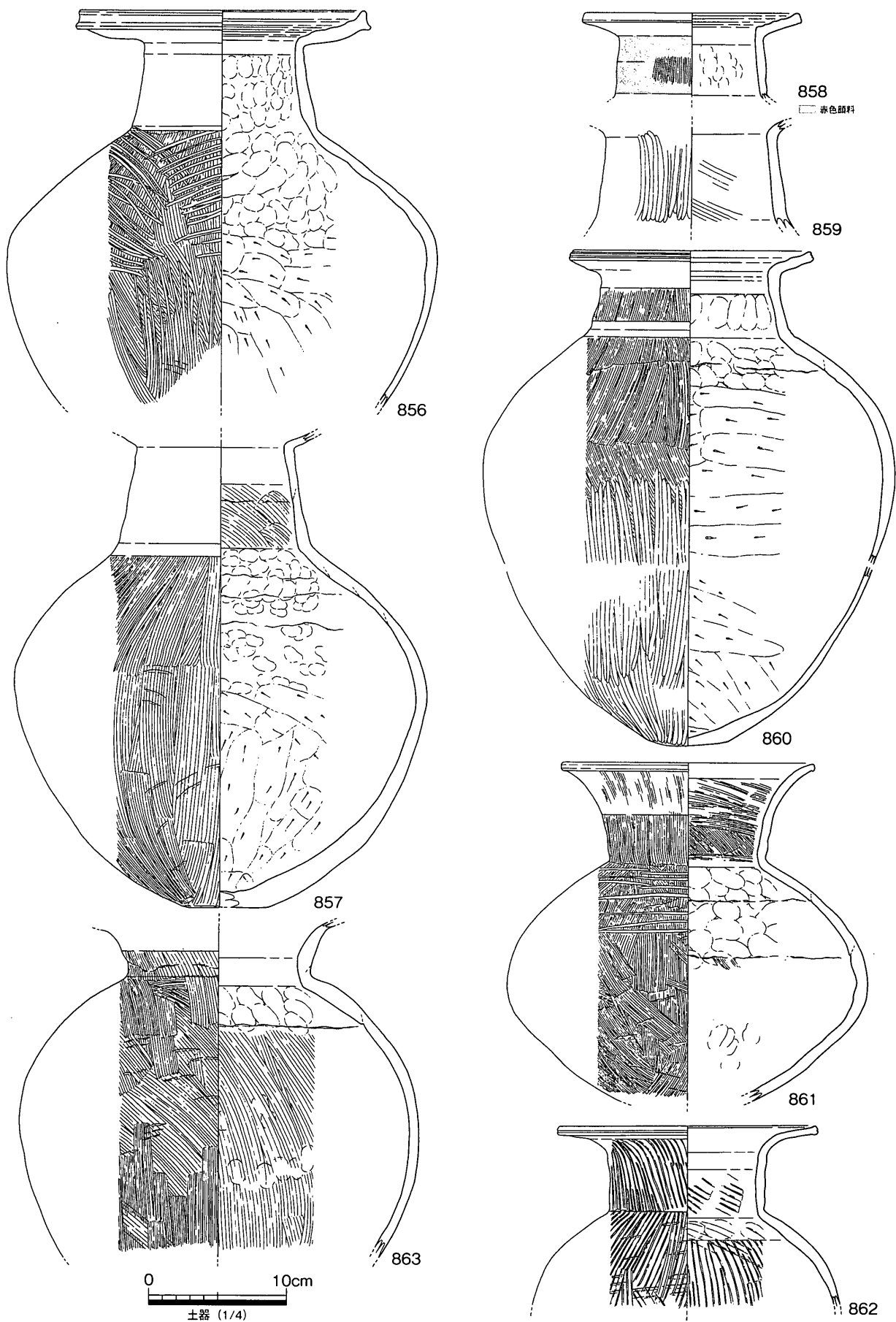
874・875・884～889・891～893は甕である。887・888は同タイプの甕である。口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり、下半部へ続く。外面の上半部はハケ、下半部はヘラミガキ、内面の上半部は指オサエ、下半部はヘラケズリを顕著に施している。この土器は、形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。889も887・888に類似するタイプであるが、微妙に形状・調整などが異なる。

895・906は脚部を欠く高杯杯部である。906の口縁部は底部との境界で僅かに屈曲し、逆ハの字状に開き、端部は丸く仕上げている。

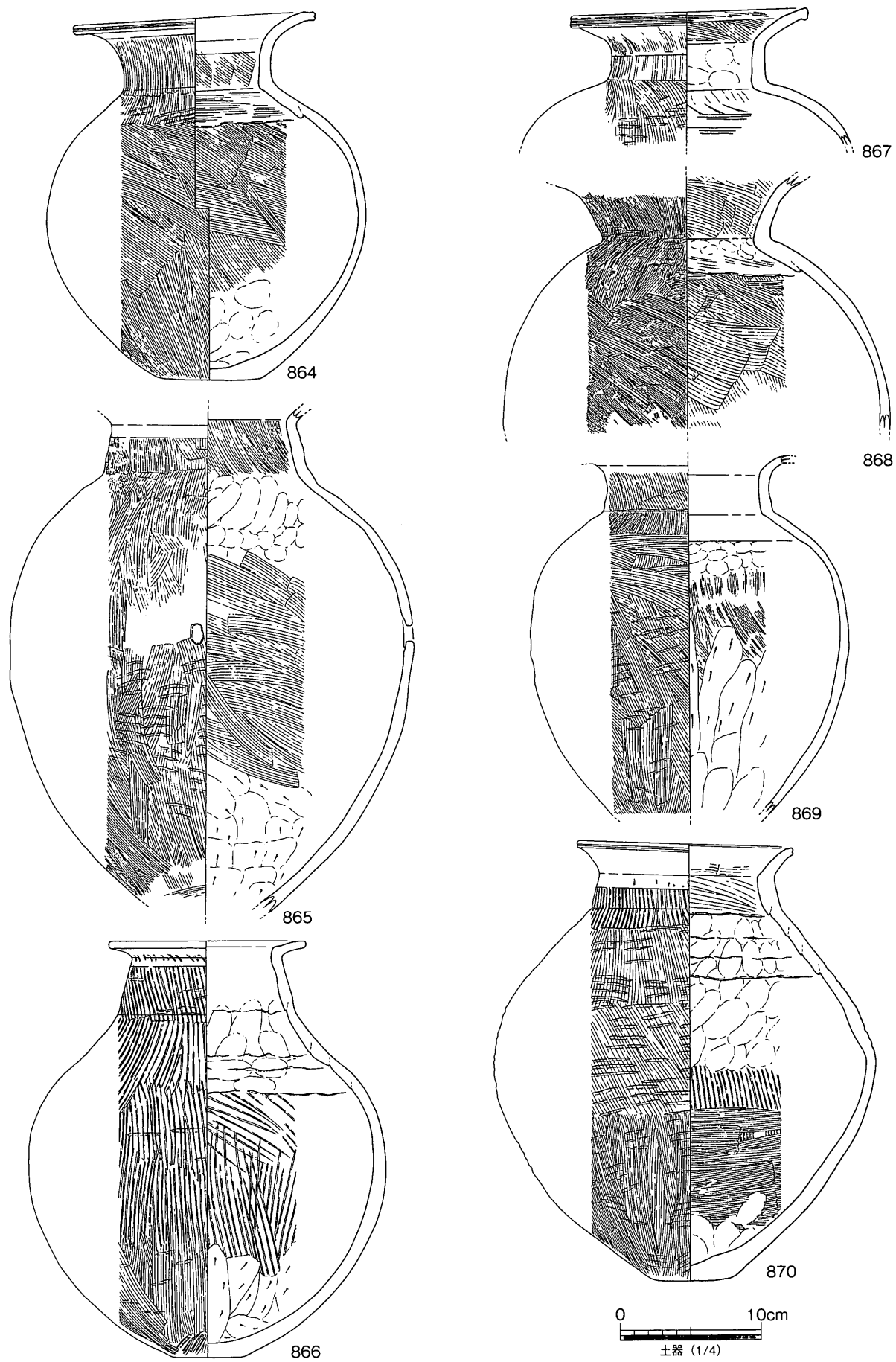
894・896～905は鉢である。894・897は大型の鉢である。897は形状及び胎土から香東川下流域産の土器と考えられる。

907は小型器台の脚部である。脚部は丸味をもち、中央に穿孔を施している。908・909は器台の上半部ないし口縁部で、口縁部は拡張させ円形浮文を付しており、908の口縁部にはヘラ状工具により波状の装飾を施している。

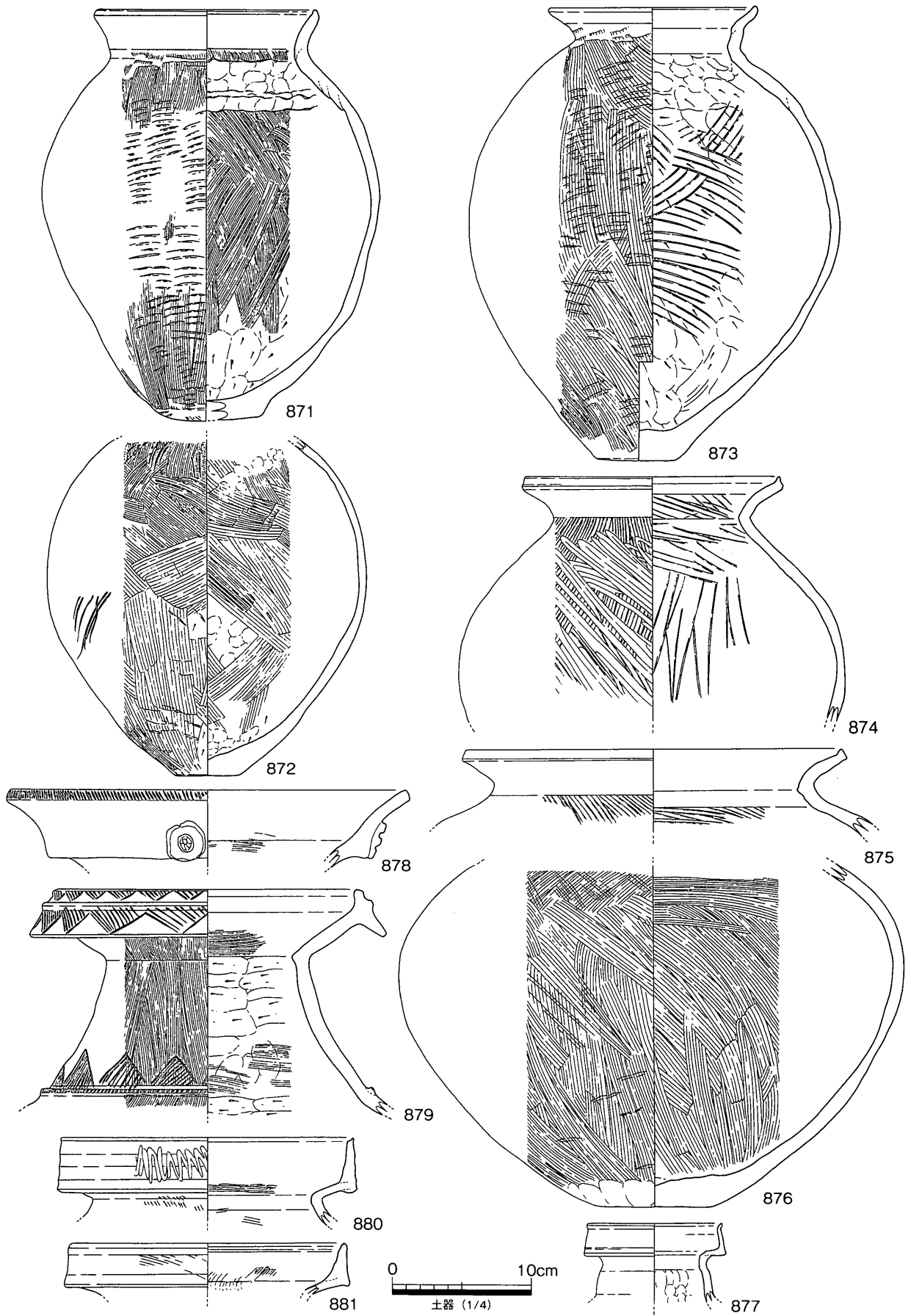
910は脚台付製塩土器の脚部である。形状より体部は丸味をもった長胴の形状を呈するものと考え



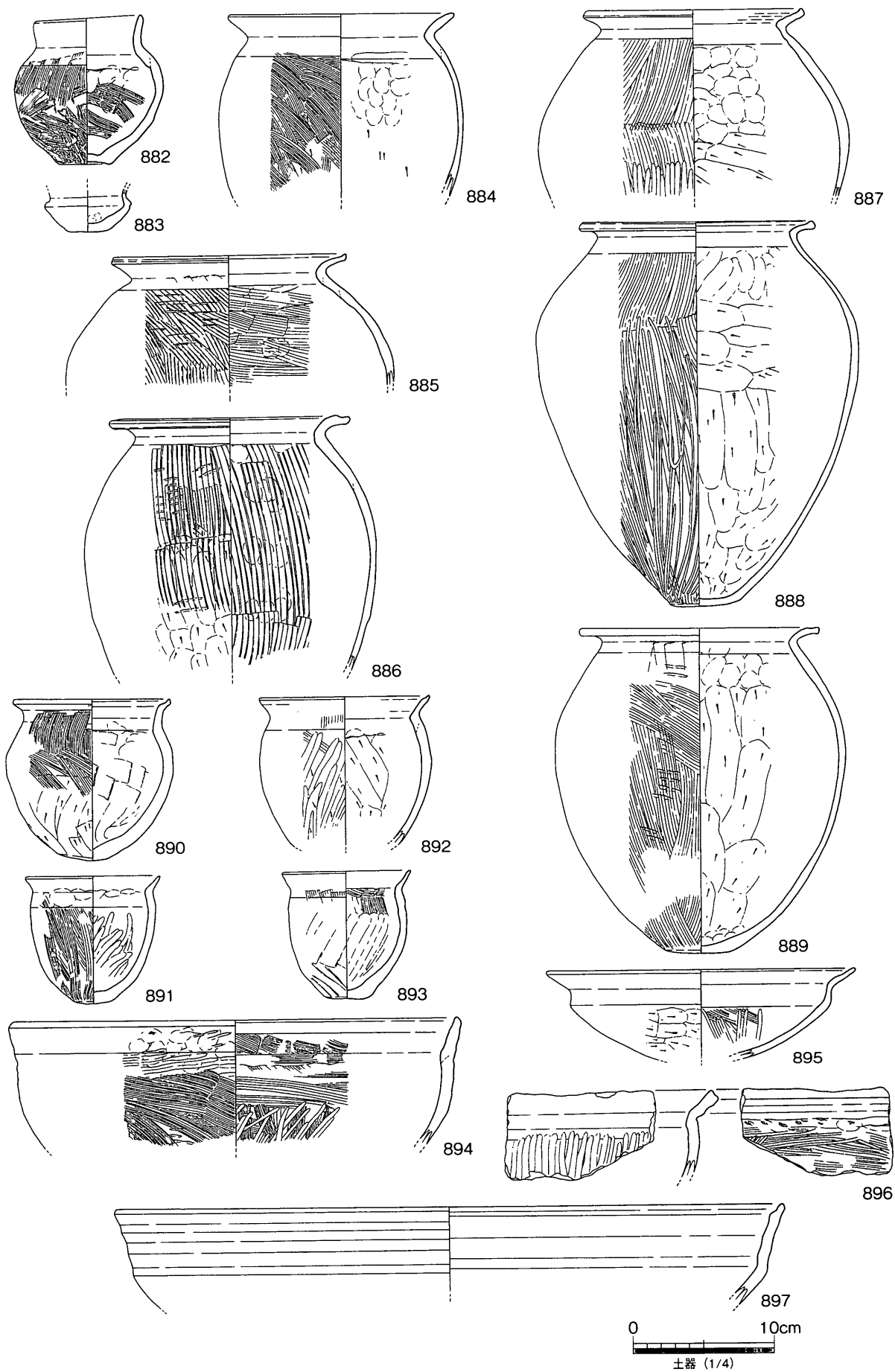
第 110 図 SRa02 中層 D 群出土遺物 (1)



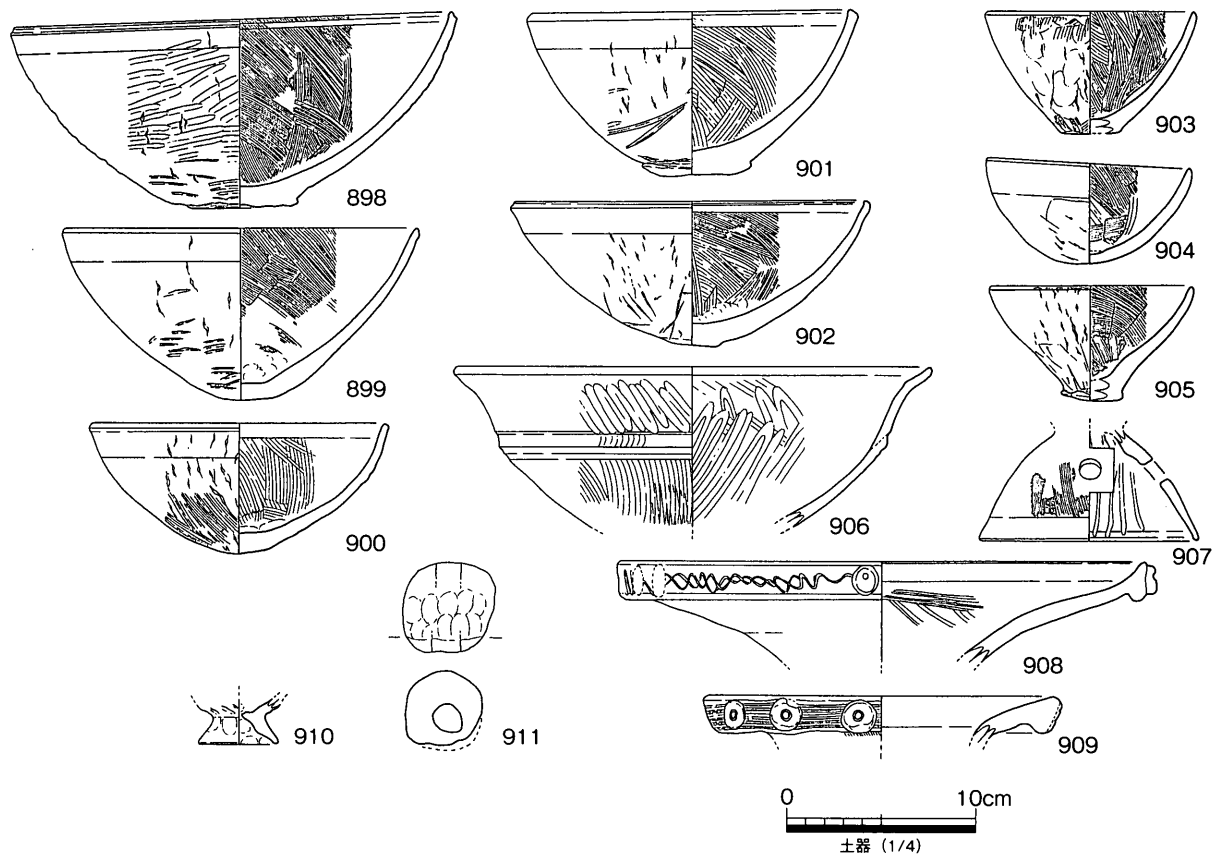
第 111 図 SRa02 中層 D 群出土遺物 (2)



第112図 SRa02 中層 D 群出土遺物 (3)



第 113 図 SRa02 中層 D 群出土遺物 (4)



第 114 図 SRa02 中層 D 群出土遺物 (5)

られる。

911 は有孔土錘である。

K・L 群出土遺物 (第 115 図)

K 群は SRa02 の肩部付近、L 群は河川跡中央下位で検出した土器溜りである。両群とも層位的には中層に当る。K 群からは弥生時代終末期頃に当る 912～916 の土器が出土した。

912 は複合口縁の壺の上半部である。口縁部は頸部から屈曲し、垂直気味に立ち上がり端部は丸い。頸部は筒状を呈し、体部は丸味をもつ。

913・914 は甕である。913 の口縁部は逆ハの字状に短く開き、端部は丸く仕上げている。体部は長胴気味で底部は丸底である。914 の口縁部は 913 同様に逆ハの字状に短く開き、端部は丸く仕上げている。体部は球体気味で底部は丸底である。

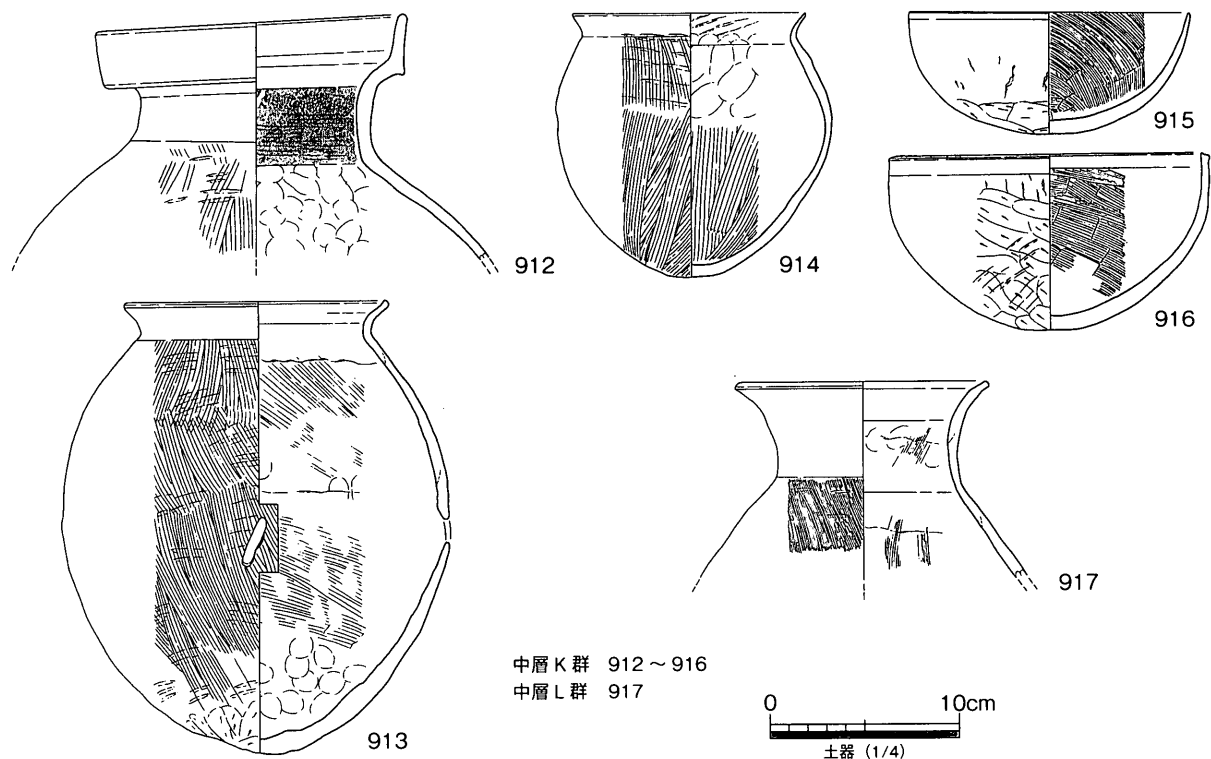
915・916 は丸底の鉢である。

917 は L 群の広口壺の上半部である。口頸部は逆ハの字状に開き、体部は長胴気味の形状を呈するものと考えられる。

中層個別取り上げ遺物 (第 116 図)

918～923 は中層の個別取り上げの遺物である。

918 は土器溜りから離れた地点で、直立した状態で出土した。口縁部と底部を欠くが、おそらく広



中層 K 群 912～916
中層 L 群 917

第 115 図 SRa02 中層 K 群・L 群出土遺物

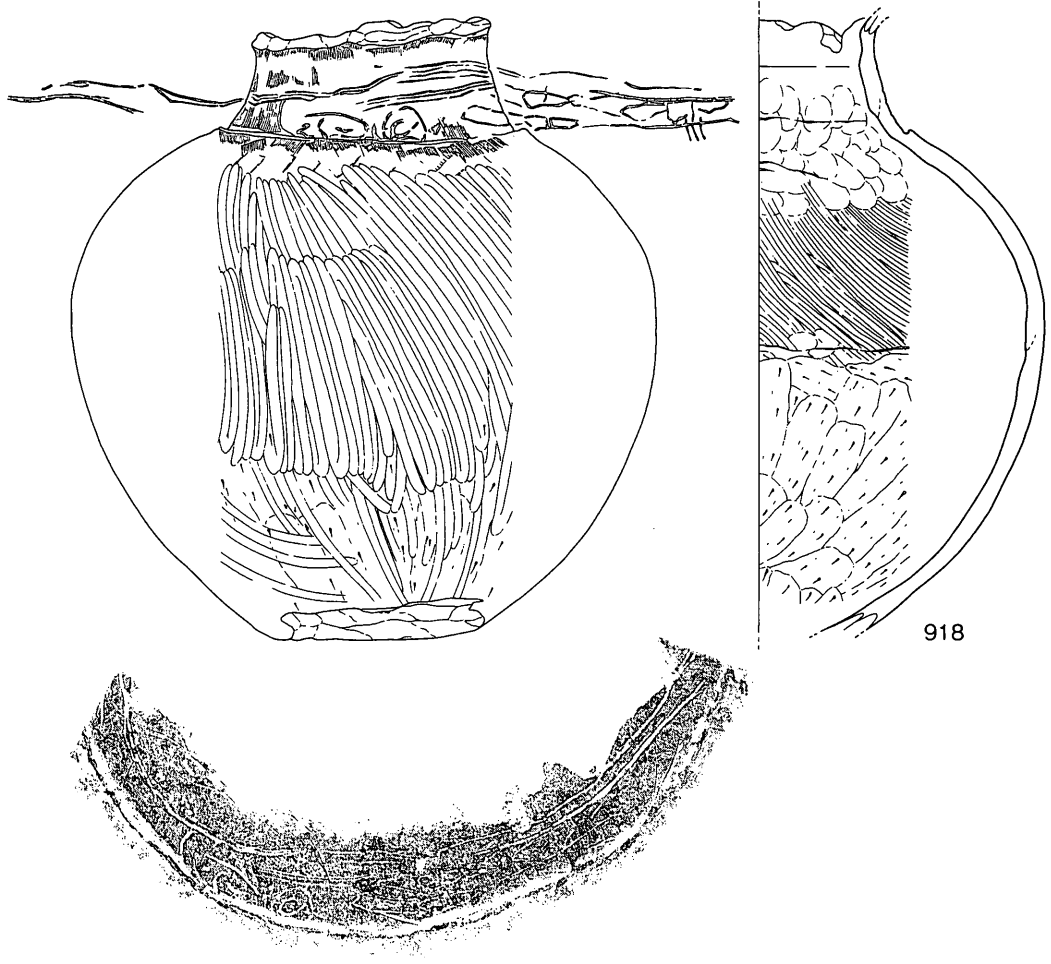
口壺であろう。頸部は下方に開く様に直線状に伸びて体部に続き、外面には、ヘラ状工具により、邪視文様の文様帯が施されている。体部は球体気味ながらも底部に至るが、底部の状態から意図的に底部を打欠いたとも考えられる。体部外面にはヘラケズリ後にヘラミガキを顕著に施している。内面上半部は指オサエ、ハケ、下半部はヘラケズリを施している。おそらく、この土器は河川祭祀に伴う土器の可能性のあるものと考えられる。

919～921 は甕である。919 の口縁部は水平気味で、端部は上方に尖り気味に仕上げる。体部外面にはタタキ、内面上方には指オサエ、下方にはヘラケズリを顕著に施している。920 の口縁部はくの字状に屈曲し端部は丸く仕上げている。体部は長胴気味で底部は平底である。体部外面はタタキ後ハケ、内面ハケを顕著に施している。

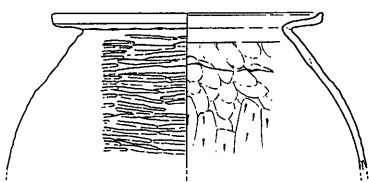
922・923 は丸底の鉢である。924 は高杯の脚部である。

中層上位出土遺物（第 117～119 図）

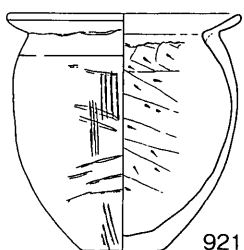
925～970 は中層上位から出土した、弥生時代後期前半新相～後期後半古相頃の土器・石器である。925～934・936 は壺である。925・931・934 は広口壺で、934 は焼成破裂痕が認められる。932・933 は口頸部と底部を欠くため不明瞭であるが、おそらく、広口壺の体部と考えられる。なお、932 は胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。926～929 は長頸壺である。口縁部は逆ハの字状に開き、端部は平坦に仕上げているが、927 の端部には凹線文を施している。頸部は筒状を呈し、体部は丸味をもちながら底部へと続く。底部は欠いているが、おそらく、平底を呈するものと考えられる。なお、928・929 は、胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。930 は底部を欠く直口壺である。936 は複合口縁の壺の口頸部である。口縁部は屈曲し外上方に伸び、端部は平坦に仕上げ、



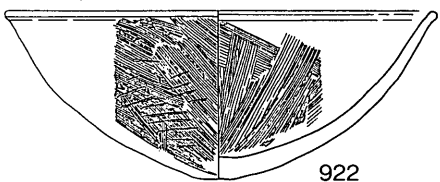
918



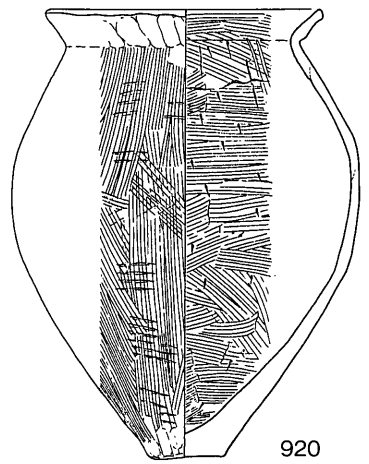
919



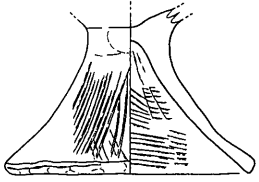
921



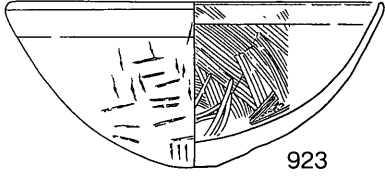
922



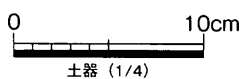
920



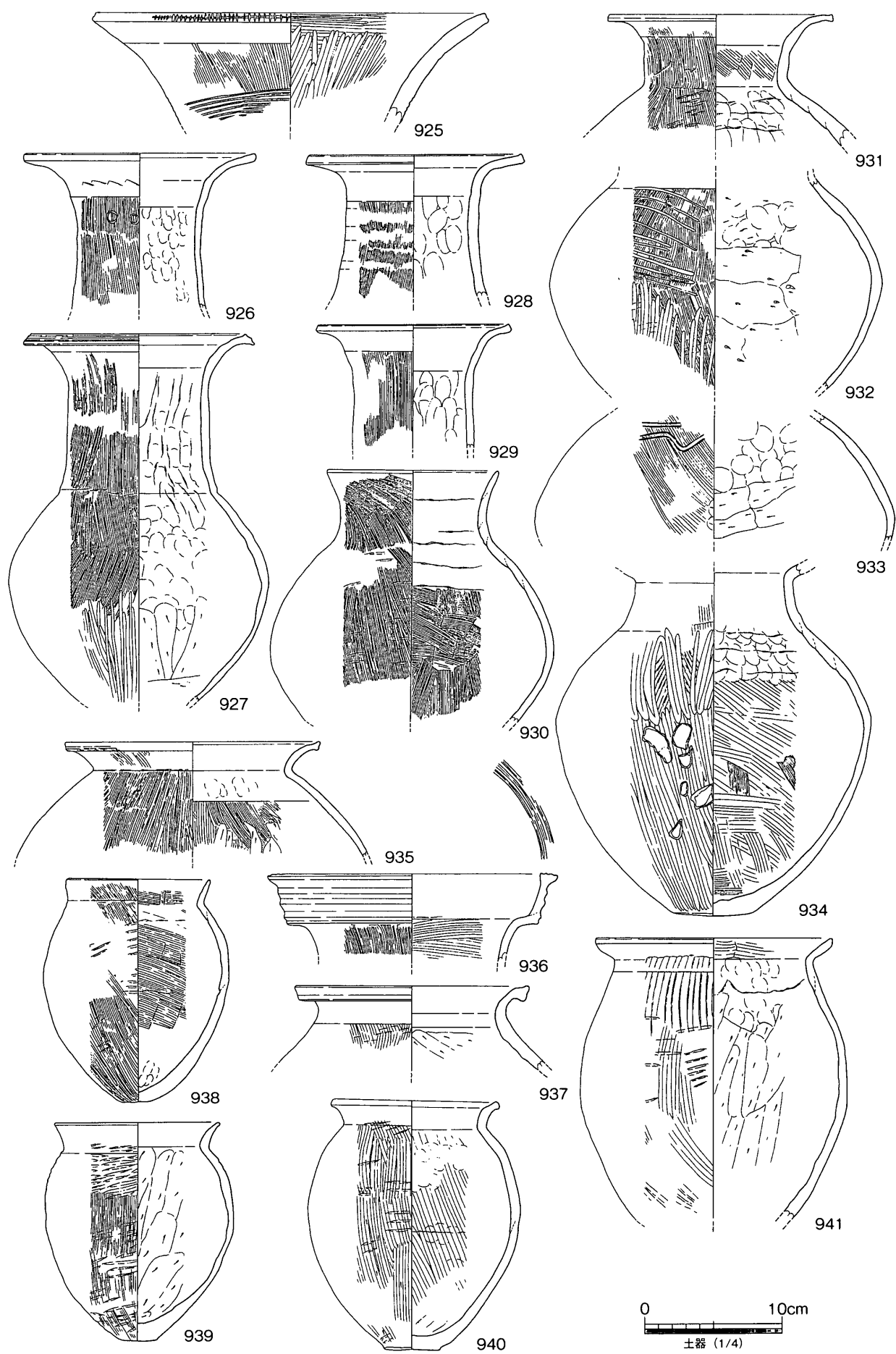
924



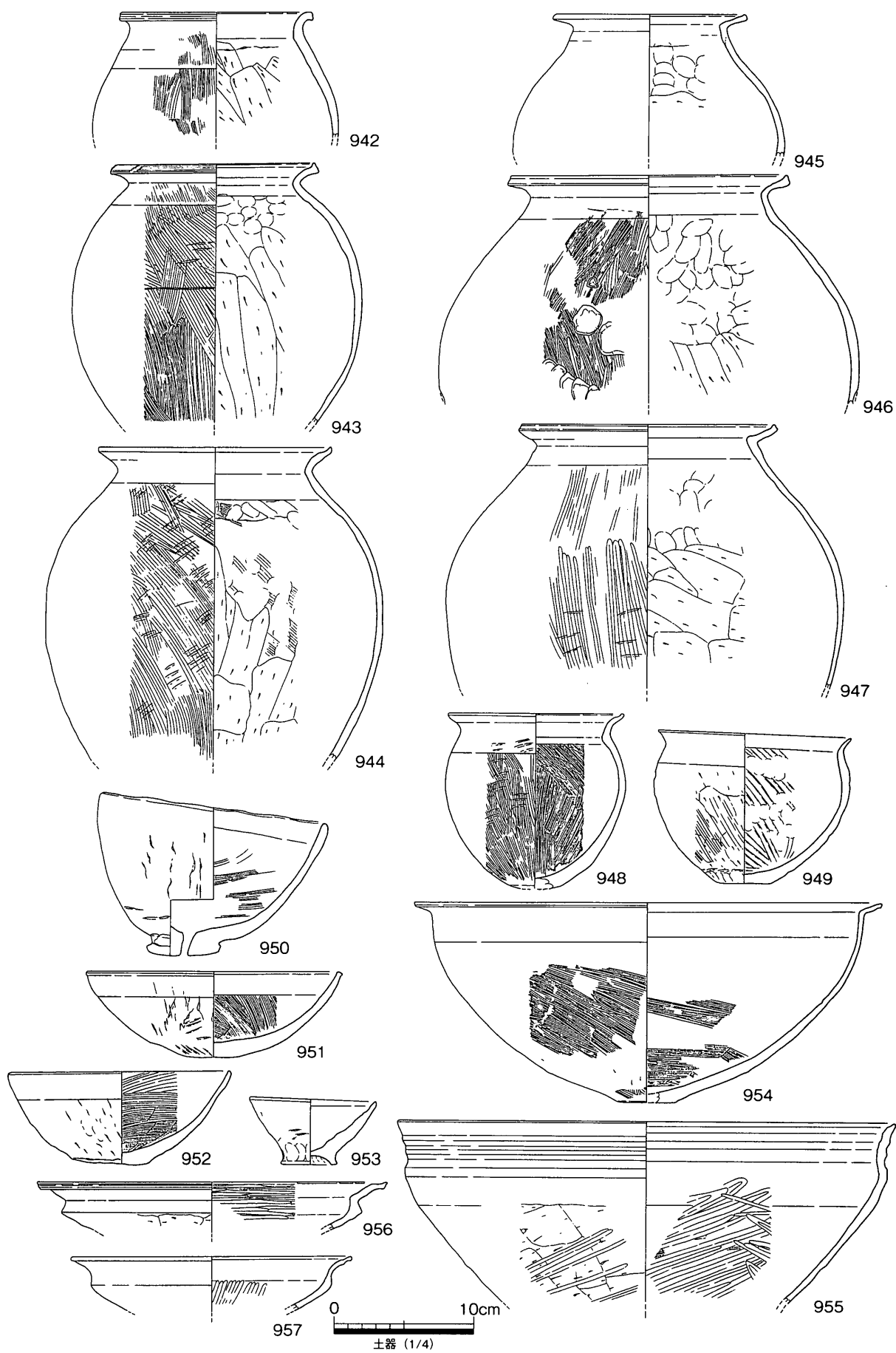
923



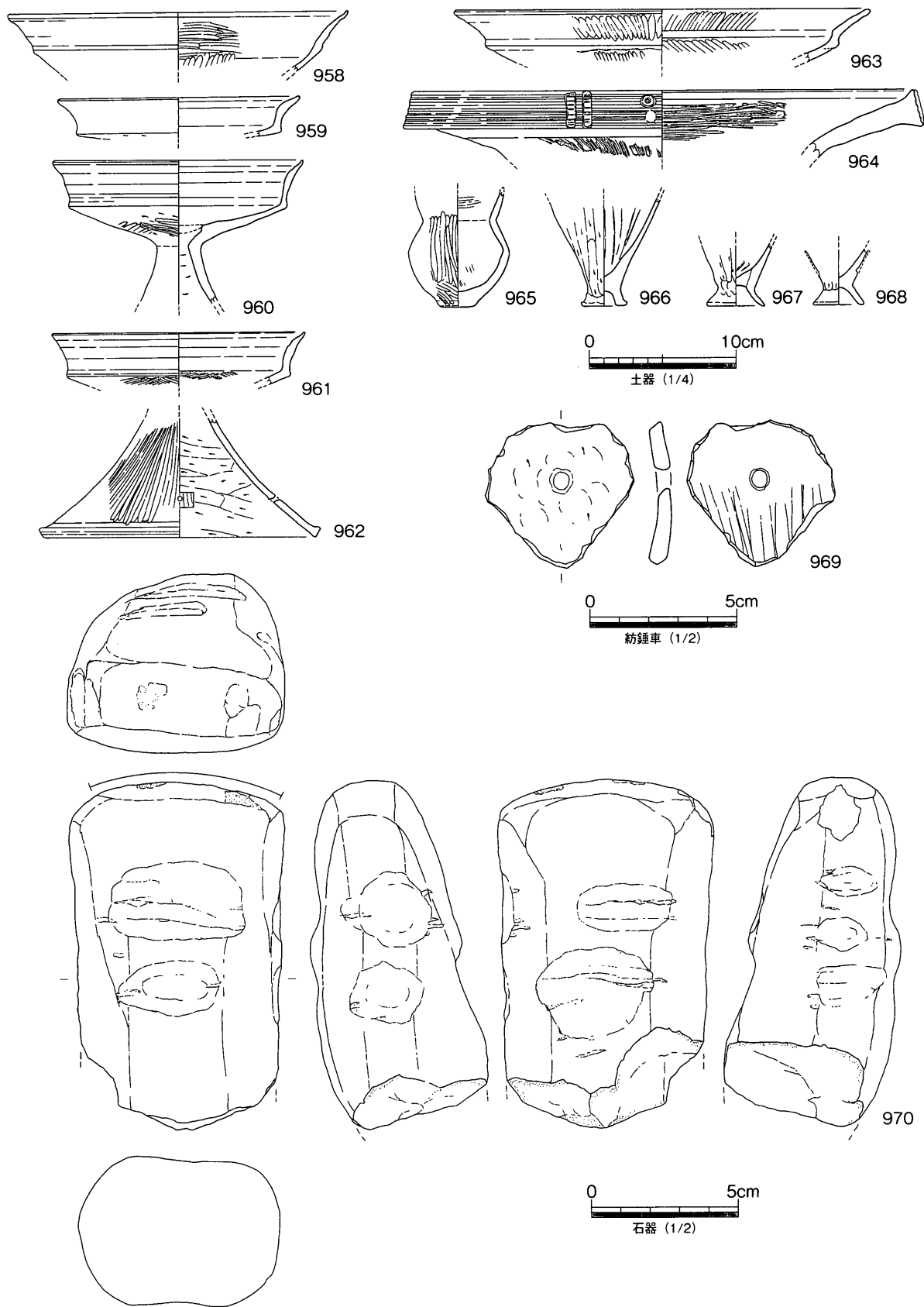
第 116 図 SRa02 中層出土遺物



第 117 図 SRa02 中層上位出土遺物 (1)



第 118 図 SRa02 中層上位出土遺物 (2)



第 119 図 SRa02 中層上位出土遺物 (3)

凹線文を施している。外面には擬凹線を施している。

935・937～948は甕である。943の口縁部はくの字状に外反し、端部は上部に僅かに拡張している。体部は長胴気味で、底部は平底である。外面にはタタキ後にハケ、内面上部には指オサエ、下部にはヘラケズリを顕著に施している。945～946は同タイプの甕である。口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり、下半部へ続く。外面の上半部はハケ、下半部はヘラミガキ、内面の上半部指オサエ、下半部はヘラケズリを顕著に施している。これらの土器の形状は香東川下流域産の土器に類似するが、胎土までは類似していない。なお、946には焼成破裂痕が認められる。

949～955は鉢である。955は大型の鉢で、口縁部は垂直気味に立ち上がり、外面に擬凹線文を施し、端部は尖り気味に仕上げ、体部は僅かに内湾気味に底部へと続く。おそらく、底部は平底と考えられる。なお、この土器は胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。

956～963は高杯である。959～962の口縁部は屈曲し、逆ハの字状に開き、端部は尖り気味に仕上げる。脚部はハの字状に開き、端部は平坦に仕上げている。これらの土器は、形状及び胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。

964は器台の口縁部である。端部は拡張し、外面には凹線文を施し、棒状浮文、円形浮文などの装飾を施している。

966～968は脚台付製塩土器の下半部である。ロート状の形態を呈するものと考えられ、外面にはヘラケズリが顕著である。966・968は、胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。

969は甕の体部片を転用した紡錘車である。

970は先端部を欠く、砂岩製の大型蛤刃石斧の基部である。柄の装着痕と考えられる窪みが、表裏面及び両側面に認められる。

中層下位出土遺物（第120図）

971～985は中層上位から出土した、弥生時代後期前半新相～後期後半古相頃の土器である。

971・973は広口壺の口頸部である。971の口縁部は逆ハの字状に開き、端部は僅かに拡張している。頸部は筒状を呈し、縦ハケの後、沈線文を施している。972は長頸壺の口頸部である。口縁部は逆ハの字状に開き、端部は丸く仕上げている。頸部は筒状を呈している。

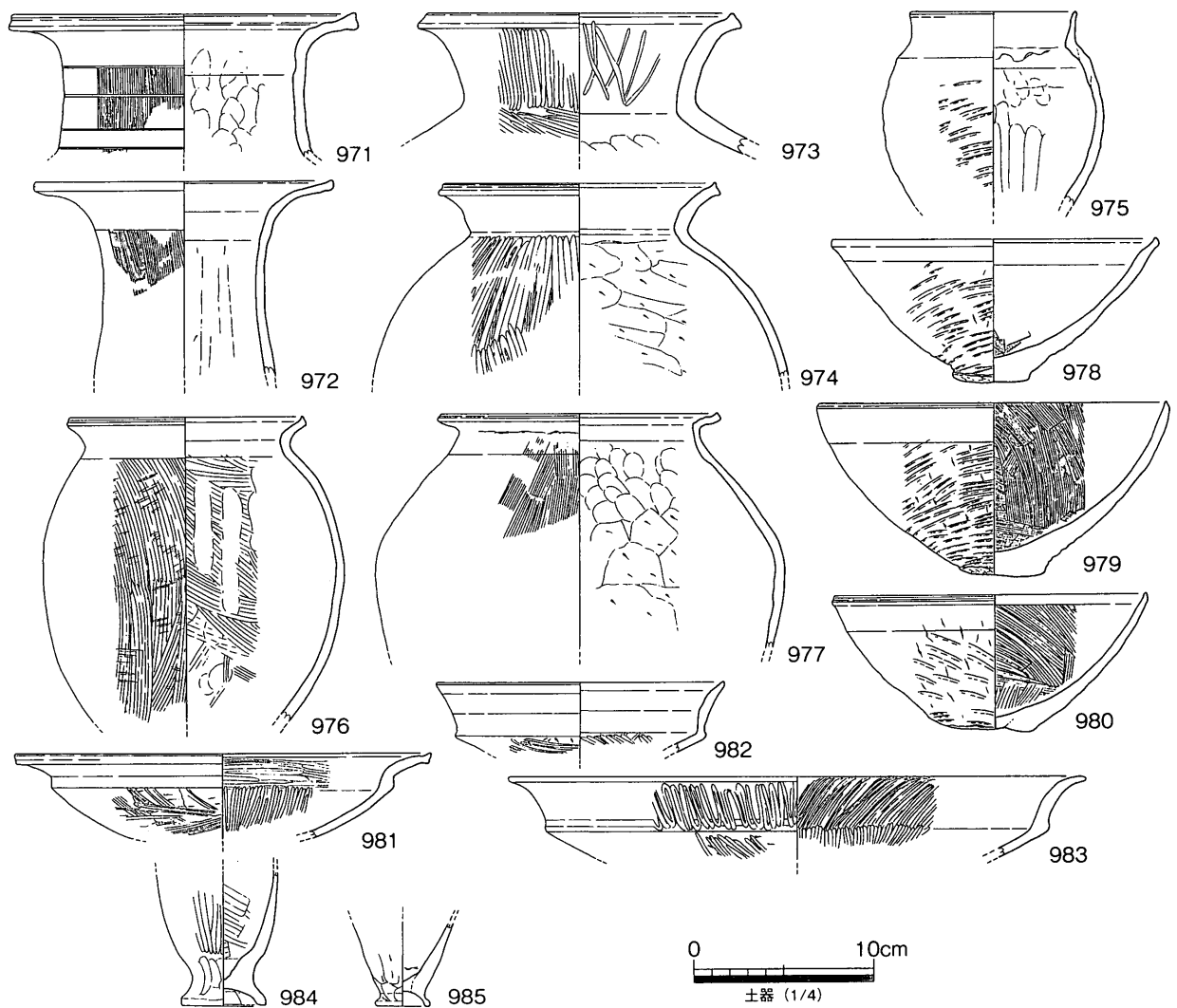
974～977は甕である。976は底部を欠く甕である。口縁部はくの字状に外反し、端部は平坦気味に仕上げている。体部長胴気味である。外面にはタタキ後にハケ、内面にはハケを施している。

977の口縁部は、くの字状に短く屈曲し、端部は平坦に仕上げている。肩部は丸味を帯びながらも直線気味に下がり下半部へ続く。外面の上半部にはハケ、下半部にはヘラミガキ、内面の上半部には指オサエ、下半部にはヘラケズリを顕著に施している。形状及び胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。

978～980は鉢である。

981～983は高杯杯部である。983は比較的大型の部類に属する。982・983の口縁部は屈曲し、外上方に外反するが、982はやや直立気味である。また、形状や胎土などから香東川下流域産の土器と考えられる。

984・985は脚台付製塩土器の下半部である。985はロート状の形態を呈するものと考えられ、外



第 120 図 SRa02 中層下位出土遺物

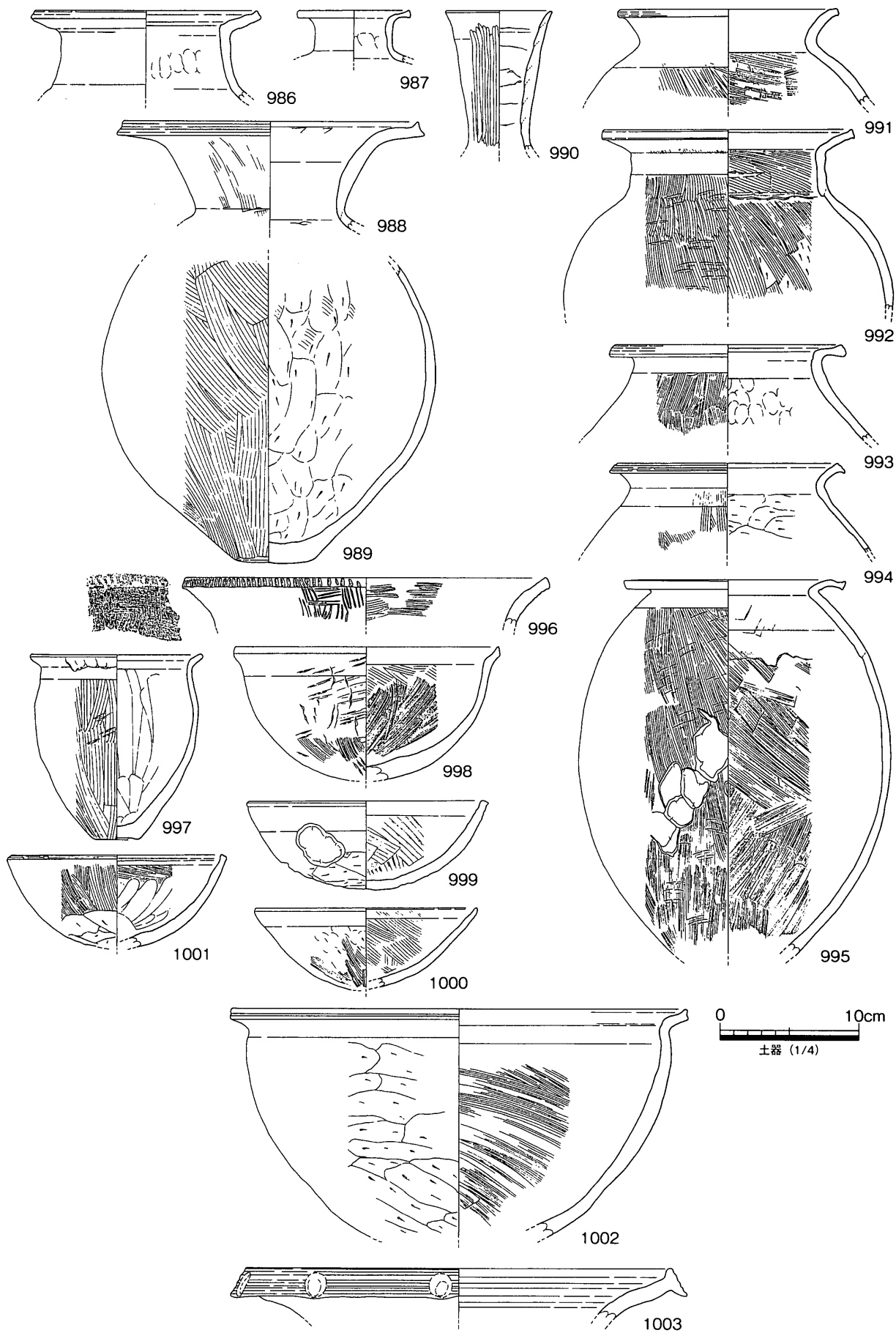
面には縦方向のヘラケズリが顕著である。この土器は胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。

下層出土遺物 (第 121・122 図)

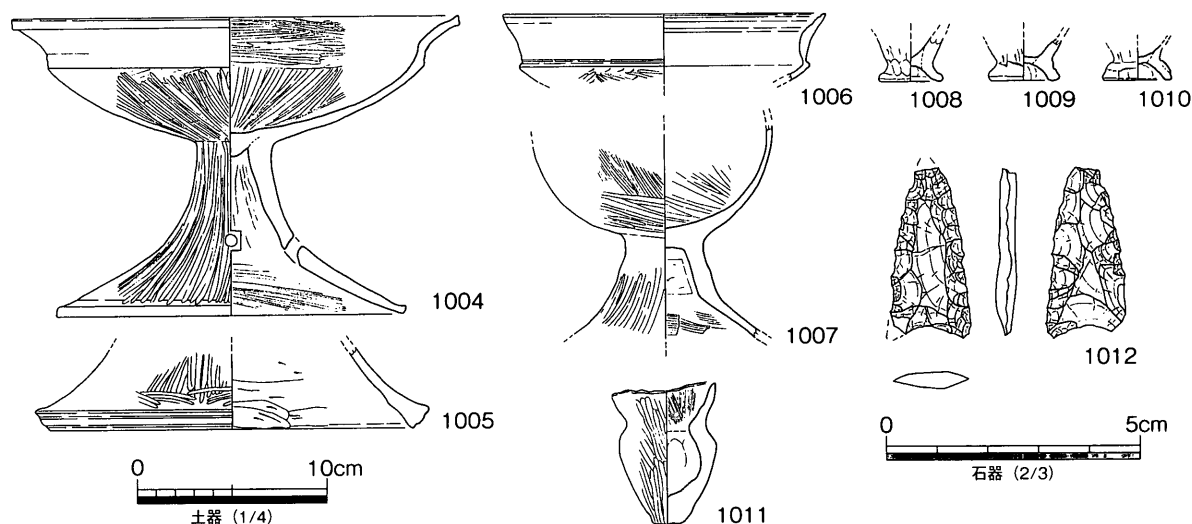
986～1012 は下層から出土した、弥生時代後期前半新相～後期後半古相頃の土器である。

986～990・992・996 は壺である。986～988・992 は広口壺である。986・987 は壺の口頸部である。口縁部は逆ハの字状に屈曲し端部は平坦に仕上げている。頸部は筒状を呈し体部へと続く、この両者の土器は、胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。990 は細頸壺の口頸部で、胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。989 は口頸部を欠くが、おそらく広口壺に含まれる壺であろう。

991・993～995・997 は甕である。993 は甕の上部である。口縁部は、くの字状に短く屈曲し、端部は平坦気味に仕上げている。肩部は直線気味に下がる。外面の上半部にはハケ、内面の上半部には指オサエを顕著に施している。この土器は、形状及び胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。995 は底部を欠く甕である。口縁部は逆ハの字状に折り曲げて、端部を拡張気味に平坦に仕上げている。



第 121 図 SRa02 下層出土遺物 (1)



第122図 SRa02 下層出土遺物(2)

体部は長胴で、外面には焼成破裂痕が認められる。調整は内外面ともにハケを顕著に施している。

998～1002は鉢である。1002は大型の鉢で、他は小型の鉢である。999の外面には、焼成破裂痕が認められる。

1003は器台の口縁部である。口縁部端部は上下に拡張され、凹線文を施し、その後に円形浮文を付したようで、その痕跡が確認できる。

1004～1007は高杯である。1005・1006は形状及び胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。

1008～1010は脚台付製塩土器の脚台部である。外面には縦方向のヘラケズリを僅かに残し、体部はロート状の形態が想定できる。

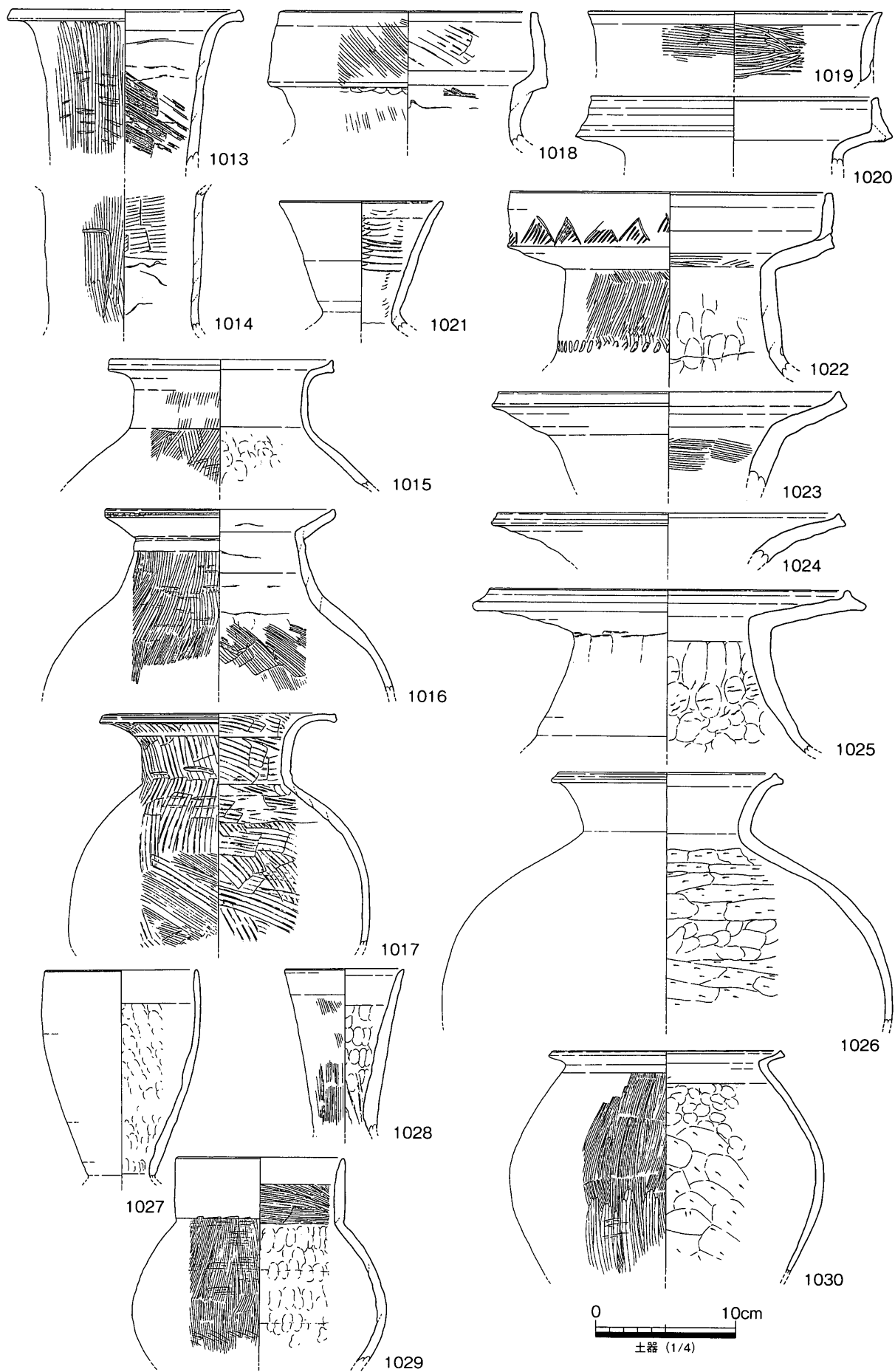
1012は先端部を僅かに欠く、サヌカイト製の石鏃である。

最下層出土遺物（第123・124図）

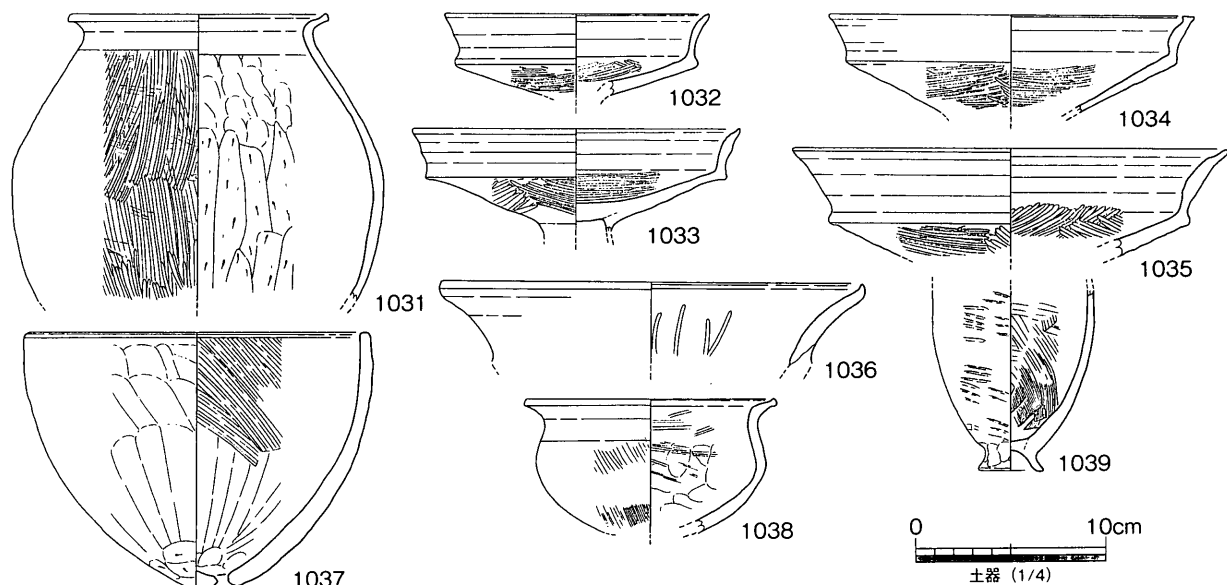
1013～1039は最下層から出土した土器である。時期的には弥生時代後期前半新相～後期後半新相頃の土器が主体を占めるが、少量の古墳時代前期初頭頃の古式土師器を含んでいる。先述したように、この河川跡の最下層は、最終堆積層と考えられる、SDa34の最下層とほぼ同レベルであり、SDa34の遺物が混入している可能性がある。古式土師器などは、SDa34の最下層の遺物と考えられる。

1013～1029は壺である。1013・1014は長頸壺の口頸部である。1015～1017・1023～1025は広口壺である。1015・1023～1025は、胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。1018～1022は複合口縁の壺の口頸部である。1018は口縁部が内湾気味な特徴から西瀬戸内系の壺と考えられる。1019は胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。1026・1029は直口壺である。1026の口頸部は逆ハの字状に外反し、端部は平坦に仕上げ凹線文を施している。体部は球体気味である。1021は古式土師器の直口壺の口頸部である。口頸部はくの字状に伸び、端部は尖り気味に丸く仕上げている。体部は失われているが、おそらく球体状を呈するものと考えられる。先述したようにこの土器は、SDa34の最下層の遺物と考えられる。

1027・1028は細頸壺の口頸部で、1028は胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。



第 123 図 SRa02 最下層出土遺物 (1)



第 124 図 SRa02 最下層出土遺物 (2)

1030・1031 は下半部を欠く甕である。口縁部はくの字状に短く屈曲し、端部は平坦気味に仕上げている。肩部は直線気味に下がり、体部へと続く。外面上半部はハケ、下半部にはヘラミガキ、内面上半部には指オサエ、下半部にはヘラケズリを顕著に施している。この両者の土器は、形状及び胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。

1032～1036 は高杯杯部である。口縁部は屈曲し、逆ハの字状に伸びる。端部は尖り気味のタイプと平坦に仕上げるものがある。1036 を除き、底部の内外にはヘラミガキを顕著に施している。これらの土器は、形状及び胎土などから、香東川下流域産の土器と考えられる。

1037・1038 は鉢である。1038 は小型の鉢で、口縁部がS字状を呈するタイプの鉢である。

1039 は口縁部を欠く脚台付製塩土器である。体部は長胴で、外面にはタタキ、内面にはハケを施している。形状から弥生時代終末期～古墳時代前期初頭頃の製塩土器と考えられ、SDa34 の最下層の遺物の可能性が高いと思われる。

第 5 節 その他の地区の遺物

本節では、平成 5 年度に行われた試掘調査と平成 6 年度に行われた予備調査によって出土した遺物、既刊報告書に掲載できていなかった遺物を報告する。

1040～1048 は、試掘調査と予備調査によって出土した遺物である。

1040 は、口縁部と体部の一部を欠く大型の広口壺である。1041 は下半部を欠く甕である。口縁部は、くの字状に短く屈曲し、端部は平坦気味に仕上げている。肩部は直線気味に下がり、体部へと続く。外面上半部にはハケ、下半部にはヘラミガキ、内面上半部には指オサエ、下半部にはヘラケズリを顕著に施している。この土器の形状は、香東川下流域産の土器と類似する。1042 は高杯杯部である。口縁部は屈曲し外上方に伸びる。端部は尖り気味に丸く仕上げている。底部外面にはヘラケズリ、内面にはヘラミガキを顕著に施している。この土器は形状及び胎土から、香東川下流域産の土器と考えられる。

1043 はサヌカイト製の石鏃である。1044 は左右両端部を欠くサヌカイト製の打製石庖丁である。

1045～1047は結晶片岩製の打製石庖丁である。

1048はサヌカイトの板状の肉厚な剥片を素材とし、その小口面を作業面として剥離を開始した石核ないし、楔形石器の極初期の段階のものと考えられる。

1049は平成21年度に刊行した「鹿伏・中所遺跡Ⅱ」で報告した、Ⅸ区のSDa70から検出された数箇所の土器溜りのうち、F群に含まれる甕である。口縁部はくの字状に外反し、端部は平坦気味に仕上げている。体部は長胴気味で、底部は平底である。外面にはタタキ後にハケ、内面はハケを顕著に施している。

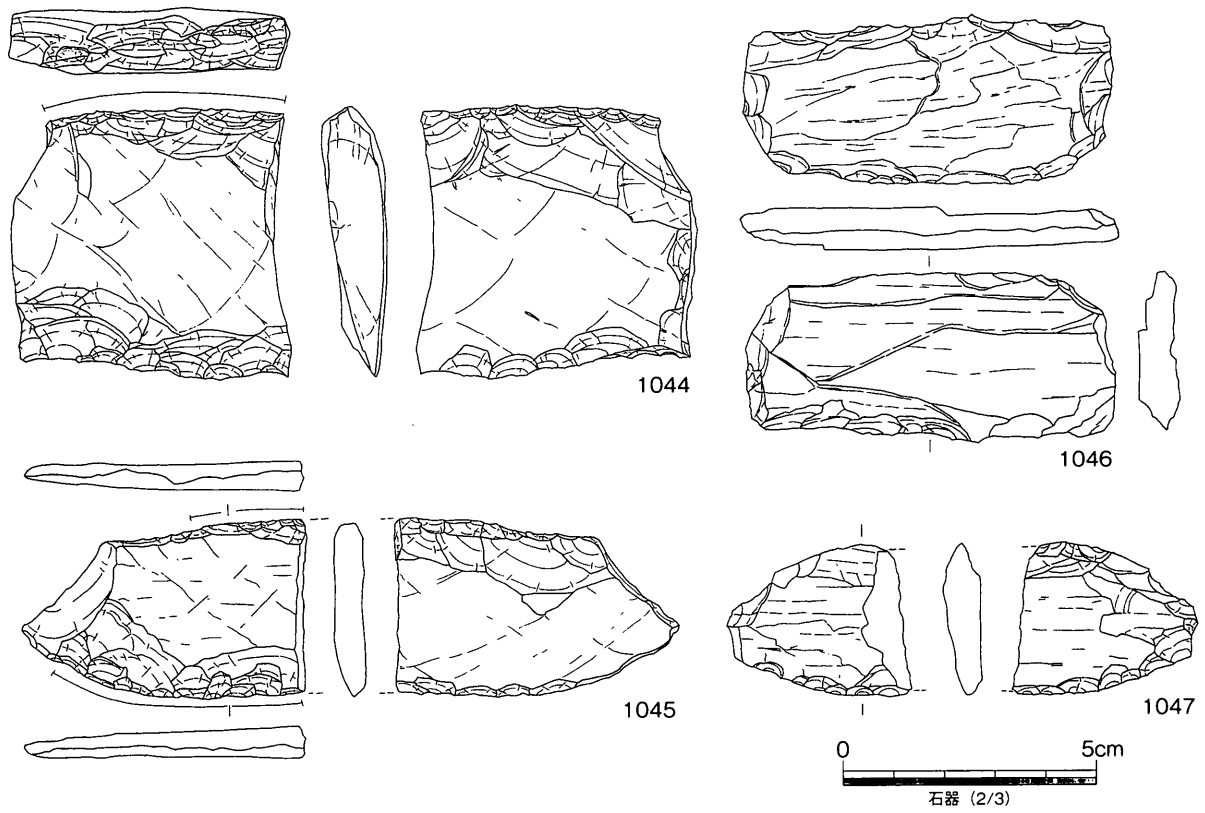
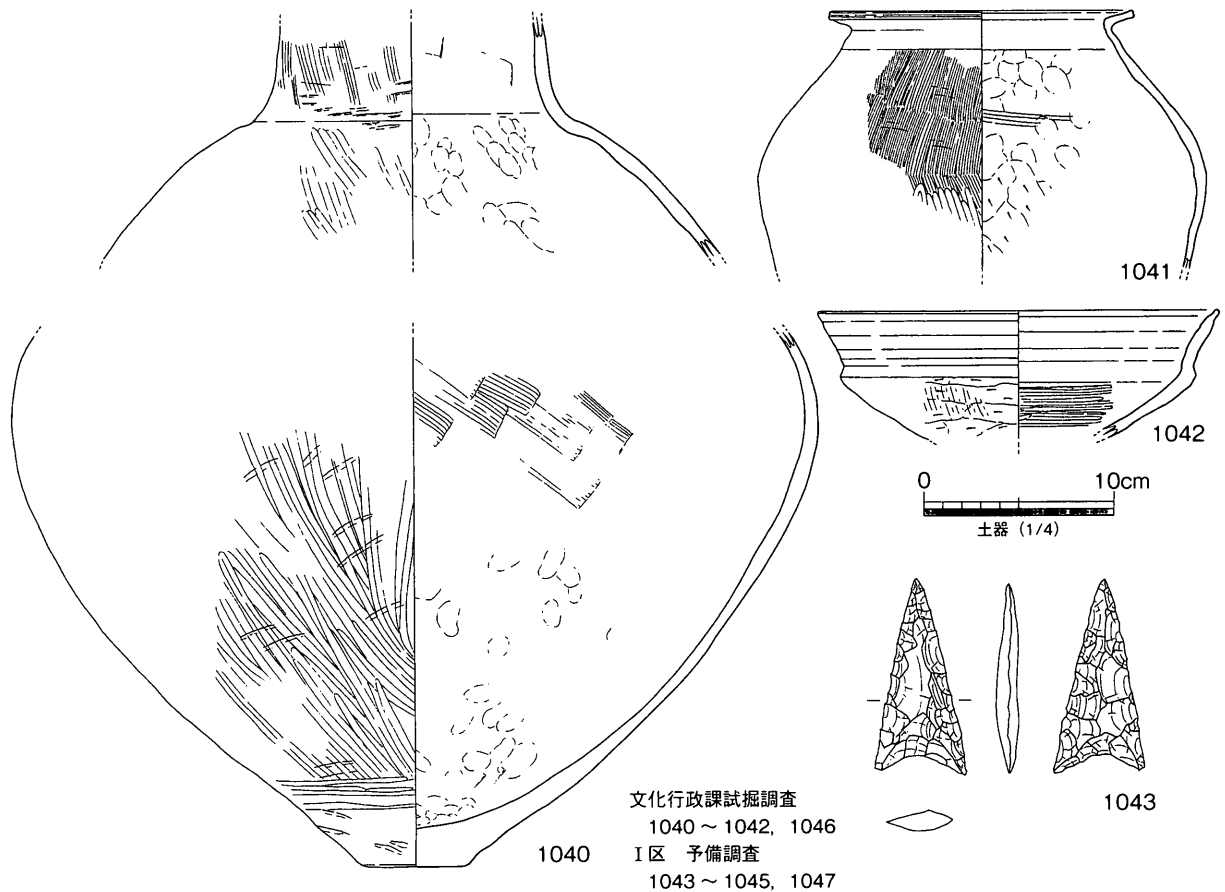
1050は平成20年度に刊行した「鹿伏・中所遺跡Ⅰ」で報告した、Ⅰ区のSKa06から出土した広口壺である。口縁部は屈曲し外上方に伸びる。頸部は筒状で比較的長く、ヘラ状工具による波状文が描かれている。体部は球体気味で、底部は平底である。

(補註)

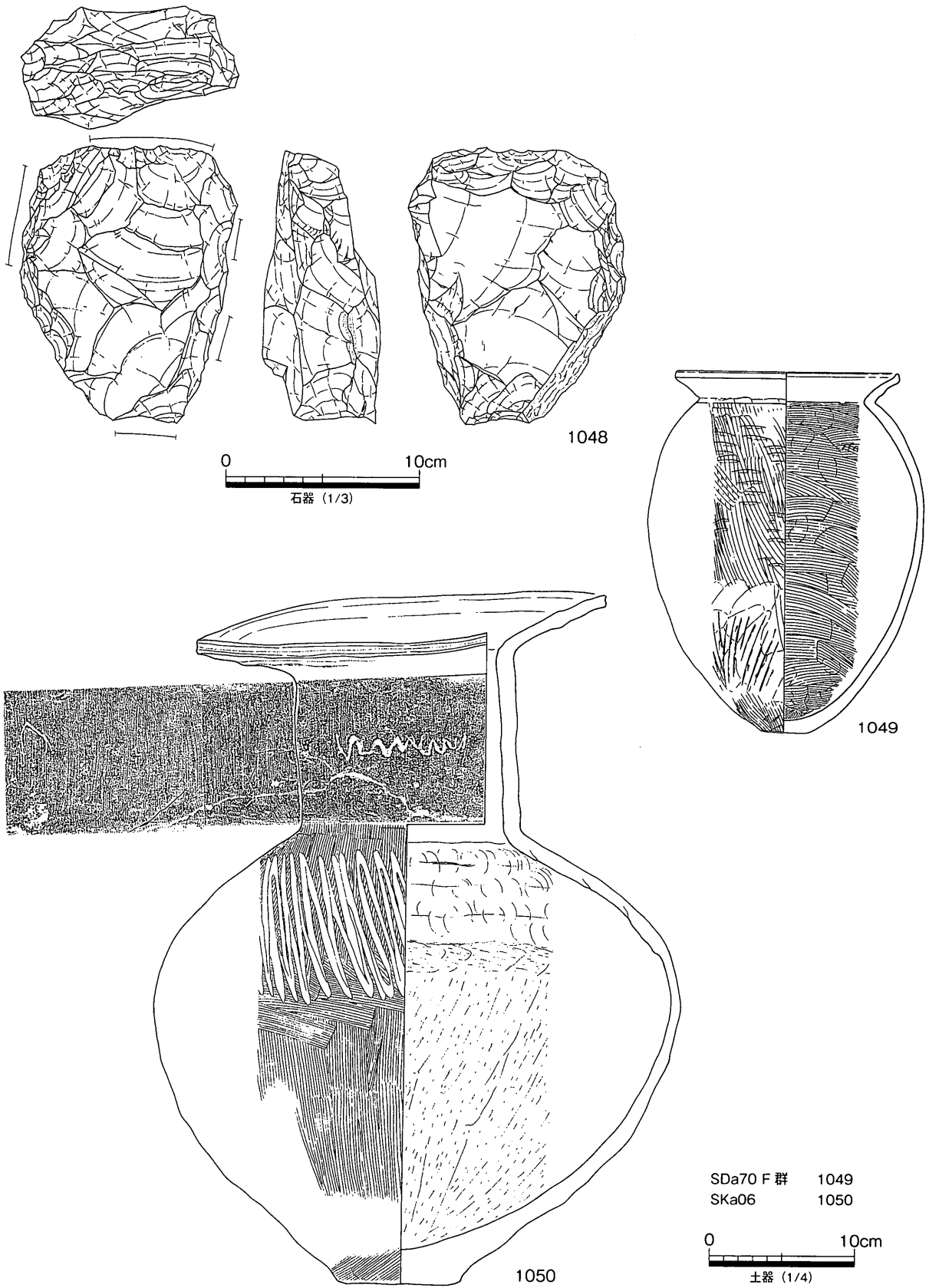
- (1) 遺構を検出した面については、既刊の本シリーズの報告書では、「遺構面」として報告しているが、本遺跡の「遺構面」は、結果として遺構を検出した面に当り、「遺構面」のもつ本来の意味とは異なる遺構面がある。そのため、本報告では「遺構面」の呼称を取りやめ、「検出面」と名称を改めることにした。
- (2) 香東川下流域産の土器とは、いわゆる下川津B類土器に類似する土器である。
大久保徹也 1990「第10節 下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅶ 下川津遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団
- (3) SHa24は、平成20年度に本センターが刊行した「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 鹿伏・中所遺跡Ⅰ」で既に報告している。
- (4) 香川県教育委員会 2008「鹿伏・中所遺跡Ⅰ」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊』
香川県教育委員会 2009「鹿伏・中所遺跡Ⅱ」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊』

(参考文献)

- 三木町 1978「第1章 三木町のあけほの」『三木町史』
- 大久保徹也 1990「第10節 下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅶ 下川津遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団
- 金田章裕 1992「第2章 第1節 地理的環境」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会
- 高橋 学 1992「第4章 第1節 高松平野の環境復原」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会
- 大久保徹也 1993「讃岐地方における古墳時代初頭の土器について—下川津遺跡Ⅵ式以降の様相—」『財団法人香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅰ』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1995「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成6年度』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1996「鹿伏・中所遺跡」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度』
- 香川県教育委員会 2008「鹿伏・中所遺跡Ⅰ」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊』
- 香川県教育委員会 2009「鹿伏・中所遺跡Ⅱ」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊』



第 125 図 その他の地区の出土遺物 (1)



第 126 図 その他の地区の出土遺物 (2)

第IV章 自然科学分析

鹿伏・中所遺跡における樹種同定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、鹿伏・中所遺跡より出土した柱材5点である。

3. 方法

カミソリを用いて試料の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

第5表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真1・2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15 m、径60 cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 写真3

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が、単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の小塊をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～3細胞ぐらいは直立細胞である。

第5表 鹿伏・中所遺跡における樹種同定結果

試料 番号	遺物 番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	台帳番号	結果(学名/和名)
1	77	Ⅳ区	D9	SHc05-SP089	柱材	H0120	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> /コナラ属コナラ節
2	78	Ⅳ区	D9	SHc05-SP090	柱材	H0121	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> /コナラ属コナラ節
3	315	Ⅴ区	F9	SHc21-SP401	柱材	H0392	<i>Morus australis</i> Poirlet /ヤマグワ
4	314	Ⅴ区	F9	SHc21-SP403	柱材	H0393	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> /コナラ属コナラ節
5	313	Ⅴ区	F9	SHc21-SP404	柱材	H0394	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> /コナラ属コナラ節

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～6細胞幅である。小
道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木
で、通常高さ10～15m、径30～40cmである。材は堅硬で韌性に富み、建築などに用いられる。

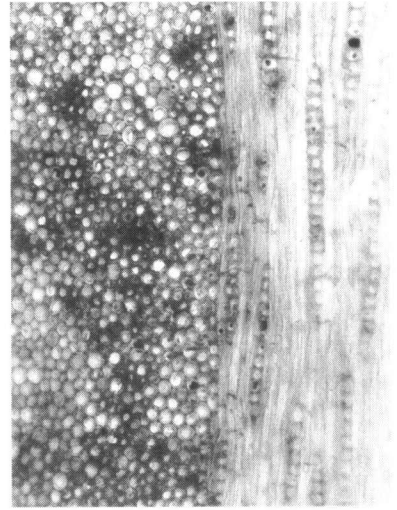
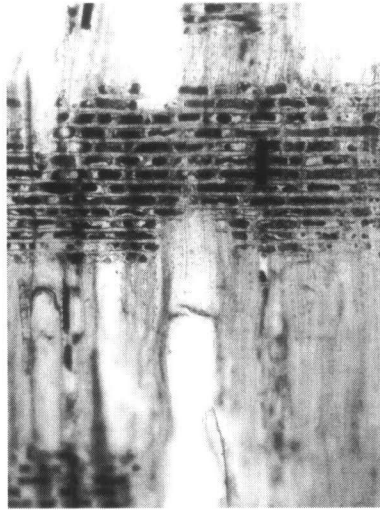
5. 所見

同定の結果、鹿伏・中所遺跡の柱材は、コナラ属コナラ節4点、ヤマグワ1点であった。コナラ属コ
ナラ節は、温帯を中心に広く分布する落葉で、日当たりの良い山野に生育する。ミズナラなどの冷温帯
落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温帯性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。木
材は強靱で弾性に富み、建築材としても用いられる。本遺跡は照葉樹林域にあり生態から、二次林性の
コナラの可能性が高い。ヤマグワは、温帯に広く分布する落葉高木で、谷間や緩傾斜地の適潤な深層の
肥沃地を好む。材はやや堅硬で韌性に富む。

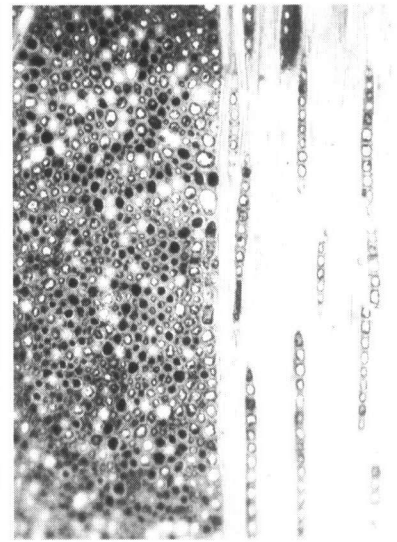
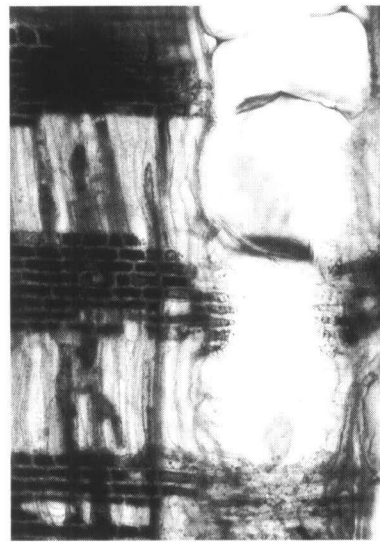
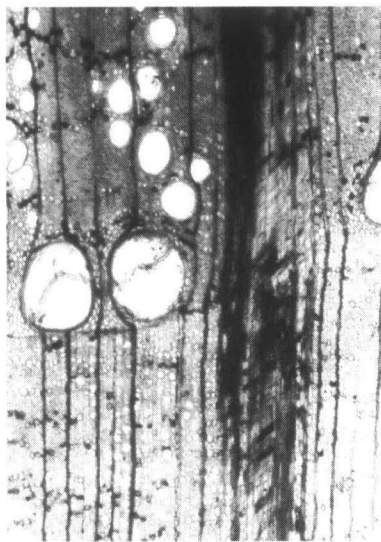
以上のことから鹿伏・中所遺跡の柱材は、当時遺跡周辺に生育していたか近隣地域からもたらされたと
推定される。

(参考文献)

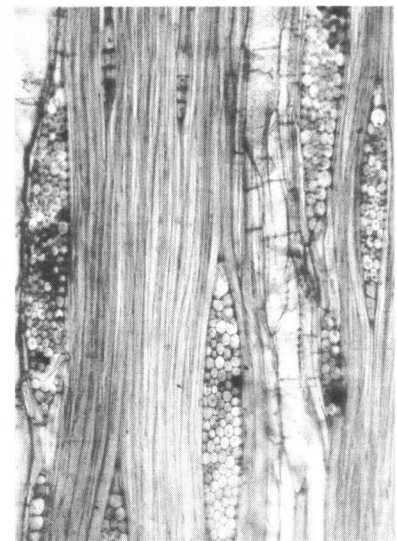
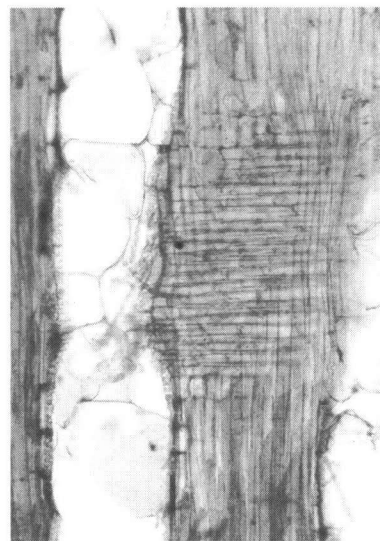
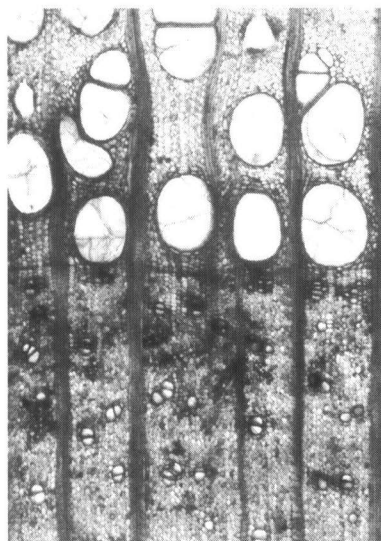
- 佐伯浩・原田浩(1985) 針葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.
佐伯浩・原田浩(1985) 広葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.
島地謙・伊東隆夫(1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p.296
山田昌久(1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p.242



横断面 ————— : 0.5mm 放射断面 ————— : 0.2mm 接線断面 ————— : 0.2mm
 1. 資料番号2 柱材 コナラ属コナラ節



横断面 ————— : 0.5mm 放射断面 ————— : 0.2mm 接線断面 ————— : 0.2mm
 2. 資料番号4 柱材 コナラ属コナラ節



横断面 ————— : 0.5mm 放射断面 ————— : 0.2mm 接線断面 ————— : 0.2mm
 3. 資料番号3 柱材 ヤマグワ

第127図 鹿伏・中所遺跡の木材

第V章 まとめ

1. はじめに

IV・V区の遺構の状況については、前章までに紹介したように、第3検出面上の弥生時代中期前半～古墳時代前期前半と、第1検出面上の中世以降の遺構がある。これらの遺構の中で、弥生時代中期前半～古墳時代前期前半頃の集落を構成する遺構で、比較的時期の分かる遺構をもとにして、集落の変遷をまとめる。なお、弥生時代後期以降の住居跡については、調査区内の分布状況より、仮にA～E群に分け、そのグループを基に集落の動向を追うことにする。

2. IV・V区の集落の動向

<弥生時代中期>

弥生時代中期の遺構は少なく、土坑4基、不整形遺構3基を確認した。内訳としては、土坑SKc02・08・15・18、不整形遺構SXc01・02、SXa12である。分布の状況を見れば、調査区内に散漫に分布している。

土坑のSKc08・15・18は中期前半に当り、SKc02は中期中頃と考えられる。SKc08は長方形に整った形状を呈し、土墳墓の可能性はある。

不整形遺構として挙げられる、SXc01・02は中期中頃に当り、SXa12は中期中葉～後葉に当る。SXa12は中心部分が調査区より外れているので、その実態は不明であるが、状況から推定して、大型の出水状遺構か、埋没河川跡の西岸部とも考えられる。

この時期の住居跡の可能性のある遺構としては、削平を受け残りの悪いSHc13があるが、この住居跡は出土遺物が少ない。

<弥生時代後期前半>

IV・V区内に集落の居住域が及ぶのは後期前半からであるが、遺構の数は少なく、竪穴住居跡3基、土坑1基、溝状遺構1条を確認した。内訳としては、竪穴住居跡SHc04・07・09、土坑SKc04、溝状遺構SDc15である。

後期前半の住居跡は、IV区の東端部のV区との境界付近からIV区中央の南半部にかけて分布する。住居跡は、SHc04・07・09の円形ないし不整多角形の住居跡で、張出しを備えた住居跡も確認できる。時期的には後期前半新相頃と考えられる。

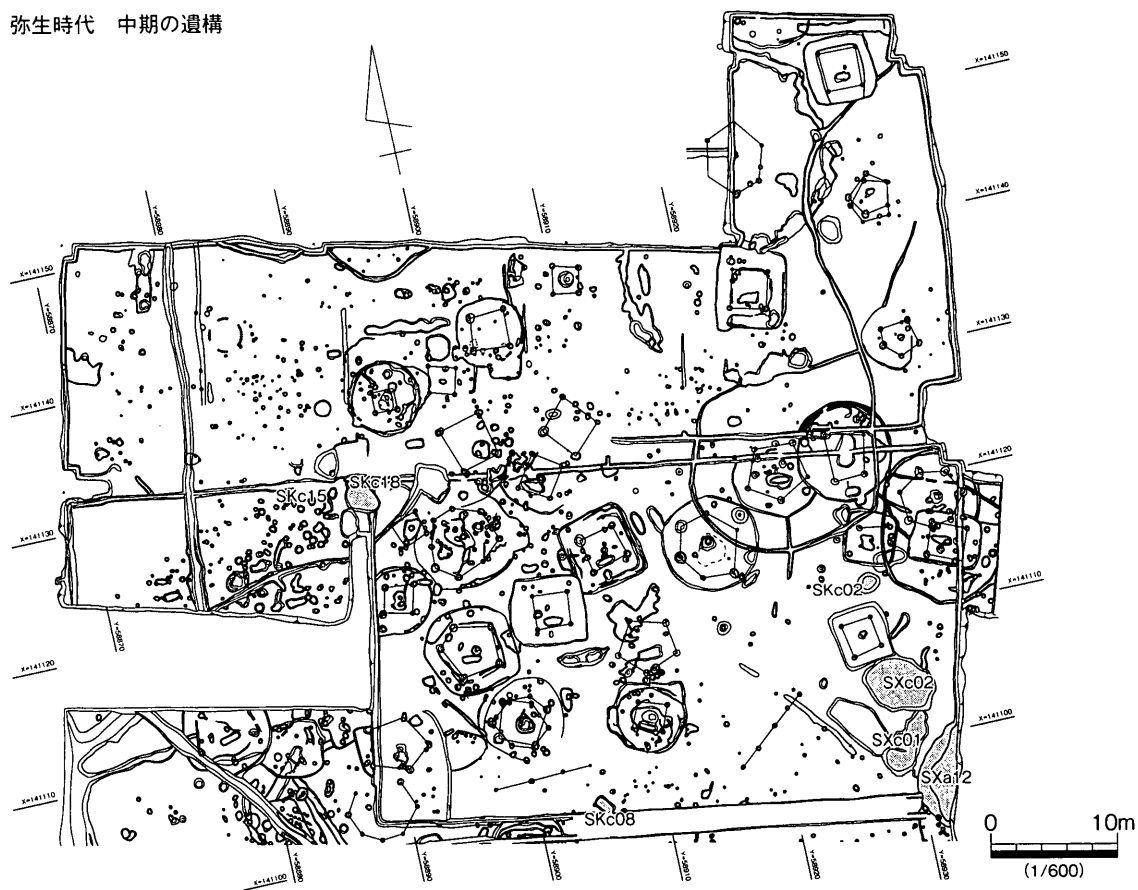
溝状遺構として確認できるのは、集落の西辺を画するように配されたSDc15である。この溝状遺構はIV・V区においては、南北方向に直線的に延び、Ⅲ区の境界区域で、南東方向へ向きを変え、Ⅲ区のSDa54へ続くものと考えられる。SDa54の延長にはSRa01等の低湿地部が所在するため、SDc15の性格としては、集落の西辺を画す用途とともに集落の排水を兼ねた溝状遺構と考えられる。

<弥生時代後期後半>

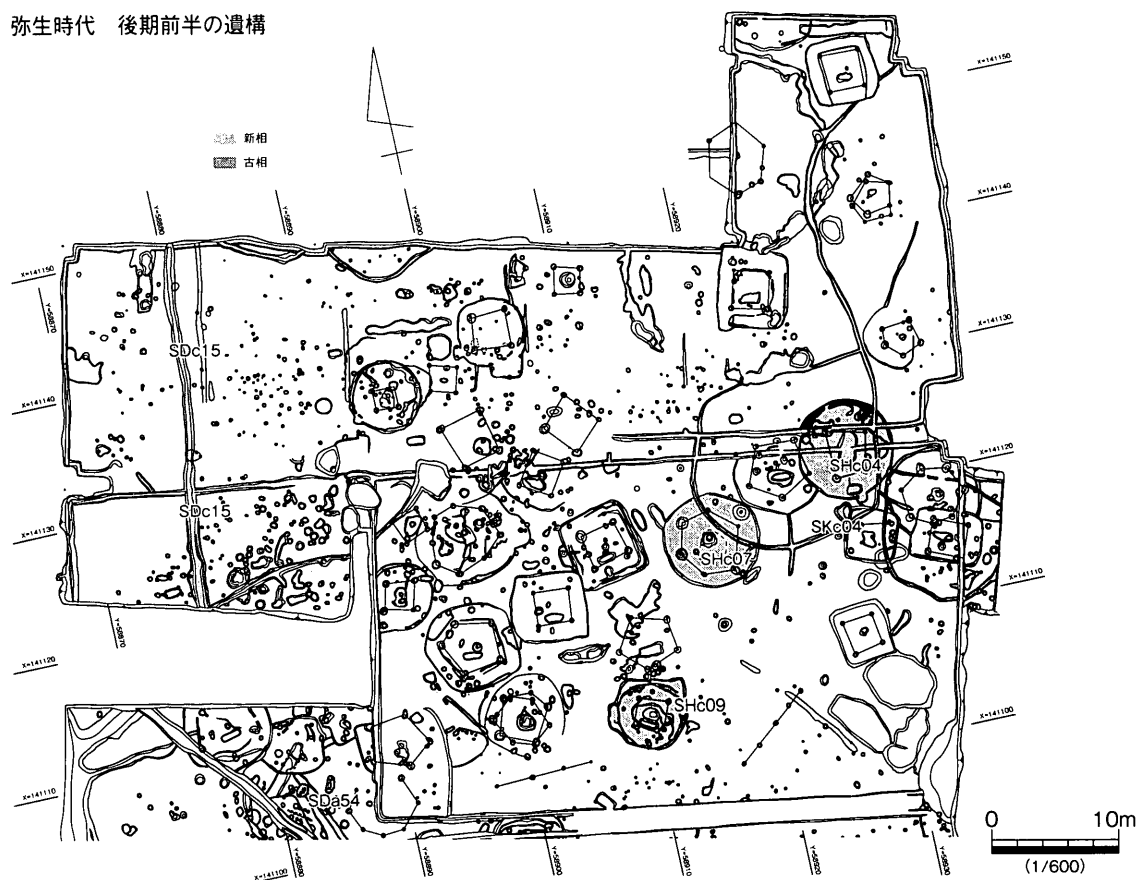
後期後半から集落は拡大する。竪穴住居跡11基、土坑7基、溝状遺構5条を確認した。遺構の内訳としては、竪穴住居跡SHc01～03・11・14・15・23・24・26・27・31、土坑SKc07・19・28・42～44・46、溝状遺構SDc13・14・23・24・25である。

住居跡の分布はA～C群に分かれ、A群はIV・V区境界付近の東端部に位置し、B群はIV区中央、C

弥生時代 中期の遺構

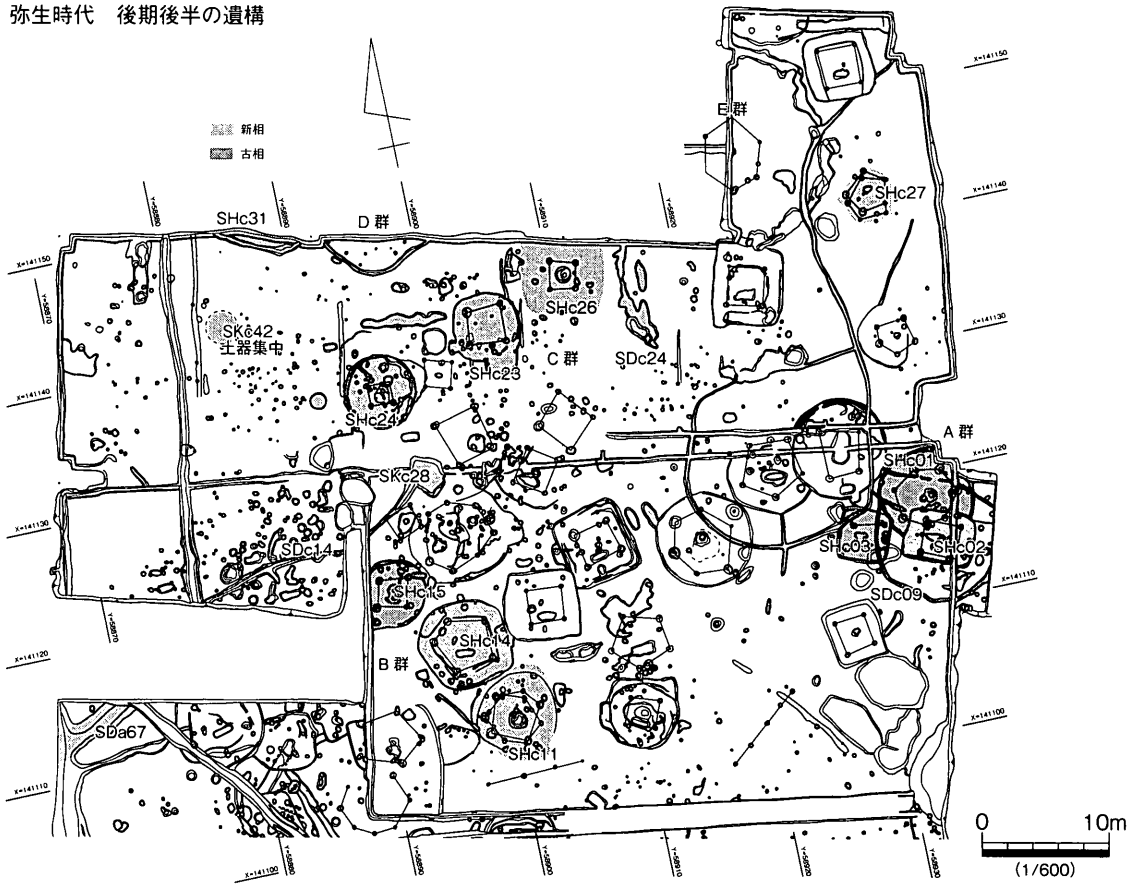


弥生時代 後期前半の遺構

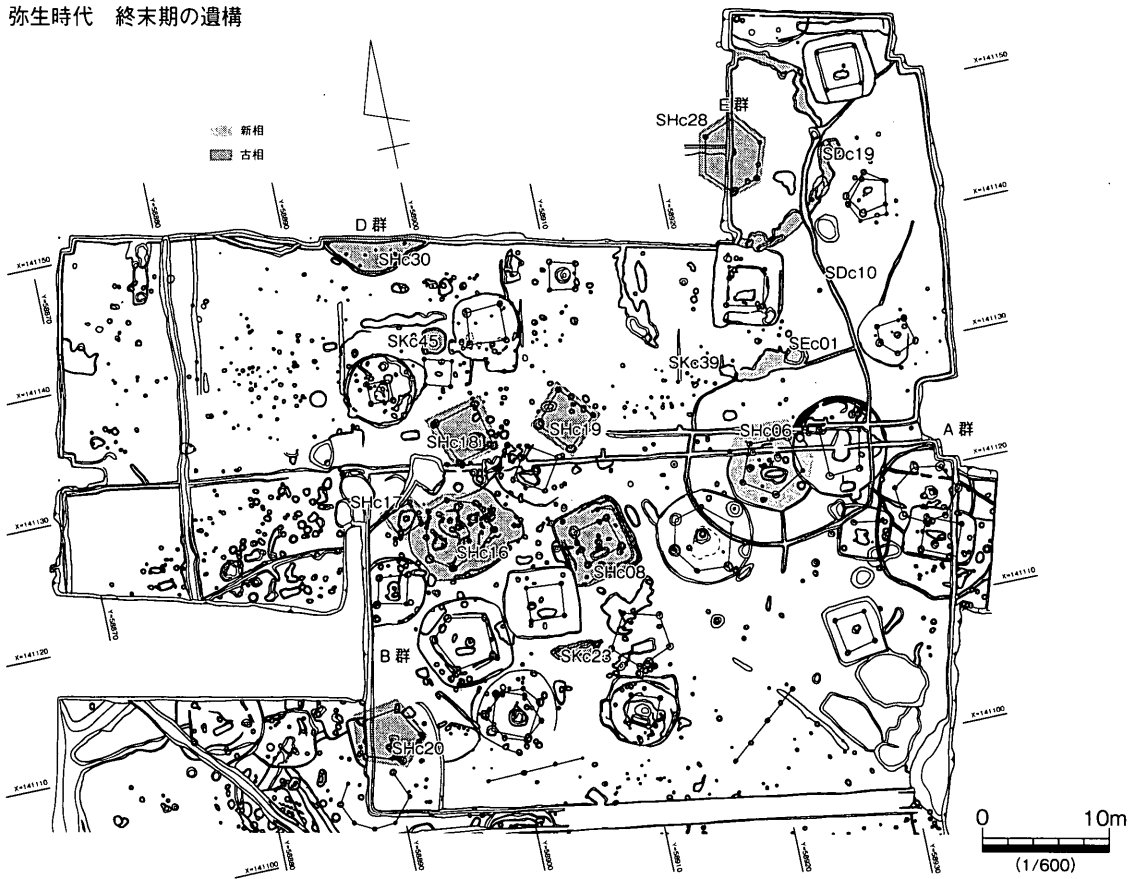


第 128 図 鹿伏・中所遺跡Ⅳ・Ⅴ区遺構変遷図(1)

弥生時代 後期後半の遺構

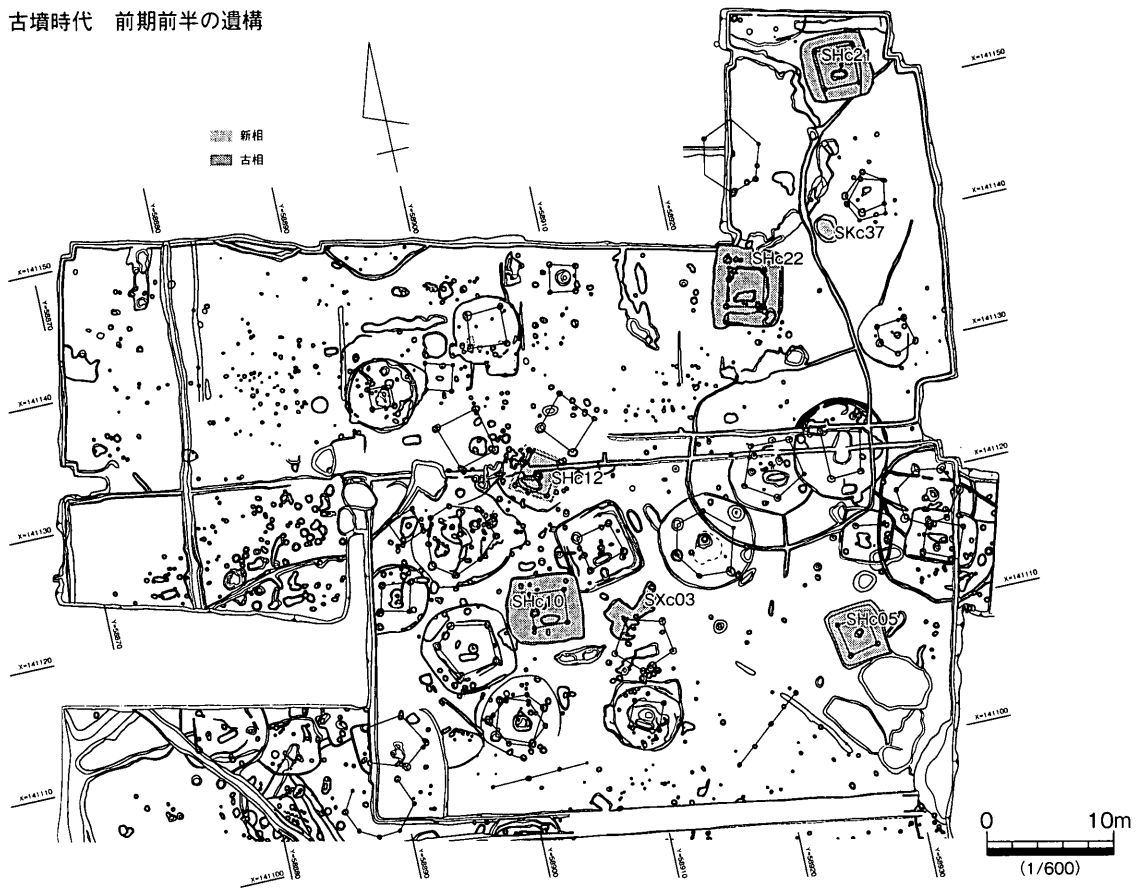


弥生時代 終末期の遺構



第 129 図 鹿伏・中所遺跡Ⅳ・Ⅴ区遺構変遷図(2)

古墳時代 前期前半の遺構



第 130 図 鹿伏・中所遺跡IV・V区遺構変遷図(3)

群はV区中央に分布する。A群が位置する地域は微高地中央に当り、その約30m西方にB・C群が南北に分かれて位置する。外観的にはA群を中心にして、その同心円上にB・C群が分布するように見える。

A群は、先述した後期前半新相のSHc04に隣接する、SHc01・02・03である。そのため、SHc04の建て替えにより、SHc01・02・03等のA群が構成されたとも考えられる。注目できる点では、SHc02の外周には、周溝SDc09を周らせており、集落の中でも特徴的な住居跡といえる。時期的にはSHc01・03が後期後半古相、SHc02後期後半新相と考えられる。また、A群の住居跡は各々に先後関係が認められ、それを整理すれば、SHc04(後期前半新相)→SHc01→SHc03(後期後半古相)→SHc02(後期後半新相)へと変遷したものと考えられる。形状的には、後期前半新相のSHc04と後期後半古相のSHc01が円形、同SHc03が小型方形、後期後半新相のSHc02が長方形を呈しており、円形→円形+小型方形→長方形への変遷が追える。

B群は、先述したようにIV区中央に位置し、後期前半新相のSHc09の西方に位置し、北西方向にSHc11・14・15の3棟が並ぶ。SHc09に隣接することから、この住居跡の建て替えにより、SHc11・14・15のB群が構成された可能性もある。時期的にはSHc15が後期後半古相、SHc11・14が後期後半新相頃の時期が考えられる。形状的には、後期後半古相のSHc15が円形、後期後半新相のSHc14が隅丸五角形を呈する。SHc11は削平を受け、形状は不明瞭であるが、おそらく円形ないし多角形を呈するものと考えられる。

C群は、先述したようにIV区中央に位置し、北西方向へSHc23・24・26の3棟が並ぶ。時期的には

3棟とも後期後半新相に当る。形状的には、SHc23は方形気味の円形を呈し、張出しを伴う。SHc24は円形を呈し、SHc26は削平を受け形状は不明である。

A・B群以外の住居跡としては、V区北東部のSHc27とSHc31が単体で位置している。なお、SHc31は前章で報告したように、外周を周る周溝を確認しただけで、住居跡全体の実態は不明である。

溝状遺構SDc24は、SHc28の外周を周る周溝SDc19の形状に類似し、何れかの住居跡の周溝と考えられるが、削平を受け消失したものか、調査区内において候補となる住居跡は確認できない。

SDc14は出水状の遺構と考えられるSKc28から南西方向へ延び、その先のⅢ区SDa67へ続き、最終的にはSRa02へ至る溝状遺構で、この溝は竪穴住居跡B・C群間に位置し、結果的に両者を分離している。また、下流域のⅢ区SDa67とSRa02の合流地点では、多量の土器が廃棄されており、その延長に前章で報告したSRa02の土器溜りD群がある。

<弥生時代終末期>

後期後半から集落は継続し、竪穴住居跡9基、井戸跡1基、土坑4基、溝状遺構3条を確認した。内訳としては、竪穴住居跡SHc06・08・16～20・28・30、井戸跡SEc01、土坑SKc23・29・45・39、溝状遺構SDc10・19・20である。

住居跡は後期後半のA・B群が継続して住居跡を周辺に移動させている他、SHc31の東方に新たに周溝SDc20を伴うSHc30が出現する。SHc31は先述した様に後期後半新相の時期に当り、SHc31が終末期に移築したのがSHc30とも考えられ、両者を含めてD群と仮称する。SHc30は先述したSHc31と同様で、周溝を検出しただけで、住居跡全体の実態は不明である。なお、この時期C群は消滅しており、C群が北に移動したのがD群に当る可能性が高い。

SHc27の西方に新たに周溝を伴うSHc28が出現する。SHc27は先述した様に後期後半新相の時期に当り、SHc27が終末期に移築したのがSHc28とも考えられ、両者を含めてE群と仮称する。

この時期のA群は、SHc06だけである。この住居跡は多角形の住居跡で、外周には周溝SDc10を伴っている。A群中で周溝を伴う住居跡は、先述し後期後半のSHc02と、SHc06だけで、SHc02の建て替えたものが、SHc06に当る可能性もある。SHc06の周溝SDc10にはSEc01が付設している。おそらく、SDc10はSHc06の外周を区画するのと、SEc01の排水路としての機能を、兼ね備えていたものと考えられる。

なお、SHc06の中央土坑からは微量であるが、古式土師器が出土しており、周溝SDc10と若干の時期差が指摘できるが、周溝SDc10に伴う住居跡としてはSHc06しか考えられなく、あえてSHc06をこの時期に含めることにした。また、SHc06の周溝SDc10は、E群のSHc28の周溝SDc19を掘り込んでいる。そのため、この住居跡と周溝は、終末期でも新段階の遺構と考えられる点を付け加えておく。

B群に含まれるのが、SHc08・16・18・19等の住居跡である。削平を受けて残りが悪いものが多く、平面の形状が捉えられるのは、SHc08・16だけである。SHc08は方形を呈し、SHc16は削平を受けて形状は不明ではあるが、円形の住居跡に張出しが付くタイプと考えられる。

<古墳時代前期前半>

古墳時代前期になると集落は衰退し、この時期以降途絶えてしまう。おそらく、集落が他所へ移動したものと考えられるが、それらの要因については、不明である。

竪穴住居跡5基、土坑1基、不整形遺構1基を確認した。内訳としては、竪穴住居跡 SHc05・10・12・21・22、土坑 SKc37、不整形遺構 SXc03 である。

住居跡の形状は全て方形に変わり、構造も比較的画一的になる。分布の状況としては、終末期の A・B・E 群の周辺に分布しているようにも見えるが、外観的には弥生時代後期後半の住居跡の分布範囲より、微高地の中心寄りに散漫に分布する傾向が見られる。

3. おわりに

以上、IV・V 区の集落の動向を住居跡を中心に概観したが、限られた調査区の調査成果であるため、不明な点が多い。そのため、最終年度の整理作業を経た後に、総括的な変遷を提示することにする。

なお、IX 区の遺構については、先の報告ですでにまとめており、さらに付け加えることはないが、本書で報告した出土遺物の中で注目できる遺物として「邪視文」様の絵画土器がある。また、この遺跡で作られた土器の特徴を示す焼成破裂土器や、香東川流域産等を始めとする他地域から搬入した土器等が多数あり、これらを比較することで、当時の交流の一端を明らかにすることも可能である。

(参考文献)

- 香川県教育委員会 2008「鹿伏・中所遺跡Ⅰ」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊』
香川県教育委員会 2009「鹿伏・中所遺跡Ⅱ」『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊』

觀察表

第6表 鹿伏・中所遺跡出土土器観察表

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
1	SHc01 (SPc04)	IV区		弥生土器	高杯				中・並	細・多	細・多	細・多	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	杯部破片	香東川下流域産
2	SHc01	IV区		弥生土器	器台			細・少	細・多	細・多	細・並	7.5YR5/8 明褐	7.5YR6/6	ハナズリ	ハナズリ	脚部破片	他地域(香東川 下流域)	
3	SHc01	IV区		弥生土器	高杯			中・少	細・少			10YR8/3 浅黄橙	5YR6/6	ハナズ	ハナズ	脚部 1/8	穿孔 2 個現存	
5	SHc02	IV区		弥生土器	高杯	20		中・少	細・少			10YR8/3 浅黄橙	5YR6/6	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8		
6	SHc02	IV区		弥生土器	高杯			中・並	細・少	細・多	細・少	5YR7/8	5YR7/8	ヨコナ	ヨコナ	杯部破片		
7	SHc02	IV区		弥生土器	高杯			中・並	細・少	中・多	細・少	5YR7/6	5YR7/6	ヨコナ	ヨコナ	杯部破片		
8	SDc09	IV区		弥生土器	甕	10		中・多	細・並			7.5YR6/6 黄灰	2.5Y4/1	ヨコナ	ハナズリ後	口縁部 2/8		
9	SDc09	IV区		弥生土器	甕	16		細・少	細・少			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8		
10	SDc09	IV区		弥生土器	甕	18		中・並	中・少	細・多	細・少	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6	ヨコナ	ハナズ後	口縁部破片		
11	SDc09	IV区		弥生土器	高杯	12		細・少	中・少	細・多	細・多	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4	ヨコナ	ハナズ後	脚部破片	他地域(香東川 下流域)	
12	SHc02 (SKc11)	IV区		弥生土器	高杯	13		粗・多	細・多			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3	ヨコナ	ハナズ後	口縁部 1/8		
13	SHc02 (SPc583)	IV区		弥生土器	鉢	18	11	中・並	中・少			5YR7/8	5YR7/8	ハナズリ	ハナズリ	完形		
17	SHc03	IV区		弥生土器	長頸壺			中・並		細・多	細・多	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3	ヨコナ	ハナズ	底部 8/8		
18	SHc03	IV区		弥生土器	甕	13		細・少		細・多	細・多	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4	ヨコナ	ハナズ	口縁部 1/8		
19	SHc03	IV区		弥生土器	甕	16		中・並	細・少			5YR6/6	5YR6/6	ヨコナ	ハナズ	口縁部 2/8		
20	SHc03	IV区		弥生土器	鉢	12	8	中・並		細・少	細・少	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3	ヨコナ	ハナズ	完形		
21	SHc03	IV区		弥生土器	甕			中・多		細・多	細・多	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3	ヨコナ	ハナズ	底部 8/8		
22	SHc03	IV区		弥生土器	壺	15		中・並		細・多	細・多	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3	ヨコナ	ハナズ	口縁部 4/8		
23	SHc03	IV区		弥生土器	甕	14	7	中・並		細・少	細・少	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6	ヨコナ	ハナズ	口縁部 4/8		
24	SHc03	IV区		弥生土器	甕	13		中・並		細・並	細・少	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6	ヨコナ	ハナズ	口縁部破片		
25	SHc03	IV区		弥生土器	鉢	30	22	粗・多	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4	ヨコナ	ハナズ	口縁部 2/8		
26	SHc03	IV区		弥生土器	高杯			中・少	中・少	細・少	細・少	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3	ヨコナ	ハナズ	口縁部 2/8		
27	SHc03	IV区		弥生土器	広口壺	16		中・並		細・多	細・少	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2	ヨコナ	ハナズ	口縁部 1/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
28	SHc03	IV区		弥生土器	壺	14			粗・多		細・少	細・少	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部5/8		
29	SHc03	IV区		弥生土器	甕	12	6		中・多	細・少			10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	底部8/8		
30	SHc03	IV区		弥生土器	甕	13			粗・多	細・少			5YR7/4 にぶい橙	2.5YR7/6 橙	マノ	マノ	口縁部1/8		
31	SHc03	IV区		弥生土器	甕	16			細・少		細・多		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部1/8		
32	SHc03	IV区		弥生土器	甕	14			中・多		細・多		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部2/8		
33	SHc03	IV区		弥生土器	甕	21			中・並	中・少	細・少		5YR6/4 にぶい橙	10YR8/4 浅黄橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部2/8		
34	SHc03	IV区		弥生土器	甕		5		粗・多		細・並		5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	タキ後ハナミカキ ヨコナ 部のハナミカキ	タキ後ハナミカキ ヨコナ 底	底部8/8		
35	SHc03	IV区		弥生土器	壺		5		粗・多	中・少			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ハナズリ後ハナミカ キ	ハナズリ後ハナミカ キ	底部8/8		
36	SHc03	IV区		弥生土器	鉢	32			粗・多		細・少		5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部1/8		
37	SHc03	IV区		弥生土器	鉢	19			細・少				7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部1/8		
38	SHc03	IV区		弥生土器	鉢	12	7	4	中・並	細・少			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	完形		
39	SHc03	IV区		弥生土器	鉢	14	6	4	中・並	中・少			10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	完形		
40	SHc03	IV区		弥生土器	高杯		17		細・多		細・多		10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	脚部破片		
43	SHc04	IV区	上層	弥生土器	壺	14			粗・多				10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部2/8		
44	SHc04	IV区	床直上	弥生土器	甕	14	6		中・並	中・少			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部2/8		
45	SHc04	IV区	下層(貼床)	弥生土器	甕	18			粗・多	中・少			5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部破片		
46	SHc04	IV区	上層	弥生土器	甕	15			細・少				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部1/8		
47	SHc04	IV区	下層(貼床)	弥生土器	甕	17			中・少	細・少			10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	口縁部1/8		
48	SHc04	IV区		弥生土器	壺		7		粗・多				7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	タキ後ハナミカキ 底ハナズリ後ハナ ミカキ	タキ後ハナミカキ 底ハナズリ後ハナ ミカキ	底部8/8		
49	SHc04	IV区	下層(貼床)	弥生土器	高杯				細・並	細・少	細・多		7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	ヨコナ ハナズリ後ハナ ミカキ	杯部破片		
50	SHc04	IV区		弥生土器	高杯				粗・多	細・多	細・並		5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ハナズリ後ハナミ カキ	ハナズリ後ハナミ カキ	接合部破片		
51	SHc04	IV区	下層	弥生土器	高杯		11		細・少				5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	マノ	マノ	脚部1/8	透孔(未貫通)	
52	SHc04	IV区		弥生土器	高杯		11		中・並	中・並	細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ハナズリ後ハナミ カキ	ハナズリ後ハナミ カキ	底部2/8		
53	SHc04	IV区		弥生土器	台付鉢		7		中・並	中・少	細・少		7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	ハナズリ後ハナミ カキ	ハナズリ後ハナミ カキ	底部6/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法臺			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
54	SHc04	IV区		弥生土器	甕			4	中・少	細・少				10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	板打' 打'	打'	底部 3/8	
55	SHc04	IV区		弥生土器	甕			6	中・並	中・並				5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	打'後'ア'ミ'カ'キ	打' ア'タ'ス'リ	底部 3/8	
56	SHc04	IV区	下層	弥生土器	甕				中・並					25YR5/6 明赤褐	25YR5/6 明赤褐	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	口縁部 3/8	
57	SHc04	IV区		弥生土器	甕				中・少	細・多				25Y4/1 黄灰	25Y4/1 黄灰	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	胴部破片	
58	SHc04 (SHc16)	IV区		弥生土器	高杯				中・多	細・少				5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'カ'キ	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'カ'キ	口縁部破片	
59	SHc04	IV区	下層	弥生土器	高杯			23	中・並	中・少				7.5YR5/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'カ'キ	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'カ'キ	口縁部 3/8	
60	SHc04	IV区	上層	弥生土器	甕			15	中・並	中・少				7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'カ'キ	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'リ	口縁部 4/8	
61	SHc04 (SPc284)	IV区		弥生土器	甕			7	中・並	細・少				10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	底部 2/8	
63	SHc05	IV区		弥生土器	甕				中・少	細・多				7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	口縁部 1/8	
64	SHc05	IV区		弥生土器	甕				粗・多					10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	口縁部 3/8	
65	SHc05	IV区		弥生土器	甕			18	中・並	中・多				7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	口縁部 1/8	
66	SHc05	IV区		弥生土器	壺			8	粗・多	中・少				2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	底部 2/8	
67	SHc05	IV区		弥生土器	鉢			20	中・並	細・少				7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	口縁部 2/8	
68	SHc05	IV区		弥生土器	鉢			10	細・少	細・少				7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ヨ'コ'打' 板打'	ヨ'コ'打' 板打'	口縁部 3/8	
69	SHc05	IV区		弥生土器	鉢				中・少	細・少				7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	口縁部破片	
70	SHc05	IV区		弥生土器	器台			22	中・並					10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨ'コ'打' 打'	ヨ'コ'打' 打'	口縁部 1/8	
71	SHc05	IV区		弥生土器	高杯			14	中・並	細・少				5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	底部 1/8	
72	SHc05	IV区		弥生土器	甕				中・並	細・少				2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨ'コ'打' 打'	ヨ'コ'打' 打'	口縁部 4/8	
73	SHc05	IV区		弥生土器	甕			12	中・並	中・多				10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'リ	口縁部 2/8	
74	SHc05	IV区		弥生土器	甕			14	中・並	中・多				10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨ'コ'打' ア'タ'ス'	ヨ'コ'打' 指打'	口縁部 2/8	
75	SHc05	IV区		古式土師器	甕			15	中・並	細・少				7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	胴部 4/8	
79	SHc06	IV区	上層	弥生土器	壺			6	中・並	細・少				10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	板打'後'打'	底部 4/8	
80	SHc06	IV区		弥生土器	甕			4	細・並	細・多				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	底部 2/8	他地域(香東川 下流域)
81	SHc06	IV区	床直上	弥生土器	高杯			10	中・並	細・少				2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	打'後'ア'タ'ス'カ'キ	打'後'ア'タ'ス'リ	脚部 7/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
82	SHc06 (SKc21)	IV区		古式土師器	甕	13			中・並	細・並		細・少	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 1/8		
83	SHc06 (SKc21)	IV区		弥生土器	鉢	15	4	中・並	中・並		細・少	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 3/8			
84	SHc06 (SKc21)	IV区		弥生土器	甕		3	中・並	細・少		細・並	10YR8/3 浅黄橙	ハナ	ハナ	ハナ	底部 8/8			
85	SHc06	IV区	上層	弥生土器	広口壺	18		中・並	中・少		細・並	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 7/8			
86	SHc06 (SPc305)	IV区		弥生土器	甕		4	粗・並			細・並	7.5YR6/4 にぶい橙	ハナ	ハナ	ハナ	底部 2/8			
87	SHc06 (SPc302)	IV区		弥生土器	甕	15		中・少	細・少	細・多	細・多	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)		
88	SHc06 (SPc302)	IV区		弥生土器	鉢	23	8	中・並	中・少		細・並	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	胴部 5/8			
89	SHc06 (SPc317)	IV区		弥生土器	鉢	11		中・並	細・少		細・少	5YR7/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 2/8			
90	SHc06 (SPc305)	IV区		弥生土器	鉢	8		中・並	細・少		細・少	5YR5/6 明赤褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 3/8			
91	SHc06 (SPc307)	IV区		弥生土器	台付鉢		9	中・少	細・少		細・少	7.5YR6/6 橙	ハナ	ハナ	ハナ	脚部 1/8			
92	SDc10	IV区	2層	弥生土器	広口壺	12		中・並	細・少		細・少	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 1/8			
93	SDc10	IV区	1-2層	弥生土器	広口壺	15		中・少	細・少			7.5YR5/4 灰黄褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部破片			
94	SDc10	IV区	1-2層	弥生土器	広口壺	15		細・並	中・少	細・多	細・並	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)		
95	SDc10	IV区	1-2層	弥生土器	広口壺	20		中・並	中・少	中・多	細・少	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)		
96	SDc10	IV区		弥生土器	広口壺	頸部径 11.0		中・並	中・並	細・多	細・並	5YR5/6 明赤褐	ハナ	ハナ	ハナ	頸部 2/8	他地域(香東川 下流域)		
97	SDc10	IV区		弥生土器	甕	16		中・並			細・少	5YR7/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 1/8			
98	SDc10	IV区	1-2層	弥生土器	甕			中・並			中・多	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	頸部 1/8			
99	SDc10	IV区		弥生土器	甕	13		細・少	細・少		細・少	5YR5/4 灰褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 1/8			
100	SDc10	IV区	2層	弥生土器	鉢		2	中・並		細・少	細・多	7.5YR6/6 橙	ハナ	ハナ	ハナ	底部 8/8	他地域(香東川 下流域)		
101	SDc10	IV区	1-2層	弥生土器	鉢	33		中・並	細・少	細・多		10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部破片			
102	SDc11	IV区		弥生土器	広口壺	18		中・少			中・多	2.5Y4/2 暗灰黄	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部破片			
103	SDc11	IV区		弥生土器	鉢	9		粗・多				2.5Y7/3 浅黄	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 1/8			
104	SDc10	V区		弥生土器	広口壺	16		中・多	中・少	細・多	中・多	10YR3/3 暗褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	口縁部 5/8	他地域(香東川 下流域)		
105	SDc10	V区		弥生土器	甕			中・並	中・少	細・多	細・多	7.5YR3/3 暗褐	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	ヨコナ ハナ	胴部 3/8	他地域(香東川 下流域)		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
106	SDc10	V区		弥生土器	壺			6	中・少	細・少	細・多	細・並	10YR2/1 黒 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	アハズ'キ	アハズ'リ後指サ エ	底部 6/8	他地域(香東川 下流域)
107	SDc10	V区		弥生土器	甕か壺				細・少	細・少	細・多	細・少	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい褐		指サエ	肩部破片	外面に絵面記号 紋有
108	SDc10	V区		弥生土器	甕				中・多	粗・多	中・並	細・多	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	タタ後アハズ'キ	アハズ'リ	底部 4/8	他地域(香東川 下流域)
109	SDc10	V区		弥生土器	鉢				粗・少	粗・少	細・並	細・並	5YR5/6 明赤褐	5YR6/8 橙	エコサ' タタ後 アハズ'リ	アハズ'リ	口縁部 1/8	
110	SDc10	V区		弥生土器	鉢				粗・多	粗・多	中・多	細・多	5YR6/8 橙	5YR6/6 橙	エコサ' タタ後 アハズ'リ	アハズ'リ	完形	
111	SDc10	V区		弥生土器	甕				中・並	中・並	中・多	細・多	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	エコサ' タタ後 アハズ'リ	エコサ' 指サエ アハズ'リ	口縁部 2/8	
112	SDc10	V区		弥生土器	甕				中・並	中・並	細・少	細・少	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' 指サエ アハズ'リ	口縁部 1/8	
113	SHc06 (SPc305)	IV区		弥生土器	甕				中・並	中・並	細・並	細・並	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR3/1 黒褐	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' 指サエ アハズ'リ	胴部破片	他地域(香東川 下流域)
119	SHc07	IV区	上層	弥生土器	広口壺				中・並	細・少			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	エコサ'	エコサ'	口縁部 1/8	
120	SHc07	IV区		弥生土器	広口壺				細・少	細・少	細・多	細・並	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' 目 アハズ'リ	口縁部 3/8	他地域(香東川 下流域産)
121	SHc07	IV区		弥生土器	長頸壺				中・少	細・並	細・多	細・並	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	エコサ'	エコサ' 目 アハズ'リ	頸部 1/8	他地域(香東川 下流域産)
122	SHc07	IV区		弥生土器	細頸壺				中・並	中・並	細・少	細・少	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	アハズ'キ 後アハズ'リ	アハズ'リ	頸部 6/8	他地域(吉備)
123	SHc07	IV区		弥生土器	細頸壺				細・並	細・並	細・少	細・少	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	アハズ'キ 後アハズ'リ	アハズ'リ	胴部 4/8	他地域(吉備)
124	SHc07	IV区		弥生土器	壺				粗・多	中・並	中・多	細・多	5YR5/4 にぶい褐	5YR6/4 にぶい褐	エコサ' (タタ)	エコサ' (タタ)	口縁部 3/8	
125	SHc07	IV区		弥生土器	壺				中・並	中・並	細・多	細・多	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	アハズ'キ アハズ'リ	アハズ'リ	底部破片	他地域(香東川 下流域産)
126	SHc07	IV区		弥生土器	甕				中・並	中・並	細・少	細・少	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' タタ アハズ'リ	口縁部 1/8	
127	SHc07	IV区	上層	弥生土器	甕				中・並	細・少	細・多	細・並	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' タタ アハズ'リ	口縁部 3/8	
128	SHc07	IV区		弥生土器	甕				細・並	細・並	細・多	細・多	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' タタ アハズ'リ	口縁部 2/8	
129	SHc07	IV区		弥生土器	甕				細・並	細・少	細・多	細・並	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	エコサ' タタ アハズ'リ	エコサ' 指サエ アハズ'リ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域産)
130	SHc07	IV区		弥生土器	甕				中・並	中・並	細・並	細・並	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	エコサ'	エコサ'	口縁部 2/8	
131	SHc07	IV区		弥生土器	甕				細・少	細・少	細・少	細・少	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	エコサ'	エコサ'	口縁部 1/8	
132	SHc07	IV区		弥生土器	甕				細・少	細・少	細・多	細・多	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/4 褐	エコサ'	エコサ'	口縁部 1/8	凹文3冬香東 川下流域産
133	SHc07	IV区	上層	弥生土器	甕				中・並	細・少	細・少	細・少	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	アハズ'キ	アハズ'リ	底部 2/8	
134	SHc07	IV区		弥生土器	甕				細・多	細・多	細・少	細・少	7.5YR7/3 にぶい橙	2.5Y4/1 黄灰	タタ後アハズ'キ	アハズ'リ	底部 8/8	
135	SHc07	IV区	上層	弥生土器	甕				細・並	細・並	細・多	細・多	10YR6/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	アハズ'キ	アハズ'リ	底部 8/8	他地域(香東川 下流域産)

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
136	SHc07	IV区		弥生土器	高杯	29			細・少			細・少	10YR4/3 にぶい黄褐色	7.5YR4/4	ヨコナ キ	ヨコナ キ	口縁部 1/8	
137	SHc07	IV区	上層	弥生土器	高杯	27		細・並	中・少			細・少	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	マメ		口縁部 1/8	
138	SHc07	IV区		弥生土器	高杯		8	中・並	細・少				5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ナ	ナ	脚部 1/8	
139	SHc07	IV区	上層	弥生土器	高杯		10	中・並	粗・少				10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	ヨコナ	ナ	脚部 1/8	
140	SHc07	IV区		弥生土器	高杯		14	細・並	細・少	細・多			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ナ	ヨコナ	脚部 1/8	
141	SHc07	IV区		弥生土器	高杯		10	中・並					10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ナ	ヨコナ	脚部 1/8	
142	SHc07	IV区		弥生土器	高杯		11	細・少					10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	ナ	ヨコナ	底部 1/8	
143	SHc07	IV区		弥生土器	高杯			中・並	中・少				7.5YR7/4 にぶい橙	5YR7/6 橙	ナ	ヨコナ	口縁部破片	口縁部外面に 赤色顔料付着
144	SHc07	IV区		弥生土器	器台		23	中・並	中・少				5YR8/4 淡橙	5YR8/4 淡橙	ナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
145	SHc07	IV区		弥生土器	器台		18	中・少					7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR7/3 にぶい橙	ナ	ヨコナ	脚部 4/8	
146	SHc07	IV区		弥生土器	台付鉢		6	中・並	細・少				2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	ナ	ナ	脚部 5/8	
147	SHc07	IV区		弥生土器	鉢		2	中・並	中・少				7.5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	ナ	ナ	底部 8/8	
148	SHc07	IV区		弥生土器	鉢			中・多	中・少				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
149	SHc07 (SPc86)	IV区		弥生土器	長頸壺		13	細・少		細・多			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ナ	ヨコナ	口縁部 2/8	
150	SHc07 (SPc85)	IV区		弥生土器	小型壺		5	中・並	細・少				10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	ナ	ナ	胴部 3/8	
151	SHc07	IV区		弥生土器	甕		13	細・並	細・少				2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	ナ	ヨコナ	口縁部 3/8	
152	SHc07	IV区	上層	弥生土器	甕		18	粗・多	細・少				7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	ナ	ヨコナ	口縁部 2/8	
153	SHc07 (SPc84)	IV区		弥生土器	甕			細・少	細・少				7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ナ	ヨコナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)
154	SHc07 (SPc90)	IV区		弥生土器	甕		14	中・並	細・少				10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ナ	ヨコナ	口縁部 2/8	
155	SHc07 (SPc88)	IV区		弥生土器	甕		13	中・並		細・並			10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	ナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)
156	SHc07 (SPc86)	IV区		弥生土器	甕		12	中・並					5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
157	SHc07 (SPc85)	IV区		弥生土器	甕		13	中・並	細・少				7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ナ	ヨコナ	頸部 1/8	
158	SHc07 (SPc84)	IV区		弥生土器	甕		18	細・少					2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
159	SHc07 (SPc85)	IV区		弥生土器	高杯			中・並					10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ナ	ヨコナ	脚部 1/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土					色調			調整		残存率	備考
						口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部	内部		
160	SHc07 (SPc84)	IV区		弥生土器	高杯				中・並					5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	7M	絞り目 (7M)	脚部 3/8		
161	SHc07 (SPc491)	IV区		弥生土器	高杯			中・並	中・少		細・少			7.5YR7/4 黄灰	10YR5/1 褐灰	7M	絞り目	脚部 1/8		
162	SHc07 (SPc491)	IV区		弥生土器	広口壺			中・並	中・少					10YR8/4 浅黄橙	2.5Y8/3 淡黄	7M	7M	口縁部 1/8		
163	SHc07 (SPc84)	IV区		弥生土器	高杯			中・並	中・少					10YR8/3 浅黄橙	10YR6/2 灰黄褐	7M	7M	口縁部破片		
167	SHc08	IV区	下層	弥生土器	壺			細・少		細・多	細・多			10YR6/3 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	7M	7M	口縁部 1/8	他地域(香東川下流域)	
168	SHc08	IV区		弥生土器	長頸壺			中・並	中・少					7.5YR7/4 浅黄橙	7.5YR8/6 灰黄褐	7M	7M	口縁部 1/8		
169	SHc08	IV区	下層	弥生土器	広口壺			中・並						5YR5/4 赤褐	5YR5/4 赤褐	7M	7M	口縁部破片		
170	SHc08	IV区	上層	弥生土器	細頸壺			中・並		細・多	細・少			10YR5/4 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	7M	7M	口縁部 2/8		
171	SHc08	IV区	下層	弥生土器	手づくね土器			細・少	細・少		細・多			10YR6/4 黄灰	10YR7/4 黄灰	7M	7M	底部 8/8		
172	SHc08	IV区	上層	弥生土器	甕			中・少	中・少		細・少			5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	7M	7M	口縁部 1/8		
173	SHc08	IV区	下層	弥生土器	甕			中・並	粗・少	細・多				2.5Y3/1 黒褐	7.5YR6/4 黄灰	7M	7M	底部 1/8	他地域(香東川下流域)	
174	SHc08	IV区	上層	弥生土器	鉢			中・少	細・少					2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	7M	7M	口縁部 1/8		
175	SHc08	IV区	1層	弥生土器	鉢			中・並	中・少					2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	7M	7M	底部 8/8		
176	SHc08	IV区		弥生土器	鉢			中・並	中・少		細・多			5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 黄灰	7M	7M	完形		
177	SHc08	IV区	下層	弥生土器	製塩土器			細・少		細・多	細・並			10YR6/3 黄灰	10YR6/3 黄灰	7M	7M	脚部 8/8		
178	SHc08 (SKc09)	IV区		弥生土器	甕			中・並	細・少	細・多	細・多			7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	7M	7M	胴部 2/8	他地域(香東川下流域)	
179	SHc08 (SPc105)	IV区		縄文土器	深鉢			細・多						2.5Y6/2 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	7M	7M	底部 8/8		
181	SHc09	IV区	1層	弥生土器	シヨリ形土器			細・並	細・少					7.5YR8/3 浅黄橙	5YR7/6 橙	7M	7M	口縁部 3/8		
182	SHc09	IV区	1層	弥生土器	細頸壺			細・少		細・多	細・多			7.5YR5/4 黄灰	7.5YR5/4 黄灰	7M	7M	頸部 1/8	他地域(香東川下流域)	
183	SHc09	IV区	1層	弥生土器	高杯			中・並	中・少	細・多	細・多			7.5YR6/4 黄灰	7.5YR6/4 黄灰	7M	7M	杯部 3/8	他地域(香東川下流域)	
184	SHc09	IV区	1層	弥生土器	高杯			細・並	細・少	細・多	細・多			10YR6/4 黄灰	10YR6/4 黄灰	7M	7M	脚部 1/8	他地域(香東川下流域)	
185	SHc09	IV区	1層	弥生土器	高杯			細・並	細・少					10YR8/2 灰白	10YR8/3 黄灰	7M	7M	脚部 2/8		
186	SHc09 (SKc12)	IV区		弥生土器	甕			中・並	細・少					10YR7/3 褐灰	10YR4/1 褐灰	7M	7M	胴部 7/8		
187	SHc09	IV区	1層	弥生土器	甕			中・並			細・少			10YR7/4 黄灰	10YR7/4 黄灰	7M	7M	口縁部 1/8		
188	SHc09 (SPc366)	IV区		弥生土器	鉢			細・少	細・少					10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	7M	7M	底部 4/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
189	SHc09	IV区		弥生土器	壺				中・並	中・並	細・少	5YR6/8 橙	5Y4/1 灰	ヲヲ	ヲヲ	底部 3/8		
190	SHc09 (SKc12)	IV区		弥生土器	鉢	22	12	6	中・並	細・少	細・少	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ ヲヲ	ヨコナ ヲヲ	完形		
191	SHc10	IV区		弥生土器	甕	13			中・並	細・少	細・並	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	ヨコナ ヲヲ	ハナスリ	口縁部 1/8		
192	SHc10	IV区		弥生土器	甕	15			中・並		細・少	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨコナ ハナスリ	ヨコナ ハナスリ	口縁部 1/8		
193	SHc10	IV区		弥生土器	甕	17			中・少	中・少	細・多	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコナ ハナスリ	ヨコナ ハナスリ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
194	SHc10	IV区		弥生土器	甕			5	中・並		細・多	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR7/2 にぶい黄褐	ヲヲ	ハナスリ	底部 2/8		
195	SHc10	IV区		弥生土器	壺				細・少	細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ハナ	ハナ	破片	外面に記号紋有	
196	SHc10	IV区		縄文土器	深鉢				中・並			7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ハナ	ハナ	破片		
197	SHc10	IV区		弥生土器	鉢	11	6		細・並	細・少	細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ハナスリ	ハナスリ	胴部 3/8		
198	SHc10	IV区		弥生土器	鉢	19	6		中・並	中・少	細・多	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコナ ハナスリ	ハナスリ	胴部 4/8		
199	SHc10	IV区		弥生土器	鉢	23			細・並	細・少	細・並	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/6 橙	ヨコナ ハナスリ	ハナスリ	口縁部 1/8		
200	SHc10	IV区		弥生土器	片口鉢	35			中・並	中・並	細・少	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ ハナスリ	ヨコナ ハナスリ	口縁部 1/8		
201	SHc10	IV区		古式土師器	高杯	25	16	18	中・並		中・並	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ハナ	ハナ	口縁部 7/8		
202	SHc10	IV区		古式土師器	高杯	24	15	17	中・並	中・並	細・並	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ハナ	ハナ	口縁部 6/8		
203	SHc10	IV区		弥生土器	高杯	19			中・少		細・多	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/3 にぶい褐	ハナ	ハナ	口縁部 1/8		
207	SHc11	IV区		弥生土器	高杯				中・並		細・少	10YR5/1 褐灰	7.5YR6/4 にぶい橙	ハナ	ハナ	脚部 4/8		
208	SHc11	IV区		弥生土器	鉢	10	6	3	中・並	中・少	細・少	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ハナ	ハナ	胴部 5/8		
209	SHc11	IV区		弥生土器	甕	12			中・並			10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	ヨコナ ハナスリ	ヨコナ ハナスリ	口縁部 2/8		
210	SHc11	IV区		弥生土器	鉢	10			中・多			2.5YR8/2 灰白	2.5Y3/1 黒褐	ハナ	ハナ	口縁部 3/8		
212	SHc12	IV区		古式土師器	甕	16			粗・並	粗・多	細・少	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白	ハナ	ハナ	口縁部 2/8		
213	SHc12	IV区		弥生土器	鉢	17			中・並		中・並	2.5Y4/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナスリ	ヨコナ ハナスリ	口縁部 1/8		
214	SHc12	IV区		弥生土器	高杯			18	中・並	中・少	細・多	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ハナ	ハナ	脚部破片	他地域(香東川 下流域)	
215	SHc12	IV区		古式土師器	高杯			18	中・並	粗・少	細・多	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ハナ	ハナ	脚部破片		
216	SHc12 (SPc942)	IV区		弥生土器	小型丸底壺	9			細・並	細・少	細・多	5YR6/6 橙	5YR6/4 にぶい橙	ハナ	ハナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
218	SHc13 (SPc435)	V区		弥生土器	壺				中・多			10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ハナ	ハナ	頸部破片		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量				胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部	外部		
219	SHc14	IV区		弥生土器	広口壺	26			中・並	中・少		細・少		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片		
220	SHc14	IV区		弥生土器	広口壺	23			中・並	中・少		中・少		2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	ヨコナ (マ)	ヨコナ (マ)	口縁部 2/8		
221	SHc14	IV区		弥生土器	広口壺	18			中・並	中・少		中・少		5YR5/4 にぶい赤褐	10YR4/1 褐灰	ヨコナ (マ)	ヨコナ (マ)	口縁部 1/8		
222	SHc14	IV区		弥生土器	広口壺	21			中・少	細・少				2.5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR7/4 にぶい橙	ナ		頸部 1/8	外面に赤色顔料 付着	
223	SHc14	IV区		弥生土器	広口壺	18			中・並	中・少		細・少		2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8		
224	SHc14	IV区		弥生土器	甕	16			中・並	中・少		細・少		2.5Y4/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8		
225	SHc14	IV区		弥生土器	甕	16			細・少			細・少		2.5Y4/2 暗灰黄	7.5YR4/3 褐	ヨコナ	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8		
226	SHc14	IV区		弥生土器	甕	16			中・並	細・多		細・少		10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	ヨコナ	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8	他地域 (香東川 下流域産)	
227	SHc14	IV区		弥生土器	甕	5			中・並	細・多		中・少		5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ナ	ナ	底部 8/8	他地域 (香東川 下流域産)	
228	SHc14	IV区		弥生土器	甕	16			中・多	中・少				10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ナ	ナ	口縁部 1/8		
229	SHc14	IV区		弥生土器	甕	8			細・少	細・少		細・多		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8		
230	SHc14 (SKc26)	IV区		弥生土器	広口壺				粗・並					7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ナ	ナ	頸部 2/8		
231	SHc14 (SKc26)	IV区		弥生土器	広口壺				中・並	中・少				2.5YR7/6 橙	7.5YR8/3 浅黄橙	ヨコナ (マ ナ)	ヨコナ 指ナ	頸部 3/8		
232	SHc14 (SKc26)	IV区		弥生土器	鉢	18			細・少					10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ 紋リ	口縁部 2/8	焼成破裂土器	
233	SHc14 (SKc26)	IV区		弥生土器	鉢	5	3		中・並	細・少				7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 3/8		
234	SHc14	IV区		弥生土器	壺				中・並	中・少				7.5YR5/4 にぶい褐	10YR7/3 にぶい黄橙	ナ	ナ	胴部 2/8	焼成破裂土器	
235	SHc14 (SPc463)	IV区		弥生土器	甕	14			中・並	中・少				10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 4/8		
236	SHc14 (SPc467)	IV区		弥生土器	甕	12	14		中・並	細・少		細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	完形		
237	SHc14 (SPc463)	IV区		弥生土器	鉢	5	5		中・並	細・少		細・並		10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/3 にぶい褐	ナ	ナ	完形		
238	SHc14 (SPc460)	IV区		弥生土器	鉢	22	8		中・並	中・少		中・並		5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 3/8		
247	SHc15 (SPc475)	IV区		弥生土器	高杯				中・並	中・少				5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ナ	ナ	脚部 2/8		
248	SHc16	IV区		弥生土器	広口壺	12			細・少	細・多		細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川 下流域産)	
249	SHc16	IV区		弥生土器	台付鉢				細・少	細・少		細・並		7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ナ	ナ	脚部破片		
250	SHc16	IV区		弥生土器	鉢	14	3		中・並	細・少		細・少		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8		
251	SHc16	IV区		弥生土器	鉢	32			中・並			細・少		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整			備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部	
252	SHc16	IV区		弥生土器	鉢	22			中・少	中・少	中・多		10YR7/3 にぶい黄橙	ハナ	ハナ	ハナ	口縁部1/8	
255	SHc16 (SKc34)	IV区		弥生土器	甕	15			細・並	細・多	細・多		7.5YR5/2 灰黄褐	ヨナナ	ヨナナ	指ナナ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域産)
256	SHc16 (SKc34)	IV区		弥生土器	台付鉢			17	中・並				10YR7/2 にぶい黄橙	ハナ	ハナ	ハナ	底部8/8	
259	SHc17	IV区		弥生土器	甕	14			細・少	細・多	細・多		7.5YR6/6 橙	ヨナナ	ヨナナ	指ナナ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域産)
260	SHc17 (SPc495)	IV区		弥生土器	甕	12	10		中・並		細・少		7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ハナ	完形	
261	SHc17 (SPc495)	IV区		弥生土器	鉢	21			中・並				5YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部2/8	
262	SHc17 (SKc29)	IV区		弥生土器	鉢	18			中・並		細・少		10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部破片	
263	SHc17 (SPc495)	IV区		弥生土器	鉢	9			中・少		細・少		10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部3/8	
264	SHc17	IV区		弥生土器	器台				中・並		細・少		5YR7/8 橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部1/8	
265	SHc17 (SPc498)	IV区		弥生土器	手づくね土器			2	細・少		細・少		10YR7/3 にぶい黄橙	ハナ	ハナ	指ナナ	底部8/8	
267	SHc18	IV区	黒色砂質土	弥生土器	広口壺	22			粗・多		細・少		10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部2/8	
268	SHc18	IV区		弥生土器	広口壺	13			中・並		細・並		5YR7/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部1/8	
269	SHc18	IV区		古式土師器	甕	17			中・並				7.5YR8/4 浅黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	頸部2/8	
270	SHc18 (SKc32)	IV区		弥生土器	甕	14			中・並		中・多		7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	頸部2/8	他地域(香東川 下流域産)
271	SHc18 (SKc32)	IV区		弥生土器	甕	14			中・並		細・多		7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	頸部2/8	他地域(香東川 下流域産)
272	SHc18	IV区		弥生土器	鉢				中・並				10YR7/2 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部破片	
273	SHc18 (SKc32)	IV区		弥生土器	甕	16			中・並		中・多		10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域産)
274	SHc18	IV区		弥生土器	鉢	12	8	5	中・並		細・少		7.5YR5/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部2/8	
275	SHc18	IV区		弥生土器	鉢	14	6	4	中・並		細・少		10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	底部8/8	
276	SHc18	IV区	黒色砂質土	弥生土器	鉢			5	粗・並		細・少		10YR6/2 灰黄褐	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	底部8/8	
277	SHc18	IV区		弥生土器	高杯	18			中・並		中・少		7.5YR7/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	底部2/8	
278	SHc18	IV区		弥生土器	製捏土器			4	中・並		細・並		5YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	底部2/8	
279	SHc18	IV区		焼土塊		幅 5.2	高さ 6.8	厚み 3.4	中・並				5YR7/4 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	破片	
280	SHc18	IV区		弥生土器	紡錘車	4	1	4	細・並		細・少		10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	完形	要胴部転用
289	SHc19 (SPc73)	IV区		弥生土器	甕	10			中・並				10YR5/6 黄褐	ヨナナ	ヨナナ	ヨナナ	口縁部1/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	石英・長石	底径 (cm)	底径 (cm)	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面		
290	SHc19 (SPc64)	IV区		弥生土器	鉢	3		中・少					5YR5/8 明赤褐	2.5Y3/2 黒褐	ハナハナリ	ハナハナリ	底部 4/8	
291	SHc19 (SKc06)	IV区		弥生土器	鉢	11		粗・並					7.5YR6/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	ヨコナリ	ヨコナリ	胴部 2/8	
292	SHc19 (SKc06)	IV区		弥生土器	甕	16		中・並					7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	ヨコナリ	指ナリ	口縁部 1/8	
293	SHc20 (SPc434)	IV区		弥生土器	手づくね土器			細・多					5YR6/6 橙	7.5YR5/6 明褐	ヨコナリ	絞リ	胴部 7/8	
294	SHc20 (SPc434)	IV区		弥生土器	広口壺			中・並					10YR8/2 灰白	7.5YR7/3 にぶい橙	ヨコナリ		口縁部破片	
295	SHc20 (SPc342)	IV区		弥生土器	高杯	18		細・並					7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい橙	ヨコナリ	ハナハナリ	脚部破片	他地域(香東川下流域)
296	SHc20 (SPc342)	IV区		弥生土器	有孔鉢	5		粗・少					10YR6/2 灰黄褐	2.5Y4/1 黄灰	ナリ		底部 2/8	木葉底
297	SHc20 (SPc434)	IV区		弥生土器	鉢	3		中・並					10YR4/1 褐灰	2.5Y4/2 暗灰黄	ナリ		底部 8/8	
298	SHc20 (SXc12)	IV区		弥生土器	鉢	23		中・並					10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	ヨコナリ	絞リ	口縁部破片	
299	SHc20 (SXc12)	IV区		弥生土器	鉢	21		細・並					2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/1 黄灰	ヨコナリ	絞リ	口縁部 1/8	
300	SHc20 (SXc12)	IV区		弥生土器	鉢	11		中・並					10YR6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	ナリ		口縁部 1/8	
301	SHc21	V区		弥生土器	広口壺	12		中・並					7.5YR6/6 橙	7.5Y3/1 オリーブ黒	ナリ		口縁部 1/8	
302	SHc21	V区		弥生土器	広口壺	19		細・並					2.5Y5/1 黄灰	10YR4/2 灰黄褐	ヨコナリ		口縁部 1/8	
303	SHc21	V区		弥生土器	甕	17		中・並					7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナリ		口縁部破片	他地域(香東川下流域)
304	SHc21	V区		弥生土器	甕	17		中・並					7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/6 褐	指ナリ		口縁部 1/8	他地域(香東川下流域)
305	SHc21	V区		弥生土器	甕	15		中・並					10YR2/1 黒	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナリ	指ナリ	口縁部 3/8	他地域(香東川下流域)
306	SHc21	V区		弥生土器	甕	8		細・多					2.5YR6/8 橙	2.5YR6/6 橙	ヨコナリ	(ナリ)	口縁部 2/8	他地域(香東川下流域)
307	SHc21	V区		古式土師器	甕	12		細・並					5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	ヨコナリ	(ナリ)	口縁部 2/8	
308	SHc21	V区		古式土師器	甕	15		中・並					5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコナリ	(ナリ)	口縁部破片	
309	SHc21	V区		弥生土器	甕			中・並					2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ナリ	ハナハナリ	胴部 2/8	
310	SHc21	V区		弥生土器	高杯	23		中・並					7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	ナリ		口縁部 1/8	
311	SHc21	V区		弥生土器	壺			中・並					7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ナリ		底部 1/8	他地域(香東川下流域)
312	SHc21	V区		弥生土器	小型丸底壺	11		中・並					7.5YR6/8 橙	7.5YR6/8 橙	ナリ		口縁部 1/8	他地域(香東川下流域)
316	SHc22	V区		弥生土器	甕	2		中・並					10Y6/6 赤橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ナリ	ハナハナリ	底部 8/8	
317	SHc22	V区		弥生土器	鉢	4		中・並					2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ナリ	絞リ目	底部 6/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
318	SHc22	V区		弥生土器	製塩土器			2	細・並	細・並				10YR5/3 にぶい黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	指神I	ナリ	底部 4/8	
319	SHc22	V区		古式土師器	高杯	24			中・並					7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/1 褐灰	ヨコナ キ(ナリ)ナリ	ヨコナ キ(ナリ)ナリ	口縁部 1/8	
320	SHc22	V区		弥生土器	甕	23			中・並					7.5YR6/6 浅黄橙	10YR8/3	ヨコナ ナリ	ヨコナ	口縁部 1/8	
321	SHc22	V区		弥生土器	鉢	13		3	中・多					2.5Y3/1 黒褐	10YR8/2	ナリ	ナリ	口縁部 7/8	外面に記号紋有
322	SHc22	V区		弥生土器	鉢	9		3	中・並					10YR8/2 灰白	7.5YR6/8	ナリ	板ナリ	胴部 7/8	
323	SHc22	V区		弥生土器	手づくね土器				中・多					7.5YR6/8 橙	7.5YR6/6 橙	ナリ 指神I	指神I	胴部 7/8	
326	SHc23	V区		弥生土器	甕	15			細・並	細・多				7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ナリ	ヨコナ ナリ	口縁部 4/8	他地域(香東川 下流域産)
327	SHc23	V区		弥生土器	甕				中・並	細・多				10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ ナリ	ナリ 指神I ナリ	頭部 2/8	他地域(香東川 下流域産)
328	SHc23	V区		弥生土器	甕	17			中・多					10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ ナリ	ヨコナ ナリ	口縁部 1/8	
329	SHc23	V区		弥生土器	鉢	19			中・並					5YR7/6 橙	2.5YR7/8 橙	ナリ	ナリ	口縁部 1/8	
330	SHc23 (SPc399)	V区		弥生土器	甕	17			中・並	細・少				2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ナリ後ヨコナ	ヨコナ ナリ	口縁部 1/8	
336	SHc24	V区		弥生土器	鉢	14			中・並	細・並				5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ナリ ナリ	ナリ	口縁部 3/8	
337	SHc24	V区		弥生土器	高杯				中・並					7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
338	SHc24 (SPc327)	V区		弥生土器	高杯				中・多	細・多				10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	ナリ	ナリ	破片	
348	SHc25	V区		弥生土器	甕				粗・少					7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/6 明褐	ナリ	ナリ	破片	
353	SHc26	V区		弥生土器	広口壺	18			粗・多	中・少				5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ナリ	ナリ	口縁部破片	内面に記号紋有
354	SHc26	V区		弥生土器	鉢				粗・少					5YR5/6 明赤褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ナリ	ナリ	底部 8/8	
355	SHc26 (SPc307)	V区		弥生土器	甕				中・並					7.5YR7/8 黄橙	7.5YR7/8 黄橙	ヨコナ ナリ	ヨコナ ナリ	口縁部破片	
356	SHc26 (SPc307)	V区		弥生土器	甕				中・少	細・多				10YR6/2 灰黄褐	10YR6/1 褐灰	ナリ	指神I	頭部破片	他地域(香東川 下流域)
357	SHc26 (SPc306)	V区		弥生土器	鉢	10	4	4	中・多	中・並				10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	ヨコナ ナリ	ヨコナ ナリ	底部 8/8	
358	SHc26 (SKc49)	V区		弥生土器	甕	13			中・並					2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ヨコナ ナリ後ナリ	ヨコナ ナリ	口縁部 1/8	
359	SHc26 (SKc49)	V区		弥生土器	甕	15	3	3	細・並	細・多				5YR6/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ ナリ	ヨコナ ナリ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)
360	SHc26 (SKc49)	V区		弥生土器	鉢	11	6	3	中・並	細・少				10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	ヨコナ ナリ	ヨコナ ナリ	口縁部 4/8	
361	SHc26 (SKc49)	V区		弥生土器	鉢	11	6	6	中・並	中・少				10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	指神I 板ナリ	ナリ	完形	
362	SHc27 (SPc18)	V区		弥生土器	蓋				中・多					10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ナリ	ナリ	頸部 2/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
363	SHc27 (SPc18)	V区		弥生土器	高杯			15	中・多	中・少	中・多	細・少		10YR7/3 黄褐色	10YR7/4 黄褐色	ヨコナ	ヘナナリ	底部 1/8	他地域 (香東川下流域)
364	SHc28 (SPc42)	V区		弥生土器	広口壺			16	粗・少	細・少	細・多	細・少		7.5YR5/3 黄褐色	7.5YR5/3 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
365	SHc28 (SPc42)	V区		弥生土器	甕			14	細・少	細・少	細・多	細・並		7.5YR7/4 黄褐色	7.5YR7/4 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
366	SHc28 (SPc42)	V区		弥生土器	高杯				細・並	細・少	細・並	中・多		7.5YR6/4 黄褐色	7.5YR6/4 黄褐色	ヘナナリ	ヘナナリ	杯部 1/8	
367	SHc28 (SPc36)	V区		弥生土器	壺			6	中・並			細・並		10YR7/6 黄褐色	2.5Y4/1 黄褐色	ナナ	ヘナナリ	底部 4/8	
368	SHc28 (SPc36)	V区		弥生土器	鉢			22	中・並	中・少	中・少	中・並		5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	外面に記号紋有
369	SDc19	V区		弥生土器	広口壺			21	中・並	中・少	中・多	細・多		7.5YR7/4 黄褐色	7.5YR6/4 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 4/8	他地域 (香東川下流域)
370	SDc19	V区		弥生土器	複合口縁壺			23	中・並			中・並		7.5YR7/6 黄褐色	7.5YR6/6 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	ヘナナリ
371	SDc19	V区		弥生土器	甕			14	中・多	中・少	細・多	細・並		10YR7/2 黄褐色	10YR7/2 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
372	SDc19	V区		弥生土器	甕			16	中・並	中・少	細・多	細・並		2.5Y4/2 暗黄褐色	10YR6/6 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
373	SDc19	V区		弥生土器	甕			16	中・少	細・少		中・多		7.5YR7/4 黄褐色	10YR7/3 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
374	SDc19	V区		弥生土器	甕			14	中・並	粗・少	細・多	細・少		10YR6/3 黄褐色	10YR6/3 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	胸部 3/8	他地域 (香東川下流域)
375	SDc19	V区		弥生土器	鉢			18	粗・並	細・少		細・少		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8	
376	SDc19	V区		弥生土器	鉢			17	粗・多			細・少	粗・多	7.5YR7/4 黄褐色	5YR5/6 明赤褐色	ヨコナ	ヨコナ	底部 8/8	
377	SDc19	V区		弥生土器	鉢			45	粗・少	細・少		細・多		2.5Y3/1 黒褐色	10YR4/1 褐褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
378	SHc29 (SPc141)	V区		弥生土器	甕				中・並	細・少	細・多	細・並		10YR5/6 黄褐色	10YR5/6 黄褐色	指ナ	指ナ	胸部破片	他地域 (香東川下流域)
379	SHc29 (SPc141)	V区		弥生土器	鉢				中・並					7.5YR6/6 黄褐色	10YR6/3 黄褐色	ナ	ナ	口縁部破片	
380	SDc20	V区		弥生土器	広口壺			16	中・並	細・少		細・少		5YR6/6 黄褐色	2.5Y6/3 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
381	SDc20	V区		弥生土器	広口壺			20	細・並	細・少	細・多	細・多		5YR6/6 黄褐色	5YR6/6 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 3/8	他地域 (香東川下流域)
382	SDc20	V区		弥生土器	鉢			7	細・並	細・少		細・少		2.5Y6/3 黄褐色	2.5Y6/3 黄褐色	指ナ	指ナ	完形	
383	SDc20	V区		弥生土器	甕			12	中・多	細・少				10YR6/3 黄褐色	10YR6/3 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	胸部 4/8	
384	SDc20	V区		弥生土器	鉢			21	中・並	中・少	中・多	中・多		10YR6/3 黄褐色	10YR5/1 褐褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 6/8	
385	SDc20	V区		弥生土器	鉢			19	中・並	細・少		細・少		10YR6/3 黄褐色	10YR6/3 黄褐色	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土					色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部	外面		
386	SDc22	V区		弥生土器	甕	15	1		細・少			細・少		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片		
387	SDc22	V区		弥生土器	甕			細・少		細・多	細・並	細・少		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)	
388	SDc22	V区	上面	弥生土器	甕			粗・多	細・少		細・少		2.5YR8/1 灰白	10YR8/2 灰白	ハナ 絞り目	ヨコナ 指ナ	底部 8/8			
389	SDc22	V区		弥生土器	鉢		3	中・多			細・少		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ハナ後ナ	底部 4/8			
390	SDc22	V区		弥生土器	鉢	17		中・少			細・少		2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	ヨコナ 指ナ	ヨコナ	口縁部 3/8			
391	SDc22	V区		弥生土器	鉢	12	3	粗・少			細・少		2.5Y7/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙	ヨコナ 指ナ後ハナ	ヨコナ 指ナ	胴部 4/8			
392	SDc22	V区		弥生土器	鉢	10	7	細・並	細・少		細・並		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	ナ	ハナ後ナ	口縁部 2/8			
393	SHa24 (SPc343)	IV区		弥生土器	甕	16		中・並	細・少		粗・少		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8			
394	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	14		中・並	細・少				7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ (ナ)	ヨコナ (ナ)	口縁部 1/8			
395	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	14		中・並			中・少		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)		
396	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	18		中・多	中・少	細・多	細・並		10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR5/6 明褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片			
397	SEc01	V区		弥生土器	壺	頸部径 12.4		中・多	中・並				2.5Y7/2 灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	ナ 列点文 後の描文 ハ シカキ	ナ 指ナ	頸部 1/8	外面に記号紋有		
398	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	15		中・並	中・少	細・多	細・並		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ ナ	口縁部 7/8			
399	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	19		中・並	中・並		細・少		5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ ナ	口縁部 4/8			
400	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	頸部径 10.2		細・少			細・少		7.5YR7/6 橙	2.5Y5/2 暗灰黄	ナ 指ナ 後のハナ	ナ 指ナ ハナ	胴部 2/8			
401	SEc01	V区		弥生土器	広口壺	19	5	粗・多			細・少		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/1 褐灰	ヨコナ	ヨコナ 指ナ	頸部 2/8			
402	SEc01	V区		弥生土器	長頸壺			中・並					2.5YR7/4 淡赤橙	10YR7/2 にぶい黄橙	ハナ後ハナミガキ ナ	ハナ後ハナミガキ ナ	頸部 8/8			
403	SEc01	V区		弥生土器	複合口縁部壺	18		中・多	中・少		細・少		5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 4/8			
404	SEc01	V区		弥生土器	細頸壺	11		中・多	細・並	細・多	細・並		10YR5/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄橙	ハナ (ナ)	指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)		
405	SEc01	V区		弥生土器	細頸壺		接合部 5.4	細・少		細・多	細・並		10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	ヨコナ 絞目 後のハナ	ヨコナ 指ナ	胴部 2/8	他地域(香東川 下流域)		
406	SEc01	V区	上層	弥生土器	鉢			中・並					2.5Y4/1 黄灰	10YR6/3 にぶい黄橙	ナ 指ナ	ハナ	胴部破片	焼成破裂痕焼成 破裂土器		
407	SEc01	V区		弥生土器	甕	15		中・並		細・並	細・並		10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	ヨコナ	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)		
408	SEc01	V区		弥生土器	甕	15		中・並	中・多	細・多	細・並		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ (ナ)	ヨコナ (ナ)	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)		
409	SEc01	V区	上層	弥生土器	甕	18		粗・多	中・少	細・多	細・多		10YR6/2 灰黄褐	10YR4/4 褐	ヨコナ ナ	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
410	SEc01	V区	上層	弥生土器	甕	14			中・多	中・並	中・多		75YR6/3 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
411	SEc01	V区		弥生土器	甕	14			粗・少		細・少		75YR7/6 橙	2.5Y6/2 灰黄	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8		
412	SEc01	V区		弥生土器	甕	16			粗・多	細・少	中・多		10YR5/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8		
413	SEc01	V区		弥生土器	甕	15			中・少	中・並	細・並		75YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8		
414	SEc01	V区		弥生土器	甕	16			中・並		中・並		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8		
415	SEc01	V区		弥生土器	甕		3		中・多	中・並	中・並		75YR7/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	底部 8/8		
416	SEc01	V区		弥生土器	甕	17	4		粗・多		細・並	中・多	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8		
417	SEc01	V区		弥生土器	器台		19		中・並		中・並		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	脚部 1/8		
418	SEc01	V区		弥生土器	鉢	30			細・少	細・多	細・並		75YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
419	SEc01	V区		弥生土器	高杯				中・並	細・多	中・多		75YR7/6 橙	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	杯部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
420	SEc01	V区		弥生土器	高杯				中・並	中・並	中・多		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	杯部 4/8	他地域(香東川 下流域)	
421	SEc01	V区		弥生土器	高杯		18		細・並	細・多	細・並		75YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	底部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
422	SEc01	V区		弥生土器	高杯				中・少	細・少	中・少		75YR8/2 灰白	7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	杯部 8/8	他地域?	
423	SEc01	V区		弥生土器	鉢		5		粗・多		細・少		75YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	底部 8/8		
424	SEc01	V区		弥生土器	鉢	19	7		粗・多	細・並	細・少		5YR7/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8		
425	SEc01	V区		弥生土器	鉢	20			粗・少		細・少		75YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 2/8		
426	SEc01	V区		弥生土器	鉢	19	7		粗・多	粗・並	細・並		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	胴部 7/8		
427	SEc01	V区		弥生土器	鉢	13	10	3	粗・少		細・並		10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/2 灰褐	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	胴部 1/8		
428	SEc01	V区	上層	弥生土器	鉢	10	7	2	中・並				5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	底部 3/8		
429	SEc01	V区		弥生土器	鉢	15			中・並	中・少	細・少		10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 4/8		
430	SEc01	V区	上層	弥生土器	鉢	20			中・並	細・少	細・少		5YR6/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	口縁部 3/8		
431	SEc01	V区		弥生土器	有孔鉢	23			中・並	細・少	細・多		N3/ 暗灰	10YR6/2 灰黄褐	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	胴部 4/8		
432	SEc01	V区		弥生土器	壺				中・並		中・並		2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコナ ハナミ後	ヨコナ 指ナ	底部破片	焼成破裂土器	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
433	SEc01	V区		弥生土器	製塩土器		4		粗・多					10YR2/1 黒	7.5YR6/6 橙	ハナズリ (マメ)	絞り目 (マメ)	底部 7/8	
435	SKc02	IV区		弥生土器	広口壺		11		中・並				10YR6/2 灰黄褐	2.5Y7/1 灰白	ヨコチ ハナ後 チ	絞り目	口縁部 2/8		
436	SKc02	IV区		弥生土器	甕		18		細・並	細・少			7.5YR5/1 褐灰	7.5YR5/1 褐灰	ヨコチ (マメ) ハナ後ハミカ キ (マメ) 一部ハ ナ	ヨコチ ハナズ リ (マメ)	口縁部 4/8		
437	SKc02	IV区		弥生土器	高杯		22		中・並				2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ハナ後ハミカ キ	ハミカ キ	口縁部 3/8		
438	SKc02	IV区		弥生土器	台付鉢		13		細・多	細・少			10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	ハミカ キ (マメ)	ハミカ キ (マメ)	頸部 8/8		
439	SKc03	IV区		弥生土器	鉢		9		粗・多	細・並			10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	ハミカ キ チ	ハミカ キ リ後チ	底部 8/8		
440	SKc04	IV区		弥生土器	甕		16		中・並	細・少	細・多		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコチ ハナ後 チ	ヨコチ ハナ ズリ後 チ	口縁部 2/8	他地域 (香東川 下流域)	
441	SKc04	IV区		弥生土器	高杯		24		粗・並	細・少			5YR4/6 赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコチ ハナ後 チ	ヨコチ ハナ ズリ後 チ	口縁部 3/8		
442	SKc07	IV区		弥生土器	広口壺		29		中・並	細・少	細・少		7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコチ ハナ	マメ	口縁部 1/8		
443	SKc07	IV区		弥生土器	広口壺		22		中・並	中・少	細・並		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコチ ハナ	ヨコチ (マメ)	口縁部 1/8		
444	SKc07	IV区		弥生土器	複合口縁壺		27		粗・並	中・少	中・少		10YR7/4 黒褐	10YR3/1 黒褐	ヨコチ ハナ	ヨコチ	口縁部 1/8		
445	SKc07	IV区		弥生土器	甕		14		中・多	中・少			5YR5/6 明赤褐	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコチ ハナ後 チ	ヨコチ ハナ	胴部 7/8		
446	SKc07	IV区		弥生土器	甕		16		細・並	細・少	細・多		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコチ マメ	ヨコチ ハナ ズリ 指サ シ	口縁部 1/8	他地域 (香東川 下流域)	
447	SKc07	IV区		弥生土器	甕		5		細・多	細・少	細・多		10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ハミカ キ	ハミカ キ リ 指サ シ	胴部 2/8	他地域 (香東川 下流域)	
448	SKc07	IV区		弥生土器	片口鉢		35		中・並	中・少			7.5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	チ ハナ後 チ	チ ハナ後 チ	口縁部 1/8		
449	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		18		中・多	細・少	細・多		7.5YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコチ ハナ ズリ 指サ シ	チ ハナ ズリ 指サ シ	胴部 2/8		
450	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		11		中・多		細・少		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコチ ハナ後 チ	ヨコチ ハナ ズリ 指サ シ	底部 8/8		
451	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		10		中・多	中・少	細・少		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	ヨコチ ハナ	チ ハナ ズリ 指サ シ	胴部 7/8		
452	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		12		中・並	中・少	細・並		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/2 灰褐	ヨコチ ハナ	チ ハナ ズリ 指サ シ	底部 8/8		
453	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		13		中・並				10YR5/6 黄褐	2.5Y8/3 淡黄	ヨコチ ハナ	チ ハナ ズリ 指サ シ	底部 8/8		
454	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		10		中・並	細・少	中・少		5YR7/6 橙	2.5Y3/1 黒褐	ヨコチ ハナ後 チ	チ ハナ ズリ 指サ シ	完形	焼成破裂土器	
455	SKc07	IV区		弥生土器	鉢		14		中・多	中・少			2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコチ ハナ	チ ハナ ズリ 指サ シ	底部 8/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
456	SKc07	IV区	弥生土器	高杯		21	5		粗・多	細・少	細・多	細・少		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコナ キ	ヨコナ キ	杯部 1/8	凹線文他地域 (香東川下流域)
457	SKc08	IV区	弥生土器	広口壺		25			粗・多	細・少				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
458	SKc08	IV区	弥生土器	広口壺		23			中・並	細・少				10YR8/3 浅黄橙	2.5Y4/1 黄灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
459	SKc08	IV区	弥生土器	広口壺		17			中・並					5YR7/2 明褐灰	5YR7/2 明褐灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
460	SKc08	IV区	弥生土器	広口壺		19			中・多					7.5YR8/2 灰白	7.5YR6/6	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 3/8	
461	SKc08	IV区	弥生土器	甕		26			中・多	細・少				2.5Y5/1 黄灰	7.5YR5/3 にぶい褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
462	SKc08	IV区	弥生土器	甕		21	6		中・並					10YR4/1 褐灰	5YR5/6 明赤褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
463	SKc08	IV区	弥生土器	甕		29			中・並					7.5YR2/1 黒	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8	
465	SKc15	IV区	弥生土器	壺			24		中・多	細・少		中・多		10YR8/4 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	胴部破片	
466	SKc15	IV区	弥生土器	甕		26			粗・多					7.5YR7/4 にぶい橙	5YR5/6 明赤褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
467	SKc15	IV区	弥生土器	甕		25			中・並	中・少				10YR4/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
468	SKc17	IV区	弥生土器	細頸壺					粗・多	細・少		細・少		10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐	ヨコナ	ヨコナ	頸部 4/8	
469	SKc19	IV区	弥生土器	甕		12			中・並	中・少	細・多	細・多		5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川 下流域)
470	SKc20	IV区	弥生土器	広口壺		17			中・並	細・少	細・多			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	他地域 (香東川 下流域) 外面に 赤色顔料付着
471	SKc23	IV区	弥生土器	広口壺		22			中・多			細・並		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰 黄褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	
472	SKc23	IV区	弥生土器	広口壺		19			細・並	粗・少	細・多	細・並		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8	他地域 (香東川 下流域)
473	SKc23	IV区	弥生土器	短頸壺		12			中・多	細・少				10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 灰 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 3/8	
474	SKc23	IV区	弥生土器	甕		16			中・並	細・少	細・多	細・並		10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川 下流域)
475	SKc23	IV区	弥生土器	甕		19			中・多	中・少	細・多	細・多		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/2 灰黄褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域 (香東川 下流域)
476	SKc23	IV区	弥生土器	小型壺			4		中・多					7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	底部 8/8	
477	SKc23	IV区	弥生土器	高杯			14		中・多	中・少		細・並		7.5YR6/6 橙	5YR6/8 橙	ヨコナ	ヨコナ	底部 3/8	
478	SKc23	IV区	弥生土器	鉢		17	9		粗・並	細・少				10YR7/3 にぶい黄橙	2.5YR8/2 灰白	ヨコナ	ヨコナ	胴部 7/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整			残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	外面	内面	外部		
479	SKc23	IV区		弥生土器	鉢	13	8	4	中・多	中・少	細・少	細・少	10YR4/1 褐灰	10YR4/2 灰黄褐	指材工 後打' ヌメ	指材工 後打' ヌメ	胴部 6/8		
480	SKc23	IV区		弥生土器	鉢	16	7	4	粗・並	細・少	細・少	細・少	5YR6/8 橙 にぶい黄	7.5YR6/4 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	胴部 7/8		
481	SKc23	IV区		弥生土器	鉢	13	7	4	粗・多	中・並	中・並	中・並	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	胴部 5/8		
482	SKc35	IV区		弥生土器	甕	26			粗・少			細・少	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 1/8		
483	SKc28	IV区	3層	弥生土器	細頸壺	5			粗・少	細・少	細・少	細・少	10YR6/4 にぶい黄	5YR6/8 橙	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 2/8		
484	SKc28	IV区	1層	弥生土器	製塩土器	9	14	3	粗・多	中・多	中・多	中・多	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	接合部 7/8		
485	SKc28	IV区	3層	弥生土器	鉢	17			中・並	細・少	中・並	中・並	10YR6/3 にぶい黄	7.5YR5/6 明褐	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	底部 8/8	木葉底	
489	SKc37	V区		弥生土器	広口壺	19			中・並	中・少	中・多	中・並	7.5YR5/6 明褐	10YR7/3 明褐	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)	
490	SKc37	V区		弥生土器	広口壺	19			粗・並			細・少	7.5YR6/6 明褐	10YR7/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 2/8		
491	SKc37	V区		弥生土器	広口壺	20			中・並	細・少	細・少	細・並	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	頸部 8/8		
492	SKc37	V区		弥生土器	複合口縁壺	22			中・並	中・並	中・並	中・並	10YR8/3 浅黄	10YR8/4 浅黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 1/8		
493	SKc37	V区		古式土師器	壺	頸部径 6.3			中・並	細・少	細・少	細・少	10YR8/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	胴部 4/8		
494	SKc37	V区		弥生土器	鉢	10	11	3	中・並	中・並	中・並	中・並	7.5YR8/3 浅黄	5YR7/4 にぶい黄	コ打' 後打' 後打' ヌメ	コ打' 後打' 後打' ヌメ	完形	焼成破裂土器	
495	SKc37	V区		弥生土器	甕	18			中・並	細・多	細・多	細・並	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	胴部 3/8	他地域(香東川 下流域)	
496	SKc37	V区		弥生土器	甕	14			中・並	中・多	中・多	中・多	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR7/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
497	SKc37	V区		弥生土器	甕	14			中・並	中・並	中・多	中・多	7.5YR8/6 浅黄	7.5YR7/6 橙	コ打' 後打' 後打' ヌメ	コ打' 後打' 後打' ヌメ	口縁部 2/8		
498	SKc37	V区		弥生土器	甕	15			中・少	細・少	中・多	中・多	10YR5/4 にぶい黄	10YR5/4 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 2/8	他地域(香東川 下流域)	
499	SKc37	V区		弥生土器	甕	14			中・並	中・並	細・並	細・並	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	胴部 3/8	他地域(香東川 下流域)	
500	SKc37	V区		弥生土器	甕	14			中・並	細・少			10YR6/3 にぶい黄	2.5Y5/1 黄灰	コ打' 後打' 後打' ヌメ	コ打' 後打' 後打' ヌメ	口縁部 2/8		
501	SKc37	V区		弥生土器	甕	15	6		粗・多	細・少			7.5YR8/4 灰白	7.5YR8/2 灰白	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 2/8		
502	SKc37	V区		弥生土器	甕	16			粗・少				5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 2/8		
503	SKc37	V区		弥生土器	甕	14			細・並	細・多	細・多	細・少	10YR5/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 2/8		
504	SKc37	V区		弥生土器	甕		5		中・並	中・多	中・多	中・並	10YR4/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	底部 8/8	他地域(香東川 下流域)	
505	SKc37	V区		弥生土器	甕	15			中・多	細・並	細・多	細・並	7.5YR7/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	コ打' ヌメ 指材工	コ打' ヌメ 指材工	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
506	SKc37	V区	下部	弥生土器	甕	11			粗・並			中・少		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部破片	焼成破裂土器
507	SKc37	V区		弥生土器	甕	12		中・並			細・少		7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 1/8		
508	SKc37	V区		弥生土器	甕	14		中・並	中・少		細・少		10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 2/8		
509	SKc37	V区		弥生土器	甕	13		中・並			細・少		7.5YR6/4 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 1/8		
510	SKc37	V区		土師器	壺	14		中・並	中・少		細・並		7.5YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	頸部 1/8		
511	SKc37	V区		弥生土器	甕	15		中・並	細・多		細・少		10YR5/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
512	SKc37	V区		土師器	高杯	23		細・少			細・少		10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 1/8		
513	SKc37	V区	下部	弥生土器	高杯		16	中・並	細・少		細・少		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/2 灰黄	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	脚部 3/8		
514	SKc37	V区		弥生土器	高杯			中・並	細・多		細・少		7.5YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	杯部破片	他地域(香東川 下流域)	
515	SKc37	V区		弥生土器	高杯		20	中・並	細・多		細・多		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	脚部破片	他地域(香東川 下流域)	
516	SKc37	V区		弥生土器	鉢	8	4	中・並	細・少		細・並		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 5/8		
517	SKc37	V区		弥生土器	鉢	10	3	粗・並	細・少		細・少		7.5YR5/6 明褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 7/8		
518	SKc37	V区		弥生土器	鉢	11	3	粗・少			細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 2/8	焼成破裂土器	
519	SKc37	V区		弥生土器	鉢	10	3	細・少			細・少		10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/6 明褐	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 7/8		
520	SKc37	V区		弥生土器	鉢		6	中・少	細・少		細・少		5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	完形		
521	SKc37	V区		弥生土器	鉢	9	4	中・並	細・少		細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 7/8		
522	SKc37	V区		弥生土器	鉢	13	3	粗・並	中・並				10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 4/8	木葉底 焼成破裂 土器	
523	SKc37	V区		弥生土器	鉢	16	7	中・多			細・並		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 2/8	木葉底	
524	SKc37	V区		弥生土器	鉢	16	5	中・並	細・少		中・少		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 3/8		
525	SKc37	V区		弥生土器	製蓋土器		4	中・多	中・少				7.5YR7/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	脚部 8/8		
526	SKc37	V区		弥生土器	鉢	27		中・並			細・少		7.5YR6/3 にぶい褐	2.5YR6/6 橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 3/8		
527	SKc37	V区		弥生土器	鉢	20	4	中・並	中・少		中・並		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	口縁部 3/8		
528	SKc38	V区		弥生土器	小型丸底壺	8		細・少	細・多		細・少		10YR4/2 灰黄褐	10YR4/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 4/8	他地域(香東川 下流域)	
529	SKc40	V区		弥生土器	甕	10	4	中・少	細・少		細・少		7.5YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ後 ハナ	ヨコテ ハナ後 ハナ	胴部 7/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
530	SKc42	V区	上面	弥生土器	広口壺	18		粗・並	細・少		細・少	細・少	10YR2/1 黒褐灰	10YR4/1 褐灰	ヨコテ' ハナム	マツ	口縁部 1/8	
531	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕	15		中・多	中・並	中・多	中・並	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ' (マツ) ハナム	ヨコテ' (マツ) ハナム	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)	
532	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕	16		中・並	細・少	細・多	細・並	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/1 褐灰	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)	
533	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		4	中・並	中・少		細・多	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/2 灰褐	ハラカキ	ハラカキ	底部 8/8	他地域 (香東川下流域)	
534	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		4	中・並			細・多	7.5YR6/6 灰褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ハラカキ	指サシ後ハラカキ	底部 7/8	他地域 (香東川下流域)	
535	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		4	中・少	細・少	細・多	細・多	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	ハラカキ	ハラカキ	底部 4/8	他地域 (香東川下流域)	
536	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕			中・並			細・並	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 1/8		
537	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		17	中・並	細・少			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 8/8		
538	SKc42	V区	上面	古式土師器	甕		15	細・少			細・多	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 4/8		
539	SKc42	V区	上面	古式土師器	甕		16	細・少	細・少		細・少	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 1/8		
540	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		12	細・少			細・並	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 1/8		
541	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		13	中・多	中・少			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 7/8		
542	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		15	粗・多	中・並		細・並	10YR6/6 明黄褐	7.5YR6/6 橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 5/8		
543	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		17	粗・多	中・多			7.5YR7/6 橙	10YR4/1 褐灰	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 6/8		
544	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		15	粗・多	中・並		粗・多	10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 4/8		
545	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		14	中・並			細・少	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 2/8		
546	SKc42	V区	上面	弥生土器	鉢		21	中・並	細・少			7.5YR6/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 2/8		
547	SKc42	V区	上面	弥生土器	鉢		18	粗・多	中・少		細・少	7.5YR6/6 橙	10YR6/6 明黄褐	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 7/8		
548	SKc42	V区	上面	弥生土器	甕		14	中・多	中・少			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 4/8		
549	SKc42	V区	上面	弥生土器	鉢		16	粗・多	中・並	細・少	中・多	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 7/8		
550	SKc43	V区	上部	弥生土器	細頸壺		10	細・少				2.5YR5/8 明赤褐	10YR8/2 灰白	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	胴部 3/8		
551	SKc43	V区		弥生土器	細頸壺			中・並				2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	頸部 2/8		
552	SKc43	V区		弥生土器	細頸壺		10	中・並	細・少			10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	ヨコテ' ハナム	ヨコテ' ハナム	口縁部 4/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
553	SKc43	V区		弥生土器	広口壺	11			中・並				10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	ヨコテ 絞リ目	ヨコテ 絞リ目	口縁部 1/8		
554	SKc43	V区		弥生土器	広口壺		胴高径 14.0	中・並					2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	ハナ後 ハナミカ キ	ハナ後 ハナミカ キ	胴部 4/8		
555	SKc43	V区		弥生土器	直口壺	10		中・並	中・少				2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	ハナミ (ハナ)	ハナミ (ハナ)	口縁部 6/8		
556	SKc43	V区		弥生土器	直口壺	14		粗・少					2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白	ヨコテ ハナ(ハ ナ)	ヨコテ ハナ(ハ ナ)	口縁部 1/8		
557	SKc43	V区		弥生土器	壺		9	中・並					2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ハナ後 指サシ	ハナ後 指サシ	底部 3/8		
558	SKc43	V区		弥生土器	台付鉢	13		中・多	中・少				10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	ヨコテ ハナ(ハ ナ)	ヨコテ ハナ(ハ ナ)	口縁部 3/8		
559	SKc43	V区		弥生土器	甕	18		中・並	中・少				10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨコテ ハナ(ハ ナ)	ヨコテ ハナ(ハ ナ)	口縁部 2/8		
560	SKc43	V区		弥生土器	甕	16		中・並	中・少				2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ヨコテ (ハナ)	ヨコテ (ハナ)	口縁部 2/8		
561	SKc43	V区	上部	弥生土器	甕	21		中・並					2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部 1/8		
562	SKc43	V区	上部	弥生土器	甕	20		中・多	中・少				10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部 1/8		
563	SKc43	V区		弥生土器	甕	17	6	中・多	中・少				2.5YR5/8 明赤褐	2.5YR5/8 明赤褐	ヨコテ ハナ後 ハナミ カキ	ヨコテ ハナ後 ハナミ カキ	胴部 3/8		
564	SKc43	V区		弥生土器	甕		6	中・多					10R6/6 赤橙	2.5Y7/1 灰白	ハナ後 ハナミ カキ	ハナ後 ハナミ カキ	底部 8/8		
565	SKc43	V区	上部	弥生土器	甕	26		粗・少					2.5Y7/4 浅黄	2.5Y8/2 灰白	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部 1/8		
566	SKc43	V区		弥生土器	甕	26		中・多					10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	ヨコテ ハナ後 ハナミ カキ	ヨコテ ハナ後 ハナミ カキ	口縁部 1/8		
567	SKc43	V区		弥生土器	甕	26		粗・多					2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部 1/8	刻目文	
568	SKc43	V区		弥生土器	甕			粗・並					10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	ハナ後 ハナミ カキ	ハナ後 ハナミ カキ	胴部 2/8		
569	SKc43	V区		弥生土器	甕		9	中・多	中・並				10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	ハナミ カキ	ハナミ カキ	底部 8/8		
570	SKc43	V区	上部	弥生土器	直口壺	16		中・多	細・少				10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部 1/8		
571	SKc43	V区	上部	弥生土器	台付鉢	27		中・多	細・並				2.5YR7/4 淡赤橙	10YR8/2 灰白	貼付 突帯 目文 後 浮文	貼付 突帯 目文 後 浮文	口縁部破片		
572	SKc43	V区		弥生土器	台付鉢	34	5	粗・多					2.5YR7/6 橙	10YR8/2 灰白	ヨコテ ハナ後 田形 浮文	ヨコテ ハナ後 田形 浮文	口縁部 3/8	焼成時破裂土器	
573	SKc43	V区	上部	弥生土器	台付鉢			中・多					10YR2/1 黒	10YR3/1 黒褐	ハナミ カキ	ハナミ カキ	脚部 6/8	焼成時破裂土器	
574	SKc43	V区	上部	弥生土器	広口壺	13		細・並	細・少				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部破片		
575	SKc43	V区		弥生土器	甕	17		中・並					2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	ヨコテ ハナ	ヨコテ ハナ	口縁部 1/8	香東川下流域産 模版土器	
576	SKc43	V区	上部	弥生土器	紡錘車	長さ 4.4	厚み 0.5	中・少					7.5YR8/6 浅黄橙	2.5Y4/1 黄灰	ハナ ミカ キ	ハナ ミカ キ	胴部 8/8	転用	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調		調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面		
578	SKc44	V区		弥生土器	甕	18		中・少	細・少		細・少	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
579	SKc44	V区		弥生土器	甕		細・少					25Y4/1 黄灰	25Y4/1 黄灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	
580	SKc44	V区		弥生土器	鉢	15	中・並			細・並		25Y5/1 黄灰	25Y5/1 黄灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部破片	
581	SKc45	V区		弥生土器	鉢	18	粗・多					10R6/6 赤橙	10R6/6 赤橙	ヨコナ	ヨコナ	胴部6/8	
582	SKc45	V区		弥生土器	鉢	16	粗・並					10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ	ヨコナ	胴部5/8	
583	SKc46	V区		弥生土器	有孔鉢		粗・多					75YR7/6 橙	75YR7/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	底部8/8	
584	SKc47	V区		弥生土器	甕	20	中・並				細・多	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	ヨコナ	ヨコナ	口縁部3/8	
585	SKc47	V区		弥生土器	甕		中・並					75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	胴部2/8	他地域(香東川 下流域)
586	SKc47	V区		弥生土器	甕	16	中・並				細・少	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	胴部4/8	
587	SKc50	V区		弥生土器	壺	10	細・少					10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ	ヨコナ	胴部1/8	
588	SKc50	V区		弥生土器	甕		中・並				細・多	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	ヨコナ	ヨコナ	底部1/8	他地域(香東川 下流域)
590	SDc13	IV区		弥生土器	高杯	14	細・並				細・多	75YR5/6 明褐	75YR4/4 褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域)
591	SDc13	IV区		弥生土器	甕		中・並					10R5/4 赤褐	10YR7/4 赤褐	ヨコナ	ヨコナ	底部破片	焼成破裂土器
592	SDc14	IV区	上下層	弥生土器	長頸壺	10	粗・少				細・少	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	
593	SDc14	IV区		弥生土器	壺		中・並				細・多	10YR7/3 浅黄	25Y7/3 浅黄	ヨコナ	ヨコナ	胴部2/8	他地域(香東川 下流域)
594	SDc14	IV区		弥生土器	壺	4	中・多				細・少	75YR6/4 にぶい橙	10YR6/1 褐灰	ヨコナ	ヨコナ	底部1/8	他地域(香東川 下流域)
595	SDc14	IV区	上下層	弥生土器	広口壺	頸部径 5.0	細・多				細・多	75YR7/6 橙	75YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ	頸部1/8	他地域(香東川 下流域)
596	SDc14	IV区		弥生土器	鉢	3	中・多					25YR6/8 橙	25YR6/8 橙	ヨコナ	ヨコナ	底部8/8	
597	SDc14	IV区		弥生土器	鉢	17	中・並				細・少	25Y7/3 浅黄	25Y7/2 灰黄	ヨコナ	ヨコナ	口縁部3/8	
598	SDc14	IV区	上下層	弥生土器	鉢	14	中・少				細・少	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	
601	SDc15	V区		弥生土器	長頸壺	14	中・並				中・少	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	ヨコナ	ヨコナ	口縁部4/8	
602	SDc15	V区		弥生土器	壺		中・少				細・少	75YR7/3 にぶい橙	75YR8/2 灰白	ヨコナ	ヨコナ	胴部破片	
603	SDc15	V区		弥生土器	甕	32	細・並				細・少	10YR6/6 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	ヨコナ	ヨコナ	口縁部4/8	
604	SDc15	V区		弥生土器	甕	19	細・並				細・少	75YR5/3 にぶい褐	10YR7/2 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部1/8	
605	SDc15	V区		弥生土器	甕	18	中・並				中・並	25Y8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨコナ	ヨコナ	口縁部3/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調		調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
606	SDcl5	V区		弥生土器	甕	11	11	中・多	中・多				7.5YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ハナガキ ナ	ハナガキ ナ 指ナ	底部 8/8	
607	SDcl5	V区		弥生土器	台付鉢		12	中・並	細・少				10YR8/1 灰白	10YR8/2 灰白	ハナガキ ナ 紋目 (ナメ)	ハナガキ ナ 紋目 (ナメ)	脚部 1/8	
608	SDcl5	V区		弥生土器	広口壺	9		細・並	細・少				10YR6/2 灰黄褐	2.5Y6/1 黄灰	ヨナナ ナ 後 ナ 工具による 列点文	ヨナナ ナ 紋り	口縁部 6/8	
609	SDcl5	V区		弥生土器	広口壺	14		粗・並					2.5Y8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	ヨナナ ナ 指ナ	ヨナナ ナ 指ナ	口縁部 1/8	
610	SDcl5	V区		弥生土器	広口壺	16		中・並	細・多				10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	底部 1/8	他地域(香東川 下流域)
611	SDcl5	V区		弥生土器	広口壺			粗・少					10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ハナ ガ	ハナ ガ 紋目	頸部 1/8	
612	SDcl5	V区		弥生土器	長頸壺	頸部径 9.0		中・並	細・少				10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ナメ ナ	ナメ ナ 指ナ	頸部 1/8	外面に記号紋有
613	SDcl5	V区		弥生土器	長頸壺	8		細・並	粗・少				7.5YR5/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ 紋目	口縁部破片	
614	SDcl5	V区		弥生土器	直口壺	18		中・多					5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	口縁部 2/8	
615	SDcl5	V区		弥生土器	器台	26		中・並					5YR8/1 灰白	5YR7/6 橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	口縁部破片	
616	SDcl5	V区		弥生土器	甕	16		細・少	中・多				10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	ヨナナ ナ (ナメ)	ヨナナ ナ (ナメ)	口縁部 3/8	他地域(香東川 下流域)
617	SDcl5	V区		弥生土器	甕	16		中・多	細・少				2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	ヨナナ ナ 後 ナ	ヨナナ ナ 後 ナ	口縁部 2/8	
618	SDcl5	V区		弥生土器	甕	33		中・並					2.5Y7/2 灰黄	5YR7/6 橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	口縁部 1/8	
619	SDcl5	V区		弥生土器	甕	23		中・多					5YR7/6 橙	5YR6/8 橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	口縁部 1/8	
620	SDcl5	V区		弥生土器	甕		5	中・並	中・並				10YR8/2 灰白	10YR4/1 褐灰	ナメ ナ (ナメ)	ナメ ナ (ナメ)	底部 8/8	
621	SDcl5	V区		弥生土器	甕	39		中・少	中・少				2.5Y6/3 にぶい黄	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナナ ナ (ナメ)	ヨナナ ナ (ナメ)	口縁部破片	
622	SDcl5	V区		弥生土器	鉢	21		細・少	細・少				7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/1 褐灰	指ナ ナ 後 ナ	ハナガキ ナ (ナメ)	口縁部破片	
623	SDcl5	V区		弥生土器	器台	16	14	粗・並	中・少				2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ヨナナ ナ 後 ナ	ヨナナ ナ 後 ナ	胴部 4/8	
624	SDcl5	V区		弥生土器	台付鉢		6	中・少	細・少				5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	ハナガキ ナ 後 ナ	ハナガキ ナ 後 ナ	杯部 3/8	
625	SDcl5	V区		弥生土器	高杯		19	中・並	細・少				5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/6 橙	ハナガキ ナ (ナメ)	ハナガキ ナ	底部 1/8	
626	SDcl5	V区		弥生土器	台付鉢		7	細・少					2.5YR6/6 灰白	10YR7/1 灰白	ナメ ナ	ナメ ナ	胴部 4/8	
627	SDcl5	V区		弥生土器	高杯			中・並	中・多				10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ナメ ナ	ナメ ナ 紋目	脚部 3/8	
628	SDcl5	V区		弥生土器	鉢	26		細・少	細・少				10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	口縁部 1/8	
629	SDcl5	V区		弥生土器	鉢	30		中・並					7.5YR7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ	口縁部破片	
632	SDcl5	IV区	1層	弥生土器	直口壺	11		中・少	細・少				2.5YR8/2 灰白	2.5YR8/2 灰白	ヨナナ ナ	ヨナナ ナ 紋目 指ナ	口縁部 1/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整			残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
633	SDc15	IV区	1層	弥生土器	甕			中・並					10YR6/3 にぶい黄橙	25Y7/2 灰黄	7.5YR4/4 縹	絞目	胴部 1/8	焼成破裂土器	
634	SDc15	IV区		弥生土器	甕	17		粗・少			細・並		7.5YR4/4 縹	7.5YR4/4 縹	ヨコナリ	口縁部破片			
635	SDc15	IV区		弥生土器	甕	6	細・少				細・少		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/1 褐灰	ハミガキ	底部 4/8			
636	SDc15	IV区	1層	弥生土器	甕		中・並						10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナリ	口縁部破片			
637	SDc15	IV区	1層	弥生土器	高杯	7	中・並				細・少		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ナリ	脚部 8/8			
638	SDc15	IV区		弥生土器	高杯	15	中・多	細・少			細・少		10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	ヨコナリ	脚部 1/8			
639	SDc23	V区		弥生土器	鉢	10	中・多	中・並			中・少		2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR6/6 橙	ナリ後ナリ	胴部 5/8			
640	SDc25	V区		弥生土器	広口壺	頸部径 15.0	中・少				細・少		5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	ヨコナリ	頸部 1/8			
641	SDc24	V区		弥生土器	甕	17	中・並				細・並		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナリ	頸部 2/8			
642	SDc25	V区		弥生土器	甕	14	中・多	中・少			中・少		2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	ヨコナリ	口縁部 2/8			
643	SDc24	V区		弥生土器	鉢	10	中・並	細・少			細・並		5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	ナリ	口縁部 6/8	木葉底		
644	SDc25	V区		弥生土器	器台		中・多				細・並		5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	ナリ後ナリ	底部 1/8			
645	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺	18	中・並						2.5YR7/6 橙	2.5YR7/6 橙	ヨコナリ	口縁部 6/8			
646	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺	11	中・並	細・少					2.5Y4/1 黄灰	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナリ	口縁部 2/8			
647	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺	16	中・多	中・少					5YR6/4 にぶい橙	5YR5/3 にぶい赤褐	ナリ	口縁部 2/8			
648	SXc02	IV区		弥生土器	壺	頸部径 9.8	中・多						2.5Y8/2 灰白	2.5Y4/1 黄灰	ナリ	頸部 2/8	焼成破裂痕焼成 破裂土器		
649	SXc02	IV区		弥生土器	壺		細・少	中・並					10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナリ	頸部 7/8			
650	SXc02	IV区		弥生土器	壺	25	中・多						2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/2 灰黄	ナリ	口縁部 1/8	焼成破裂土器		
651	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺		中・並				細・少		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナリ	頸部 2/8			
652	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺	44	粗・多	細・少					5YR7/6 橙	2.5YR8/2 灰白	ナリ	口縁部破片			
653	SXc02	IV区		弥生土器	壺		粗・並	粗・並	細・少		細・並		10YR4/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙	ナリ	胴部 2/8			
654	SXc02	IV区		弥生土器	壺	7	粗・並				粗・並		2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ナリ	底部 8/8	焼成破裂土器		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
655	SXc02	IV区		弥生土器	壺			7	中・並	中・少			7.5YR5/2 灰褐	10YR4/1 褐灰	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	底部 7/8		
656	SXc02	IV区		弥生土器	壺				中・並	細・少			10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	底部 7/8		
657	SXc02	IV区		弥生土器	壺				中・並				5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	胴部 2/8	焼成破裂土器の 可能性	
658	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺	18			細・少	中・少			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 4/8		
659	SXc02	IV区		弥生土器	広口壺	18			中・多				10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部破片		
660	SXc02	IV区		弥生土器	壺				中・多				10YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	胴部 1/8	焼成破裂土器	
661	SXc02	IV区		弥生土器	直口壺	12			粗・少	中・並			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 3/8	焼成破裂土器	
662	SXc02	IV区		弥生土器	直口壺	11			粗・並	細・少			5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8		
663	SXc02	IV区		弥生土器	直口壺	10			細・少				2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8		
664	SXc02	IV区		弥生土器	直口壺	10	34		中・並	粗・少			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	胴部 4/8		
665	SXc02	IV区		弥生土器	直口壺	16			粗・多				5YR6/8 橙	2.5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 6/8		
666	SXc02	IV区		弥生土器	壺				中・並				2.5Y3/1 黒褐	2.5Y6/2 灰黄	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	肩部 1/8	焼成破裂土器	
667	SXc02	IV区		弥生土器	壺				粗・多	中・少			10YR4/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	胴部 3/8		
668	SXc02	IV区		弥生土器	甕	16			中・多	中・少			2.5Y8/4 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 5/8	焼成破裂土器	
669	SXc02	IV区		弥生土器	甕	15			中・並				10YR6/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 2/8		
670	SXc02	IV区		弥生土器	甕	16			中・並				10YR6/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 2/8		
671	SXc02	IV区		弥生土器	甕	20			中・並				5YR5/8 明赤褐	7.5YR6/6 橙	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 1/8		
672	SXc02	IV区		弥生土器	甕	19			中・多	中・並			10YR5/1 褐灰	5YR5/3 にぶい赤褐	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	頸部 2/8		
673	SXc02	IV区		弥生土器	甕	15			中・並				2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 3/8		
674	SXc02	IV区		弥生土器	甕	16			中・多	中・並			10YR8/3 浅黄橙	5Y4/1 灰	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 4/8		
675	SXc02	IV区		弥生土器	甕	17			中・多	中・少			5YR7/8 橙	5YR6/6 橙	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 1/8		
676	SXc02	IV区		弥生土器	甕	18			中・多				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 1/8		
677	SXc02	IV区		弥生土器	甕	14			中・少	細・少			10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	ハツカキ	ハツカキ リ後ハツ カキ	口縁部 3/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
678	SXc02	IV区		弥生土器	甕	14			細・少	粗・少			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	ヨナテ ハケス リ後ハケス	ヨナテ ハケス リ後ハケス	口縁部 8/8	
679	SXc02	IV区		弥生土器	甕	16			細・少	中・並			5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナテ ハケス リ後ハケス	ヨナテ ハケス リ後ハケス	口縁部 2/8	
680	SXc02	IV区		弥生土器	甕	16			中・多	中・少		中・少	10YR7/3 浅黄橙	7.5YR8/4 黄橙	ヨナテ ハケス リ後ハケス	ヨナテ ハケス リ後ハケス	口縁部 2/8	
681	SXc02	IV区		弥生土器	甕	18			中・少	細・少		細・並	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨナテ ハケス リ後ハケス	ヨナテ ハケス リ後ハケス	口縁部 3/8	
682	SXc02	IV区		弥生土器	甕	19			粗・多	中・少			2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	マツ	マツ	口縁部 3/8	
683	SXc02	IV区		弥生土器	甕	16	31	6	中・並	中・少			7.5YR4/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄橙	マツ	マツ	口縁部 3/8	焼成破裂土器
684	SXc02	IV区		弥生土器	甕	23			中・並	中・少		中・多	7.5YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 7/8	焼成破裂土器
685	SXc02	IV区		弥生土器	甕	26			粗・多				10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 破片	
686	SXc02	IV区		弥生土器	甕	19			中・多	中・少			7.5YR7/6 橙	5YR6/8 橙	マツ	マツ	口縁部 2/8	焼成破裂土器
687	SXc02	IV区		弥生土器	甕	23			中・並			中・少	5Y4/1 灰	2.5Y5/1 黄灰	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 3/8	
688	SXc02	IV区		弥生土器	甕			9	中・並	中・少		細・多	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	マツ	マツ	底部 8/8	
689	SXc02	IV区		弥生土器	鉢	38			粗・少				2.5YR5/8 明赤褐	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 1/8	
690	SXc02	IV区		弥生土器	蓋	11	3		中・多	中・少			10YR7/4 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	板テ ヨナテ	板テ ヨナテ	胴部 8/8	
691	SXc02	IV区		弥生土器	シヨボ型土器	12	22	9	中・並	中・少		細・少	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	マツ ハケス リ	マツ ハケス リ	底部 8/8	
692	SXc02	IV区		弥生土器	高杯			12	中・多			中・少	2.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	紋目 ハケス	紋目 ハケス	接合部 8/8	焼成破裂土器
693	SXc02	IV区		弥生土器	台付鉢			9	中・並	中・少			2.5YR7/6 橙	10YR8/1 灰白	マツ	マツ	底部 7/8	
696	SXc03	IV区		弥生土器	広口壺	22			中・並			細・並	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR7/6 橙	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 1/8	
697	SXc03	IV区		弥生土器	広口壺	17			中・並			中・並	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 破片	
698	SXc03	IV区		古式土師器	甕	16			細・少	細・並			10YR4/1 褐灰	10YR8/3 浅黄橙	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	頸部 2/8	焼成破裂土器
699	SXc03	IV区		弥生土器	甕	16			中・並	細・少		細・少	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄橙	マツ ハケス リ後ハケス	マツ ハケス リ後ハケス	口縁部 2/8	
700	SXc03	IV区		弥生土器	鉢	14			中・多			中・多	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	口縁部 1/8	
701	SXc03	IV区		弥生土器	鉢	13	8	5	中・多	中・少		細・少	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	マツ ハケス リ後ハケス	マツ ハケス リ後ハケス	底部 5/8	
702	SXc03	IV区		弥生土器	鉢	14	7	3	中・多	細・少			7.5YR7/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい黄橙	紋目 ハケス	紋目 ハケス	完形	
703	SXc03	IV区		弥生土器	鉢	8	6	3	中・並			細・少	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	紋目 ハケス	紋目 ハケス	底部 8/8	
704	SXc03	IV区		弥生土器	高杯				中・並			中・並	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ヨナテ マツ	ヨナテ マツ	杯部 2/8	焼成破裂土器

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
705	SXc03	IV区		弥生土器	蓋								25Y7/4 浅黄	25Y7/4 浅黄	ハクメ	絞り目	天井部 5/8		
706	SXc03	IV区		弥生土器	鉢	19	8	5	中・並	中・少			75YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ ナメ	ヨコナ ナメ後 (ナメ)	口縁部 2/8		
708	SXa12	IV区		弥生土器	直口壺	15			細・少				25YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ	ナメ	口縁部 1/8		
709	SXa12	IV区		弥生土器	広口壺	36			中・多	細・少			75YR6/6 橙	75YR6/6 橙	ヨコナ (ハク)	ヨコナ (ハク)	口縁部 1/8		
710	SXa12	IV区		弥生土器	壺				中・多				10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙	ナメ	指ナメ	胴部 1/8		
711	SXa12	IV区		弥生土器	直口壺	14			中・並	中・少			5YR6/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白	ヨコナ ハクメ	ヨコナ ナメ	口縁部破片		
712	SXa12	IV区		弥生土器	広口壺	18			中・並				25Y5/1 黄灰	25Y4/1 黄灰	ヨコナ ハクメ	ヨコナ ハクメ	口縁部 1/8		
713	SXa12	IV区		弥生土器	広口壺	16			粗・多	細・並			75YR7/4 にぶい橙	75YR8/4 浅黄橙	ナメ	ナメ	口縁部 1/8		
714	SXa12	IV区		弥生土器	広口壺	11			中・並				75YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8		
715	SXa12	IV区		弥生土器	鉢	35			中・少	細・少			N3/暗灰	25Y7/2 灰黄	ヨコナ (ナメ)	ヨコナ (ナメ)	口縁部		
716	SXa12	IV区		弥生土器	甕				細・少	細・少			10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ ナメ	頸部破片		
717	SXa12	IV区		弥生土器	鉢	20			粗・多				5Y3/1 オリーブ黒	25YR6/6 橙	ヨコナ ハクメ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8		
718	SXa12	IV区		弥生土器	甕	15			中・並	細・並			10YR5/2 灰黄褐	75YR6/4 にぶい橙	ヨコナ ナメ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8		
719	SXa12	IV区		弥生土器	甕			7	中・多	細・少			25YR5/6 明赤褐	25Y5/2 暗灰黄	板ナ 底ナ ナメ	板ナ 底ナ ナメ	底部 3/8		
720	SXa12	IV区		弥生土器	鉢	14			粗・多	細・少			10YR2/1 黒	10YR4/1 褐灰	ヨコナ ナメ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8		
721	SXa12	IV区		弥生土器	台付鉢			9	粗・多				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	ナメ	ナメ	底部 3/8		
722	SXa12	IV区		弥生土器	台付鉢			脚頭 7.0	中・多				25YR6/4 にぶい橙	25YR7/4 淡赤橙	指ナ ナメ	指ナ ナメ	脚部 3/8		
723	SXa12	IV区		土製品	紡錘車	横 40	縦 39	厚み 0.6	中・並				25YR7/6 橙	25YR7/6 橙	ナメ	ナメ	ほぼ完形	穿孔途中甕胴部 片の取用	
726	SXc15	IV区		弥生土器	甕				中・多				75YR7/4 にぶい橙	75YR7/4 にぶい橙	ナメ (ナメ)	ナメ (ナメ)	口縁部破片		
727	SPc26	IV区		弥生土器	広口壺	36			中・並	細・少			10YR3/2 黒褐	75YR5/3 にぶい褐	ナメ	ナメ	口縁部破片		
728	SPc117	IV区		弥生土器	直口壺	6			粗・並				75YR5/6 明褐	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ ナメ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8		
729	SPc597	IV区		弥生土器	鉢			5	中・並	中・少			10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ナメ	ナメ	底部 3/8		
730	SPc185	IV区		弥生土器	甕	14			中・並	細・少			25YR5/6 明赤褐	10YR5/8 黄橙	ヨコナ ナメ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8		

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調		調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面		
731	SPc24	IV区		弥生土器	甕	13	4		中・多	細・少			5YR7/8 橙	ヨコナ 指挿し 後 ハナ ハナ	ヨコナ 指挿し 後 ハナ ハナ	口縁部 2/8	
732	SPc589	IV区		古式土師器	甕	18			中・並	細・少			7.5YR6/3 にぶい 褐	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	
733	SPc606	IV区		弥生土器	甕	14			中・並				5YR6/4 にぶい 赤褐	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	
734	SPc410	IV区		弥生土器	鉢	14	10	5	中・多	細・少			7.5YR5/4 にぶい 褐	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	胴部 6/8	
735	SPc461	IV区		弥生土器	鉢	16			中・並	中・少			5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 2/8	
736	SPc605	IV区		弥生土器	鉢			2	細・並	細・少			10YR7/2 にぶい 黄橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	底部 4/8	
737	SPc93	IV区		弥生土器	台付鉢	10	17	6	中・並	中・少			10YR7/3 にぶい 黄橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	底部 6/8	
738	SPc93	IV区		弥生土器	高杯か				中・並	粗・少			2.5YR7/2 灰黄	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	胴部破片 内面に赤色顔料 付着	
739	SPc95	IV区		弥生土器	短頸壺	10	18	5	中・並	中・少			10YR7/1 灰白	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	底部 8/8	
740	SPc95	IV区		弥生土器	器台	23			中・少	粗・少			7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	
741	SPc95	IV区		弥生土器	高杯	27			中・並	中・少	細・少		10YR6/2 灰黄褐	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 3/8	
742	SPc483	IV区		弥生土器	高杯				中・並	中・少			10YR7/3 にぶい 黄橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	杯部破片	
743	SPc483	IV区		弥生土器	高杯				粗・並		細・少		10YR4/1 褐灰	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	脚部 2/8	
744	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	12	5	3	粗・並	細・少			10YR7/2 にぶい 黄橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	完形	
745	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	17			粗・少	粗・少	細・少		2.5Y4/1 黄灰	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	
746	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	17			中・少	細・少			10YR6/6 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	
747	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	19	7		粗・多	細・少			7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 4/8	
748	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	24	8		粗・多	粗・多	細・並		5YR6/4 にぶい 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	胴部 3/8	
749	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	22			粗・並	細・少			5YR5/6 明赤褐	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 4/8	
750	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	20	11	5	粗・並	細・少	中・少		7.5YR7/4 にぶい 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	完形	
751	SPc483	IV区		弥生土器	鉢	22			中・並	細・少			7.5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 6/8	
754	SPc95	V区		弥生土器	甕	20			中・並	細・少			10YR6/3 にぶい 黄橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	
755	SPc63	V区		弥生土器	器台	22			中・多				5YR6/6 橙	ヨコナ ハナ ハナ	ヨコナ ハナ ハナ	口縁部 1/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石莖・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
756	SPc321	V区		弥生土器	高杯		16	中・並		中・多			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	ハツガキ ヨコナリ	ハツガキ ヨコナリ	底部破片	他地域 (香東川 下流域)
757	SPc242	V区		弥生土器	広口壺			中・並					10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	ナツ	ナツ	口縁部破片	
758	SPc321	V区		弥生土器	高杯			細・少	細・多	細・多	細・並		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部破片	他地域 (香東川 下流域)
759	SPc323	V区		弥生土器	壺			中・多					10YR6/2 灰黄褐	2.5YR6/8 橙	ナツ	指ナヒ (ナツ)	胴部破片	
760	SPc323	V区		弥生土器	甕		6	粗・多	中・少				10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ハツガキ後ハツガキ	ハツガキ 指ナヒ	底部 8/8	焼成破裂土器
761	SPc323	V区		弥生土器	甕			粗・多	中・少				10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ナツ	ハツガキ	底部 8/8	
762	SPc323	V区		弥生土器	蓋			粗・多	中・少				10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	ナツ ナツ後ナリ	ナツ	天井部 8/8	
763	SPc323	V区		弥生土器	蓋			粗・多	細・少				10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ナツ	ハツガキ	天井部破片	
764	SPc323	V区		弥生土器	蓋		30	粗・多	細・少	細・少	細・少		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ハツガキ ナツ	ナツ	口縁部破片	
765	SPc323	V区		弥生土器	甕			粗・並	中・少				10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	ハツガキ	指ナヒ	底部 8/8	
769	SDc02	V区		弥生土器	製塩土器			粗・少	細・少	細・多	細・並		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/1 褐灰	ハツガキ	ハツガキ	底部 7/8	他地域 (香東川 下流域)
770	SDc03	IV区		土師器	杯				細・少				10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	回転ナリ 回転ハツ切り	回転ナリ	底部 1/8	
771	SKc01	V区		弥生土器	甕		8	中・少	細・少		細・少		7.5YR4/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナリ ハツガキ	ヨコナリ 指ナヒ	胴部 2/8	他地域 (香東川 下流域)
772	SKc01	V区		弥生土器	甕		16	中・並			中・多		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナリ ナツ後	ヨコナリ ハツガキ	口縁部 2/8	
773	SKc01	V区		弥生土器	鉢		9	中・少			細・少		7.5YR6/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	ナツ	ナツ	底部 8/8	
774	包含層	IV区		弥生土器	広口壺		21	中・多		細・並	細・多		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/6 明黄褐	ヨコナリ ナツ	ヨコナリ ナツ	口縁部 1/8	他地域 (香東川 下流域)
775	包含層	-		弥生土器	広口壺		18	中・並	細・少		細・少		N3/ 暗灰	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナリ ナツ後	ヨコナリ ナツ	口縁部 1/8	
776	包含層	IV区		弥生土器	広口壺		19	細・並	細・少		細・少		7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR5/1 褐灰	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部破片	
777	包含層	IV区		弥生土器	広口壺		15	細・並		細・多	細・多		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部 1/8	
778	包含層	V区		弥生土器	複合口縁壺		27	中・並	細・少		細・少		7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ナツ	ナツ	口縁部 7/8	
779	包含層	IV区		弥生土器	壺			中・並	細・少		細・少		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ナツ後ナツ	指ナヒ	肩部破片	外面に赤色顔料 付着
780	包含層	IV区		弥生土器	壺		5	中・多		中・少	中・少		10YR6/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	ナツ 絞り目	指ナヒ	底部 8/8	
781	包含層	-		弥生土器	甕		5	中・多	中・並		細・少		2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	ナツ 絞り目	ナツ 絞り目	底部 4/8	
782	包含層	-		弥生土器	甕		14	粗・並			細・少		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナリ ナツ	ヨコナリ ナツ	口縁部 1/8	
783	包含層	V区		弥生土器	甕		12	中・多	細・多				5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	ヨコナリ ナツ後	ヨコナリ ナツ後	胴部 6/8	焼成破裂土器

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
784	包含層	V区		弥生土器	甕	12	19	4	粗・多	中・並		細・並	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/8 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	胴部 5/8	
785	包含層	IV区		弥生土器	甕	11	16		細・並		中・多	細・並	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 1/8	他地域(香東川下流域)
786	包含層	V区		弥生土器	甕	12			中・多		細・多	中・多	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	コナリ' ハナミ(マ)後 コナリ' ハナミ(マ)後	コナリ' ハナミ(マ)後 コナリ' ハナミ(マ)後	口縁部破片	他地域(香東川下流域)
787	包含層	IV区		弥生土器	甕	15			細・並		細・多	細・並	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 3/8	他地域(香東川下流域)
788	包含層	IV区		弥生土器	甕	16			細・並		細・多	細・並	10YR6/6 明黄褐	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 2/8	他地域(香東川下流域)
789	包含層	IV区		弥生土器	甕	18			細・少			細・少	10YR7/2 にぶい黄褐	7.5YR7/2 明褐灰	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 1/8	
790	包含層	V区		弥生土器	甕	16	18	5	粗・多	中・並		細・少	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	胴部 5/8	
791	包含層	V区		弥生土器	甕	16			粗・多	中・並		細・少	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 4/8	
792	包含層	IV区		弥生土器	高杯	22			細・少		細・多	細・並	2.5Y4/1 黄灰	10YR6/2 灰黄褐	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 1/8	他地域(香東川下流域)
793	包含層	IV区		弥生土器	高杯	20			中・並		細・多	細・少	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	コナリ' (マ)後 コナリ' (マ)後	コナリ' (マ)後 コナリ' (マ)後	口縁部 8/8	他地域(香東川下流域)
794	包含層	V区		弥生土器	高杯			18	中・並	細・少		細・少	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' (マ)後 コナリ' (マ)後	コナリ' (マ)後 コナリ' (マ)後	底部 1/8	
795	包含層	-		弥生土器	台付鉢	13			中・並	中・少		細・少	10YR8/3 浅黄褐	10YR8/3 浅黄褐	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 3/8	
796	包含層	IV区		弥生土器	台付鉢				細・多	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	底部 1/8	
797	包含層	IV区		弥生土器	製塩土器小			胴径 2.3	中・少			中・多	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	脚部 6/8	
798	包含層	IV区		弥生土器	高杯	24	8		細・少		細・多	細・少	7.5YR5/6 明褐	7.5YR7/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	杯部 1/8	他地域(吉備)
799	包含層	V区		弥生土器	蓋	頂部径 6.0			粗・多			粗・多	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	天井部 2/8	
803	包含層	IV区		弥生土器	鉢	17			中・並			細・少	2.5Y5/1 黄灰	10YR5/1 褐灰	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 4/8	
804	包含層	IV区		弥生土器	鉢	17			中・並	中・少		細・少	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 1/8	
805	包含層	IV区		弥生土器	鉢	16			中・並	細・少		細・少	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	コナリ' ハナミ(マ)後 コナリ' ハナミ(マ)後	コナリ' ハナミ(マ)後 コナリ' ハナミ(マ)後	口縁部 2/8	
806	包含層	IV区		弥生土器	鉢	12	12	4	中・並			細・並	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	胴部 7/8	
807	包含層	V区		弥生土器	鉢	25	11		中・並	粗・少		中・少	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 2/8	
808	包含層	V区		弥生土器	鉢	18	8		中・並			中・多	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 6/8	
809	包含層	IV区		弥生土器	鉢	18	14	1	粗・多	中・少		細・並	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	コナリ' ハナミ(マ)後 コナリ' ハナミ(マ)後	コナリ' ハナミ(マ)後 コナリ' ハナミ(マ)後	胴部 7/8	
810	包含層	予備調査		弥生土器	鉢	15	8	4	中・並	細・少		細・並	10YR8/3 浅黄褐	2.5Y8/2 灰白	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	コナリ' ハナミ(マ) コナリ' ハナミ(マ)	口縁部 7/8	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
811	包含層	IV区		弥生土器	鉢	13	7	4	中・並	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	指サシ 絞り ハナメ	ハナメ	胴部 3/8	焼成破裂土器	
812	包含層	IV区		弥生土器	鉢	13	7	2	中・並	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	指サシ 絞り 目 ハナメ	ハナメ	底部 8/8		
813	包含層	IV区		弥生土器	鉢	17			中・少	細・少		細・少	2.5Y4/1 黄灰	5YR5/6 明赤褐	ヨコサ 外サシ後 指サシ ハナメ	ヨコサ 外サシ後 指サシ ハナメ	口縁部 2/8		
814	包含層	IV区		弥生土器	甕か壺				中・少				5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	ハナメ	ハナメ	破片	内面に赤色顔料 付着	
815	包含層	I区南 水路②		弥生土器	大型鉢			4	中・多	細・少			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	外サシ後ハナメ	外サシ後ハナメ	胴部破片	内面に赤色顔料 付着	
816	包含層	IV区		弥生土器	製塩土器				粗・多	細・並			7.5YR4/4 褐	7.5YR5/4 にぶい黄橙	指サシ	指サシ	底部 4/8	他地域(香東川 下流域)	
817	包含層	V区		弥生土器	製塩土器			5	中・並				10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ハナメ	ハナメ	脚部 4/8		
818	包含層	V区		弥生土器	製塩土器			4	中・並	細・多		中・多	2.5Y7/3 浅黄	5YR6/6 橙	ハナメ	ハナメ	底部 8/8	他地域(香東川 下流域)	
819	包含層	IV区		弥生土器	製塩土器				粗・少	細・多			10YR6/4 にぶい黄橙	5YR5/6 明赤褐	ハナメ	ハナメ	脚部破片	他地域(香東川 下流域)	
820	包含層	IV区		弥生土器	製塩土器			3	細・少	細・多			7.5YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい黄橙	ハナメ	ハナメ	脚部 5/8	他地域(香東川 下流域)	
821	包含層	V区		弥生土器	製塩土器			3	細・少	細・並			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	指サシ	指サシ	脚部 3/8	他地域(香東川 下流域)	
822	包含層	IV区		緑釉陶器	皿	11			細・少				7.5Y7/3 浅黄	7.5Y7/3 浅黄	施釉	施釉	口縁部破片		
823	包含層	V区		弥生土器	手づくね土器	頸部径 4.6		4	粗・並	細・少			2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	ハナメ	ハナメ	底部 8/8		
824	包含層	V区		弥生土器	手づくね土器	6		3	中・多	細・少			10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	ハナメ	ハナメ	底部 4/8		
825	包含層	V区		弥生土器	手づくね土器	5		2	中・多	細・少			2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	ハナメ	ハナメ	胴部 6/8		
826	包含層	V区		弥生土器	紡錘車				細・少				2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ハナメ	ハナメ	完形	10.35g 襲転用?	
827	包含層	IV区		弥生土器	紡錘車	長さ 3.1	幅 3.1		中・並				10R6/8 赤橙	10R6/8 赤橙	ハナメ	ハナメ	全胴部 8/8	襲転用?	
828	包含層	V区		弥生土器	紡錘車				中・多	細・少			10YR7/2 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	ハナメ	ハナメ	完形	15.7g 襲転用?	
856	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	21			中・並	細・多			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	口縁部 5/8	他地域(香東川 下流域)	
857	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺				中・並	細・多			5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR6/4 にぶい黄橙	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	胴部 7/8		
858	SRa02D 群	IX区	中層 (T. ② 3層以下)	弥生土器	広口壺	15			中・並	中・並			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
859	SRa02D 群	IX区	中層 (T. ② 3層以下)	弥生土器	広口壺	頸部径 12.4			中・並	細・並			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ハナメ	ハナメ	頸部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
860	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	18			中・多	中・並			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	胴部 6/8	他地域(香東川 下流域)	
861	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	18			粗・多	細・少			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	ヨコサ 外サシ後 ハナメ	胴部 4/8	他地域(香東川 下流域)	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
862	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	19			中・少	細・少		細・並	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR2/1 黒	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 3/8	
863	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺			中・多	中・少		細・少	細・少	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/6 明褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 5/8	
864	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	17	26	粗・並			中・多	中・多	7.5YR6/6 橙	10YR3/1 黒褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 6/8	
865	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺			中・並	中・少		中・並	中・並	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 8/8	
866	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	14	29	中・並	中・少		細・少	細・少	10YR4/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 3/8	
867	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	17		中・多	中・並		細・少	細・少	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 8/8	
868	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺			中・並	中・少		細・並	細・並	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	頸部 8/8	
869	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺			中・並	細・少		細・多	細・多	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 3/8	
870	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	15	31	粗・並	細・少		細・並	細・並	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 6/8	
871	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	直口壺	16	29	中・多	中・並				2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 7/8	
872	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	壺		5	中・並	中・少		中・並	中・並	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 4/8	
873	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	15	6	中・並			細・少	細・少	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/1 褐灰	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 7/8	
874	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	18		中・並	細・少		中・少	中・少	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 3/8	
875	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	27		粗・多	細・少		中・多	中・多	10YR7/6 明黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 1/8	
876	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	壺		8	粗・並	中・少		中・少	中・少	7.5YR5/6 明褐	7.5YR3/1 黒褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 6/8	
877	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	複合口縁部壺	10		細・少			細・並	細・並	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 1/8	他地域(香東川下流域)
878	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	二重口縁部壺	28		中・並	細・少		細・少	細・少	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部破片	
879	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	複合口縁部壺	22		中・並	中・並		細・多	細・多	7.5YR6/6 橙	10YR5/2 灰黄褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 5/8	
880	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	複合口縁部壺	21		中・並	細・少		中・少	中・少	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5Y7/3 浅黄	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 3/8	
881	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	壺	20		中・多			細・少	細・少	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	口縁部 6/8	
882	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	短頸壺	7	10	中・多	細・少		細・並	細・並	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	胴部 8/8	
883	SRa02D 群	IX区	中層 (Tr. ②3層以下)	弥生土器	小型丸底壺		3	細・並			細・多	細・並	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	ヨコテ・ハケム タタ後ハケム	ヨコテ・ハケム 指サエ	底部 8/8	他地域(香東川下流域)

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
884	SRa02D 群	IX区	中層 (T1, 2, 3層以下)	弥生土器	甕	16			中・多	中・少		細・少		10YR4/1 褐灰	10YR6/3 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 3/8	
885	SRa02D 群	IX区	中層 (T1, 2, 3層以下)	弥生土器	甕	16			中・並	細・少		細・少		7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 ぶい褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 4/8	
886	SRa02D 群	IX区	中層 (T1, 2, 3層以下)	弥生土器	甕	15			粗・多	中・少		中・少		5YR5/4 ぶい赤褐	5YR5/4 ぶい赤褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 2/8	
887	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	15			中・並	細・多	細・多	細・並		10YR6/4 ぶい黄橙	10YR6/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 7/8	他地域 (香東川下流域)
888	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	16	27	5	中・並	粗・少	細・多	細・少		7.5YR6/2 灰褐	7.5YR6/3 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 4/8	他地域 (香東川下流域)
889	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	17	23	5	中・並	粗・並	細・少	中・多		7.5YR2/1 黒	7.5YR5/4 ぶい褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 4/8	
890	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	短頸壺	11	11	3	中・並	細・少		細・並		10YR6/4 ぶい黄橙	10YR6/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 7/8	
891	SRa02D 群	IX区	中層 (T1, 2, 3層以下)	弥生土器	甕	9	9	3	中・並	細・少		細・少		7.5YR5/4 ぶい褐	7.5YR5/4 ぶい褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 4/8	
892	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	12			中・並			細・並		2.5Y2/1 黒	10YR6/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 1/8	
893	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	甕	9	9	3	中・並	細・少		細・少		10YR6/3 ぶい黄橙	10YR6/3 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 7/8	
894	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	31			中・並	細・少		中・少		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 1/8	
895	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	高杯	22			粗・少	細・少		中・少		7.5YR7/8 黄橙	5YR7/8 橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 3/8	
896	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢				粗・少	中・少		細・少		2.5YR5/6 明赤褐	10YR7/3 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部破片	
897	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	大型鉢	47			中・並	中・少	細・多	細・並		10YR7/4 ぶい黄橙	10YR6/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部破片	他地域 (香東川下流域)
898	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	23	10	6	中・並	細・少		中・並		7.5YR6/4 ぶい褐	7.5YR6/4 ぶい褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 6/8	
899	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	19	9	3	中・多	中・並		細・多		7.5YR5/3 ぶい褐	7.5YR6/4 ぶい褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 8/8	
900	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	16	7	3	中・多	細・少		細・少		10YR6/3 ぶい黄橙	10YR6/3 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 6/8	
901	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	18	8	5	粗・並	中・少		細・並		7.5YR6/4 ぶい褐	7.5YR5/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 6/8	
902	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	19	8		中・多			中・少		2.5Y6/3 ぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	口縁部 5/8	
903	SRa02D 群	IX区	中層 (T1, 2, 3層以下)	弥生土器	鉢	11	6	3	中・少	細・少		細・多		7.5YR6/4 ぶい黄橙	7.5YR6/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	胴部 4/8	
904	SRa02D 群	IX区	中層 (T1, 2, 3層以下)	弥生土器	鉢	11	6	3	中・多	中・少		中・少		10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	底部 8/8	
905	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	11	6	3	粗・少	細・少		細・多		7.5YR6/4 ぶい黄橙	7.5YR6/4 ぶい黄橙	ヨコリ後ハナ	ヨコリ後ハナ	完形	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・炭石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
906	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	高杯	25			粗・少	細・少	細・少	細・並	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 1/8		
907	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	小型器台		11		細・少	細・少	中・少	中・少	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	脚部 1/8			
908	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	器台	28		中・多	中・少	中・少	細・多	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 1/8				
909	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	器台	18		中・並	細・少	細・少	細・多	2.5Y6/2 灰黄	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 3/8				
910	SRa02D 群	IX区	中層 (Tr②3層以下)	弥生土器	製塩土器		4		細・多		細・少	2.5Y7/3 浅黄	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	底部 2/8				
911	SRa02D 群	IX区	中層	弥生土器	土罐		孔径 1.6	中・少	中・並	細・並	細・少	10YR8/2 灰白	ナナ ナナ	ナナ ナナ	全胴部 4/8				
912	SRa02K 群	IX区	中層	弥生土器	壺	16		中・並	細・並	細・少	細・少	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 8/8	頸部内面に布目			
913	SRa02K 群	IX区	中層	弥生土器	甕	14	23	中・並			中・少	10YR5/3 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 5/8				
914	SRa02K 群	IX区	中層	弥生土器	甕	12	14	中・並	細・少	細・少	細・多	7.5YR5/6 明褐	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	胴部 7/8				
915	SRa02K 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	15	6	中・並	細・少	細・少	細・多	7.5YR5/4 にぶい橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	胴部 6/8				
916	SRa02K 群	IX区	中層	弥生土器	鉢	16		粗・少	細・少	細・少	中・少	7.5YR5/6 明褐	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	胴部 4/8				
917	SRa02L 群	IX区	中層	弥生土器	広口壺	13		中・並	細・少	細・少	細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 6/8				
918	SRa02	IX区	中層	弥生土器	壺			粗・並	中・少		中・並	10YR5/3 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	胴部 8/8	頸部外面に記号 紋			
919	SRa02	IX区	中層	弥生土器	甕	14		中・並	中・並		中・並	7.5YR7/6 橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	頸部 2/8				
920	SRa02	IX区	中層	弥生土器	甕	14	24	中・多				2.5Y7/2 灰黄	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	胴部 7/8				
921	SRa02	IX区	中層	弥生土器	甕	12	13	中・並			細・少	2.5Y7/3 浅黄	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	底部 8/8				
922	SRa02	IX区	中層	弥生土器	鉢	22	9	中・並	細・少		細・並	2.5Y6/6 明黄褐	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 5/8				
923	SRa02	IX区	中層	弥生土器	鉢	19	9	中・多	細・少		中・少	10YR6/3 灰黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	底部 8/8				
924	SRa02	IX区	中層	弥生土器	高杯		11	粗・多	中・多		細・少	7.5YR7/4 にぶい橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	脚部 8/8				
925	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	広口壺	28		粗・並	中・少		細・並	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 1/8				
926	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	長頸壺	17		細・並		細・多	細・少	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 1/8	頸部外面に記号 紋			
927	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	長頸壺	16		中・並	中・少		細・少	10YR6/2 灰黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 2/8				
928	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	長頸壺	15		中・並		細・多	細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨナナ ハナメ	ヨナナ ハナメ	口縁部 6/8	他地域(香東川 下流域)			

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
929	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	長頸壺	14			中・並	中・少	中・並	細・少		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 2/8	他地域(香東川 下流域)
930	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	直口壺	12			中・多	中・少	中・並	中・少		7.5YR5/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 7/8	
931	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	広口壺	16	頸部径 10.4		中・並	中・少	中・並	中・少		5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/3 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	頸部 8/8	
932	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	壺				中・並		細・多	細・少		10YR5/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	胴部 3/8	他地域(香東川 下流域)
933	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	壺				中・並		中・並	細・並		10YR6/3 にぶい黄	2.5Y6/1 黄灰	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	胴部 1/8	
934	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	広口壺	頸部径 14.0	6		中・並		中・並	中・少		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	底部 4/8	焼成時破裂土器
935	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	甕	19			中・並		中・並	細・並		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y4/1 黄灰	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 3/8	
936	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	複合口縁部壺	21			中・多	細・少	中・並	細・少		10YR6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 1/8	
937	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	甕	17			中・並		中・並	中・少		2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/3 浅黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 1/8	
938	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	甕	10	2		中・並		中・並	細・少		10YR6/4 にぶい黄	10YR6/4 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 6/8	
939	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	甕	12	3		粗・多	中・並	中・並			5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	胴部 6/8	
940	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	甕	11	4		粗・多	中・少	中・並	中・少		10YR5/4 にぶい黄	10YR5/4 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	底部 8/8	
941	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	甕	17			粗・多	中・少	中・並	細・少		10YR6/4 にぶい黄	10YR7/3 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 1/8	
942	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	甕	14			中・並	中・並	中・並	中・少		2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 2/8	
943	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2.3層)	弥生土器	甕	15			中・並	中・並	中・並	細・多		10YR5/6 黄	10YR5/4 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	胴部 5/8	
944	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	甕				中・少		中・並	細・並		10YR6/4 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 1/8	
945	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	甕	13			中・並	細・少	中・並	細・少		5YR5/8 明赤	5YR6/8 橙	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 1/8	
946	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	甕	20			中・並	中・並	中・並	中・並		10YR7/4 にぶい黄	10YR6/4 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 1/8	焼成破裂土器
947	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	甕	18			中・並	中・少	中・並	細・多		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 6/8	
948	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	甕	13	4		中・並		中・並	中・並		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 6/8	
949	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2.3層)	弥生土器	鉢	14	11		粗・多		中・並	中・少		2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	底部 8/8	
950	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	鉢	16	12		中・並	中・並	中・並			10YR8/3 浅黄	10YR8/4 浅黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	底部 8/8	
951	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	鉢	18	6		中・並	中・並	中・並	中・少		2.5Y7/2 灰黄	10YR6/1 褐灰	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	口縁部 3/8	
952	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	鉢	16	7		中・並		中・並	細・少		2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコテ ハタ	ヨコテ 指サシ	完形	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
953	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	台付鉢	9	5	4	中・並	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	絞り目 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	完形	
954	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	鉢	33	14	4	中・多	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部2/8	
955	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	鉢	36			細・並	細・少		細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部2/8	他地域(香東川 下流域)
956	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	高杯	25			中・並	細・少		細・少	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	
957	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	高杯	20			粗・少			細・少	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	
958	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2.3層)	弥生土器	高杯	23			中・並	中・少		細・少	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部2/8	
959	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	高杯	16			中・並	中・並		細・少	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域)
960	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	高杯	17			細・少			細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域)
961	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	高杯	17			中・並	中・少		細・少	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)
962	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2.3層)	弥生土器	高杯		18		中・並	中・少		細・並	10YR5/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	底部1/8	他地域(香東川 下流域)
963	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	高杯	28			粗・少			細・少	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部破片	
964	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	器台				中・多	中・並		細・並	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部破片	
965	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	小型直口壺		2		中・多			中・多	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	底部8/8	
966	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	製塩土器		3		細・少	細・多		細・並	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	底部8/8	他地域(香東川 下流域)
967	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	弥生土器	製塩土器		4		細・並			細・少	10YR5/3 にぶい黄	7.5YR5/3 にぶい褐	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	脚部2/8	
968	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②2層)	弥生土器	製塩土器		3		細・並	細・並		細・並	2.5YR5/4 にぶい赤褐	10YR5/2 灰黄褐	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	底部8/8	他地域(香東川 下流域)
969	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層)	土製品	紡錘車	長さ 5.0	幅 5.0	孔径 5.0	中・並			中・並	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y4/1 黄灰	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	完形	費転用
971	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	広口壺	19			中・少	細・多		細・少	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域)
972	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	長頸壺	16			中・並	細・多		細・少	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部2/8	他地域(香東川 下流域)
973	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	広口壺	17			中・並			中・少	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	
974	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	広口壺	15			中・並	細・少		中・多	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y6/4 にぶい黄	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部2/8	
975	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	甕	9			中・並	細・少		中・多	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y5/3 黄褐	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部3/8	
976	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	甕	13			中・並	細・少		細・並	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部6/8	
977	SRa02	Ⅸ区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	甕	15			中・並	細・多		細・少	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい橙	ヨコナ 指持ヒ	ヨコナ 指持ヒ	口縁部1/8	他地域(香東川 下流域)

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量		胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石灰・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
978	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	鉢	18	8	4	中・並	細・少	中・少	中・少	5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 紋目	ヨコナ ナメ	口縁部 5/8	木葉底
979	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	鉢	19	10	5	中・並	細・少	中・少	中・少	7.5YR6/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	ヨコナ 紋目 後ヨコナ 紋目	ヨコナ ナメ	口縁部 4/8	
980	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	鉢	17	8	5	中・並	細・少	中・少	中・少	10YR6/2 灰黄褐	10YR2/1 黒	ヨコナ 紋目 後ヨコナ 紋目	ヨコナ ナメ	口縁部 3/8	
981	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	高杯	23			中・並	中・並	細・並	細・並	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ	ヨコナ ナメ	口縁部破片	
982	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	高杯	16			中・少	中・少	細・少	細・少	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ	ヨコナ ナメ	口縁部 2/8	他地域 (香東川下流域)
983	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	高杯	32			中・並	中・並	中・並	中・並	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ	ヨコナ ナメ	口縁部破片	他地域 (香東川下流域)
984	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	台付鉢		3.3	5	中・並		細・少	細・少	10YR7/4 にぶい黄褐	2.5Y7/3 浅黄	ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ 後ヨコナ	ヨコナ ナメ	底部 6/8	
985	SRa02	IX区	中層上位 (Tr②3層以下)	弥生土器	裂塩土器			3	中・多		中・多	中・多	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR7/2 灰黄	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	底部 4/8	他地域 (香東川下流域)
986	SRa02	IX区	下層 (Tr②7層)	弥生土器	壺	16			中・多	中・多	中・多	中・多	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
987	SRa02	IX区	下層 (Tr②8層)	弥生土器	広口壺	8			中・並	中・並	中・並	中・並	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
988	SRa02	IX区	下層 (Tr②8層)	弥生土器	広口壺	21			中・並	中・少	中・少	中・多	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
989	SRa02	IX区	下層 (Tr②2層) 褐色粘質土	弥生土器	壺			6	中・多	中・少	中・少	中・少	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR7/2 明褐灰	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	底部 8/8	他地域 (香東川下流域)
990	SRa02	IX区	下層 (Tr②7-8層)	弥生土器	細頸壺	8			中・並	中・並	中・多	中・少	10YR7/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	頸部 8/8	他地域 (香東川下流域)
991	SRa02	IX区	下層 (Tr②2層) ~7-8層 褐色粘質土	弥生土器	広口壺	16			中・並		中・並	中・並	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR5/6 黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 2/8	
992	SRa02	IX区	下層 (Tr②2層) ~7-8層 褐色粘質土	弥生土器	広口壺	18			粗・多	細・少	中・少	中・少	5YR4/6 赤褐	10YR5/4 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 4/8	
993	SRa02	IX区	下層 (Tr②8層)	弥生土器	甕	16			中・少	細・少	細・多	細・少	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)
994	SRa02	IX区	下層 (Tr②7-8層)	弥生土器	甕	16			中・並	中・並	細・少	細・少	7.5YR8/4 浅黄褐	7.5YR8/4 浅黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 3/8	
995	SRa02	IX区	下層 (Tr②7-8層)	弥生土器	甕	17			中・並	中・少	中・少	中・少	7.5YR6/4 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 3/8	焼成破裂土器
996	SRa02	IX区	下層 (Tr②2層) ~7-8層 褐色粘質土	弥生土器	壺	26			中・並		細・少	細・少	10YR6/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部破片	頸部外面に記号
997	SRa02	IX区	下層 (Tr②7層)	弥生土器	甕	12			中・並	中・並	中・少	中・少	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	底部 4/8	
998	SRa02	IX区	下層 (Tr②7層)	弥生土器	鉢	19			中・並		中・並	中・並	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR5/4 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 1/8	
999	SRa02	IX区	下層 (Tr②7-8層)	弥生土器	鉢	17			粗・多		中・少	中・少	10YR6/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	ヨコナ 指ナキ 後ヨコナ 指ナキ	ヨコナ ナメ	口縁部 5/8	焼成時破裂真土器

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法量			胎土			色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部		
1000	SRa02	IX区	下層 (暗灰色砂質土)	弥生土器	鉢	16			中・並			中・並	7.5YR6/4 にごい橙	10YR7/4 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリハナメ	口縁部 5/8	
1001	SRa02	IX区	下層 (暗灰色砂質土)	弥生土器	鉢	15			中・並	細・少		中・並	10YR5/4 にごい黄褐	10YR5/4 にごい黄褐	ヨコナリハナメ	ヨコナリハナメ	口縁部 3/8	
1002	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 2 ~ 7.8層 褐色粘質土)	弥生土器	鉢			中・多	中・並		細・多	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリハナメ	胴部 3/8		
1003	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	器	30		中・少			細・少	2.5Y6/3 淡黄	2.5Y6/3 にごい黄	ヨコナリ	ヨコナリ	口縁部 2/8		
1004	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	高杯	23		中・並	中・並		中・少	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	脚部 4/8		
1005	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 8層)	弥生土器	高杯			中・並		中・並	細・少	10YR6/4 にごい黄橙	10YR6/4 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	底部 1/8	他地域 (香東川下流域)	
1006	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 8層)	弥生土器	高杯	17		中・並		中・多	細・少	10YR6/4 にごい黄橙	10YR6/4 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部破片		
1007	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	高杯			中・並		中・多	中・多	10YR6/3 にごい黄橙	10YR5/4 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	杯部 8/8		
1008	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	製塩土器			中・並			細・少	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	底部 2/8		
1009	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 2 ~ 7.8層 褐色粘質土)	弥生土器	製塩土器			中・並			細・少	5YR5/4 にごい赤褐	5YR5/4 にごい赤褐	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	底部 8/8		
1010	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	製塩土器			中・並			中・並	5YR6/3 にごい橙	5YR6/3 にごい橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	底部 8/8		
1011	SRa02	IX区	下層 (Tr②) 8層)	弥生土器	手づくね土器	5		細・少			細・少	10YR6/4 にごい黄橙	10YR6/4 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	胴部 7/8		
1013	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	長頸壺	16		中・並			中・並	10YR7/4 にごい黄橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8		
1014	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	長頸壺	11.4		中・並	中・少		細・少	10YR7/4 にごい黄橙	10YR7/4 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	頸部破片	頭部外面に記号	
1015	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	広口壺	16		中・並		細・多	細・少	10YR6/4 にごい黄橙	10YR6/3 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)	
1016	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	広口壺	16		中・多			中・少	10YR6/3 にごい黄橙	7.5YR6/3 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8		
1017	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	広口壺	17		中・並	細・少		細・少	10YR7/3 にごい黄橙	10YR7/3 にごい黄橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	頸部 8/8		
1018	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	複合口縁壺	18		中・並	中・少		中・多	7.5YR7/4 にごい橙	2.5Y7/4 浅黄	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8		
1019	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	複合口縁壺	21		中・並		中・並	細・少	7.5YR7/4 にごい橙	7.5YR7/6 橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8	他地域 (香東川下流域)	
1020	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	複合口縁壺	20		中・並			中・少	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8		
1021	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	古式土師器	直口壺	12		中・並	中・少		中・並	2.5Y6/4 にごい黄	2.5Y6/3 にごい黄	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8		
1022	SRa02	IX区	最下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	複合口縁壺	23		中・並	中・並		中・多	7.5YR7/4 にごい橙	7.5YR7/4 にごい橙	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 1/8		
1023	SRa02	IX区	最下層 (Tr②) 7層)	弥生土器	広口壺	24		中・並		中・並	中・並	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ヨコナリ後ハナメ	ヨコナリ後ハナメ	口縁部 4/8	他地域 (香東川下流域)	

遺物番号	遺構名	調査区	層位	種類	器種	法臺			胎土				色調			調整		残存率	備考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	外面	内面	外部	内部		
1024	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	広口壺	24		中・並	細・多	細・少			10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	ヨコナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
1025	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	広口壺	26		中・並	中・多	細・少			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ ヨコナ	ヨコナ	口縁部 6/8	他地域(香東川 下流域)	
1026	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	広口壺	16		中・多					25Y8/4 淡黄	25Y5/1 黄灰	ヨコナ 後ハナナリ	指ナ 後ハナナリ	口縁部 1/8		
1027	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	細頸壺	11		中・並		中・少			25Y7/3 浅黄	25Y7/3 浅黄	ヨコナ	指ナ	口縁部 1/8	香東川下流域 横土器	
1028	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	細頸壺	8		中・少	細・多	細・並			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ 紋り目	口縁部 2/8	他地域(香東川 下流域)	
1029	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	直口壺	12		粗・少					25Y6/2 灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 4/8		
1030	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	甕	16		中・並	中・多	中・並			5YR7/6 橙	10YR5/3 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	胴部 4/8	他地域(香東川 下流域)	
1031	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	甕	13		中・並	中・多	細・少			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)	
1032	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	高杯	14		中・並	細・多	細・少			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
1033	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	高杯	17		中・並	細・多	細・並			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
1034	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	高杯	19		中・少	細・多	細・少			10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
1035	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	高杯	23		中・並	中・並	中・並			5YR6/6 橙	2.5Y7/2 灰黄	ヨコナ	指ナ	口縁部破片	他地域(香東川 下流域)	
1036	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	高杯	22		中・並	中・並	細・少			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 1/8	他地域(香東川 下流域)	
1037	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	有孔鉢	17	12	中・並		細・並			10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 3/8		
1038	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	鉢	13		中・並	中・並	細・少			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 2/8		
1039	SRa02	IX区	最下層 (灰色砂層)	弥生土器	製塩土器		3	中・並		中・多			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	底部 7/8		
1040	包含層	文化 行政課 試掘	灰褐色砂質土	弥生土器	大型壺		6	中・多		中・少			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	底部 8/8		
1041	包含層	文化 行政課 試掘	灰黑色粘土	弥生土器	甕	16							10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 1/8		
1042	包含層	文化 行政課 試掘		弥生土器	高杯	21		中・並	細・多	細・少			7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヨコナ	指ナ	口縁部 2/8		
1049	SDa70F 群	IX区	上層	弥生土器	甕	15	25	中・並		細・少			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	胴部 7/8		
1050	SKa06	I区		弥生土器	広口壺	28	47	中・多					10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	ヨコナ	指ナ	完形		

第7表 鹿伏・中所遺跡出土石器観察表

番号	遺構名	地区名	層位	器種	法 量			材質	残存量	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)			
4	SHc01(SFc4)	IV区		削器	67.0	38.0	6.0	サスカイト	完存	
14	SHc02	IV区		石庖丁	42.0	39.0	10.5	サスカイト	半存	
15	SHc02(SKc11)	IV区		砥石	268.0	119.5	77.0	砂岩	完存	
16	SHc02	V区		台石	418.0	296.0	113.0	花崗岩	一部欠損	
41	SHc03	IV区		砥石	133.5	98.0	33.0	安山岩	完存	
42	SHc03	IV区		敲石	98.0	47.0	31.0	花崗岩	完存	
62	SHc04	IV区		石鏃	39.5	24.5	6.5	サスカイト	完存	
76	SHc05	IV区		楔形石器	34.0	25.0	7.5	サスカイト	完存	
114	SDc10	IV区		槍先形石器	30.0	19.0	9.5	サスカイト	先端部のみ残存	
115	SDc10	V区		石鏃	24.0	17.5	3.5	サスカイト	一部欠損	
116	SDc10	V区		石鏃	29.5	19.5	4.5	サスカイト	一部欠損	
117	SDc10	V区		削器	48.0	22.5	7.0	サスカイト	完存	
118	SDc10	V区		打製石庖丁	37.0	40.0	8.5	結晶片岩	半存	
164	SHc07	IV区	上層	石鏃	20.5	21.5	3.5	サスカイト	完存	
165	SHc07	IV区		打製石庖丁(未製品)	48.5	71.0	10.0	サスカイト	半存	製作途中で破損したもの
166	SHc07	IV区		砥石	153.0	106.0	65.0	砂岩	半存	
180	SHc08 壁溝	IV区		石鏃	18.0	22.0	6.0	サスカイト	半存	
204	SHc10(SFc592)	IV区		石鏃	29.0	18.0	3.5	サスカイト	一部欠損	
205	SHc10	IV区	下層	石鏃	27.0	21.5	5.5	サスカイト	一部欠損	
206	SHc10	IV区	下層	凹石	52.0	55.0	19.0	砂岩	半存	
211	SHc11(SFc455)	IV区		石鏃	21.0	22.0	4.5	サスカイト	先端部欠損	
217	SHc12	IV区		敲石	74.0	53.0	35.0	砂岩	半存	太型蛤刃石斧基部の転用か
239	SHc14	IV区		石鏃	23.5	22.0	4.0	サスカイト	一部欠損	
240	SHc14	IV区		石鏃	29.5	16.5	5.0	サスカイト	完存	
241	SHc14	IV区		楔形石器	42.0	25.0	8.0	サスカイト	完存	
242	SHc14	IV区		柱状片刃石斧	68.0	35.0	18.0	結晶片岩	半存	
243	SHc14	IV区		砥石	103.0	41.0	33.0	安山岩?	半存	
244	SHc14(SFc467)	IV区		槍先形石器	49.5	23.0	12.0	サスカイト	半存	
245	SHc14(SKc26)	IV区		砥石	137.0	97.0	37.0	砂岩	半存	
246	SHc14(SKc26)	IV区		砥石	114.5	95.5	60.0	安山岩	完存	

番号	遺構名	地区名	層位	器種	法量			材質	残存量	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	高さ(mm)			
253	SHc16	IV区		石鏃	230	14.0	6.0	サスカイト	一部欠損	
254	SHc16	IV区		石鏃	41.5	18.5	5.0	サスカイト	完存	
257	SHc16(SKc34)	IV区		石鏃	24.5	20.0	4.0	サスカイト	一部欠損	
258	SHc16(SKc34)	IV区		石鏃	40.5	18.0	5.5	サスカイト	一部欠損	
266	SHc17	IV区		石鏃	36.5	8.0	4.5	サスカイト	完存	
281	SHc18	IV区	黒色砂質土	石鏃	22.5	19.5	3.5	サスカイト	完存	
282	SHc18	IV区	黒色砂質土	石鏃	48.5	24.0	4.5	サスカイト	完存	
283	SHc18	IV区		石鏃	31.5	32.0	4.5	サスカイト	完存	
284	SHc18	IV区		石鏃	31.5	24.0	4.0	サスカイト	完存	
285	SHc18	IV区	黒色砂質土	石鏃	37.0	22.0	4.0	サスカイト	半存	
286	SHc18	IV区		打製石庖丁	33.0	25.0	9.0	サスカイト	半存	
287	SHc18	IV区		石鏃	24.0	11.0	5.0	サスカイト	完存	
288	SHc18	IV区		打製石庖丁	53.5	92.5	9.0	結晶片岩	半存	
324	SHc22	V区		石鏃	30.0	20.0	4.0	サスカイト	完存	
325	SHc22	V区		石鏃	24.5	20.5	4.5	サスカイト	一部欠損	
331	SHc23	V区		石鏃	32.5	15.5	6.0	サスカイト	完存	
332	SHc23	V区		石鏃	28.0	24.0	6.5	サスカイト	半存	
333	SHc23	V区		削器	58.5	36.5	9.5	サスカイト	半存	
334	SHc23	V区		敲石	105.0	49.0	35.0	砂岩	完存	
335	SHc23	V区		石斧	40.0	49.5	9.5	サスカイト	半存	
339	SHc24	V区		石鏃	20.0	18.0	3.0	サスカイト	完存	
340	SHc24	V区		石鏃	29.5	23.0	4.5	サスカイト	完存	
341	SHc24	V区		石鏃	33.5	21.0	5.5	サスカイト	一部欠損	
342	SHc24	V区		石鏃	30.5	11.5	4.0	サスカイト	一部欠損	
343	SHc24	V区		石鏃	31.5	29.5	4.5	サスカイト	一部欠損	
344	SHc24	V区		石鏃	41.5	29.5	7.0	サスカイト	完存	
345	SHc24	V区		石鏃	34.0	17.5	4.5	サスカイト	一部欠損	
346	SHc24	V区		石鏃	33.0	25.5	5.0	サスカイト	完存	
347	SHc24	V区		石鏃	23.5	23.0	4.5	サスカイト	一部欠損	
349	SHc25	V区		石鏃	43.0	21.0	5.0	サスカイト	完存	
350	SHc25	V区		石鏃	27.5	14.0	4.0	サスカイト	完存	
351	SHc25	V区		石鏃	32.5	26.5	6.0	サスカイト	一部欠損	

番号	遺構名	地区名	層位	器種	法量			材質	残存量	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)			
352	SHc25	V区		石鏝	18.5	11.0	3.5	サスカイト	半存	
434	SEc01	V区		砥石	136.0	69.0	35.0	砂岩	完存	
464	SKc08	IV区		石鏝	68.0	27.0	10.0	サスカイト	完存	
486	SKc28	IV区		石鏝	37.0	16.5	6.0	サスカイト	完存	
487	SKc28	IV区		石庖丁	75.0	44.0	11.0	サスカイト	半存	
488	SKc32	IV区		砥石	70.0	37.0	25.0	砂岩	完存	
577	SKc43	V区		石核調整剥片	76.0	34.0	22.0	赤色頁岩	一部欠損	旧石器の石刃石核の作業面再生剥片か
589	SKc50	V区		石鏝	31.0	18.0	5.5	サスカイト	一部損傷	
599	SDc14	IV区		石鏝	35.5	28.5	6.5	サスカイト	完存	
600	SDc14	IV区		石鏝	32.0	10.0	7.0	サスカイト	半存	
630	SDc15	V区		敲石	76.0	71.0	50.0	安山岩	完存	
694	SXc02	IV区		打製石庖丁	47.0	41.5	7.5	結晶片岩	半存	
695	SXc02	IV区		石鏝	25.0	20.5	5.0	サスカイト	先端部欠損	
707	SXc07	IV区		石鏝	29.0	13.5	4.0	サスカイト	一部欠損	
724	SXa12	IV区		楔形石器	95.0	73.0	30.0	サスカイト	完存	
725	SXa12	IV区		石鏝	28.0	23.0	6.0	サスカイト	完存	
752	SPc510	IV区		石鏝	23.0	18.0	4.0	サスカイト	完存	
753	SPc535	IV区		砥石	86.0	45.0	28.0	流紋岩	半存	
766	SPc313	V区		石鏝	25.0	21.0	4.0	サスカイト	ほぼ完存	
767	SPc274	V区		石鏝	41.0	19.0	6.0	サスカイト	完存	調整粗雑
768	SPc14	V区		石鏝	32.5	29.5	5.5	サスカイト	一部欠損	
800	包含層	IV・V区		石鏝	16.5	13.0	3.0	サスカイト	完存	
801	包含層	IV区		石鏝	22.0	20.0	5.0	サスカイト	半存	腹面側に素材の分断面を大きく残す
802	包含層	IV区		楔形石器の削片	39.0	29.0	10.0	サスカイト	完存	打製石庖丁転用
829	包含層	V区		石鏝	17.5	9.5	2.5	サスカイト	完存	
830	包含層	V区		石鏝	21.5	15.5	3.0	サスカイト	完存	
831	包含層	V区		石鏝	16.5	16.0	3.0	サスカイト	先端部欠損	
832	包含層	V区		石鏝	15.5	16.5	3.5	サスカイト	半存	
833	包含層	V区		石鏝	21.0	15.5	4.5	サスカイト	一部欠損	
834	包含層	V区		石鏝	19.0	16.0	4.5	サスカイト	一部欠損	
835	包含層	V区		石鏝	20.5	12.0	3.5	サスカイト	完存	
836	包含層	V区		石鏝	12.0	14.0	3.5	サスカイト	半存	

番号	遺構名	地区名	層位	器種	法量			材質	残存量	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	高さ(mm)			
837	包含層	IV区		石鏃	27.0	19.0	4.5	1.74	ほぼ完存	
838	包含層	V区		石鏃	26.0	24.0	3.0	2.02	完存	
839	包含層	V区		石鏃	24.0	16.0	4.0	1.56	完存	
840	包含層	V区		石鏃	33.0	19.0	4.5	2.15	一部欠損	
841	包含層	V区		石鏃	35.5	19.5	5.5	3.45	一部欠損	
842	包含層	V区		石鏃	34.0	12.0	4.0	1.70	完存	
843	包含層	V区		石鏃	40.0	14.0	7.0	3.16	完存	
844	包含層	V区		石鏃未製品	36.5	25.0	7.5	5.65	完存	
845	包含層	IV区		石鏃	38.0	23.0	5.0	3.41	半存	
846	包含層	V区		石鏃	31.5	30.0	6.0	6.13	半存	
847	包含層	V区		石鏃	24.5	25.0	5.5	1.93	先端部欠損	
848	包含層	IV区		槍先形石器軀用楔形石器	42.0	28.0	11.0	17.14	半存	
849	包含層	V区		打製石庖丁	106.0	55.0	13.0	27.67	半存	
850	包含層	V区		太形蛤刃石斧	48.5	71.0	37.0	171.35	半存	
851	包含層	V区		環状石斧	56.0	46.0	18.0	59.93	半存	
852	包含層	V区		敲石	67.0	50.0	44.0	253.64	完存	
853	包含層	V区		砥石	125.0	58.0	35.0	251.22	完存	金属器によるキズ多 溝状に凹んだ研磨痕あり
854	包含層	V区		敲石	103.0	89.5	60.0	783.59	完存	
855	包含層			砥石	158.0	119.0	72.0	1856.04	完存	
970	SRa02 中層上位	IX区	中層上位(Tr ②2層)	大型蛤刃石斧	118.0	74.0	60.0	797.22	半存	
1012	SRa02 下層	IX区	下層(Tr ②2~7-8層 暗褐色粘質土)	石鏃	33.0	16.0	4.0	1.87	一部欠損	
1043	包含層	I区	上部	石鏃	38.0	18.0	4.0	2.01	完存	
1044	包含層	I区	上部	打製石庖丁	53.5	55.0	13.0	49.86	半存	
1045	包含層	I区	上部	打製石庖丁	35.0	56.0	6.0	19.21	半存	
1046	包含層	文化行政課 試掘		打製石庖丁	98.0	44.0	11.0	64.84	完存	
1047	包含層	I区	上部	打製石庖丁	30.0	37.0	7.5	9.48	半存	
1048	包含層	I区 南水路②		石核 楔形石器か	70.0	56.5	31.0	127.90	完存	

第8表 鹿伏・中所遺跡出土木製品観察表

番号	遺構名	調査区	器種	法 量			樹種	木取り
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)		
77	SHc05(SFc89)	IV区	柱	51	10	7.2	コナラ属コナラ節	芯持材
78	SHc05(SFc90)	IV区	柱	25.7	7.3	4.8	コナラ属コナラ節	芯持材
315	SHc21(SFc401)	V区	柱	28.6	9.2	8.1	ヤマグワ	芯持材
314	SHc21(SFc403)	V区	柱	28.4	12.6	11.3	コナラ属コナラ節	芯持材
313	SHc21(SFc404)	V区	柱	35.2	12.4	10	コナラ属コナラ節	芯持材

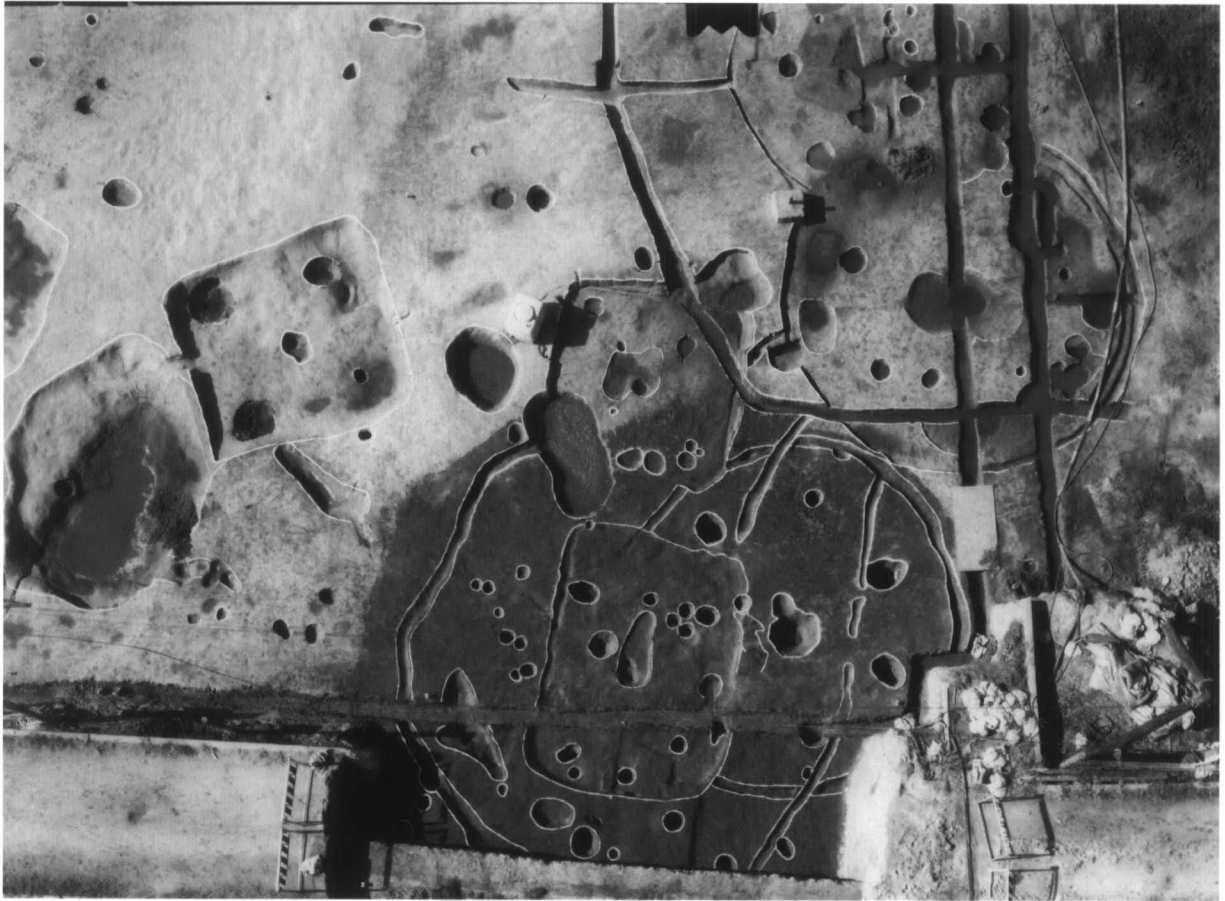
写真図版



IV区第3検出面 空中写真



V区第3検出面 空中写真

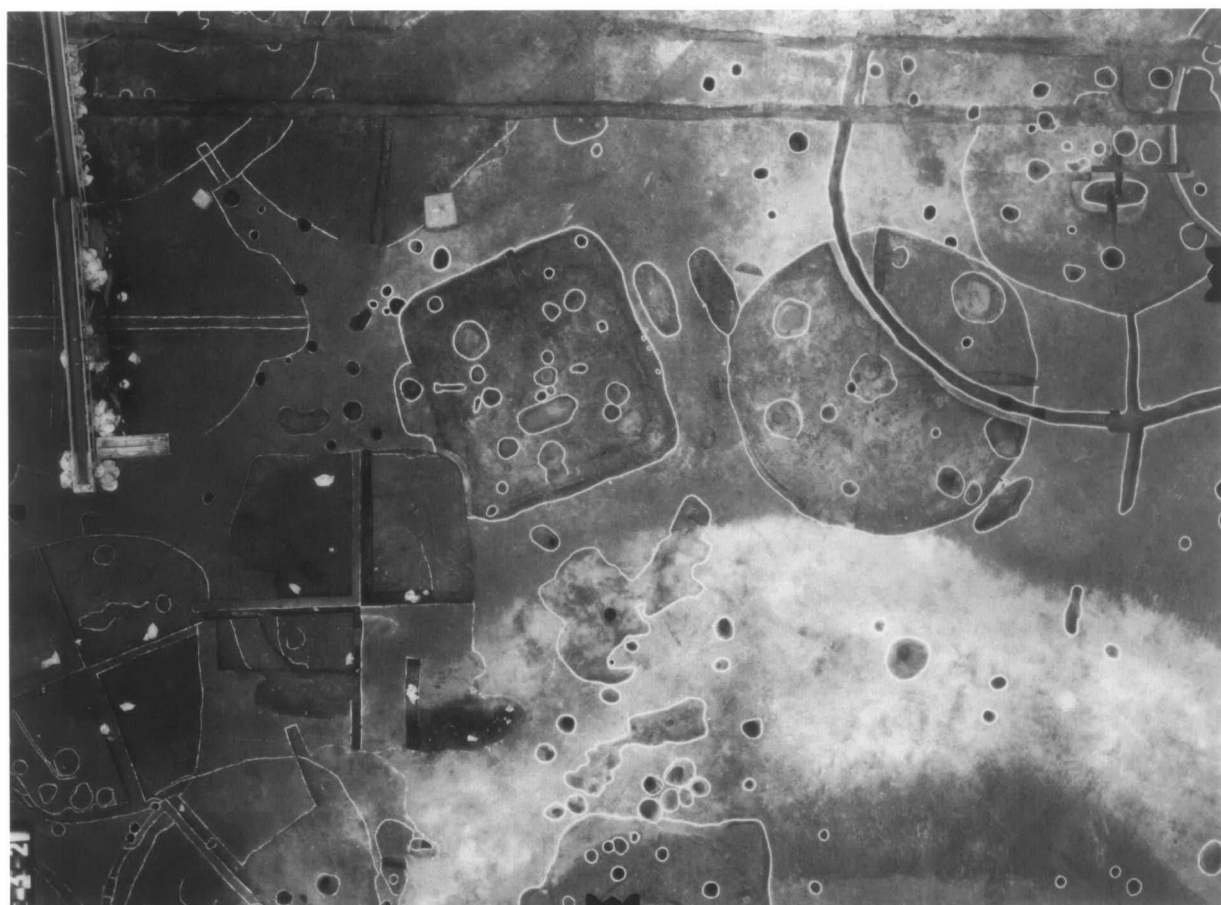


IV区 SHc01・02 周辺 空中写真



IV区 SHc03・04・06・07 周辺 空中写真

図版4 鹿伏・中所遺跡



IV区 SHc07・08 周辺 空中写真



IV区 SHc10・11・12・14・15 周辺 空中写真



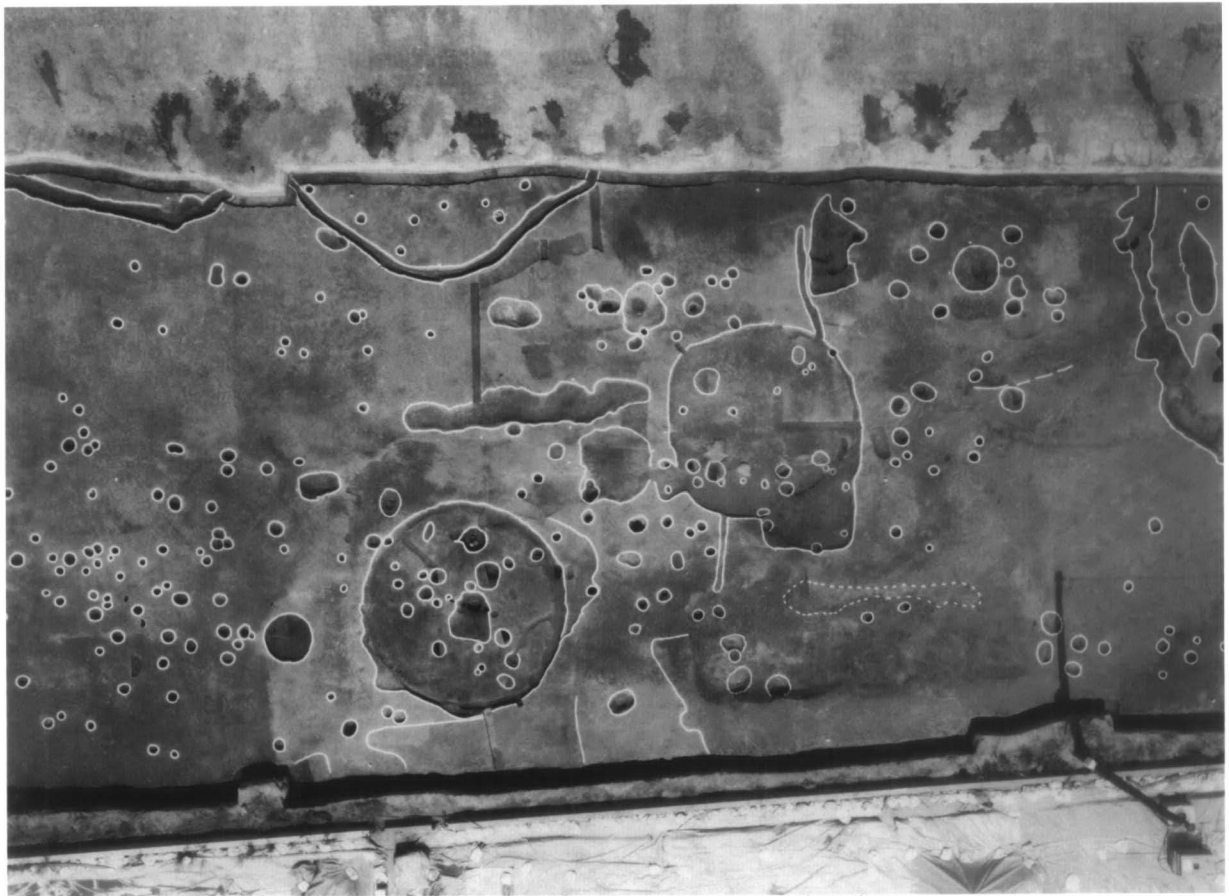
IV区 SDc14・15 周辺 空中写真



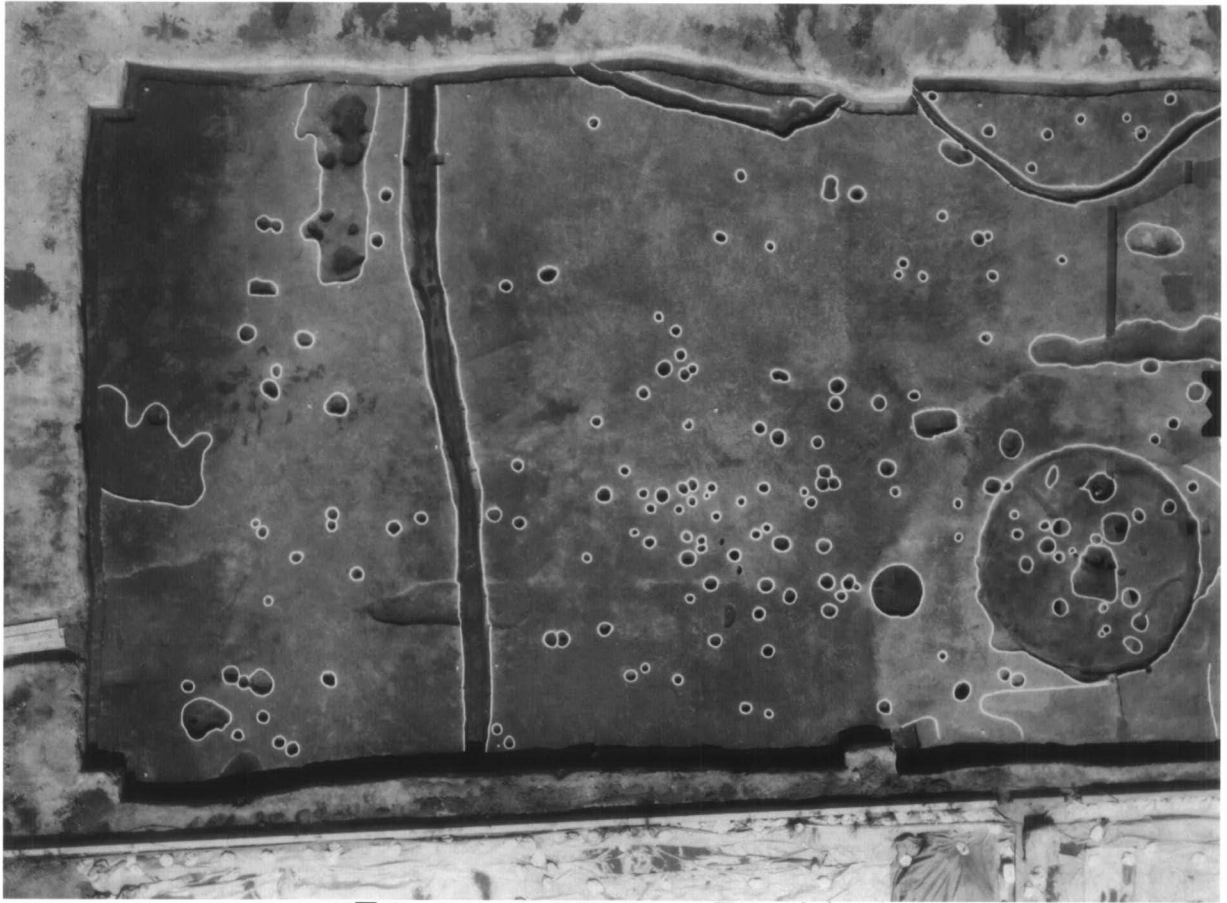
V区 SHc21 周辺 空中写真



V区 SHc22・25 周辺 空中写真



V区 SHc23・24・26・30 周辺 空中写真

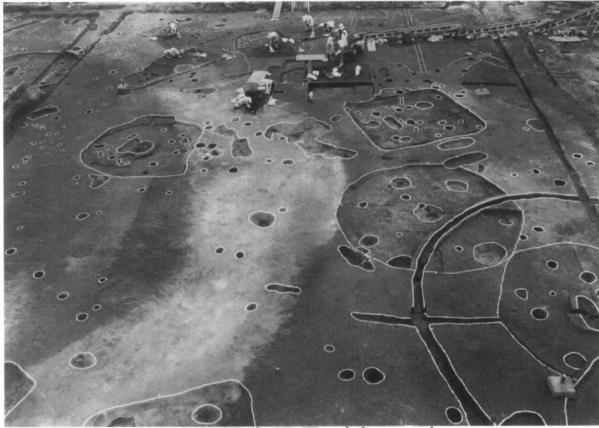


V区 SHc24・30・31, SDc15 周辺 空中写真



IX区北半部 第3検出面 空中写真

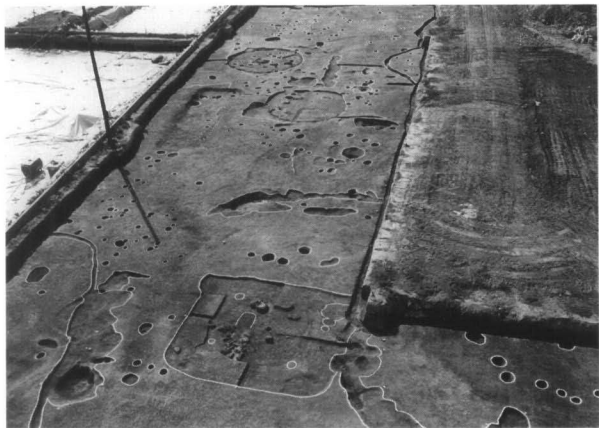
図版8 鹿伏・中所遺跡



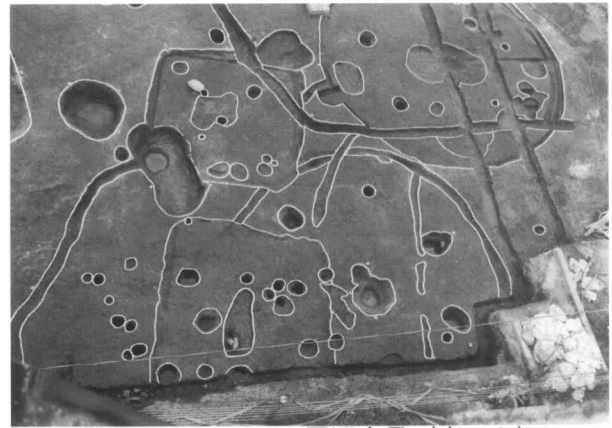
IV区調査風景（東から）



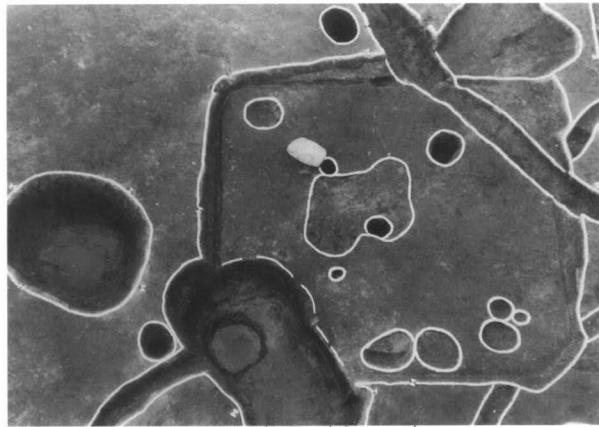
V区東半部全景（西から）



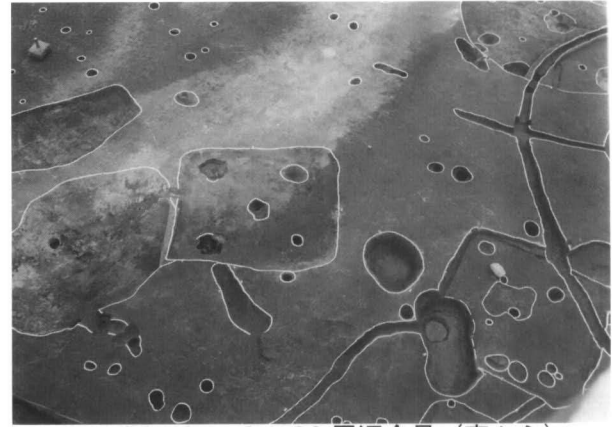
V区中央部全景（東から）



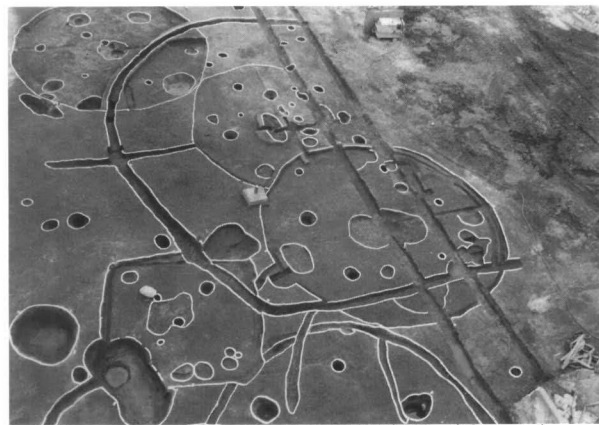
SHc01・02・10周辺全景（東から）



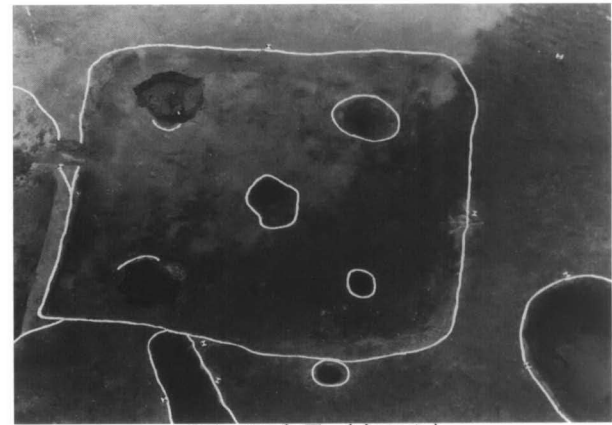
SHc03全景（東から）



SHc03・05, SKc02周辺全景（東から）



SHc04・06, SDC10周辺全景（東から）



SHc05全景（東から）